

(財)大阪府文化財センター調査報告書 第189集

松原市

三宅西遺跡

一般府道住吉八尾線外建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

—分析・総括・観察表編—

2009年3月

財団法人 大阪府文化財センター

(財)大阪府文化財センター調査報告書 第189集

松原市

三宅西遺跡

一般府道住吉八尾線外建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

—分析・総括・観察表編—

財団法人 大阪府文化財センター

挿 図 目 次

図302	三宅西遺跡（その2）11区東の北壁・南壁(MY(2)11EN・ES)試料採取柱状図	404
図303	三宅西遺跡（その3）15・16・17区東(MY(3)15・16・17E)試料採取柱状図	405
図304	粒度分析の手順	406
図305	MY(2)11ES 礫砂泥の割合	409
図306	MY(2)11EN 礫砂泥の割合・粒度分布の評価	410
図307	MY(2)11EN 粒度分布のヒストグラム・累計曲線	411
図308	MY(3)15・16・17E 礫砂泥の割合・粒度分布の評価	412
図309	MY(3)15・16・17E 粒度分布のヒストグラム・累計曲線	413
図310	MY(2)11EN・ES 鋳物組成・火山ガラスの形態・重鋳物組成・火山ガラスの屈折率	416
図311	MY(3)15・16・17E 鋳物組成・火山ガラスの形態・重鋳物組成・火山ガラスの屈折率	417
図312	花粉分析処理フロー	419
図313	イネ科花粉の粒径比較図（中村1974による）	419
図314	MY(2)11EN 花粉ダイアグラム	421・422
図315	MY(3)15・16・17E 花粉ダイアグラム	425・426
図316	樹種鑑定用プレパラート作製フローチャート	429
図317	試料を採取した株の出土状況	429
図318	試料採取位置	429
図319	暦年較正結果	431
図320	大阪平野中央部の上部更新統～完新統における主要5火山灰層の標準的な岩石記載的性質	432
図321	土器付着物の炭素・窒素安定同位体分析結果	467
図322	土器付着物の較正年代	468
図323	縄文土器付着赤色顔料元素分析スペクトル	473
図324	弥生集落のコンターおよび遺構配置図	483・484
図325	水制のイメージ図	493

写 真 目 次

写真 1	碎屑物・火山碎屑物の実体顕微鏡写真・偏光顕微鏡写真	440
写真 2	材の生物顕微鏡写真	441
写真 3	花粉の生物顕微鏡写真	442
写真 4	種実遺体 (1)	455
写真 5	種実遺体 (2)	456
写真 6	木材 (1)	461
写真 7	木材 (2)	462
写真 8	木材 (3)	463
写真 9	分析を実施した土器 (1)	469
写真10	分析を実施した土器 (2)	470
写真11	三宅西遺跡出土縄文土器 赤色顔料付着状況	475

表 目 次

表 6	三宅西遺跡の粒度組成表	407
表 7	三宅西遺跡の粒度分布の評価	408
表 8	三宅西遺跡の火砕物組成	415
表 9	MY(2)11EN 花粉化石組成表	423
表10	MY(3)15・16・17E 花粉化石組成表	427
表11	AMS年代測定結果	431
表12	種実同定結果 (1)	444
表13	種実同定結果 (2)	445・446
表14	モモ核の計測値	448
表15	樹種同定結果	458
表16	時代別・器種別種類構成	460
表17	^{14}C 年代測定、炭素・窒素安定同位体比の分析結果一覧	467
表18	近畿地方縄文後晩期時赤色顔料付着状況	474
表19	三宅西遺跡出土縄文土器 (仏並・向出含む) 分析結果表	475

第6章 各種分析

第1節 大和川下流域における遺跡形成過程の総合調査（三宅西遺跡）

I はじめに

本報告は、財団法人大阪府文化財センターが、一般府道住吉八尾線外建設に伴い、2006年度に実施した発掘調査の一環として、現大和川下流域における遺跡形成過程を明らかにするために、松原市三宅西5～7丁目に所在する三宅西遺跡において実施した、総合調査業務の報告書である。

現大和川の下流は、石川との合流点付近から北～北西に流れていた本流（長瀬川・玉串川）を、1704(宝永元)年に西の大阪湾岸の堺浦まで付け替えた人工の河川である。付け替えルートは洪積台地と沖積平野にまたがっていたために、河内平野に南から北へ張り出す河内台地・瓜破台地・上町台地を横切って開削されている。流域には、柏原市・藤井寺市船橋遺跡や大阪市瓜破遺跡をはじめとして考古学史上の著名な遺跡がいくつかあり、その一部は現大和川河床に露出していたことが知られている（大阪市文化財協会2003）。

現大和川の下流と並行するように計画された都市計画道路大和川線建設予定ルートは、東側から、中位段丘～上位低位段丘である瓜破台地、河内低地の南東部にあたる沖積段丘ないし西除川の氾濫平野と自然堤防、中位段丘～上位低位段丘である上町台地・泉北台地、難波砂堆・堺砂堆、泉州低地、大阪埋立地に跨って設定され、比較的平坦な中にも複雑な微地形を呈している（建設省国土地理院1965）。また、その中には、瓜破遺跡と隣接する弥生時代を中心とする三宅西遺跡、弥生時代～古代にまたがる池内遺跡、原始より大和川の付け替えまで存続した依網池跡、難波大道をはじめとして古墳時代から中世に至る複合遺跡である大和川今池遺跡、さらに旧石器時代にまで遡る複合遺跡である山之内・遠里小野遺跡など、立地や繁栄時期が異なる遺跡が立地している。

これらの遺跡特有の性格は、地形の成り立ちと密接に関係していると考えられる。殊にこのルートは台地や西除川をはじめとする古い河川の伸張方向とほぼ直交しているため、地層の堆積過程や遺跡の古地形の変化を把握しやすい条件を備えている。

そこで、この調査では、三宅西遺跡及びこれと隣接する池内遺跡における考古学的古生態地理とその変遷を総合的に解明する手がかりを得ることを目的として、踏査と火山灰分析により基本層序を把握し、周辺地域との地層の対比を行うとともに、試料を採取して堆積環境、古環境を明らかにするために、粒度分析、花粉分析等を実施したので報告する。

本業務で実施した踏査日数と分析試料数は下記の通りである。

踏査日数		延べ10人日
火山灰分析	三宅西遺跡（その2）11区東南壁	19点
	三宅西遺跡（その3）15・16・17区東北壁	17点
粒度分析	三宅西遺跡（その2）11区東南壁（※1）	32点

三宅西遺跡（その3）15・16・17区東北壁 26点
 花粉分析（※2） 三宅西遺跡（その3）15・16・17区東北壁 20点
 （※1） 礫・砂・泥の割合のみ。 （※2） 微粒炭の概査を含む。

なお、解析に当たっては、総合的な観点から、上記の2006年度実施数に加えて、2005年度に報告した三宅西遺跡（その2）11区東北壁・南壁の2地点に対しても補足分析を実施し、再検討の資料に加えている。ここでは、自然科学分析を中心とした報告を掲載する。

II 自然科学分析

A. 試料

試料の採取にあたっては、層理面や岩相の差異に留意し、薄層も区別して採取した。各分析に用いた試料は、分析結果を比較検討しやすいように、原則として同一の試料を分割して用いたり、近接した同層準の試料を用いている。三宅西遺跡（その2）11区東南壁から採取した三宅西第8～11層（現場層序の10～19層）の試料の中から火山灰分析に19試料、三宅西遺跡（その3）15・16・17区東から採取した三宅西第7a～12層（現場層序の5' a～9層の下位層）の試料の中から粒度分析に26点、火山

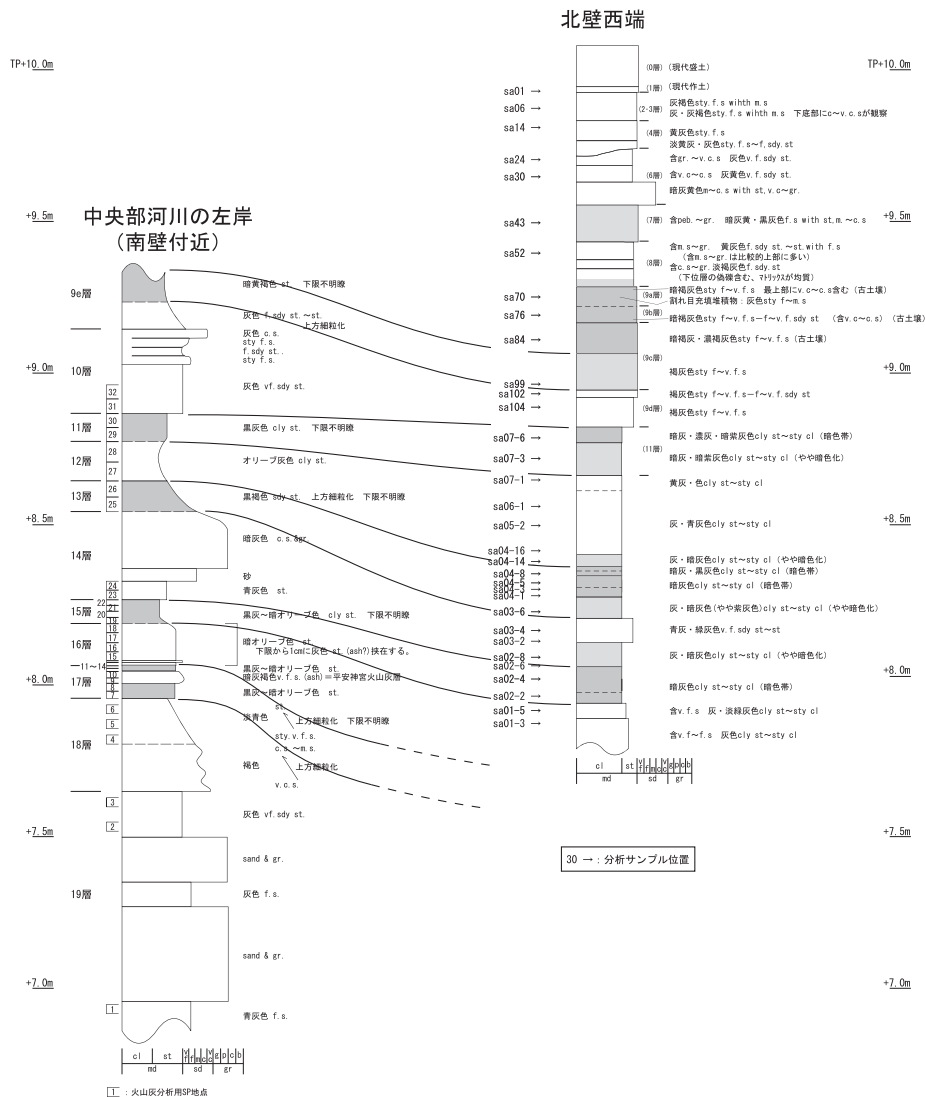


図302 三宅西遺跡（その2）11区東の北壁・南壁（MY(2)11EN・ES）試料採取柱状図

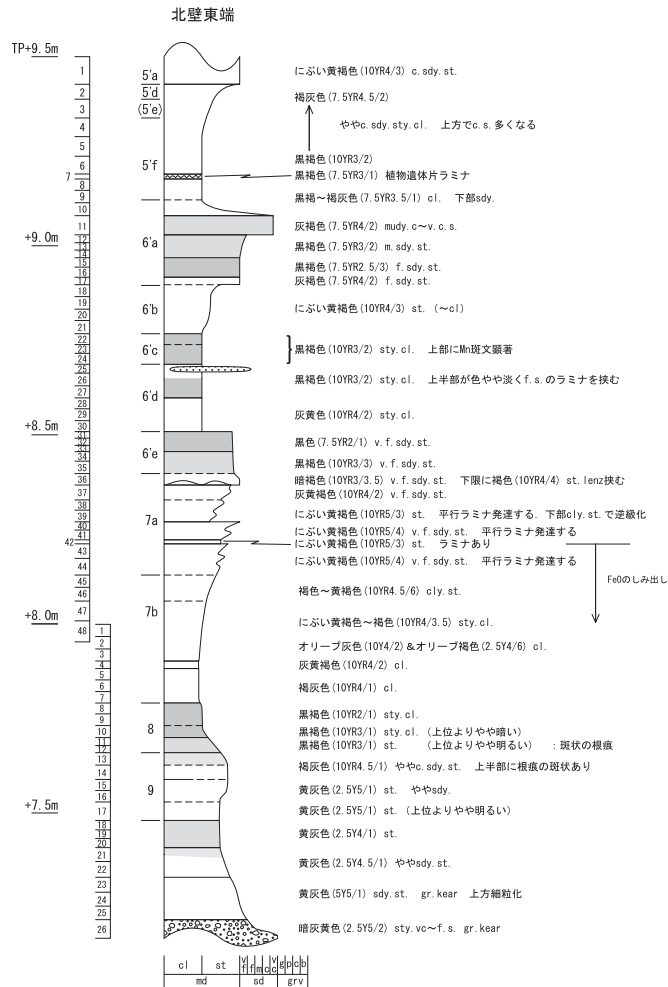


図303 三宅西遺跡 (その3) 15・16・17区東 (MY(3)15・16・17E) 試料採取柱状図

灰分析に17試料、花粉分析に20試料である。その他、2005年度実施した三宅西遺跡 (その2) 11区東北壁の試料に関しても、三宅西第1層～9a層 (現場層序の0～9c層)・第11b層 (現場層序の18層) 中の14試料について粒度の追加分析を行った (図302・303)。

なお、各試料採取地点の呼称は、例えば三宅西遺跡 (その2) 11区東の北壁地点をMY(2)11EN、同南壁地点をMY(2)11ES、三宅西遺跡 (その3) 15・16・17区東地点をMY(3)15・16・17Eのように略記する場合がある。また、試料番号は他の採取地点の試料との混同を避けるために、MY(2)11E地点の試料はsaという符号付けて例えばMYsa01～3、MY(2)11ES地点の試料はsuという符号を付けて例えばMYsu07、MY(3)15・16・17E地点の試料はtuという符号を付けて例えばMYtuL26のように表記する。

B. 粒度分析

1. 分析方法

未処理試料の中から湿潤重量で50g以上を礫砂用試料に、0.5～1gを泥用試料として分取した。礫砂用試料は恒温乾燥器内で100℃1日間以上乾燥し、秤量した。各試料の乾燥後の重量は概ね30～40g前後であった。乾燥試料は水を加えて攪拌し土色を記録した後、5φの標準篩を用いて水洗並びに超音波洗浄を行い、中粒シルト以下の泥を除去し、恒温乾燥器内で再度100℃1日間以上乾燥させた。

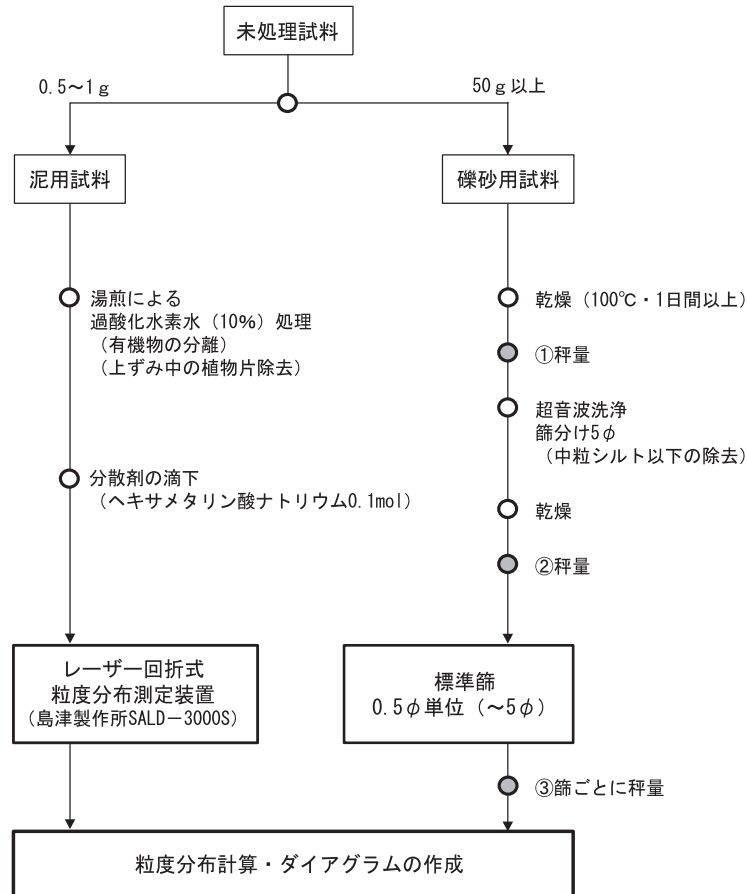


図304 粒度分析の手順

秤量後、標準篩を0.5φ単位で重ね、ロータップ式篩振蕩機を用いて30分間篩い、篩ごとに秤量した。

泥用試料は70ccマヨネーズ瓶を用いて、約120分の湯煎により、10%過酸化水素水による有機物の分離と上澄み中の植物片の除去後、さらに0.4mm以上の礫・砂を除去した。ヘキサメタリン酸ナトリウム0.1molを分散剤として10cc加えた試料は、適量を分取してレーザー回折式粒度分布測定装置で測定した。

礫砂用試料の秤量値と泥用試料の測定値を礫・砂・泥の割合を基に0.5φ単位の累積値を換算して、平均粒径、中央粒径、分級度、歪度、尖度について粒度分布の評価を行うとともに、ヒストグラムと累計曲線を作成した(図304)。

2. 分析結果

a. MY(2)11EN (符号sa)

各採取試料の礫・砂・泥の割合を図306aに、平均粒径・中央粒径・分級度・歪度・尖度の粒径分布の評価を図306bに、粒径分布のヒストグラム・累積曲線を図307に、並びに分析データを表6・7に示す。

礫・砂・泥の割合を見ると、下位よりsa01-1からsa02-8に向かって上方細粒化し、sa03-4からsa04-5にわずかな上方粗粒化が見られ、sa04-8からsa07-1に再び上方細粒化する。sa07-3からsa07-6へわずかに砂の割合が増え、sa102からsa99にかけてさらに砂分は多くなる。古土壌およびやや暗色化した層準の試料であるsa99~sa70では、sa99からsa84へ上方粗粒化して砂勝ちとなり、sa84からsa70へ上方細粒化している。古土壌であるsa43は、礫が相対的に多く砂勝ちである。sa30より上位は作土層で、下位層に比べて相対的に粗粒である。平均粒径や中央粒径も礫・砂・泥の割合を反

映している。分級度はほとんどが非常に悪いが、特にsa99より上位が顕著である。歪度はsa30～24が負の歪みを示すほかは、ほぼ対称か正の歪みである。

粒度分布のヒストグラムを見ると、sa01-1～02-8では、下位で2.5～3.0φにわずかなモードと4.5φに顕著なモードが見られるが、sa02-8でモードは6.5φになる。sa03-4～04-8では、4.5φに顕著なモードが見られ、sa04-14から07-8にかけて5.5φから8.0φへと細粒な方へ移動している。sa104～70では、sa104で5φと8φに双峯性モードが見られたが、上位へ徐々に粗粒な方へ移動する。sa52では6.0φに明瞭なモードがあり、sa43では-0.5φにモードが見られるが、扁平な領域は広い。sa30からsa06にかけては、4.5φと7.0φにモードがある双峯性モードから、3.0～4.5φのモードに、上位へ徐々に粗粒な方へ移動する。

第5層準の暗色帯に注目すると、全体としてモード値前後が扁平で、その領域が広いという特徴がある。これに対して非暗色層準にはモードの明瞭なものが多い。なお、多くの試料に認められる10.0φ付近のモードは測定機器のゴースト癖の可能性が高いため分析の対象とはしない（以下、同様である）。

b. MY(2)11ES（符号su）

各採取試料の礫・砂・泥の割合を図305に、分析データを表6・7に示す。

礫・砂・泥の割合を見ると、下位よりsu01は泥勝ちで、su02からsu03にかけては砂勝ち～泥勝ちとなる。su04からsu06にかけては上方細粒化を示し、砂勝ちから泥勝ちへと移化する。su07～su13・su19～20は沼沢湿地性堆積層および古土壌で、この中のsu09～10は横大路火山灰層準である。su09～su20で、su16は突出して砂勝ちとなるが、これ以外は概ね泥勝ちで、上方細粒化する。古土壌の上半部に当るsu21・22は、下半部のsu19・20に比べて粗粒化する。su23からsu25にかけて上方粗粒化を示す。su25～su26・su29～su30は沼沢湿地性堆積層および古土壌で、su25からsu30にかけては上方細粒化する。なお、

Area	No.	gravel (%)	sand (%)	mud (%)	total (%)
MY(2)11EN	saU01	3.6	35.5	60.9	100.0
	sa06	4.0	34.9	61.1	100.0
	sa14	1.5	26.6	71.9	100.0
	sa24	1.7	20.1	78.1	100.0
	sa30	2.3	24.9	72.8	100.0
	sa43	15.8	41.1	43.2	100.0
	sa52	0.0	7.2	92.8	100.0
	sa70	0.6	17.6	81.8	100.0
	sa76	0.5	29.3	70.2	100.0
	sa84	0.7	33.3	66.0	100.0
	sa99	0.0	26.9	73.1	100.0
	sa102	0.0	8.2	91.8	100.0
	sa104	0.1	2.5	97.4	100.0
	sa07-6	0.0	4.3	95.7	100.0
	sa07-3	0.0	0.9	99.1	100.0
	sa07-1	0.0	0.5	99.5	100.0
	sa06-1	0.0	0.8	99.2	100.0
	sa05-2	0.0	2.3	97.7	100.0
	sa04-16	0.0	3.3	96.7	100.0
	sa04-14	0.0	2.5	97.5	100.0
	sa04-8	0.0	5.8	94.2	100.0
	sa04-5	0.0	11.2	88.8	100.0
	sa04-3	0.0	9.2	90.8	100.0
	sa04-1	0.0	10.4	89.6	100.0
	sa03-6	0.0	8.8	91.2	100.0
	sa03-4	0.0	6.1	93.9	100.0
	sa03-2	0.0	3.5	96.5	100.0
	sa02-8	0.0	3.3	96.7	100.0
	sa02-6	0.0	4.4	95.6	100.0
	sa02-4	0.0	3.8	96.2	100.0
	sa02-2	0.2	5.8	94.0	100.0
	sa01-5	0.0	7.9	92.1	100.0
	sa01-3	0.0	9.1	90.9	100.0
sa1-1	0.1	13.3	86.6	100.0	
MY(3)15-17E	tuU1	1.7	34.0	64.2	100.0
	tuU5	1.1	17.9	81.0	100.0
	tuU7	0.1	9.5	90.4	100.0
	tuU11	8.2	51.5	40.3	100.0
	tuU13	0.0	29.4	70.6	100.0
	tuU15	0.1	15.9	84.0	100.0
	tuU20	0.0	6.7	93.3	100.0
	tuU22	0.0	7.4	92.6	100.0
	tuU24	0.2	4.0	95.8	100.0
	tuU27	0.0	2.2	97.8	100.0
	tuU29	0.0	3.3	96.7	100.0
	tuU32	0.0	11.1	88.9	100.0
	tuU35	0.0	22.7	77.3	100.0
	tuU38	0.0	17.6	82.4	100.0
	tuU40	0.0	19.8	80.2	100.0
	tuU46	0.0	2.0	98.0	100.0
	tuL02	0.0	0.9	99.1	100.0
	tuL06	0.0	1.7	98.3	100.0
	tuL08	0.0	7.1	92.9	100.0
	tuL10	0.0	14.5	85.5	100.0
	tuL12	0.1	21.1	78.8	100.0
	tuL14	0.5	23.4	76.0	100.0
	tuL16	0.5	24.3	75.3	100.0
	tuL19	0.6	25.3	74.2	100.0
	tuL22	0.9	30.4	68.6	100.0
	tuL26	14.4	57.3	28.3	100.0
MY(2)11ES	su32	0.2	5.1	94.7	100.0
	su31	0.1	7.9	92.0	100.0
	su30	0.0	4.1	95.8	100.0
	su29	0.1	4.7	95.2	100.0
	su28	0.0	6.5	93.5	100.0
	su27	0.0	8.9	91.1	100.0
	su26	1.0	15.7	83.3	100.0
	su25	9.6	21.2	69.3	100.0
	su24	0.0	27.3	72.7	100.0
	su23	0.0	21.3	78.7	100.0
	su22	0.5	15.0	84.4	100.0
	su21	0.4	20.0	79.6	100.0
	su20	0.0	3.0	97.0	100.0
	su19	0.0	3.0	97.0	100.0
	su18	0.1	5.2	94.7	100.0
	su17	0.3	5.1	94.6	100.0
	su16	0.9	45.4	53.6	100.0
	su15	0.0	7.4	92.6	100.0
	su14	0.0	8.1	91.9	100.0
	su13	0.0	9.7	90.3	100.0
	su12	0.1	11.0	88.9	100.0
	su11	0.1	11.7	88.2	100.0
	su10	0.0	12.8	87.2	100.0
	su09	0.0	12.2	87.8	100.0
	su08	0.0	7.1	92.9	100.0
	su07	0.0	7.1	92.9	100.0
	su06	0.1	13.1	86.8	100.0
	su05	0.0	26.3	73.7	100.0
	su04	0.1	47.0	52.9	100.0
	su03	0.0	25.8	74.2	100.0
su02	0.2	44.1	55.7	100.0	
su01	0.0	18.2	81.8	100.0	

表6 三宅西遺跡の粒度組成表

左列から、地域・資料番号・礫%・砂%・泥%・合計%

su25はやや砂勝ちで、礫を少し含む。su31～su32は下位に比べてやや粗粒となる。

c. MY(3)15・16・17E (符号tu)

各採取試料の礫・砂・泥の割合を図308aに、平均粒径・中央粒径・分級度・歪度・尖度の粒径分布の評価を図308bに、粒径分布のヒストグラム・累積曲線を図309に、並びに分析データを表6・7に示す。

礫・砂・泥の割合を見ると、tuL26からtuL02にかけては上方細粒化し、tuL02からtuU35に概ね上方粗粒化する。tuU35からtuU27にかけて上方細粒化し、tuU25からtuU11にかけて泥勝ちから砂勝ちへ上方粗粒化する。tuU7からtuU1にかけても顕著な上方粗粒化を示す。分級度は悪いから非常に悪いの範囲にある。歪度はtuL12からtuU35にかけて、正の歪みから著しい正の歪みへ徐々に変化している。尖度については最下位のtuL26を除いて、中間から扁平である。

粒度分布のヒストグラムを見ると、tuL26～tuL08では、下位では3.0φ前後にモードが見られ、徐々に6.5φへと細粒な方へ移動する。tuL06～tuU32では、6.5φに見られたモードが4φへ粗粒な方へ移

表7 三宅西遺跡の粒度分布の評価

Area	No.	5phi	16phi	25phi	50phi	75phi	84phi	95phi	Median Md50	Mean Mz	Sorting σI	Skewness Skl	Kurtosis KG
MY(2)11EN	saU01	-0.28	1.79	2.85	4.85	7.06	8.10	9.92	4.85	4.91	3.12	0.01	0.99
	saU06	-0.40	1.66	2.78	5.01	7.28	8.19	9.77	5.01	4.96	3.17	-0.05	0.93
	saU14	0.72	2.88	3.73	5.78	7.81	8.60	10.02	5.78	5.75	2.84	-0.05	0.93
	saU24	0.85	3.29	4.42	6.44	8.24	8.94	10.22	6.44	6.22	2.83	-0.15	1.01
	saU30	0.23	2.77	3.78	5.97	8.00	8.76	10.07	5.97	5.83	2.99	-0.12	0.96
	saU43	-1.71	-0.55	0.15	3.01	6.43	7.59	9.41	3.01	3.35	3.72	0.14	0.73
	saU52	3.45	5.02	5.65	7.08	8.50	9.17	10.38	7.08	7.09	2.09	-0.02	1.00
	saU70	1.78	3.75	4.61	6.40	8.08	8.77	10.08	6.40	6.31	2.51	-0.08	0.98
	saU76	0.93	2.81	3.59	5.44	7.65	8.50	10.02	5.44	5.58	2.80	0.04	0.92
	saU84	0.90	2.63	3.36	4.99	7.46	8.47	10.11	4.99	5.36	2.86	0.15	0.92
	saU99	1.43	2.65	3.72	5.50	7.58	8.51	10.15	5.50	5.56	2.79	0.05	0.93
	saU102	2.84	4.75	5.19	6.83	8.36	8.98	10.18	6.83	6.86	2.17	-0.04	0.95
	saU104	4.59	5.30	5.92	7.47	8.79	9.41	10.48	7.47	7.39	1.92	-0.02	0.84
	saL7-6	4.24	5.31	5.99	7.51	8.86	9.49	10.49	7.51	7.44	1.99	-0.05	0.89
	saL7-3	4.75	5.54	6.14	7.54	8.86	9.49	10.51	7.54	7.52	1.86	0.01	0.87
	saL6-1	4.63	5.23	5.74	7.26	8.76	9.28	10.00	7.26	7.26	1.83	0.01	0.73
	saL5-2	4.60	5.17	5.60	6.79	8.22	8.88	10.13	6.79	6.95	1.77	0.16	0.87
	sa4-16	4.57	5.31	5.82	7.16	8.53	9.16	10.25	7.16	7.21	1.82	0.06	0.86
	saL4-14	4.56	5.18	5.65	6.91	8.34	8.97	10.14	6.91	7.02	1.79	0.12	0.85
	saL4-8	3.82	4.79	5.29	6.91	8.51	9.25	10.28	6.91	6.98	2.09	0.05	0.82
	saL4-5	3.28	4.31	4.81	6.52	8.35	9.04	10.21	6.52	6.62	2.23	0.07	0.80
	saL3-6	3.58	4.41	4.85	6.20	8.08	8.87	10.17	6.20	6.49	2.11	0.20	0.83
	saL3-4	3.84	4.66	5.06	6.34	8.07	8.86	10.20	6.34	6.62	2.01	0.21	0.86
	saL2-8	4.27	5.08	5.61	6.97	8.45	9.13	10.35	6.97	7.06	1.93	0.09	0.88
	saL2-4	4.21	4.98	5.52	7.04	8.55	9.20	10.33	7.04	7.07	1.98	0.05	0.83
	saL1-5	2.99	4.78	5.22	6.52	8.17	8.89	10.31	6.52	6.73	2.14	0.09	1.02
saL1-1	3.04	4.32	4.87	6.46	8.11	8.80	10.07	6.46	6.53	2.19	0.04	0.89	
MY(3)15-17E	tuU1	0.38	1.80	2.73	5.38	7.67	8.53	9.96	5.38	5.24	3.13	-0.05	0.79
	tuU5	1.10	3.45	4.70	6.49	8.24	8.94	10.16	6.49	6.29	2.74	-0.15	1.05
	tuU7	3.11	4.75	5.43	7.08	8.56	9.22	10.40	7.08	7.02	2.22	-0.07	0.95
	tuU11	-0.85	0.03	0.76	2.76	6.49	7.80	9.62	2.76	3.53	3.53	0.30	0.75
	tuU13	2.22	3.26	3.76	5.58	7.94	8.75	10.05	5.58	5.86	2.56	0.15	0.77
	tuU15	2.25	4.00	4.74	6.49	8.27	8.94	10.17	6.49	6.48	2.44	-0.04	0.92
	tuU20	3.83	4.36	4.78	6.32	8.10	8.84	10.14	6.32	6.51	2.08	0.17	0.78
	tuU22	3.69	4.53	5.15	6.86	8.45	9.14	10.35	6.86	6.84	2.16	0.02	0.83
	tuU24	4.14	5.08	5.71	7.22	8.66	9.34	10.57	7.22	7.21	2.04	0.02	0.89
	tuU27	4.62	5.59	6.19	7.51	8.82	9.46	10.59	7.51	7.52	1.87	0.02	0.93
	tuU29	4.34	5.41	6.02	7.36	8.68	9.30	10.37	7.36	7.36	1.89	0.00	0.93
	tuU32	3.54	4.29	4.87	6.83	8.49	9.13	10.24	6.83	6.75	2.23	-0.01	0.76
	tuU35	3.24	3.77	4.06	5.09	7.47	8.45	10.06	5.09	5.77	2.20	0.45	0.82
	tuU38	3.38	3.93	4.02	5.34	7.34	8.33	10.11	5.34	5.87	2.12	0.39	0.83
	tuU40	3.25	3.82	4.24	5.54	7.58	8.54	10.22	5.54	5.97	2.24	0.31	0.86
	tuU46	4.72	5.19	5.56	6.63	8.06	8.76	10.06	6.63	6.86	1.70	0.24	0.87
	tuL2	4.77	5.41	5.82	6.93	8.30	8.93	10.22	6.93	7.09	1.71	0.17	0.90
	tuL6	4.78	5.49	5.95	7.15	8.50	9.16	10.36	7.15	7.27	1.76	0.12	0.89
	tuL8	3.63	4.99	5.66	7.13	8.54	9.19	10.33	7.13	7.10	2.06	-0.03	0.95
	tuL10	3.04	4.14	4.86	6.57	8.23	8.92	10.17	6.57	6.54	2.27	0.00	0.87
	tuL12	2.78	3.67	4.24	5.94	7.94	8.72	10.06	5.94	6.11	2.36	0.12	0.81
	tuL14	2.18	3.42	4.09	6.09	8.08	8.80	10.03	6.09	6.10	2.53	0.01	0.81
	tuL16	2.41	3.42	4.02	6.09	8.05	8.77	10.06	6.09	6.10	2.50	0.02	0.78
	tuL19	2.27	3.35	3.95	5.86	7.85	8.63	9.99	5.86	5.95	2.49	0.06	0.81
	tuL22	2.05	3.22	3.68	5.48	7.70	8.51	9.90	5.48	5.73	2.51	0.13	0.80
	tuL26	-1.47	-0.45	0.72	3.02	4.29	6.42	9.97	3.02	3.00	3.45	0.10	1.32

左列から、地域・試料番号・累積5%のφ値・同16%・同25%・50%・75%・84%・95%、中央粒径・平均粒径・分級度・歪値・尖値。

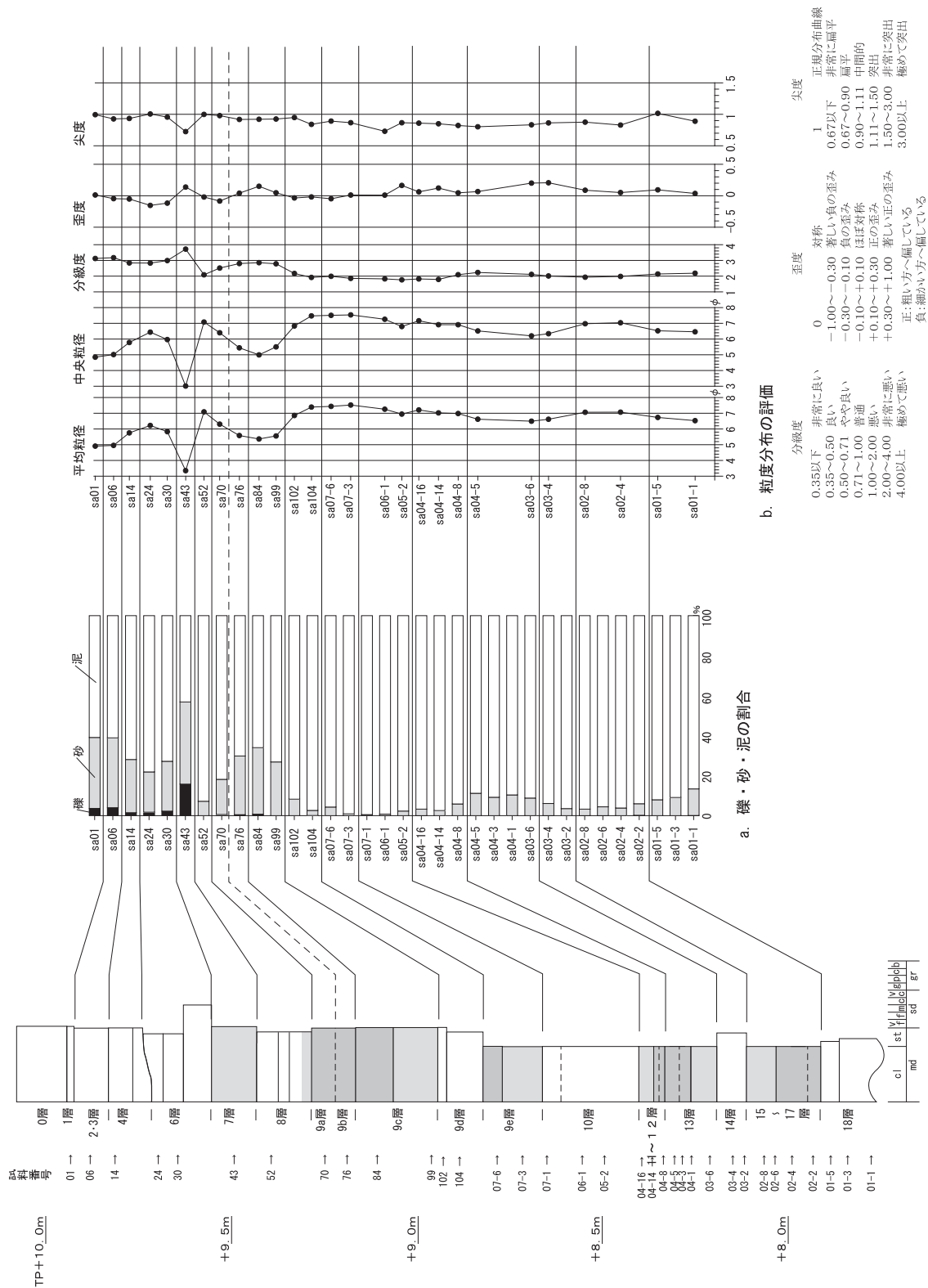
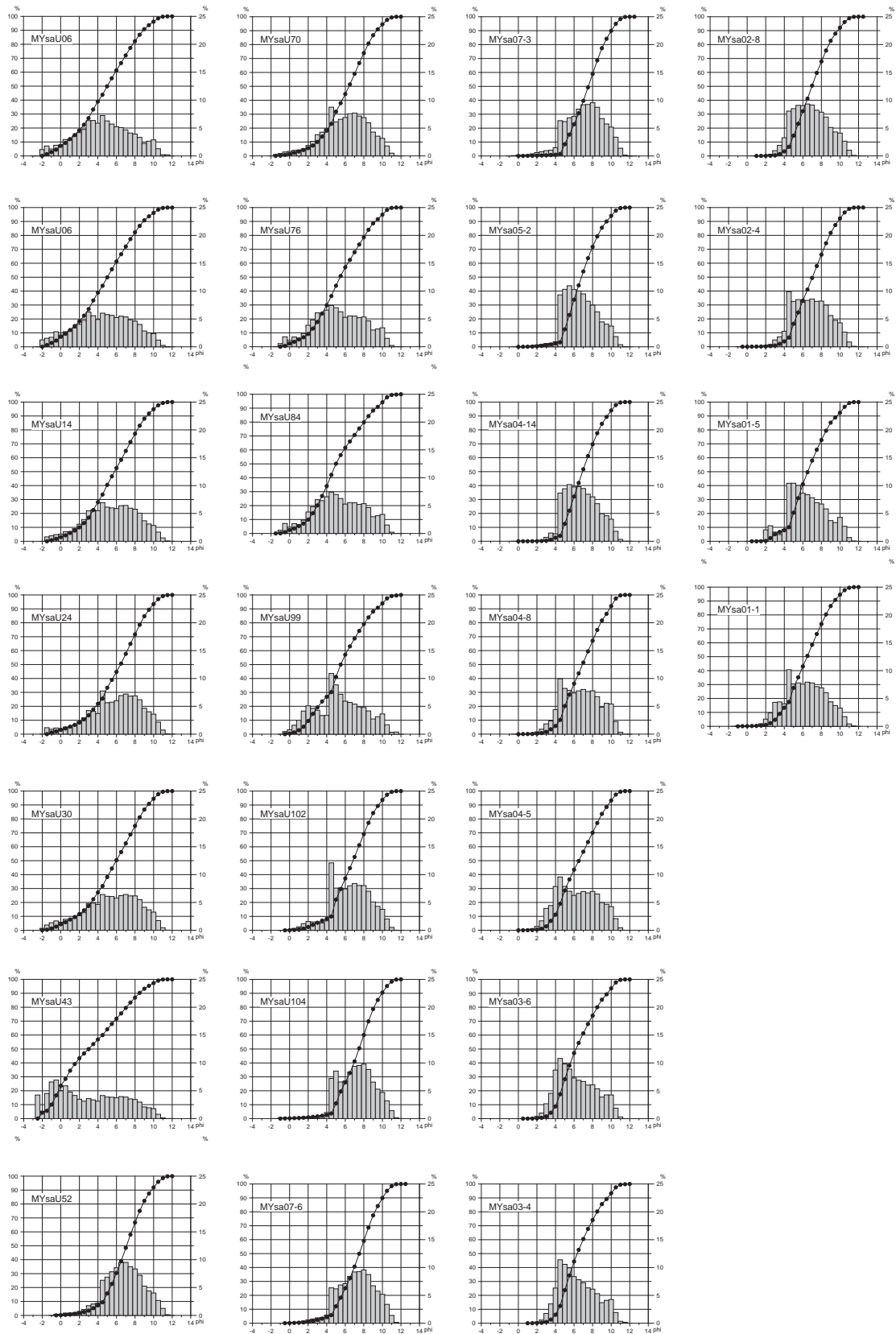


図306 MY(2)11EN 礫砂泥の割合・粒度分布の評価



ヒストグラムは右目盛り、累計曲線は左目盛り

図307 MY(2)11EN 粒度分布のヒストグラム・累計曲線

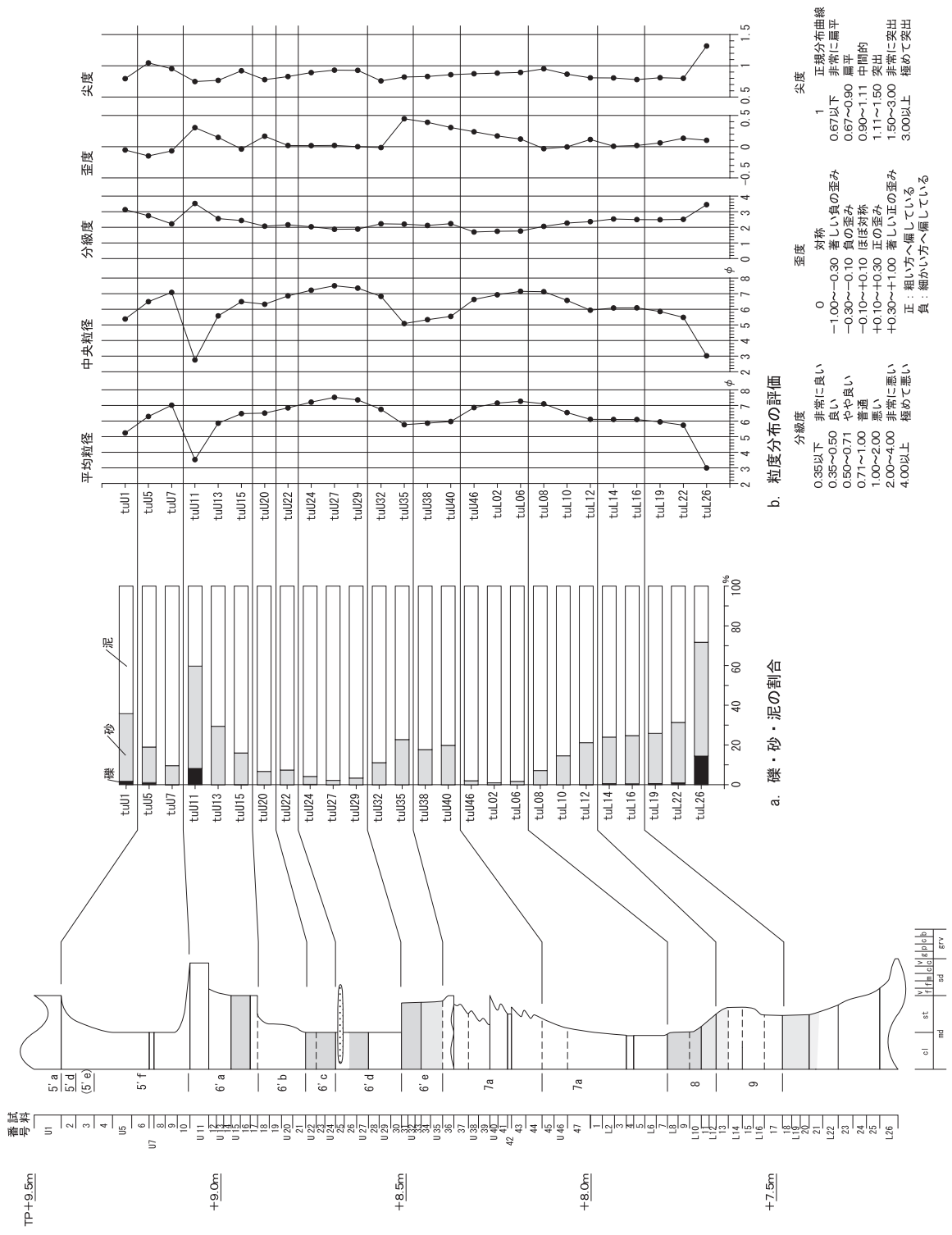
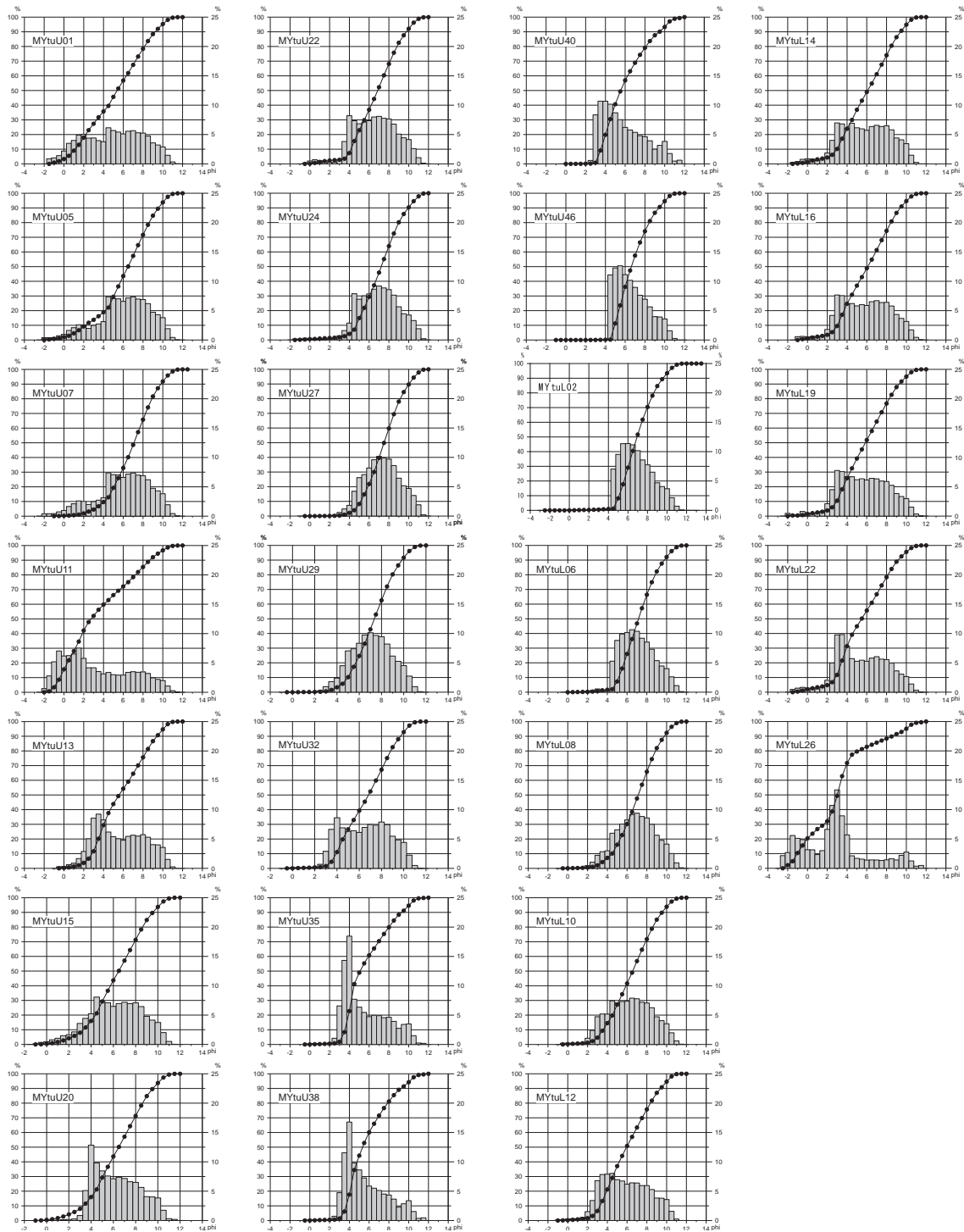


図308 MY(3)15・16・17E 礫砂泥の割合・粒度分布の評価



ヒストグラムは右目盛り、累計曲線は左目盛り

図309 MY(3)15・16・17E 粒度分布のヒストグラム・累計曲線

C. 火山灰分析

1. 分析方法

試料は粒度分析に使用し丁寧に回収した3.0φ～3.5φの極細粒砂サイズの試料を用いた。80℃で加熱したホットプレート上で摂氏約80度に温めておいたスライドガラス上に数ml、滴下したマウント剤（ペトロポキシ154）に、砂粒試料を極少量落入し、よく混ぜ、カバーガラスで封入してプレパラートを作成した。プレパラートを偏光顕微鏡（ニコンXPL）により100倍率で観察し、メカニカルステージによりプレパラートを移動し、視野内の鉱物等の粒子を通常200粒以上同定して計数を行い、新鮮な鉱物について火山ガラス・長石・石英・重鉱物の鉱物組成を求めるとともに、新鮮な鉱物と風化変質した鉱物・岩片の割合をダイアグラムに作成した。火山ガラスは無色透明・褐色透明を区別し、重鉱物は角閃石類・斜方輝石・単斜輝石・黒雲母・ジルコン・アパタイト・磁鉄鉱などの不透明鉱物等を同定した上で合算して示した。ダイアグラムの検討で火山灰そのものや火山ガラス等の火砕物が濃集している可能性がある試料では、ガラスの形態、及び角閃石・斜方輝石・普通輝石・黒雲母・ジルコン・アパタイト・磁鉄鉱などの不透明鉱物等を、新鮮・風化を区別しながら通常200粒以上計測し、重鉱物組成を作成した。また、火山ガラスの屈折率を通常20粒以上測定した。

火山ガラスの形態に当たっては、吉川(1976)の分類に従って行った。また、火山ガラスの屈折率は吉川ほか(1986)の位相差偏向顕微鏡下で標準ガラスを用いた分散法により行った。粒子の新鮮・風化の判定のうち、角閃石・斜方輝石などの有色鉱物の判定にあたっては、自形・半自形はもとより、他形でも結晶面が判定できる鉱物は新鮮と判定し、劈開面すら判定できないものを風化とした。また、長石などの無色鉱物はオープンニコル・クロスニコルの両顕微鏡観察において気泡やくすみが無いか極少ないものを新鮮と判定し、そうでないものを風化に分類した。

2. 分析結果

a. MY(2)11EN (符号sa)

鉱物組成を図310aに、火山ガラスの屈折率を図310bに、分析データを表8に示す。

新鮮な鉱物と風化した鉱物・岩片の割合は、sa03-6より上位では新鮮な鉱物が10%未満、sa03-4より下位でも17%以下と全体を通して低い。また、鉱物組成では、火山ガラスや新鮮な長石、重鉱物が微量ながらほぼ全試料に含まれていたが、特に顕著な特徴を示す試料はなかった。

火山ガラスの屈折率測定はsa01-5と03-2で行った。その屈折率は1.498～1.511に分散しており、モードは認められなかった。

b. MY(2)11ES (符号su)

鉱物組成を図310aに、火山ガラスの形態分類組成を図310bに、重鉱物組成を図310cに、火山ガラスの屈折率を図310dに、並びに分析データを表8、顕微鏡写真を写真1に示す。

全粒子に占める新鮮な鉱物の割合は、su01からsu06では微量であるが、su07から増加する。su09で80%を超え、su10から上位へ漸減する。新鮮な鉱物は火山ガラスが主体を占めるため、火山ガラスの比率も同様の傾向を示し、su09で80%近い。新鮮な長石、石英、重鉱物は極少量である。

火山ガラスの形態分類はsu01・04・09で比較したところ、いずれも扁平型ガラスが極めて多く、su01では65%を占める。中間型ガラスも多く、su01では32%、多孔質型ガラスは極微量である。なお、su09では、扁平型ガラスのうち褐色透明扁平型ガラスが8%含まれる。

重鉱物組成はsu09で行った。斜方輝石、次いで単斜輝石が多く、角閃石類が少量、黒雲母とアパタ

表8 三宅西遺跡の火砕物組成

Area	No.	Gl	BrownGl	Fl	Qt	Am	Others	Fresh	Wethered	total	PlantOpal	Charcoal	SoilGrains
MY(2)11EN	sa07-6	1.8	0.4	4.6	0.0	1.1	1.4	9.2	90.8	100.0	1.8	0.0	0.0
	sa07-3	2.9	0.5	3.3	0.0	1.4	0.5	8.6	91.4	100.0	4.8	0.0	0.0
	sa07-1	1.6	1.2	4.3	0.0	0.0	0.4	7.5	92.5	100.0	1.2	0.0	0.0
	sa06-1	4.2	0.3	1.4	0.0	0.7	0.0	6.6	93.4	100.0	2.4	0.0	1.0
	sa05-2	1.3	0.0	1.3	0.0	0.4	0.9	3.9	96.1	100.0	0.9	0.0	0.0
	sa04-16	1.8	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	2.8	97.2	100.0	4.6	0.0	117.1
	sa04-14	2.8	0.0	4.1	0.0	1.4	0.0	8.3	91.7	100.0	0.0	0.0	148.6
	sa04-8	2.6	0.9	2.2	0.0	0.4	0.9	7.0	93.0	100.0	0.0	0.0	0.9
	sa04-5	2.1	0.0	5.4	0.0	0.0	0.0	7.5	92.5	100.0	0.0	0.0	1.3
	sa04-3	1.7	0.4	1.7	0.0	1.7	0.0	5.6	94.4	100.0	0.0	0.0	0.9
	sa04-1	2.4	0.0	1.0	0.0	0.3	0.7	4.5	95.5	100.0	1.0	0.0	1.7
	sa03-6	2.6	0.9	1.3	0.0	0.4	0.0	5.1	94.9	100.0	0.0	0.0	22.2
	sa03-4	5.9	0.0	4.7	1.2	1.2	0.0	13.0	87.0	100.0	0.0	0.0	40.8
	sa03-2	9.5	1.0	1.9	0.0	1.0	0.0	13.3	86.7	100.0	6.2	0.0	53.8
	sa02-8	3.3	0.0	7.0	0.0	1.1	0.7	12.2	87.8	100.0	3.3	0.0	31.5
	sa02-6	3.6	0.7	4.0	0.0	0.7	0.0	9.1	90.9	100.0	1.5	1.1	6.9
	sa02-4	2.8	0.0	10.7	1.2	1.2	0.8	16.6	83.4	100.0	0.0	0.8	17.4
	sa02-2	4.6	0.5	3.2	0.0	1.8	0.0	10.1	89.9	100.0	1.4	0.0	15.6
	sa01-5	5.9	0.0	3.2	0.0	2.2	1.6	13.0	87.0	100.0	0.0	0.0	22.7
	sa01-3	3.8	0.4	2.6	0.8	0.8	0.0	8.3	91.7	100.0	0.0	1.1	2.3
MY(2)11ES	su25	1.1	0.7	1.8	0.7	1.5	0.0	5.9	94.1	100.0	0.0	0.0	7.4
	su23	1.9	1.1	1.5	0.8	0.0	0.8	6.0	94.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	su21	0.9	0.9	1.3	0.9	0.9	0.9	5.8	94.2	100.0	0.0	0.0	0.0
	su19	1.2	0.0	1.5	0.0	1.5	0.0	4.2	95.8	100.0	0.0	0.8	0.0
	su17	3.9	0.7	2.1	0.7	1.4	1.4	10.3	89.7	100.0	0.0	0.0	0.0
	su15	24.9	2.8	0.9	0.0	0.5	0.5	29.6	70.4	100.0	0.0	0.0	0.0
	su14	22.9	2.7	1.3	0.7	0.7	1.0	29.2	70.8	100.0	0.0	0.0	0.0
	su13	40.9	3.0	2.7	0.0	0.7	1.3	48.5	51.5	100.0	0.0	0.0	0.0
	su12	57.3	1.8	0.6	0.0	1.8	1.2	62.6	37.4	100.0	0.0	0.0	0.0
	su11	60.5	4.3	2.4	0.3	0.5	0.5	68.6	31.4	100.0	0.0	0.0	0.0
	su10	70.0	3.0	2.1	0.0	0.6	0.9	76.6	23.4	100.0	0.0	0.0	0.0
	su9	72.0	4.0	3.1	0.0	0.3	0.9	80.4	19.6	100.0	0.0	0.0	0.0
	su8	44.1	3.0	2.7	0.0	0.3	0.9	51.1	48.9	100.0	0.0	0.0	0.6
	su7	11.3	1.7	4.5	1.0	1.4	1.4	21.2	78.8	100.0	0.0	0.0	0.0
	su6	2.3	0.6	2.0	0.0	1.4	0.9	7.2	92.8	100.0	0.0	0.0	0.0
	su5	2.6	0.0	1.3	0.9	0.4	0.4	5.6	94.4	100.0	0.0	1.3	0.0
	su4	2.4	0.3	2.0	0.0	0.3	0.3	5.5	94.5	100.0	0.0	0.0	0.0
su3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.9	99.1	100.0	0.0	0.0	0.0	
su2	1.1	0.0	1.9	0.0	0.8	0.0	3.8	96.2	100.0	0.0	0.0	0.0	
su1	1.6	0.0	2.8	0.0	2.0	0.4	6.7	93.3	100.0	0.0	0.0	0.0	
MY(3)15-17E	tuU27	1.4	0.5	1.8	0.0	0.9	1.4	5.9	94.1	100.0	0.0	0.0	0.0
	tuU29	1.3	0.3	1.3	0.0	0.6	0.6	4.1	95.9	100.0	0.0	0.0	0.0
	tuU32	0.9	0.9	1.3	0.0	0.6	1.3	5.0	95.0	100.0	0.0	0.0	0.6
	tuU35	1.9	0.5	1.0	0.0	0.5	0.0	3.8	96.2	100.0	0.0	0.0	0.0
	tuU38	1.9	0.8	1.5	0.8	0.4	1.2	6.5	93.5	100.0	0.0	0.0	0.0
	tuU40	2.8	0.5	1.9	0.9	0.9	0.9	7.9	92.1	100.0	0.0	0.0	0.0
	tuU46	3.3	0.8	1.2	0.0	0.4	0.4	6.2	93.8	100.0	0.0	0.0	9.5
	tuL02	1.4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.9	4.3	95.7	100.0	0.0	0.0	0.0
	tuL06	1.2	0.8	1.7	0.8	1.7	0.8	7.1	92.9	100.0	0.0	0.0	0.0
	tuL08	4.1	3.2	4.1	0.9	0.5	0.9	13.6	86.4	100.0	0.0	0.0	0.0
	tuL10	4.4	0.4	2.4	0.8	1.2	1.2	10.4	89.6	100.0	0.0	0.0	0.0
	tuL12	2.5	1.7	4.1	0.0	1.7	0.8	10.7	89.3	100.0	0.0	0.0	0.0
	tuL14	2.6	0.0	1.8	0.9	1.8	0.9	7.9	92.1	100.0	0.0	0.0	0.0
	tuL16	2.2	0.3	2.5	0.0	1.2	0.3	6.5	93.5	100.0	0.0	0.0	0.0
	tuL19	3.5	1.4	1.1	1.1	1.1	0.7	8.8	91.2	100.0	0.0	0.0	0.0
	tuL22	1.6	0.0	1.9	0.0	1.2	0.8	5.4	94.6	100.0	0.0	0.0	0.0
tuL26	1.1	0.0	1.5	0.0	0.8	1.5	5.0	95.0	100.0	0.0	1.1	0.0	

Area	No.	Ha	Br.Ha	Hb	Br.Hb	Ca	Br.Ca	Cb	Br.Cb	Ta	Br.Ta	Tb	Br.Tb	Other	Br.Other	Total
MY(2)11EN	su09	25	2	45	6	17	0	4	0	0	0	0	0	0	1	100
	su04	11	0	62	1	24	1	1	0	0	0	0	0	0	0	100
	su01	10	0	55	0	32	0	0	0	0	0	0	0	3	0	100
MY(3)5-3W	tuL08	12	3	53	21	8	3	0	0	1	0	0	0	0	0	100
	tuL16	17	0	56	2	21	2	2	1	0	0	0	0	0	0	100
	tuL19	13	2	47	6	20	5	7	0	0	0	0	0	0	0	100
	tuL22	15	0	64	0	19	0	2	0	0	0	0	0	0	0	100
	tuL26	0	0	54	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

単位%

Area	No.	Am	Weth.Am	Br.Ho	Ox.Ho	Opx	Weth.Opx	Cpx	Bi	Zr	Ap	OPQ	Total
MY(2)11ES	su09	12.9	3.5	0.5	0.0	45.8	2.0	21.4	1.0	0.0	0.5	12.4	100.0
MY(3)15-17E	tuL19	60.4	11.8	3.3	0.0	5.7	1.4	0.0	1.9	0.5	0.0	15.1	100.0

単位%

上表 鉱物組成:左列から、地域・試料番号・無色火山ガラス・褐色火山ガラス・長石・石英・角閃石類・その他の重鉱物・新鮮鉱物・風化鉱物・岩片・合計、プラントオパール・チャコール・土壤菌。

中表 火山ガラスの形態:左列から、地域・試料番号・Ha扁平型無色・同褐色・Hb扁平型無色・同褐色・Ca中間型無色・同褐色・Cb中間型無色・同褐色・Ta多孔質型無色・同褐色・その他型無色・同褐色・合計。

下表 重鉱物組成:左列から、地域・試料番号・新鮮角閃石類・風化角閃石類・褐色新鮮角閃石・酸化角閃石・斜方輝石・風化斜方輝石・単斜輝石・黒雲母・ジルコン・アパタイト・不透明鉱物・合計。

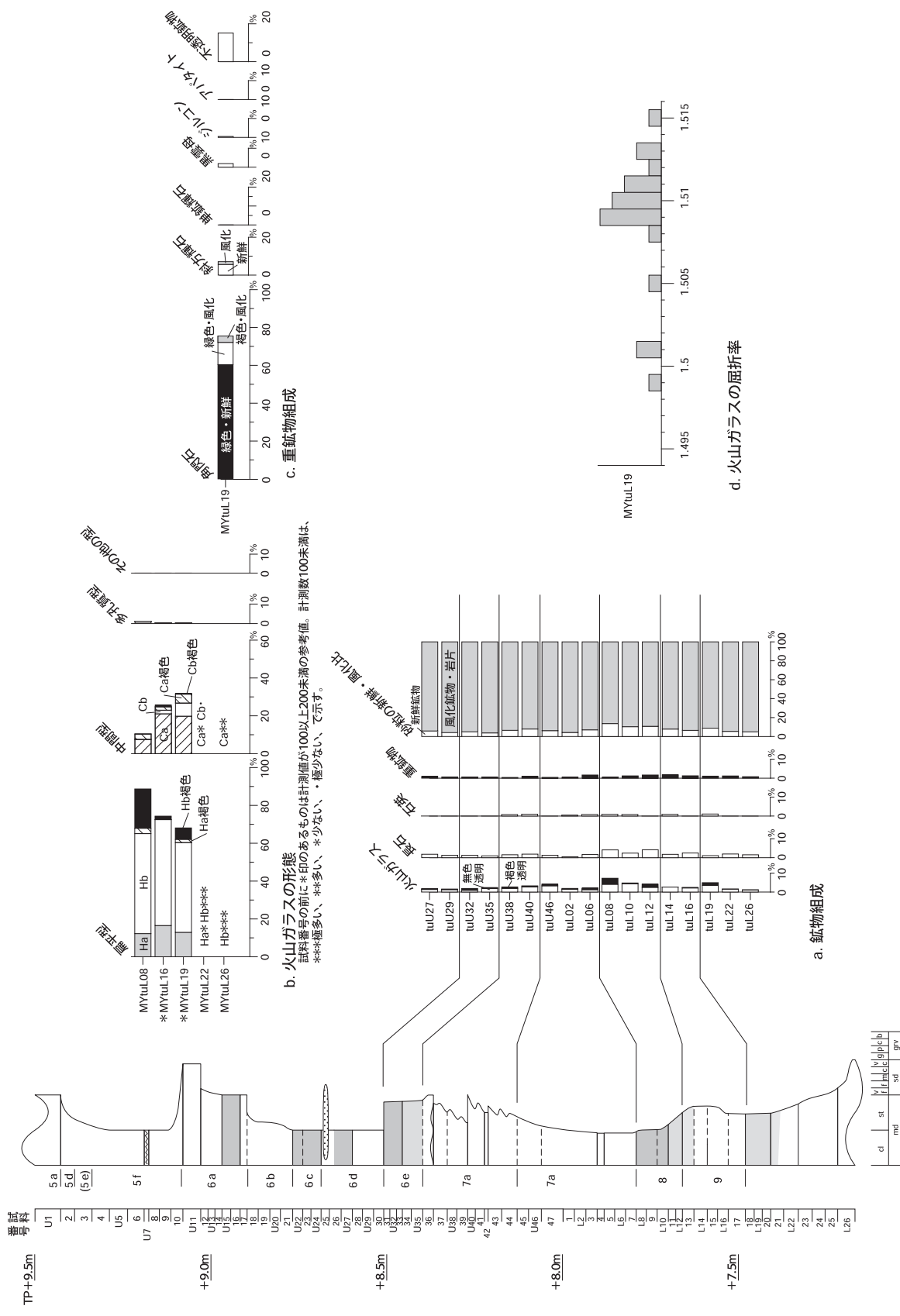


図311 MY(3)15・16・17E 鉱物組成・火山ガラスの形態・重鉱物組成・火山ガラスの屈折率

イトは微量含まれる。

Su09の火山ガラスの屈折率は1.500～1.512に分散するが、1.509～1.510にモードが認められる。

c. MY(3)15・16・17E (符号tu)

鉱物組成を図311aに、火山ガラスの形態分類組成を図311bに、重鉱物組成を図311cに、火山ガラスの屈折率を図311dに、並びに分析データを表8、顕微鏡写真を写真1に示す。

全粒子に占める新鮮な鉱物の割合は、tuL08で最大15%未満と、全体を通して低い。新鮮な鉱物は火山ガラスが主体を占めるため、火山ガラスの比率も同様の傾向を示すが、少量である。新鮮な長石、石英、重鉱物も極微量である。

火山ガラスの形態分類はtuL26・22・19・16・08で行った。いずれも扁平型ガラスが多く、tuL19では68%、tuL16で75%、tuL08で89%である。このうち褐色透明扁平型ガラスはtuL19で8%、tuL16で2%、tuL08で24%を占める。中間型ガラスはtuL19で32%、tuL16で26%、tuL08で11%で、褐色中間型ガラスはそれぞれ5%、3%、3%を占める。多孔質型ガラスは微量である。この中で、扁平型ガラスと中間型ガラスの比率の増減に関して、扁平型ガラスではtuL19→tuL16→tuL08へ増加するのに対して、中間型ガラスは減少する相反傾向が見られた。

重鉱物組成はtuL19で行った。角閃石類が圧倒的に多く、斜方輝石が少量、黒雲母とジルコンは微量である。角閃石類の中でも新鮮な緑色角閃石が極多量を占める。

tuL19の火山ガラスの屈折率は、1.499～1.515に分散するが、概ね1.508～1.515にまとまりがあり、1.509にモードが認められる。

D. 花粉分析

1. 試料の処理と分析方法

a. 原理

粘土層などの堆積物や遺跡の土壌には、動物性もしくは植物性の微小な化石(=微化石)が含まれており、それらを物理・化学的処理によって抽出し、顕微鏡で化石の種類や数を検定し、種々の目的にそった調査を行う方法が微化石分析であって、花粉分析はそのひとつである。

堆積物に含まれる花粉化石は、その堆積当時陸上に生育した樹木や草が生産した花粉が、水系や大気系を経由して堆積物粒子とともに埋積したものである。陸上に生育する樹木や草は気候の変化や時代とともに変化し、その変化が堆積物中の花粉化石の構成や量の変化として反映する。

従って、花粉構成や消長データは、地層の識別や対比、古植生の復元に利用することができる。

b. 分析処理法

(1)分析試料

分析に供する試料は、シルトまたは粘土で、その量は10～200g(湿潤重量)である。試料は花粉化石の形状を保持するため湿潤状態のまま使用する。

(2)分析処理

分析処理の手順は図312に示す分析フローのとおりである。1ミクロン振動マイクロフィルターを使用することによって、粒径処理を確実にするとともに、処理過程の再現性を高めている。

分析処理に要する薬品・器具設備の概要は以下のとおりである。

- ① 処理薬品 : 水酸化カリウム、硫酸、弗化水素、塩化亜鉛 他

② 処理器具、設備：遠心分離機、振動マイクロフィルター、他一般分析器具

(3)顕微鏡による検定・計数

抽出した花粉化石はグリセリンゼリーと混合してスライドガラス上に滴下し、カバーガラスをかけて封入してプレパラートとする。各試料につき2～3枚のプレパラートを作成する。プレパラートを顕微鏡（バノックスAHBLB1万能顕微鏡）により400～1000倍率で観察し、メカニカルステージによる帯分析で通常木本花粉で100～250個の検定、計数を行い、同時に出現する草本花粉の検定、計数も行う。

c. 解析法

(1)花粉分析結果の解析の手順

- ① 各花粉種類の出現率（パーセント表示）計算と花粉ダイアグラムの作成
- ② 各地点における花粉消長パターンの読みとりと花粉帯分帯
- ③ 地層対比や古植生・古気候の復元の順で進める。

(2)花粉ダイアグラムの表示について

花粉ダイアグラムでは、計数した各々の木本花粉、草本花粉について木本花粉総数を基数にした百分率を算出し、木本花粉は黒のスペクトルで、草本花粉を白抜きのスペクトルで表した。また検出数の少ない試料は、検出できた種類を「*」で示している。

花粉ダイアグラム右側に、「針葉樹花粉」、「広葉樹花粉」、「草本花粉」に「孢子」を加えた総合ダイアグラムを示している。総合ダイアグラムでは、計数値の合計を基数にそれぞれの百分率を算出し、累積百分率で示してある。

(3)イネ科の細分について

イネ科花粉を粒径から、40ミクロン以上と40ミクロン未満に区分する。

稲作が行われるより前の自然堆積物では、イネ科（40ミクロン未満）花粉が高率となることはあるが、イネ科（40ミクロン以上）花粉が高率となることはほとんどない。これに対し、稲作が

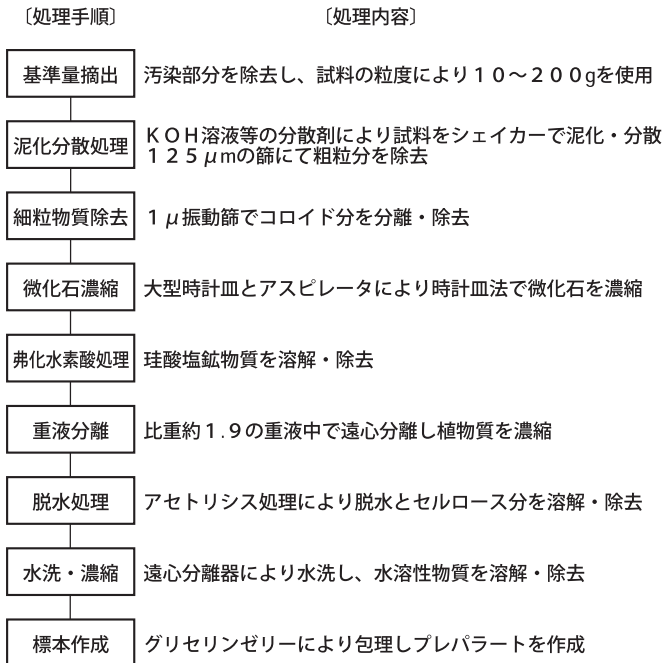
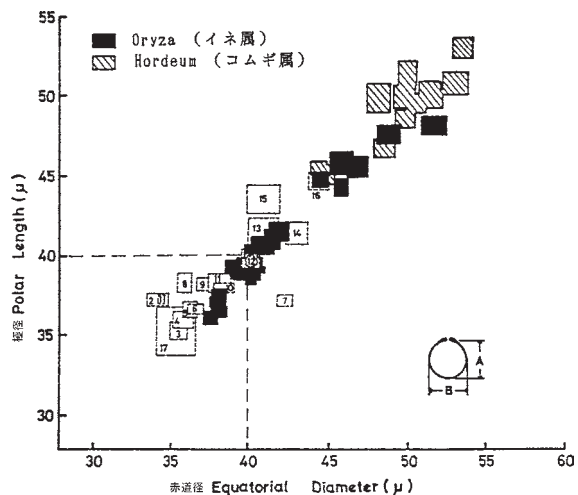


図312 花粉分析処理フロー



- 【图中的イネ・コムギ以外のイネ科】
1. Zizania latifolia (マコモ)
 2. Imperata cylindrica var. koenigii (チガヤ)
 3. Trisetum bifidum (カニツリグサ)
 4. Arthraxon hispidus (コブナグサ)
 5. Digitaria adscendens (メヒシバ)
 6. Echinochloa crusgalli subsp. edulis
 7. Polypogon monspeliensis (ヒエガエリ)
 8. Phalaris arundinacea (クサヨシ)
 9. Beckmannia syzigachne (カズノコグサ)
 10. Echinochloa crusgalli var. longiseta
 11. Alopecurus aequalis var. saurensis (スズメノテッポウ)
 12. Echinochloa crusgalli
 13. Paspalum thunbergii
 14. Alopecurus japonicus
 15. Echinochloa crusgalli var. oryzicola
 16. Agropyron ciliare var. minus (アオカモジグサ)
 17. Phragmites communis (アシ)

図313 イネ科花粉の粒径比較図（中村1974による）

広範に行われだしたと考えられる弥生時代以降においては、自然堆積物でもイネ科（40ミクロン以上）花粉が高率となることが多くなる。さらに稲作遺構での分析結果では、ほとんどの場合、イネ科（40ミクロン以上）花粉が高率で検出される。

一方図313に示すように、イネ科（40ミクロン以上）花粉はイネ属(*Oryza*)を含んでいるが、すべてがイネ属であるわけではない。

これらの状況から、弥生時代以降に高率で検出されるイネ科（40ミクロン以上）花粉は、そのすべてがイネ属に由来するわけではないが、多くはイネ属に由来すると推測される。

2. 分析結果

a. MY(2)11EN

(1)花粉化石の含有状況

24試料の花粉分析を行った結果、すべての試料から花粉化石が検出された。しかし、幾つかの試料では花粉化石の含有量が少ないために、統計処理上十分な量の花粉化石が検出できなかった。

(2)検出された花粉化石の種類

表9に示す55種類の花粉化石のほか、14種類の孢子化石が検出された。これらのうち、全試料を通じて花粉組成を特徴づける種類は、以下に示すようなものであった。

① 卓越木本花粉

マツ属（複維管束亜属）、コウヤマキ属、スギ属、アカガシ亜属、コナラ亜属

② 検出数は少ないが、出現傾向に特徴のある木本花粉

モミ属、ツガ属

③ 卓越草本花粉（栽培種と推定される種類を除く）

イネ科（40ミクロン未満）、ヨモギ属

④ 栽培種花粉（栽培の可能性のあるものを含む）

イネ科（40ミクロン以上）、ワタ属、アブラナ科、ソバ属

(3)花粉組成の特徴

花粉分析の結果を花粉ダイアグラム（図314）と花粉分析結果表（表9）に示し、花粉組成を下位から上位に向かって記す。

試料01-4～04-14では、コウヤマキ属が31%と卓越するほか、マツ属（複維管束亜属）、ツガ属、スギ属、ハンノキ属、アカガシ亜属、コナラ属が10%程度の出現率を示す。草本花粉の割合は低く、孢子の割合が高い。

試料02-4～04-14では、コウヤマキ属が60～80%と卓越し、アカガシ亜属が10～20%程度、ツガ属が10%程度の出現率を示す。ごく低率ではあるがモミ属が連続的に検出される。草本花粉の割合は低く、孢子の割合が高い。

試料05-2、07-3では、コウヤマキ属が49、82%と卓越し、アカガシ亜属が16、7%、モミ属、ツガ属、スギ属が10%までの出現率を示す。孢子の割合が高く、草本花粉の割合は低い。

試料07-6～70では、コウヤマキ属が40～80%と卓越し、アカガシ亜属が数～30%程度、コナラ属が数～10%程度の出現率を示す。また、ツガ属、スギ属が数～10%程度の出現率を示し、モミ属は試料84より上位でわずかに検出される。孢子の割合が高く、草本花粉の割合は低い、イネ科（40ミクロン未満）やヨモギ属が数～30%の出現率を示す。

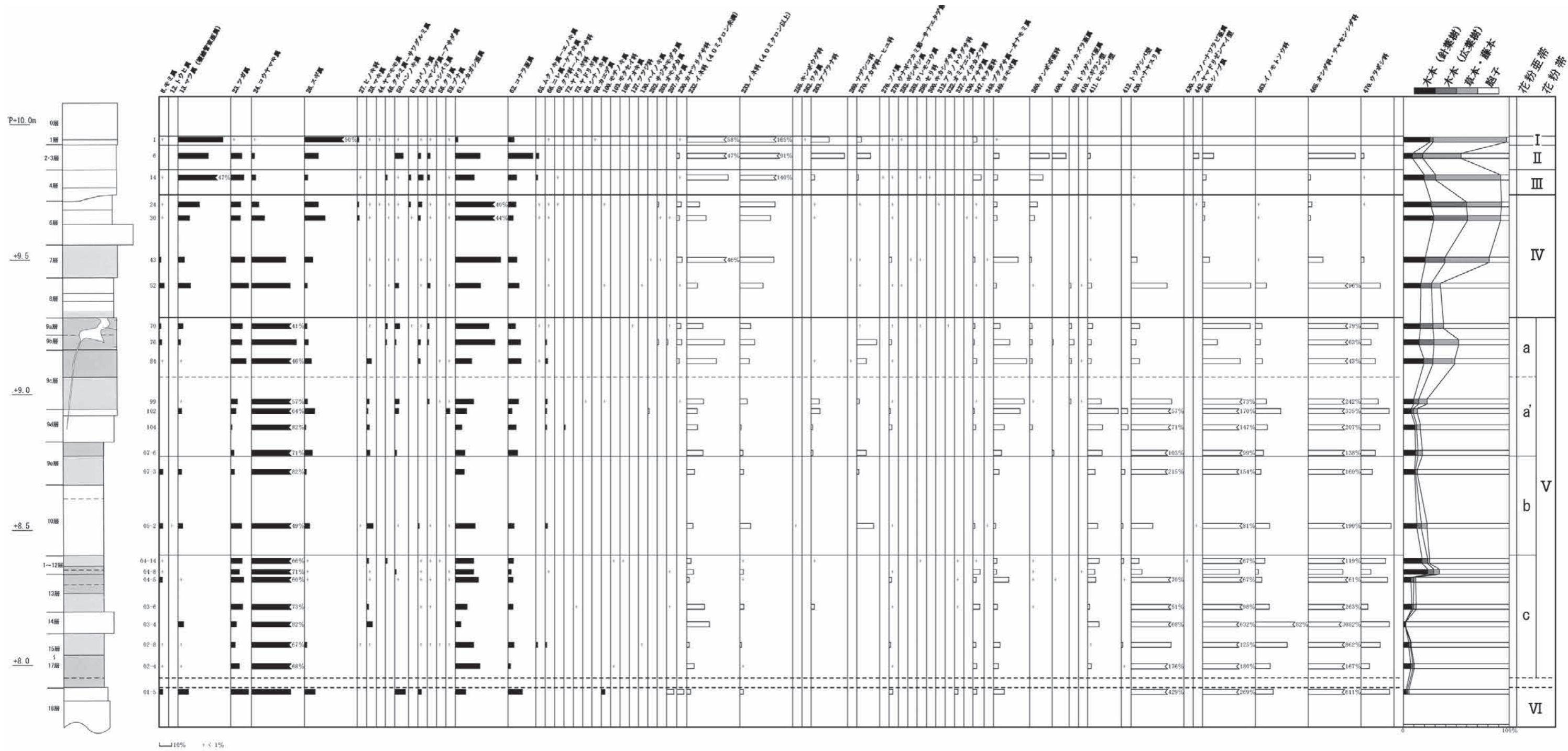


図314 MY(2)11EN 花粉ダイアグラム

表9 MY(2)11EN 花粉化石組成表

試料番号	6	14	24	30	43	52	70	75	81	99	102	104	07-6	07-3	05-2	04-11	04-8	04-5	03-6	03-1	02-3	02-1	01-5
8 Abbas	モミ属	2	1	2	3	9	3	2	1	1	3												
12 Pitea	トウヒ属	1%	0%	0%	1%	4%	1%	2%	1%						3%	3%	1%	1%	3%		1%	1%	3%
13 Pirus (P. pibro)	マツ属: 腹維管束亜属	95	11	102	54	41	11	23	8	2	1	1	3										
23 Tsuga	ツガ属	36%	24%	47%	17%	9%	5%	10%	4%	2%	1%	3%			3%	4%							
24 Sciadopitys	コウヤマキ属	0%	9%	11%	8%	8%	11%	14%	9%	9%	13%	11	4	1	2	2	25	28	17	16	12	1	6
26 Cryptomeria	スギ属	131	5	6	35	72	14	5	4	3	6	5	8	1	5	1	12	1	1	1	1	1	3
27 Cupressaceae	ヒノキ科	50%	11%	3%	11%	17%	7%	2%	2%	3%	6%	2%	8%	1%	6%	1%	4%	0%	0%	1%	2%	2%	9%
28 Podocarpus	マキ属	1%	1%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	4%	4	1	2	2		15	5	2	1	2	1	1	1
44 Myrica	ヤマモモ属	1	1	0%	1	0%	1	1	1														
46 Juglans-Pterocarya	クルミ属-サワグルミ属	0%	3	1	2	2	1	3	1								4						
50 Alnus	ハンノキ属	1	3	2	3	2	1	7	8	1	7	3											3
51 Betula	カバネキ属	0%	7%	1%	1%	0%	0%	3%	1%	1%	3%	3%				1%	1%	1%	1%				9%
53 Cupressus-styva	クワンソウ属-アサダ属	1	1	9	10	9	2	2	1	2	2					3	1	2	1	1	1	1	1
54 Corylus	ハシバミ属	0%	2%	4%	3%	2%	1%	1%	0%	2%	2%					1	0%	1%	1%	1%	1%	1%	3%
56 Castanea	クリ属	0%	2%	2%	1%	0%	0%	2%	1%	1%						1%	1	1	1	1	1	1	1
59 Fagus	ブナ属	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3			2	2	1	1	1	1	1	1
61 Cyclobalanops	アカガシ属	6	9	33	125	189	77	46	55	32	14	30	9	5	6	5	46	45	36	29	12	1	25
62 Quercus	コナラ属	2%	20%	15%	40%	44%	36%	20%	27%	32%	13%	15%	9%	5%	8%	7%	16%	15%	15%	10%	5%	15%	20%
65 Aphananthe-Cekis	ムクノキ属-エノキ属	13	9	15	20	18	15	20	12	10	11	17	3	6	6	14	4%	4%	2%	4%	4%	5%	2
66 Ulmus-Zelkova	ニレ属-ケヤキ属	2	2	1%	1%	0%	2	1	1	1	2	3	1	1		5	1	1	1	1	1	2	2
69 Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	1%	1	0%	0%	1%	0%	0%	1%	2%	1%	1%	1%		2%		0%					1%	1
71 Salix	ヤナギ属	1	0%	0%	1	0%	1	1	1														
72 Viscaceae	ヤドリギ科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
88 Tilia	シナノキ属	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
98 Acer	カエデ属	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
100 Ilex	モチノキ属	0%	0%	1	0%	0%	1	0%	0%	1	1	0%											1
103 Oleaceae	モクセイ科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
105 Aucuba	アオキ属	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
127 Ericaceae	ツツジ科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
130 Symplocos	ハイノキ属	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
202 Alnus	サシオモダカ属	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
203 Sagittaria	オモダカ属	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
207 Typha	ガマ属	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
230 Cyperaceae	カヤツリグサ科	2	1	2	11	9	1	7	4	2	1												
232 Gramineae (40)	イネ科: 4.0ミクロン未満	1%	2%	1%	4%	2%	4%	0%	3%	4%	2%	0%											
233 Gramineae (40)	イネ科: 4.0ミクロン以上	43%	41%	30%	89%	108%	58%	42%	18%	12%	8%	12%											
255 Ranunculaceae	キンポウゲ科	165%	91%	140%	29%	23%	27%	19%	9%	12%	8%	6%											
262 Gossypium	ワタ属	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
263 Cruciferae	アブラナ科	38	12	6	2	1	1	1	1	13	7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
269 Caryophyllaceae	ナデシコ科	14%	27%	3%	1%	0%	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
270 Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アザガサ-ヒユ科	10	5	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
276 Fagopyrum	ソバ属	4%	11%	1%	0%	0%	0%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%
279 Echinochaeta-Pentstemon	ウナギツクミ属-サナエタデ属	1	1	3	2	4	1	1	2	1	2	1	2	1	2	1	1	2	3	1	2	1	1
282 Rumex	ギンギク属	0%	1	0%	1%	0%	2%	0%	0%	2%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%
288 Sanguisorba	ワレモコウ属	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
298 Umbelliferae	セリ科	5	2	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
300 Rotula	キカウグサ属	2	2	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%
312 Haloragaceae	アリノトウグサ科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
322 Patria	オミナエシ属	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
327 Tracheispemum	テイカカズラ属	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
330 Nymphaeales	アサザ属	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
347 Carduoidae	キク亜科	8	14	3	3	3	1	3	1	3	1	1	2										
348 Ambrosia-Xanthium	ブタダサ属-オナモミ属	3%	6%	1%	1%	1%	0%	1%	1%	3%	0%	1%	2%										
349 Artemisia	ヨモギ属	2	2	7	9	13	42	5	11	13	28	50	21	8	5	3	5	8	6	19	4	9	4
360 Cichorioideae	タンポポ科	1%	4%	3%	3%	3%	20%	2%	5%	13%	27%	25%	21%	9%	6%	4%	2%	3%	2%	12%	3%	5%	4%
402 MONOLATE-TYPE-SPORE	単条孔胞子	11	19	11	7	16	18	7	32	21	37	23	45	41	47	29	40	38	36	87	155	18	24
403 TRILATE-TYPE-SPORE	三條孔胞子	4%	42%	5%	2%	4%	9%	3%	16%	21%	35%	11%	46%	45%	61%	43%	14%	13%	15%	56%	123%	82%	14%
406 Lycopodium	ヒカゲノカズラ属	12	63	33	10	23	28	107	118	46	48	290	230	142	134	104	311	267	321	970	500	288	547
408 Urostachys	トウゲシバ属	5%	10%	15%	3%	5%	13%	45%	53%	46%	46%	144%	235%	154%	174%	155%	109%	85%	132%	626%	397%	1309%	326%
410 Urosta-cr.Type	スギラン型	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
411 Urosta.si.Type	ヒモラン型	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
412 Lycopodium (Urostachys).Type	トウゲシバ属型	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%
420 Ophioglossum	ハナナズリ属	2	2	10	65	14	4	7	66	56	65	79	144	50	19	21	109	64	15	54	178	150	
430 Sceptraium	フユノハナワラビ属	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
442 Osmunda cinnamomea.Type	ヤマドリゼンマイ型	2	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
460 Davallia	シノブ属	4	6	5	7	12	87	78	12	32	147	167	135	76	103	233	203	72	104	123			

試料52～24では、コウヤマキ属が31～6%と減少し、アカガシ亜属が20～40%程度へと増加する。このほか、マツ属（複維管束亜属）、ツガ属、スギ属、コナラ亜属が数～20%程度の出現率を示し、マツ属（複維管束亜属）、スギ属は増加傾向を示す。胞子の割合は急減し、草本花粉の割合は高くなる。特に、イネ科（40ミクロン以上）の増加傾向が顕著である。

試料14では、マツ属（複維管束亜属）が47%と卓越し、アカガシ亜属が15%、ツガ属、コナラ亜属が10%程度の出現率を示す。草本花粉の割合は高く、イネ科（40ミクロン以上）が140%の高率を示す。また、栽培種であるソバ属がわずかであるが検出される。

試料6では、マツ属（複維管束亜属）が24%、アカガシ亜属、コナラ亜属が20%、ツガ属、スギ属が10%程度の出現率を示す。胞子の割合がやや高くなるが、草本花粉の割合にさほど変化はなく、イネ科（40ミクロン以上）が91%、イネ科（40ミクロン未満）が47%の出現率を示す。また、アカザ科ーヒユ科、タンポポ科や栽培種を含むアブラナ科が10～30%の出現率を示す。

試料1では、スギ属が50%、マツ属（複維管束亜属）が36%と卓越する。草本花粉の割合が高く、イネ科（40ミクロン以上）が165%、イネ科（40ミクロン未満）が47%、アブラナ科が14%の高率を示す。また、栽培種であるワタ属がわずかであるが検出される。

b. MY(3)15・16・17E

(1) 花粉化石の含有状況

20試料の花粉分析を行った結果、すべての試料から花粉化石が検出された。しかし、幾つかの試料では花粉化石の含有量が少ないために、統計処理上十分な量の花粉化石が検出できなかった。

(2) 検出された花粉化石の種類

表10に示す46種類の花粉化石のほか、11種類の胞子化石が検出された。これらのうち、全試料を通じて花粉組成を特徴づける種類は、以下に示すようなものであった。

① 卓越木本花粉

コウヤマキ属、スギ属、アカガシ亜属、コナラ亜属

② 検出数は少ないが、出現傾向に特徴のある木本花粉

モミ属、ツガ属

③ 卓越草本花粉（栽培種と推定される種類を除く）

イネ科（40ミクロン未満）、ヨモギ属

④ 栽培種花粉（栽培の可能性のあるものを含む）

イネ科（40ミクロン以上）

(3) 花粉組成の特徴

花粉組成変遷を以下に示す。また、花粉組成の変遷を明らかにするために、下位から上位に向かって記す。

試料L22、L19では、コウヤマキ属が25、43%、コナラ亜属が47、37%と卓越するほか、アカガシ亜属が15、10%程度の出現率を示す。草本花粉の割合はやや低く、胞子の割合が高い。

試料L12～L6では、コウヤマキ属が30～40%程度、アカガシ亜属が20～40%程度と卓越し、コナラ亜属が10～20%程度、ツガ属が10%程度の出現率を示す。またモミ属が数%の出現率で連続的に検出される。草本花粉の割合はやや低く、胞子の割合がやや高い。

試料L2、U46では、コウヤマキ属が41、7%と激減する。これに対しアカガシ亜属が16、76%と急

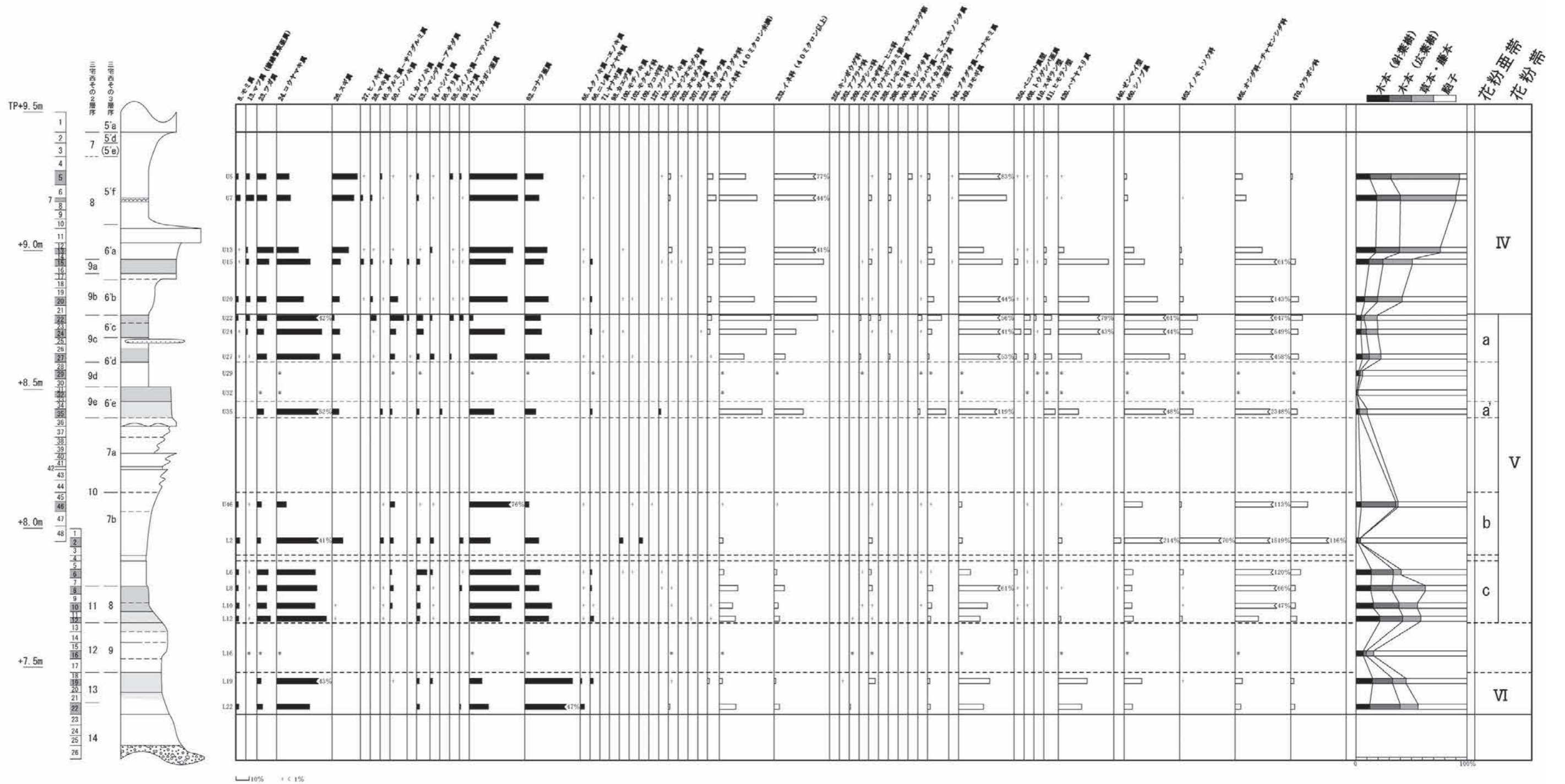


図315 MY(3)15・16・17E 花粉ダイアグラム

表10 MY(3)15・16・17E 花粉化石組成表

試料番号		U5	U7	U13	U15	U20	U24	U27	U29	U32	U35	U46	U2	U4	U6	U8	U10	U12	U16	U19	U22
8 Abies	モミ属	4	7	2	2	4	1	1	1					4	1	4	4	5	4		2
13 P. ussuriensis	マツ属：複雑管束亜属	24	33	13	13	23	13	13					24	24	23	24	23	23			24
23 Tsuga	ツガ属	6	14	3	5	7	2	2					1	1	1	1	1	1	1		1
24 Sciadopitys	コウヤマキ属	38	63	13	23	33	33	13	15				0	7	1	13	0	0	0	6	4
26 Cryptomeria	スギ属	10	10	17	20	15	8	12					4	3	0	1	18	17	16	22	1
27 Cupressaceae	ヒノキ科	42	38	27	14	12	1	9	10	605	713	523	74	413	309	313	293	303	595	434	238
28 Podocarpus	マキ属	1	4	1	5	1															
46 Juglans-Pternocarya	クルミ属-サワグルミ属	3	2	1	1	1							1	1	1	1	1	1			
50 Abus	ハンノキ属	13	13	1	0	0	7	7	6	1			2	0	3	0	0	0			1
51 Betula	カバネキ属	0	1	0	13	6	11	4	0	3			2	4	3	13	3	2			1
53 Carpinus-Ostrya	クマシデ属-アサダ属	3	3	1	5	2	3	8	3	2			1	2	1	16	5	6	5	3	2
54 Corylus	ハンシバミ属	13	13	0	2	13	5	5	2	6			2	1	3	8	2	3	2	2	2
56 Castanea	クリ属	1	1	13	0	2	1	1					1	1	1	3	2	0	0		2
58 Castanopsis-Patanis	シノキ属-マデバシ属	5	1	1	2	2															
59 Fagus	ブナ属	2	0	0	1	2															
61 Cyclobalanopsis	アカガシ亜属	13	0	0	0	3	42	35	4				11	164	3	12	2	70	50	3	1
62 Quercus	コナラ亜属	80	83	37	61	63	27	21	11				193	76	163	323	383	323	183	103	14
65 Aphananthe-Celtis	ムクノキ属-エノキ属	31	25	37	32	39	8	20	31	3			5	7	4	25	25	45	39	2	60
66 Ulmus-Zelkova	ニレ属-ケヤキ属	143	113	173	133	183	123	133	193	93			93	33	113	123	113	213	183	123	373
71 Salix	ヤナギ属	1	2	1	1	1							1	0	0	0	1	0	0		1
98 Acer	カエデ属	2	2	3	2	1															3
100 Ilex	モチノキ属	1	1	1	1	1															
103 Oleaceae	モクセイ科	0	0	0	0	0															
109 Araliaceae	ウコギ科	1	1	1	1	1															
127 Ericaceae	ツツジ科	1	1	1	1	1															
130 Symplocos	ハイノキ属	1	1	1	1	1															
202 Alnus	サシオモダガ属	4	3	6	2	1															
203 Sagittaria	オモダガ属	2	1	3	1	0															
207 Typha	ガマ属	1	1	1	1	1															
223 Anemone	イボクサ属	1	1	1	1	1															
230 Cyperaceae	カヤツリグサ科	9	15	7	9	6	2	1													
232 Gramineae (<40)	イネ科：40ミクロン未満	4	7	3	4	3	3	2	1												
233 Gramineae (>40)	イネ科：40ミクロン以上	44	66	43	43	38	28	56	51	1	6	19	2	1	7	32	13	0	5	1	12
255 Ranunculaceae	キンポウゲ科	168	101	88	83	70	22	26	14	4			13	2	4	18	7	9	2	60	46
263 Cruciferae	アブラナ科	773	443	413	383	323	333	173	83	113			223	13	2	83	33	43	13	43	43
269 Caryophyllaceae	ナデシコ科																				
270 Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科																				
279 Echinocaulon-Peristaria	ウナギツカミ節-サナエダ節	1	5	2	0	1	2	1	3												
288 Sanguisorba	ワレモコウ属	0	2	1	2	1															
298 Umbelliferae	セリ科	4	4	5	1	1															
300 Rorala	キカシグサ属	2	2	2	1	1															
306 Epibim-Ludwick	アバハナ属-ミズエキノシタ属	7	3	0	0																
327 Tracheospermum	ライカカズラ属	1	1	1	1	1															
347 Carduoidae	キタヤコ科	0	5	7	11	10	7	5	2	1											
348 Anemone-Xanthium	フタゴサ属-オオモミ属	2	2	3	5	11	3	15	3												
349 Artemisia	ヨモギ属	0	0	0	0																
360 Cichorioideae	タンポポク亜科	182	84	41	73	94	37	64	88	10	7	69	5	1	19	139	48	35	4	39	18
402 MONOLATE-TYPE-SPORE	単葉孔胞子	83	37	19	33	44	56	41	53	29	50	119	2	3	3	6	11	22	16	24	19
403 TRILATE-TYPE-SPORE	三葉孔胞子	2	1	1	1	1															
408 Urostachys	トウゴサ亜属	1	1	1	1	1															
410 Urostachys-Type	スギラン型	0	0	0	0	0															
411 Urostachys-Type	ヒモラン型	1	1	1	1	1															
420 Ophioglossum	ハナヤスリ属	1	1	1	1	1															
440 Osmunda japonica-Type	ゼンマイ型	0	0	0	0	0															
460 Davallia	シノブ属	4	6	16	34	55	40	69	57	49	45	28	30	79	14	13	13	15	13	14	6
463 Family Pteridaceae	イノモトソウ科	2	3	7	16	28	61	143	353	1403	483	143	2143	73	6	6	7	7	7	7	6
465 Aspid.-Asple.	オウゴン科-チャセンシダ科	1	1	1	1	1															
470 Polypodiaceae	ウラボシ科	0	0	0	0	0															
木本花粉総数		219	229	210	219	210	66	150	105	35	11	88	215	37	210	228	213	213	14	164	95
草本花粉総数		328	404	393	243	203	38	103	123	43	13	3	363	43	343	333	393	423	93	333	403
総数		47	57	132	441	643	1306	1064	870	1356	1498	372	914	369	261	249	210	152	272	105	105
種子総数		3	10	24	49	81	803	72	943	983	903	63	963	593	383	453	423	843	553	413	413

増する。モミ属は引き続き数%の出現率を示すほか、ツガ属は3%まで出現率が下がり、スギ属は下位のL2で8%の出現率を示す。またコナラ亜属は11、3%と減少する。胞子の割合が極めて高く、草本花粉の割合は極めて低い。

試料U35～U22では、コウヤマキ属が30～50%と卓越し、アカガシ亜属が数～30%程度、コナラ亜属が10～20%程度の出現率を示す。また、ツガ属、スギ属が数%程度の出現率を示し、モミ属は試料U27より上位でわずかに検出される。胞子の割合が高く、草本花粉の割合は低いが、イネ科（40ミクロン未満）、イネ科（40ミクロン以上）が数～30%の出現率を示し、ヨモギ属は試料により100%を超える出現率を示す。

試料U20～U5では、アカガシ亜属が30～40%程度と卓越する。またコウヤマキ属が26～10%と減少するほか、スギ属が6～19%と増加する。このほか、ツガ属が10%程度、コナラ亜属が10～20%程度の出現率を示す。胞子の割合は減少傾向を示し、草本花粉の割合は増加傾向を示す。特に、イネ科（40ミクロン以上）の増加傾向が顕著である。

3. 微粒炭の概査

花粉用プレパラートを用いて、微粒炭の含有量を概査した。微粒炭は顕微鏡レベルで観察できる炭で、山火事や草原の野火によって生産されると考えられており、花粉粒の量や保存状況との比較から古環境を推定するひとつの指標となる。

a. MY(2)11EN

十分な数量が検出できた試料：なし

少ないが検出できた試料：07-6～104

非常に少ない試料：04-5～04-7・99～76

極めて稀に検出できた試料：01-5～03-6・70～1

検出できなかった試料：なし

b. MY(3)15・16・17E

十分な数量が検出できた試料：なし

少ないが検出できた試料：なし

非常に少ない試料：L8・U27・U24・U7・U5

極めて稀に検出できた試料：L22～L10・L6～U29・U22～U13

検出できなかった試料：なし

E. 木材樹種鑑定

1. 試料の処理と鑑定方法

a. 原理

木々は、その発生学的な理由により、種あるいは属、科ごとに独自の形態をとる。その形態の違いは、樹形、葉形にとどまらず、生殖細部である花粉や、木々を直接形作る幹の木部組織にも及んでいる。木材樹種鑑定とは、対象とする木材（試料）の木材解剖学的な特徴を明らかにするとともに、既知の資料との比較検討から試料の樹種を同定することである。

b. 観察方法

木部組織が軸方向に配列する細胞と、髓から放射状に配列する細胞（放射組織）とから構成されてい

ることから、木材の横断面（木口面）、放射断面（まさ目面）、接線断面（板目面）の3断面を光学顕微鏡下で観察する。

(1) プレパラート作成

剃刀により切片を作成した。光学顕微鏡下での観察を行うため、プレパラートを作製する手順を図316のフローチャートに示す。

(2) 顕微鏡による観察および記載

上記の手順で作製したプレパラートを、光学顕微鏡下で4倍～600倍の倍率で観察、記載する。記載に当たっては3断面の顕微鏡写真を付け、用語などは基本的には島地ほか(1985)に従う。記載は同定した種類別に、同定した個体を網羅する形で行う。顕微鏡写真は、最も特徴的な個体についてのみ行う。

(3) 樹種の同定

樹種の同定に当たっては、現生標本および資料（島根大学総合理工学部古野研究室蔵）との顕微鏡下での比較を基本とする。また、島根大学総合理工学部の古野毅教授には御助言をいただいている。

c. 鑑定試料

MY(2)10W区の三宅西7e層内で検出された弥生時代前期の溝から発見された根を張った株である（図317・318）。

2. 鑑定結果

鑑定結果を以下に示す。また、顕微鏡写真を写真2に掲載した。

ヤナギ属 *Salix* sp.

記載：年輪は広い。100 μ m前後の道管が単独ないし、多くは2～4個放射方向に複合して、年輪内に均等に分布する散孔材である。道管の分布は密で、年輪の最外層で直径を減少させている。道管のせん孔は単せん孔で、道管の側壁は交互状である。道管放射組織間壁孔はふるい状を示す。放射組織は両端に1～2個の直立細胞をもつ単列異性型で、高さは2～15細胞高である。軸方向柔組織は年輪界に沿ってターミナル状に明瞭に認められる。以上の組織上の特徴から、ヤナギ属と同定した。

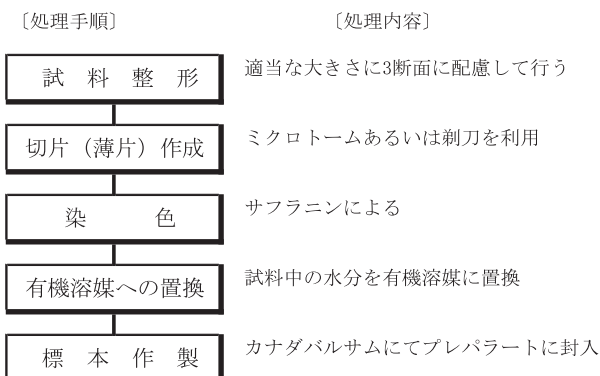


図316 樹種鑑定用プレパラート作製フローチャート



図317 試料を採取した株の出土状況

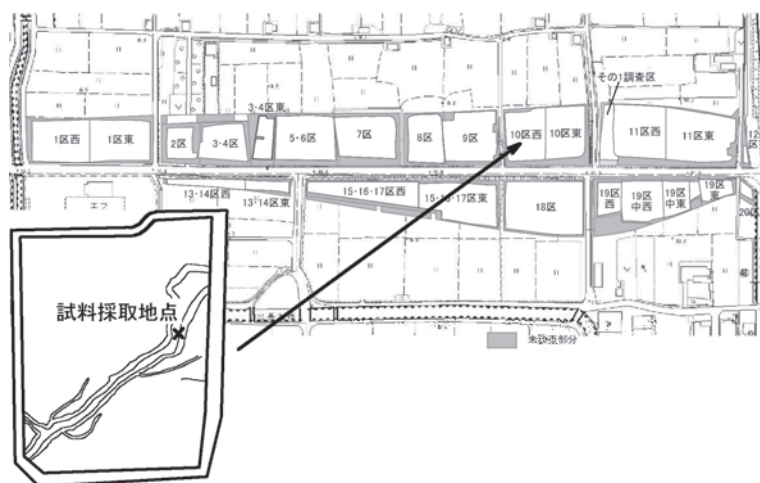


図318 試料採取位置

F. AMS年代測定

1. 試料の処理と測定方法

a. 原理

大気圏上層で熱中性子化した宇宙線が、窒素原子と原子核反応 ($14\text{N} + n \rightarrow 14\text{C} + \text{H}$) を起こして放射性炭素(^{14}C)が生成される。この放射性炭素(^{14}C)は、 CO_2 として炭素リザーバー（大気1.6%、腐植2.6%、生物圏0.8%、浅海2.0%、深海93%）に貯蔵され、一方では5568年の半減期で β -壊変をおこす。光合成等の生命活動を通じて生物体に固定される ^{14}C の初期量は、それぞれの生命活動の行われたリザーバーにおける ^{14}C の平衡状態における量と同じと考えられ、生物体の死滅とともに、閉じた系の中で減衰していくと考えられる。つまり、生物遺体中の ^{14}C 濃度を測定し、現在の ^{14}C 濃度とくらべることにより、その生物が死んでから現在（ただし、1950年を現在とみなす）までの経過年数がわかる。なお、 ^{14}C の半減期の理論値は5730年であるが、AMS年代測定法では測定原理の発見者であるリビーの経験値としての半減期5568年を用いている。

b. 分析処理法

(1)前処理

塩酸による酸洗浄（試料により、水酸化ナトリウムによるアルカリ処理）。

(2)試料の調整

酸化銅と共に加熱し、二酸化炭素を生成する。精製ラインにおいて水、二酸化硫黄などの不純物を除去する。精製した二酸化炭素を水素と鉄と共に加熱し、グラファイトに調整後、アルミ製ターゲットホルダーにプレス圧入する。

(3)測定

AMS（加速器質量分析）法による。タンデム型イオン加速器を用い ^{14}C 濃度を測定する。

(4)年代計算

年代計算を行う際には、 ^{14}C の半減期を5568年として行う。

(5)補正計算

$\delta^{13}\text{C}$ を測定・算出し、(4)で得られた年代値を補正する。

(6)暦年代較正

OxCal Ver3.1を用い、INTICAL04データを利用して算出する。

c. 測定試料

分析試料は木材樹種鑑定で用いたのと同じ、MY(2)10W区の三宅西7e層内で検出された弥生時代前期の溝から発見された根を張った株である。

2. 測定結果

測定結果を表11に示す。なお、表11には4種類の年代と $\delta^{13}\text{C}$ 値を示してある。

測定年代は、従来は実年代として用いられてきた値である。 ^{14}C 濃度が環境、時代にかかわらず常に一定であるという仮定の下に、リビーの半減期(5568年)を用いて計算した値である。

補正 $\delta^{14}\text{C}$ 年代は、 ^{14}C 濃度が環境により変動することから、 $\delta^{13}\text{C}$ を測定し、 $\delta^{13}\text{C} = -25\text{‰}$ に規格化した ^{14}C 濃度を求め、年代値を算出したもの（暦年較正用年代）を5年単位で丸めた値である。

上記の年代は、いずれも西暦1950年から遡った年代値で示してある。

一方暦年代は、時代（時間）と共にランダムに変化している大気中二酸化炭素の ^{14}C 濃度を、樹木の

表11 AMS年代測定結果

測定年代(yrBP)	2310±20
δ 13C(‰)	-30.30±0.12
補正14C(yrBP)	2225±20
年較正用年(yrBP)	2227±20
暦年代(cal y.)	BC390±340, BC320±200
測定番号	PLD-6359

年輪や海底堆積物の縞状粘土、サンゴの年輪から明らかにして得られた暦年代較正データ (INTICAL04) を用いて、較正したものである。較正には暦年較正用年代を用い、OxCal ver.3.1により求めている。また、OxCal ver.3.1による暦年較正のグラフを図319に示す。

3. AMS年代測定値の評価

得られた年代値は、弥生時代前期を示すものであり、推定されていた遺構の時期と一致するものであった。

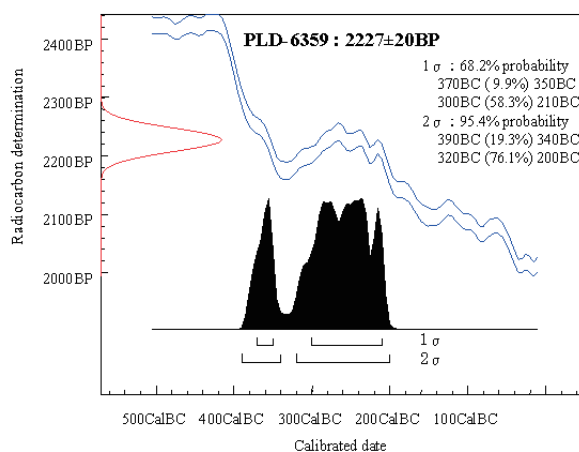


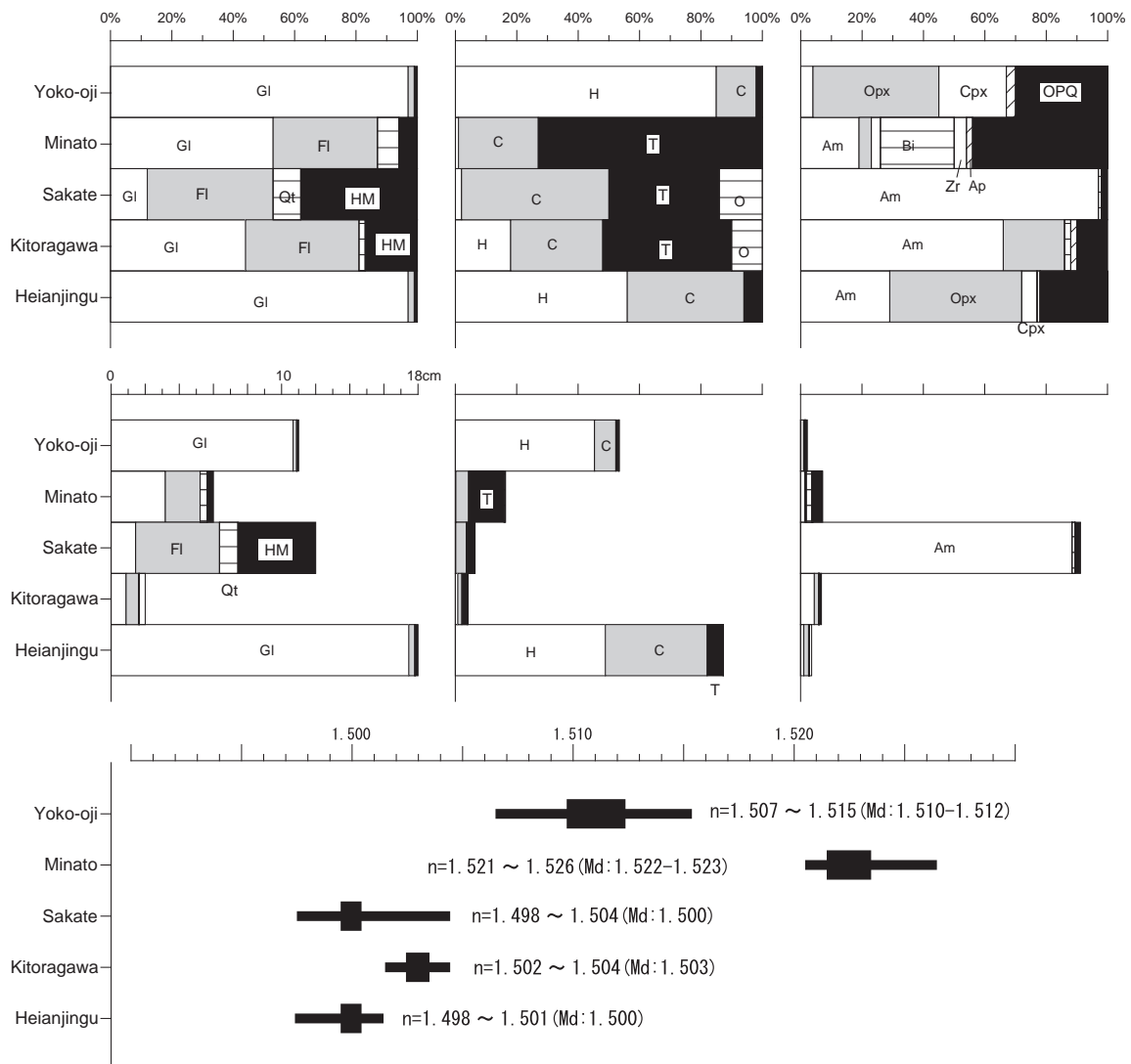
図319 暦年較正結果

IV 考察

1. 火山灰層準の認定

a. 火山砕屑物の降灰量

近畿地方中央部に分布する上部更新統～完新統には少なくとも5層の火山灰層が分布し、地層の堆積年代を指標する鍵層として活用されている。下位から、約2.5万年前の平安神宮火山灰層、約2万年前の鬼虎川火山灰層、1万数千年前の阪手火山灰層、約9600年前の港火山灰層、約6300年前の横大路火山灰層、約3000年前の難波累層最上位火山灰層である。平安神宮火山灰層は広域火山灰層である始良Tn火山灰と、港火山灰層は鬱陵隠岐火山灰と、横大路火山灰層は鬼界アカホヤ火山灰と対比されている(吉川1991)。



吉川ほか(1986)をもとに作成。上段：百分率表示、中段：層厚比に基づく降灰量に近似な相対比、下段：ガラスの屈折率、Yoko-oji；横大路火山灰、Minato；港火山灰、Sakate；阪手火山灰、Kitoragawa；鬼虎川火山灰、Heianjingu；平安神宮火山灰、GI；火山ガラス、FI；長石、Qt；石英、HM；重鉱物、H；扁平型、C；中間型、T；多孔質型、Am；角閃石類、Opx；斜方輝石、Cpx；単斜輝石、Bi；黒雲母、Zr；ジルコン、Ap；アパタイト、OPQ；不透明鉱物

図320 大阪平野中央部の上部更新統～完新統における主要5火山灰層の標準的な岩石記載的性質

火山灰の岩石記載的性質は、火山活動の規模や性質とともに、降灰時の風向・風速、後背地の堆積条件などの降灰地の条件によって変化することが知られている（吉川1976）。そのため、ある地域で発見された火山灰を対比するには、既知の火山灰層の近接地域のものと比較検討するのが有効である。そこで、吉川ほか（1986）に基づいて当該地を含む大阪平野中央部～奈良盆地の上部更新統～完新統における主要な5火山灰層の岩石記載的性質をまとめたのが図320である。

一般に、火山灰の鉱物組成やガラスの形態分類、重鉱物組成は、図320の上段に示したように百分率で示されることが多い。百分率の表記は純粋な火山灰の岩石記載的性質を比較する際に有効である。しかし、堆積後に再移動・再堆積した火山灰や生物擾乱をはじめとする攪乱作用を被った地層の中に火山灰層準を認定する際には、実際の降灰量を考慮しなければならない。図320の中段に示すように、大阪平野中央部では、平安神宮火山灰層と横大路火山灰層の火山ガラスが後期更新世～完新世に降灰した火山ガラスの大半を占めることが分かる。同様に、この間に供給された長石や角閃石の大半が阪手火山灰層のものであり、中間型ガラスの大半が平安神宮火山灰層のものであると言える。したがって、これらが再堆積したり攪乱作用を被ったりした場合には、百分率表示とは異なった組成を示す可能性があることを考慮しなければならない。

b. MY(2)11ENの火山灰層準の認定

分析した全ての試料で火山ガラスの含有率が10%以下と非常に低く、火山ガラスの屈折率は試料sa01-5・03-2ともにばらつき、モードが認められない。地層の対比では、現場15～17層は三宅西11a層に相当し、降灰層準はさらに下位にあると考えられる（図310、表8を参照）。

c. MY(2)11ESの火山灰層準

試料su09は火山ガラスが80%近くと分析した試料の中では最も高率で、ガラスの形態は扁平型が主体を占め、褐色透明ガラスが目立つこと、重鉱物組成では斜方輝石が主体で、ガラスの屈折率は1.500～1.512とばらつきがあるものの最大モードが1.509～1.510にあることから、横大路火山灰層であると考えられる。

したがって、現場層序の17層（三宅西11c層）の堆積時期は、横大路火山灰層が降灰した縄文時代早期末の年代前後と考えられる（図310、表8を参照）。

d. MY(3)15・16・17Eの火山灰層準

火山ガラスの含有率が全体を通して10%未満と低いが、この中では試料tuL08～19は比較的高く、ガラスの形態は扁平型が主体を占め、褐色透明ガラスが目立つ。火山ガラスの屈折率はtuL19で1.499～1.515とばらつきはあるものの1.509にモードが認められる。以上のことから、下位の試料tuL19が横大路火山灰層の降灰層準に近いと考えられる。しかし火山ガラスの含有率が低いため、降灰層準はさらに下位にあった可能性もある（図311、表8を参照）。

なお、火山灰分析は行ってはいないが、MY(3)2区の三宅西12層および13層、MY(3)8区の三宅西15層から採取した試料を椀がけして実体顕微鏡で観察した。三宅西12層からは多量の角閃石が、三宅西13層から多量の無色透明扁平ガラスと少量の斜方輝石、微量の単斜輝石が、三宅西15層からは高温型石英が確認された。鉱物組成と層序関係から、それぞれ阪手火山灰層、平安神宮火山灰層、北花田火山灰層に由来するものの可能性がある。

2. 粒度組成のいくつかの特徴

粒度分析を行った地点の泥質な暗色帯の多くに、上方細粒化が認められる。すなわち、MY(2)11EN区の三宅西11a層、MY(2)11ES区の三宅西9c層・9a層、MY(3)15・16・17E区の三宅西11層・9c層・9a層には上方細粒化が見られる。これらは土壌生成が未熟なものや沼沢地性の暗色層であり、堆積時の粒度組成を残していると考えられる。

作土層の粒度分析をMY(2)11ENの三宅西6層以上(sa30～01)で行ったところ、それぞれの地点の重なり合った上下の作土どうしは非常に似通った粒度組成を示した。耕起による人為的な攪拌が類似した粒度組成を生み出しているものと考えられる。

3. 地域花粉帯の設定

2005年度実施したMY(2)11ENとIK(1)3-1で実施した花粉分析は、縄文時代まで遡る花粉分析としては当地域ではじめてのものである。これらの結果と、今年度の分析結果を合わせて検討し、今回新たにI～VI帯の地域花粉帯を設定し、さらにV帯をc～a亜帯に細分することが妥当である見通しが得られた。そこで、2006年度の三宅西遺跡においてもこの分帯をもとに検討することとする。以下に各地点で認められた各花粉帯の特徴を示す。また、本文中では花粉組成の変遷を追って下位から上位に向けて記載する。

a. MY(2)11Eの花粉分帯

(1) VI帯（試料01- 5）

コウヤマキ属が卓越するほか、マツ属（複維管束亜属）、ツガ属、スギ属、ハンノキ属、アカガシ亜属、コナラ属を伴う。また、アカガシ亜属に比べ、コナラ亜属の出現率が高い。草本花粉の割合は低く、孢子の割合が高い。

(2) V帯（試料02- 4～70）

コウヤマキ属が卓越し、ツガ属、アカガシ亜属、コナラ亜属を伴う。草本花粉の割合は低く、孢子の割合が高い。モミ属、ツガ属、スギ属の出現傾向からさらにc～a亜帯に細分できる。

c亜帯（試料02- 4～04-14）：モミ属が低率ではあるが連続的に出現するほか、ツガ属が上位のb亜帯に比べ高率を示す。

b亜帯（試料05- 2～07- 3）：モミ属の出現傾向は下部のc亜帯と変わらないが、ツガ属が減少し、スギ属が数%の出現率を示す。

a亜帯（試料07- 6～70）：下部の数試料ではモミ属が出現しない。上部ではモミ属がわずかに検出され、ツガ属が下部に比べやや高率になる。また、スギ属は連続して出現する。a亜帯がさらに上部（a' 亜帯）と下部（a' 亜帯）に細分できる可能性がある。しかし、ここでの現象が4地点すべてで認められないことから、可能性の指摘に止めておく。

(3) IV帯（試料52～24）

コウヤマキ属が減少し、アカガシ亜属が増加する。このほか、マツ属（複維管束亜属）やツガ属、スギ属、コナラ亜属を伴い、マツ属（複維管束亜属）、スギ属は増加傾向を示す。孢子の割合は急減し、草本花粉の割合は高くなる。特に、イネ科（40ミクロン以上）の増加傾向が顕著である。

(4) III帯（試料14）

マツ属（複維管束亜属）が卓越し、ツガ属、アカガシ亜属、コナラ亜属を伴う。草本花粉の割合は高く、

イネ科（40ミクロン以上）が特に高率を示す。また、栽培種であるソバ属がわずかであるが検出される。

(5) II帯（試料6）

木本花粉の含有量がやや少なく、統計処理に十分な量の木本花粉が得られていない。マツ属（複維管束亜属）、アカガシ亜属、コナラ亜属、ツガ属、スギ属が、その外種類に比べ高率を示す。孢子の割合がやや高くなるが、草本花粉の割合にさほど変化はない。

(6) I帯（試料1）

スギ属、マツ属（複維管束亜属）が卓越する。草本花粉の割合が高く、イネ科（40ミクロン以上）が特に高率を示す。また、栽培種であるワタ属がわずかであるが検出される。

b. MY(3)15・16・17Eの花粉分帯

(1) VI帯（試料L22、L19）

コウヤマキ属、コナラ亜属が卓越するほか、アカガシ亜属を伴う。草本花粉の割合はやや低く、孢子の割合が高い。

(2) V帯（試料L12～U22）

コウヤマキ属が卓越し、ツガ属、アカガシ亜属、コナラ亜属を伴う。草本花粉の割合は低く、孢子の割合が高い。モミ属、ツガ属、スギ属の出現傾向からさらにc～a亜帯に細分できる。

c亜帯（試料L12～L6）：モミ属が低率ではあるが連続的に出現するほか、ツガ属が上位のb亜帯に比べ高率を示す。

b亜帯（試料L2、U46）：モミ属の出現傾向は下部のc亜帯と変わらないが、ツガ属が減少し、スギ属が数%の出現率を示す。

a亜帯（試料U35～U22）：下部の数試料ではモミ属が出現しない。上部ではモミ属が出現し、ツガ属も下部に比べやや高率になる。また、スギ属は連続して出現する。a亜帯がさらに上部（a'亜帯）と下部（a''亜帯）に細分できる可能性がある。しかし、ここでの現象が4地点すべてで認められないことから、可能性の指摘に止めておく。

(3) IV帯（試料U20～U5）

アカガシ亜属が卓越し、コウヤマキ属、スギ属を伴う。これらの内、コウヤマキ属は減少傾向を示し、スギ属、アカガシ亜属は増加傾向を示す。孢子の割合は減少傾向を示し、草本花粉の割合は増加傾向を示す。特に、イネ科（40ミクロン以上）の増加傾向が顕著である。

4. 古植生変遷

三宅西遺跡の2地点において明らかとなった花粉帯の花粉組成から推定される古植生変遷は以下のとおりである。

a. MY(2)11EN

(1) VI帯（三宅西11b～11a層下部堆積期：縄文前期～中期頃）

孢子の割合が高く、草本の割合が低いことから、近隣にはシダ植物の生育する荒れ地が広がっていたと考えられる。一方で、コウヤマキ、アカマツ（あるいはクロマツ）、ツガ、スギなどの温帯針葉樹を主とした、あるいはこれらにカシ類やナラ類を混雑する林が遺跡近辺に迫っていたと考えられる。

(2) V帯（三宅西11a層上部堆積期：縄文時代中期～弥生時代中期頃）

引き続き孢子の割合が高く、草本の割合が低いなど、近隣には引き続きシダ植物の生育する荒れ地が

広がっていたと考えられる。コウヤマキ属が卓越することから、遺跡近辺の林はコウヤマキが主体で、スギ、モミ、ツガ、カシ類、ナラ類を混淆していたと考えられる。一方で、カシ類やナラ類などは、背後の丘陵や金剛・葛城山系から飛来した可能性がある。

c亜帯(三宅西11a層上部～9c層堆積期:縄文時代中期頃)からb亜帯(三宅西9b層～9a層下部堆積期:縄文時代後期頃)を経てa亜帯(三宅西9a層上部～7e層堆積期:縄文時代晩期～弥生時代中期頃)への変化は、遺跡近辺の林内での、温帯針葉樹全体の増加から、さらにスギが選別的に増加する様相を示していると考えられる。ただし、より広域的な現象である可能性がある。

(3) IV帯(三宅西7d層～三宅西6層堆積期:弥生時代中期～平安時代前半頃)

胞子の割合が減り、草本の割合が増加する。特にイネ科(40ミクロン以上)の増加が顕著であるうえ、いわゆる水田雑草が含まれるサジオモダカ属、オモダカ属、アリノトウグサ属などが検出されることから、荒れ地が開墾され水田耕作が行われていたと推定される。木本ではコウヤマキ属が減少しアカガシ亜属が増加することから、遺跡近辺の林は伐採され、背後の丘陵や金剛・葛城山系に分布する、照葉樹林由来の花粉の影響が強くなったと考えられる。

(4) III帯(三宅西3層堆積期:中世～近世)

草本の割合が高く、特にイネ科(40ミクロン以上)が高率を示す。IV帯に比べ水田雑草を含む種類は減るが、試料採取地点が水田であった可能性が高い。一方ソバ属もわずかに検出され、ソバが栽培されていたと考えられる。ソバは春まきの畑作の外、稲刈り後の田で種まきされ短期間で収穫される。また、畦を利用してイネと同時に栽培される事もある。木本ではマツ属(複維管束亜属)が卓越し、ツガ属、アカガシ亜属、コナラ亜属を伴う。マツ類が卓越し、近隣の遺跡での分析結果との比較から本層準は中世末、近世ごろに堆積したのと考えられる。遺跡近辺の林は伐採されていると考えられることから、IV帯の時期に背後の丘陵や金剛・葛城山系に分布した照葉樹林が伐採され、アカマツ林主体の二次林へと変化したと考えられる。

(5) II帯(三宅西2層堆積期:近世)

胞子の割合がやや高くなり、アブラナ科やアカザ科ーヒユ科などの畑作物あるいは畑雑草を含む種類が高率になり、イネ科(40ミクロン以上)がやや減少する。試料採取地点が水田であったと考えられるが、裏作や休耕田としてナタネなどの畑作が行われた可能性がある。木本花粉の含有量がやや減少するが、土壌化による花粉の劣化・消滅が原因であると考えられる。近隣遺跡での近世以降の花分析結果ではマツ属(複維管束亜属)が卓越する時期であり、遺跡近辺でカシ類や、ナラ類が生育していた可能性が指摘できる。自然堤防林などが存在した可能性もあるが、原因を断定することはできない。

(6) I帯(三宅西1層堆積期:近代～現代)

イネ科(40ミクロン以上)が卓越しワタ属も検出されるなど、水田耕作とワタの栽培(畑作)が推定される。一方で胞子の割合が低く、長期的な畑作は考えにくい。木本花粉では、マツ属(複維管束亜属)に加えスギ属が高率を示す。スギ属の高率出現は近代以降のスギ植林の影響と考えられる。ワタの栽培が近世から近代にかけて盛んであったことを踏まえると、本層準は近世末から近代にかけて堆積したのと考えられる。

b. MY(3)15・16・17E

(1) VI帯(三宅西11b層～9b層下部堆積期:縄文時代前期～弥生時代中期頃)

胞子の割合が高く、草本の割合が低いことから、近隣にはシダ植物の生育する荒れ地が広がっていたと考えられる。一方で、コウヤマキ、アカマツ（あるいはクロマツ）、ツガ、スギなどの温帯針葉樹を主とした、あるいはこれらにカシ類やナラ類を混淆する林が遺跡近辺に迫っていたと考えられる。

(2) V帯（三宅西10層～7e層堆積期：縄文時代後期～弥生時代中期頃）

引き続き胞子の割合が高く、草本の割合が低いなど、近隣には引き続きシダ植物の生育する荒れ地が広がっていたと考えられる。コウヤマキ属が卓越することから、遺跡近辺の林はコウヤマキが主体で、スギ、モミ、ツガ、カシ類、ナラ類を混淆していたと考えられる。一方で、カシ類やナラ類などは、背後の丘陵や金剛・葛城山系から飛来した可能性がある。

c亜帯（三宅西10層～9c層堆積期：）からa亜帯（三宅西9a層～7e層堆積期：弥生時代前期～中期）への変化は、遺跡近辺の林内での、温帯針葉樹全体の増加から、さらにスギが選別的に増加する様相を示していると考えられる。ただし、より広域的な現象である可能性がある。

(3) IV帯（三宅西7d層～7a層堆積期：弥生時代中期～飛鳥時代）

胞子の割合が減り、草本の割合が増加する。特にイネ科（40ミクロン以上）の増加が顕著であるうえ、いわゆる水田雑草が含まれるサジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ属、セリ科などが検出されることから、荒れ地が開墾され水田耕作が行われていたと推定される。木本ではコウヤマキ属が減少しスギ属、アカガシ属が増加することから、遺跡近辺の林は伐採され、背後の丘陵や金剛・葛城山系に分布する照葉樹林やスギ林の影響が強くなったと考えられる。

5. 地形の変遷

中位段丘構成層最上部の三宅西15層は、8～9万年前の北花田火山灰層の高温石英が含まれる終間氷期終盤の温暖期が去って冷涼な気候に移り変わろうとする時期の地層であり、三宅西・池内遺跡のほか、大和川の北にある大阪市長原遺跡や山之内遺跡でも確認されている。三宅西15層上面はT.P.+6m余りの高さであり、当時の氾濫平野の低地には随所に泥炭質泥が堆積する湿地が広がっていたと推定される。

低位段丘構成層の第14層下部は砂礫層が発達する。多雨と寒冷化が促進されたものと推定されており、扇状地～網状河川の様相を呈していたのであろう。三宅西14層上部～13層の堆積期は上方細粒化した泥層と古土壌からなる。極寒期少し前の約2.8万年前に堆積した平安神宮火山灰層を挟む三宅西13層の古土壌は、上面がT.P.+7.0～7.7mの凹凸のある地形面を構成する。

極寒期の後、晩氷期の約2万年前に堆積した阪手火山灰層を挟む三宅西12層は、微高地では三宅西13層と収斂してほとんど堆積していないが、低地では2層に分化して低地を埋めている。

本地域における沖積層の本格的な堆積作用は、縄文草創期～早期の堆積層と推定される三宅西11d層から始まる。池内11d層はIK(1) 6-1区から東の地域に、泥層を主体とする河川の氾濫性堆積層として層厚10cm前後で堆積している。古土壌～湿地の堆積層である三宅西11層の上部もまた、間層を挟んで3層に分かれる。三宅西11c層は縄文時代早期末、7300年前と推定される横大路火山灰層を挟む湿地性の古土壌である。

縄文時代中期後半の堆積と推定される三宅西11a層の上面は、IK(2) 4区付近から東ではT.P.+7.9～8.2mであるが、MY(2)10・18区付近と1E区では0.5m前後低い。

縄文時代中期末～後期始めごろになると、当該地域は広く河川の氾濫原になり、三宅西10層を堆

積した。堆積層に複数の重なりがあることから複数時期の河川の氾濫とみられるが、堆積の中心はMY(2)5～7区と15・16・17W区にあり、最大累積層厚70cm程度になる。その上位には、縄文時代後期に形成されたとみられる三宅西9層の古土壌が覆う。三宅西9層の形成時期は2時期あり、15・16・17区以東ではその間に河川から氾濫した砂泥層が堆積している。最終的に三宅西9層上面はMY(3)5・6区でT.P.+8.9m、MY(3)15・16・17E区で8.4m以下になって低いが、東側へ徐々に高度を上げ、調査地の東端ではT.P.+9.3mとなり、全体としてやや起伏のある地形面を構成している。これより上位の層準でも、東側で徐々に高くなっている。

河川の堆積作用は縄文時代晩期ごろに再び活発になり、MY(3)1区を中心に三宅西8層を堆積した。最大層厚は80cm程度で、上限はT.P.+9.0m程度である。これ以降、MY(3)5・6区以西では河川の氾濫による新たな堆積層の形成はほとんどない。一方、同5・6区以東で三宅西7層以上が厚く堆積して地盤高度を高めている。

弥生時代前期頃から飛鳥時代の形成と推定される三宅西7層の古土壌の形成期は、MY(3)5・6区以東で3時期認められる。遅くとも弥生時代前期の溝や中期の集落がある三宅西7e層、弥生時代後期を中心とする7c層、古墳～飛鳥時代の三宅西7a層が順次重なり、それぞれの間にはMY(3)15・16・17区付近にあった複数の自然流路から供給された氾濫性堆積層が堆積している。三宅西7層の形成により、当該地は西から東へT.P.+8.9～10.4mへと徐々に高くなる地形面が形成された。

飛鳥時代以降以降、MY(2)10区以西では、新たな堆積作用はほとんどなく、安定した堆積面で人間活動が行われてきた。一方、MY(2)10区以東は瓜破台地側からの水路の氾濫と見られる堆積物の供給により、層厚を増し、さらに高度を上げている。中世の三宅西4層形成期以降の当該地は、現代に至るまで、営々と耕作が行われてきた。

V まとめと課題

2006年度現在、三宅西遺跡の調査資料の整理中であり、今後検討が進めば、より詳しい情報が得られると期待されるが、この調査において現段階で明らかとなったことは、以下の諸点である。

(1) 三宅西遺跡の最終間氷期後半以降、現在までの地層を、三宅西16層～1層に区分し、基本層序として提案した。

(2) 火山灰分析を行い、横大路火山灰層の降灰層準を推定した。北花田火山灰層、平安神宮火山灰層、阪手火山灰層は降灰層準の可能性を指摘した。

(3) 花粉分析を行い、その結果から、I～VI帯の6地域花粉帯を設定し、さらにV帯をa、b、c亜帯に細分した。また、地層の年代に即して花粉帯の年代を推定した。

(4) 花粉帯を基にして、三宅西遺跡の古植生変遷を推定した。

a. 当該地域には、縄文時代を通してシダ植物の生育する荒れ地が広がっていたと考えられる。

b. 当該地域近辺の縄文時代を通しての特徴的な森林植生として、温帯針葉樹の林の存在が推定された。この林はコウヤマキを主体として、モミ、ツガ、スギを伴い、カシ類やナラ類などの広葉樹を混生していたと考えられる。

c. IV帯の時期には、胞子が減少し、稲作を示唆するイネ科(40ミクロン以上)が顕著に増加し、水田雑草と考えられる種類の花粉が検出されることから、荒れ地が開墾され、水田耕作が行われていたと推定される。

d. III帯の時期にはソバが、II帯の時期にはナタネが、I帯の時期にはワタが栽培されていたと考えられる。

(5) 当該地は縄文時代初頭以来の頻繁な堆積作用により、弥生時代前期までには沖積作用がほぼ終了し、安定期を迎えたと推定される。

また、次の課題が残された。

(1) 三宅西遺跡の東部では、低位段丘構成層と沖積層との境界が明らかになっていない。遺跡の立地、形成過程に係わって明らかにする必要がある。

(2) 大和川下流域に分布する遺跡群の形成過程の詳細を明らかにするため、今回の調査成果を広く展開して広域の地層対比を行うと共に堆積相の詳細な解析が必要である。

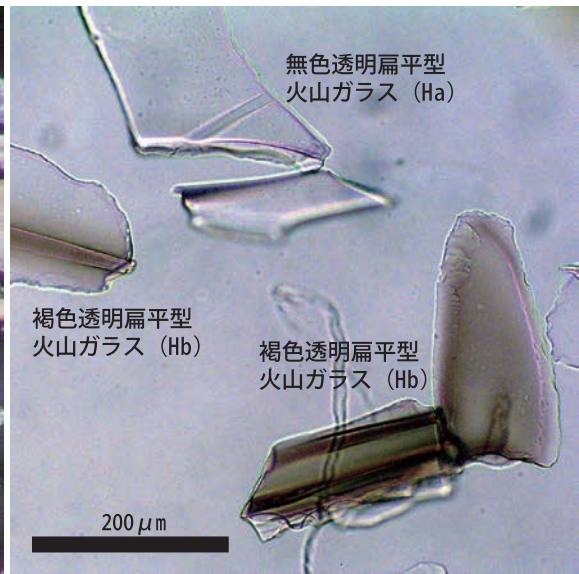
引用参考文献

- 今村峯雄 2004 「科学的年代測定法はどこまで進んだか」『科学が解き明かす古代の歴史』 88-99
- 大阪市文化財協会 1983 『瓜破遺跡』 81ps
- 大阪市文化財協会 2001 「長原遺跡の地層」『長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI』 7-28
- 大阪市文化財協会 2002 『大阪市平野区瓜破遺跡発掘調査報告II』 136ps
- 大阪市文化財協会 2003 『大阪市平野区瓜破遺跡発掘調査報告III』 70ps
- 大阪市文化財協会 2005 『大阪市平野区瓜破遺跡発掘調査報告IV』 37ps
- 大阪市文化財協会 2006 『大阪市平野区瓜破北遺跡発掘調査報告III』 118ps
- 大阪市文化財協会 2007 『大阪市平野区瓜破遺跡発掘調査報告V』 76ps
- 小倉博之・吉川周作 1998 「火山灰分析」『大阪市住吉区山之内遺跡発掘調査報告』 111-115
- 建設省国土地理院 1965 『土地条件調査報告書(大阪平野)』 179ps
- 建設省国土地理院 2000 『1:25,000 都市圏活断層図 VIII 近畿圏中央地区』
- 島崎謙・須藤彰司・原田浩 1985 『木材の組織』森北出版 291ps
- 趙哲済 2001 「瓜破台地東北部の段丘について」『大阪市文化財協会研究紀要』4 7-16
- 長橋良隆 1998 「火山灰分析」『大阪市住吉区山之内遺跡発掘調査報告』 145-157
- 中村純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネを中心として」『第四紀研究』13 187-197
- 古谷正和 1979 「大阪周辺地域におけるウルム氷期以降の森林植生変遷」『第四紀研究』18 121-141
- 吉川周作 1976 「大阪層群の火山灰層について」『地質学雑誌』82-8 497-515
- 吉川周作 1981 「堆積物中の火山ガラスの研究—大阪平野の更新～完新統について—」『第四紀研究』20-2 75-87
- 吉川周作・井内美郎 1991 「琵琶湖高島沖ボーリングコアの火山灰層序」『地球科学』45-2 81-100
- 吉川周作・那須孝悌・樽野博幸・古谷正和 1986 「近畿地方中部に分布する後期更新世～完新世の火山灰層について」『地球科学』40-1 18-38
- 渡辺正巳 2000 「大和川今池遺跡(その1～4)発掘調査に係る微化石分析」『大和川今池遺跡(その1・その2) (財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書第53集』 295-317

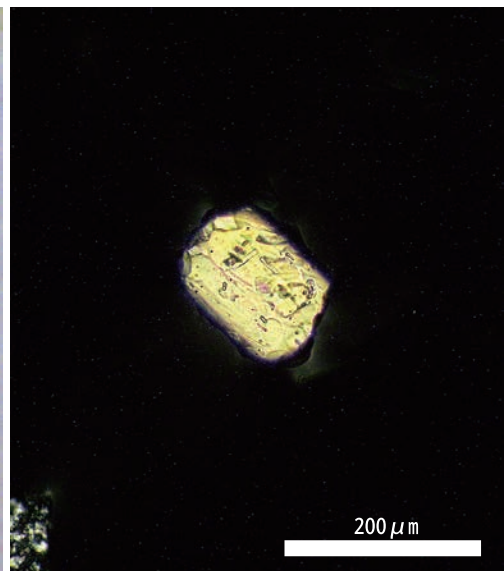
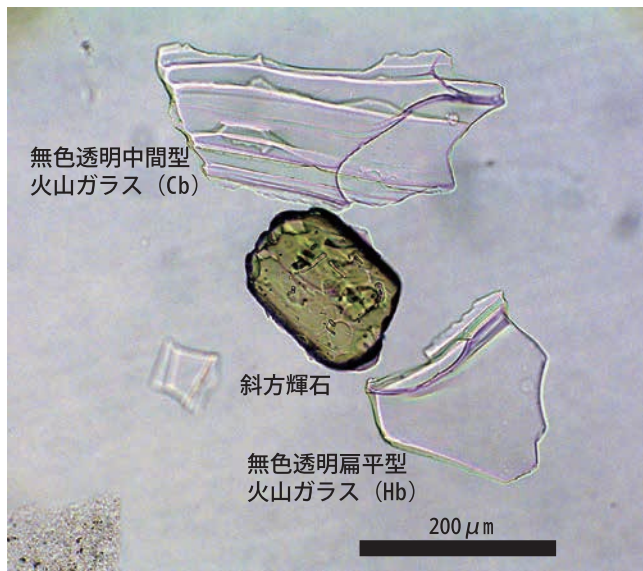
写真1 碎屑物・火山碎屑物の実体顕微鏡写真・偏光顕微鏡写真



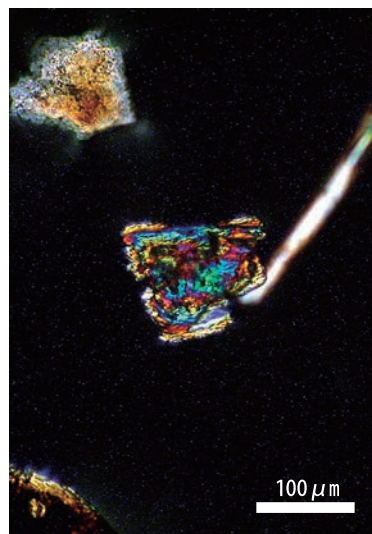
試料MY(3)15・16・17E_L19



試料MY(2)11ES_09 オープンニコル



試料MY(2)11ES_10 左：オープンニコル、右：クロスニコル



試料MY(2)11ES_09

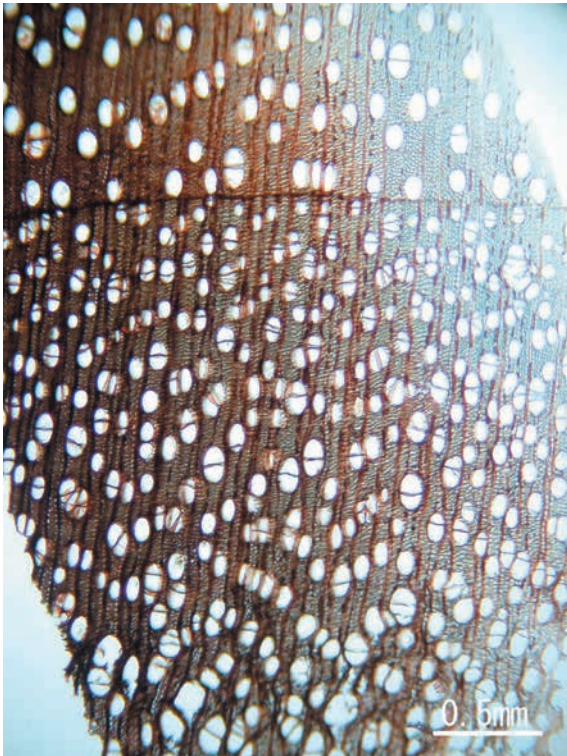
左：オープンニコル、右：クロスニコル



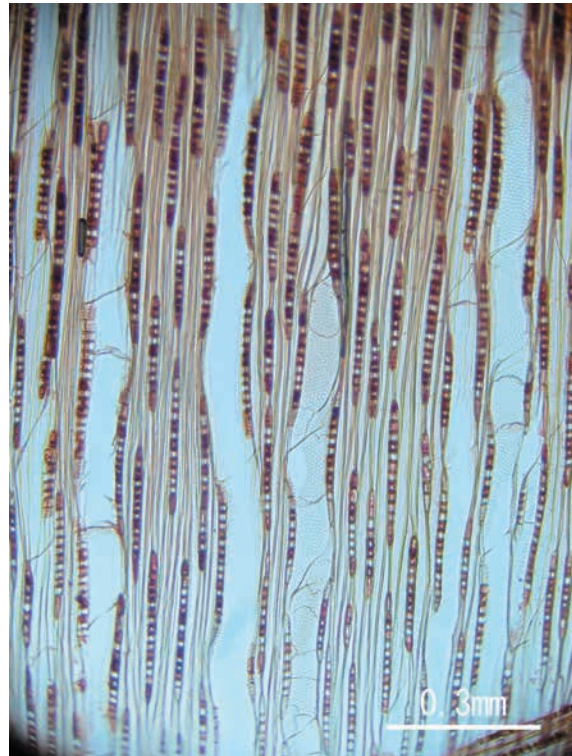
試料MY(3)15・16・17E_L19
オープンニコル+反射光

三宅西（その2）10区西 三宅西7e層出土 ヤナギ属 *Salix* sp.

写真2
材の生物顕微鏡写真



横断面

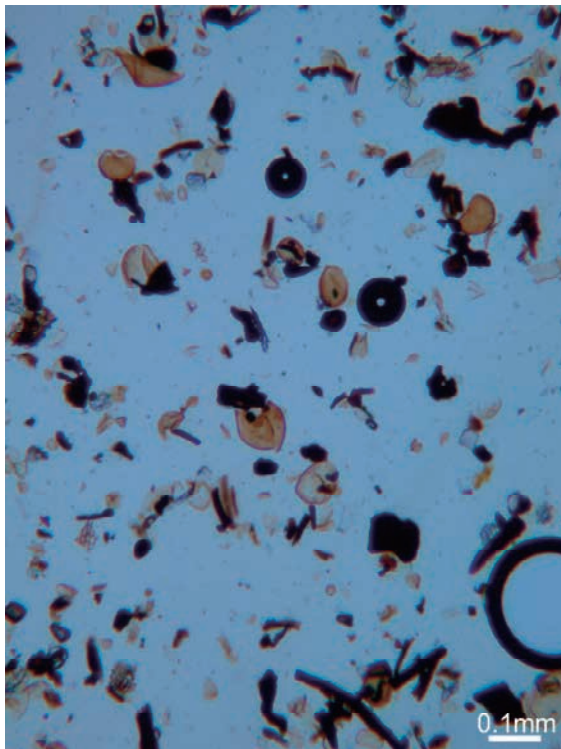


接線断面

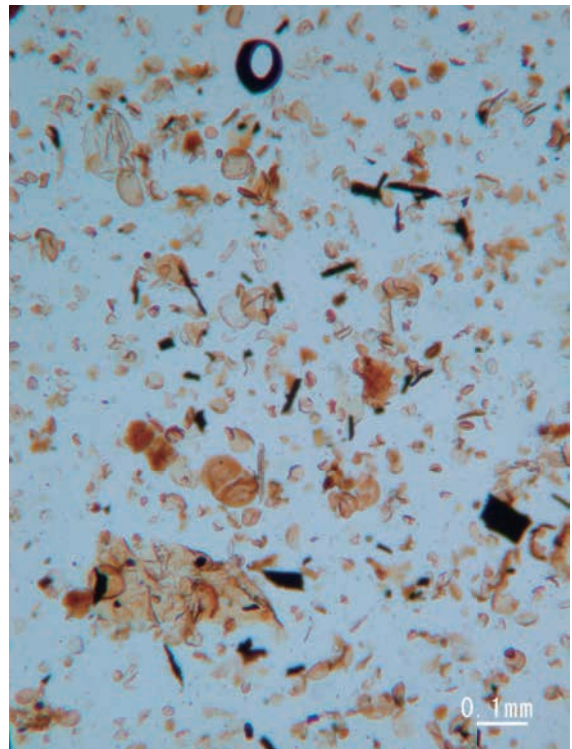


放射断面

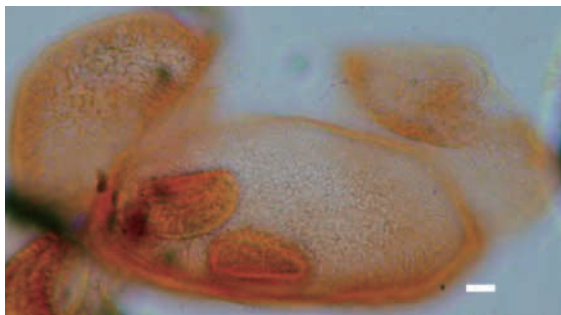
写真3 花粉の生物顕微鏡写真



花粉化石含有状況：MY(3) 15・16・17 No. L8



花粉化石含有状況：MY(2) 11EN No. 30



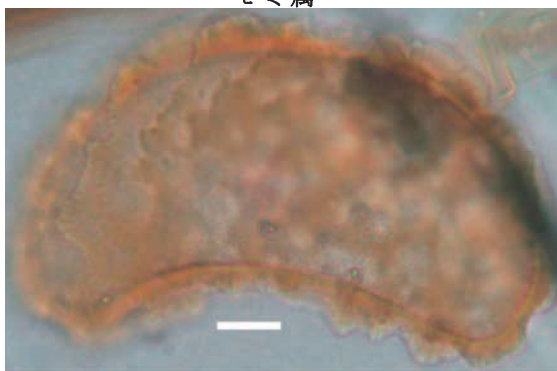
モミ属



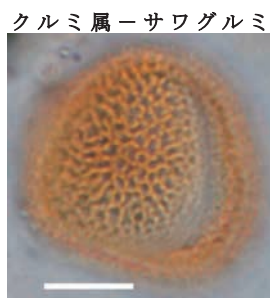
クルミ属-サワグルミ属



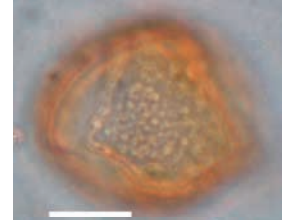
ハンノキ属



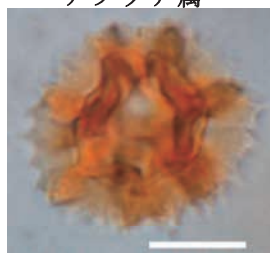
ウラボシ科



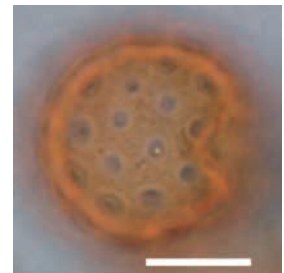
アブラナ属



コナラ亜属



タンポポ亜科



アカザ科-ヒユ科

スケールバーは全て0.01m

第2節 三宅西遺跡の種実同定分析および樹種同定分析

1 種実同定分析

はじめに

今回の分析調査では、縄文、弥生、古墳時代の流路や井戸・土坑から水洗選別された種実の同定を行い、当時の古植生や植物利用に関する情報を得る。

1 試料

試料は、縄文時代の流路、弥生時代の流路・土坑、古墳時代の流路・井戸・土坑から水洗選別された種実化石総数11式である。各試料の詳細は、結果と共に表12・13に示す。

2 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定可能な種実を抽出する。現生標本および石川(1994)、中山ほか(2000)等との対照から、種類と部位を同定し、個数を数える。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間には、ハイフォンで結んで表示する。試料中に確認される木材、炭化材、昆虫は、抽出・プラス表示にとどめる。分析後は、試料を種類毎に容器に入れ、70%程度のエタノール溶液で液浸し返却する。

3 結果

3-1 種実検出状況

結果を表12・13に示す。木本40分類群（針葉樹のヒノキ、広葉樹のヤマモモ、オニグルミ、イヌシデ、アカシデ、ナラガシワ、コナラ亜属、イチイガシ、アラカシ、シラカシ、アカガシ亜属、コナラ属、スダジイ、ツブラジイ近似種、シイ属、クリ、ムクノキ、ケヤキ、クワ属、カジノキ属、クスノキ科、シマサルナシ、ヒサカキ属、サカキ、モモ、サクラ属、アカメガシワ、キハダ、イヌザンショウ属、サンショウ属、ムクロジ、トチノキ、ブドウ属、ノブドウ、ブドウ科、クマノミズキ、タラノキ、エゴノキ属、クサギ、ニワトコ）772個、草本36分類群（ヘラオモダカ、イネ、ヒエ近似種、エノコログサ属、イネ科、ホタルイ属、カヤツリグサ科、ツユクサ、イボクサ、カナムグラ、アサ、ギンギシ属、サナエタデ近似種、タデ属、アカザ科、ヒユ科、ザクロソウ科、ナデシコ科、キンポウゲ属、キジムシロ属—ヘビイチゴ属—オランダイチゴ属、マメ類、カタバミ属、エノキグサ、スミレ属、チドメグサ属、ヤブジラミ、セリ科、イヌコウジュ属、シソ属、メハジキ属、キランソウ属、ナス科（大型）、ナス科、メロン類、ヒョウタン類、キク科）641個、計1413個の種実が同定されたほか、種類不明の種実（不明種実）3個、木の芽、木材、炭化材、不明炭化物、不明種実（菌類の可能性）、昆虫などが確認された。

栽培植物は、モモ、イネ、ヒエ近似種、アサ、マメ類、エゴマを含むシソ属、ヒョウタン類、雑草メロン型、マクワ・シロウリ型、モモルディカメロン型を含むメロン類と、栽培種の可能性が高いナス科の大型種子が確認された。モモ（一部）、イネ（胚乳・一部の類）、ヒエ近似種、マメ類は炭化している。

以下に試料別種実検出状況を記す。

<縄文時代中期?>

・No. 5 (5・6区3152流路)

植物化石は、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどのアカガシ亜属の果実・殻斗・幼果、クスノキ科などを主体とした多様な木本389個と、草本のカヤツリグサ科、キランソウ属各1個が検出された。粗-極粗粒砂層も、植物化石と類似する多様な木本204個が検出され、草本は確認されなかった。

<縄文時代後期>

・No.4 (5・6区3128流路 流路埋土)

南アゼは、常緑高木のイチイガシ3個、アカガシ亜属の果実や殻斗15個、スダジイ1個や、落葉高木のコナラ亜属の果実破片6個(球体の果実をもつクヌギ・アベマキ・ナラガシワ類と思われる)、トチノキの種子破片10個などが検出された。

東端アゼは、針葉樹のヒノキの球果1個、広葉樹のアカガシ亜属(イチイガシ・アラカシ以外)の果実・殻斗1個、アカガシ亜属の果実・殻斗・幼果28個、クスノキ科1個、エゴノキ属1個などが検出された。

<縄文時代晩期>

・No.7 (15・16・17区3527流路 深堀トレンチ)

落葉高木のオニグルミの核頂部欠損破片1個と、ムクロジ4個、トチノキの果実・種子各1個、常緑高木のイチイガシ1個、イチイガシやアラカシとは区別されるアカガシ亜属1個が検出された。

<弥生時代>

・No.8 (10区2100流路)

落葉小高木のクリの果実破片5個が検出された。

・No.9 (11区2120流路)

落葉高木のナラガシワの果実・殻斗1個とコナラ亜属の果実破片5個(クヌギ・アベマキ・ナラガシワ類と思われる)が検出された。南トレンチ下部は、常緑高木のアラカシ2個、アカガシ亜属7個や、落葉高木のエゴノキ属1個などが検出された。

・No.10 (19区2122土坑)

栽培植物のモモ1個の他、イチイガシの炭化子葉4個(完形2個、3層から破片2個)が検出された。4層は種実ではなく、種類・部位不明の植物片1個であった。菌類の可能性が考えられる。

・No.11 (19区2123土坑 2-4層)

栽培植物のモモ4個(2・3層)、イネの胚乳40個(3層)、マメ類1個(3層)が検出され、全て炭化している。イネ4個には発芽個体が確認された。その他に、常緑高木のヤマモモ1個(3層)、イチイガシの炭化子葉15個(2-4層)、コナラ属の炭化子葉2個(2・3層)、落葉高木のムクノキ1個(3層)が検出された。

<古墳時代(庄内)>

・No.6 (7区3413井戸 断面2-7)

栽培植物を含み、ギシギシ属、アカザ科、ヒユ科などのやや乾燥した場所に生育する植物を主体とする多様な草本554個と、クワ属、カジノキ属、ヒサカキ属、アカメガシワ、サンショウ属などの低木類

やシマサルナシ、ブドウ属などの籐本を主体とする木本19個が検出された。草本に比べて木本が著しく少ない。

栽培植物は、イネの胚乳18個（断面2-4）・穎2個（断面4）、ヒエ近似種4個（断面2-4）、アサ4個（断面3・4・7）、マメ類（断面4）、シソ属94個（断面3・4・7）、ヒョウタン類7個（断面3・4）、メロン類24個（断面3-7）が検出され、メロン類には雑草メロン型10個（断面6）、マクワ・シロウリ型7個（断面3・4・6・7）、モモルディカメロン型5個（断面3・5・6）が確認された。

<古墳時代>

・No.1（1区3009流路 土器内容物）

常緑高木のアカガシ垂属の果実・殻斗が1個検出された。

・No.2（3・4区3581流路 底部付近）

栽培植物のモモ2個の他に、落葉籐本のブドウ属4個、落葉高木のエゴノキ属3個が検出された。

<古墳時代?>

・No.3（5・6区3127土坑）

栽培植物のナス科8個、メロン類36個（雑草メロン型9個、マクワ・シロウリ型22個、モモルディカメロン型1個を含む）の他に、常緑または落葉低-高木のサンショウ属2個、同一種と思われる不明炭化種実2個が検出された。

3-2 主な種実化石の記載

<栽培植物>

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核（内果皮）の完形、破片が検出された。3581流路出土モモ核は灰褐色、2122・2123土坑出土モモ核は炭化しており黒色。広楕円体。2122・2123土坑出土モモ核は、長さ1.3-1.6cm、幅1.0-1.4cm、厚さ1.0-1.2cm程度（表14）と、小型で丸みを帯びている。頂部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。1本の明瞭な縦の縫合線が発達し、背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。縫合線に沿って割れた半分個体（2123土坑3層）がみられる。内果皮は厚く硬く、表面は縦

表14 モモ核の計測値

に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。内側表面は平滑で、長さ1.0cm、幅0.7cm程度の広楕円形で扁平な仁（種子）が入る楕円状の窪みが1個ある。

調査区	採取遺構	採取層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	備考
19区	2123土坑	2	16.08	12.38	11.09	
		3	16.29	13.66	11.53	
			15.67	12.45	10.42	
			12.36	10.47	10.16	焼け膨れ
		4	15.10	13.57	12.05	

・イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

胚乳と穎（果）の破片が検出された。穎（果）は淡-茶褐色、胚乳と一部の穎は炭化しており黒色。長楕円形でやや扁平。胚乳は長さ4.0-4.5mm、幅2.5-3.0mm、厚さ1.0-1.5mm程度。基部一端に胚が脱落した斜切形の凹部があり、発芽個体が確認された（19区2123土坑3層から4個）。表面はやや平滑で、2-3本の隆条が縦列する。表面に穎が付着する個体もみられる。

胚乳を包む穎（果）は、長さ6mm、幅3-4mm、厚さ2mm程度。基部に斜切状円柱形の果実序柄と1対の護穎を有し、その上に外穎（護穎と言う場合もある）と内穎がある。外穎は5脈、内穎は3脈

をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや偏平な長楕円形の稲朶を構成する。果皮は柔らかく、表面には顆粒状突起が縦列する。

・ヒエ近似種 (*Echinochloa cf. utilis* Ohwi et Yabuno) イネ科ヒエ属

果実・胚乳が確認された。炭化しており黒色、長さ2mm、幅1.5mm、厚さ1mm程度の半狭卵-偏球体で背面は丸みがあり腹面はやや平ら。果皮表面は平滑で、微細な縦溝が配列する。胚乳は基部正中線上に胚の凹みがある。表面はやや平滑。

・アサ (*Cannabis sativa* L.) クワ科アサ属

種子が検出された。暗灰褐色、長さ3.5mm、幅3.0mm、厚さ2.5mm程度の歪な広倒卵体。縦方向に一周する稜に沿って半分に割れた破片もみられる。頂部は切形、基部に淡灰褐色、径1mm程度の楕円形の臍点がある。種皮表面は葉脈状網目模様があり、断面は柵状。

・マメ類 (*Leguminosae*) マメ科

種子が検出された。炭化しており黒色。長さ1cm、幅7mm、厚さ3mm程度のやや偏平な長楕円体。表面は焼け膨れて崩れている等状態は悪い。腹面はやや凹み、子葉の合わせ目上にある長楕円形で縁が隆起する臍を欠損する。

・シソ属 (*Perilla*) シソ科

果実が検出された。灰褐色、径1.6-2.0mm程度の倒広卵体。径約1.8mm以上のエゴマ (*P. frutescens* (L.) Britt. var. *japonica* Hara) と思われる大型果実を一括している。基部には大きな臍点があり、舌状にわずかに突出する。果皮はやや厚く硬く、表面は浅く大きく不規則な網目模様がある。なお、径1.6mm未満をイヌコウジュ属としている。

・ナス科 (*Solanaceae*)

種子が検出された。灰褐色、歪な腎臓形で偏平。長さ3mm、幅4mm程度と大型であることから、ナス (*Solanum melongena* L.) などの栽培種に由来する可能性が高い。基部のくびれた部分に臍がある。種皮表面には微細な星型状網目模様が臍を中心として同心円状に発達する。

・ヒョウタン類 (*Lagenaria siceraria* Standl.) ウリ科ヒョウタン属

種子が検出された。灰褐色、長さ1.5cm、幅7.0mm、厚さ1.5mm程度の偏平な倒広皮針体。頂部は切形で角張り、基部は切形で臍と発芽口がある。種皮表面は粗面で、両面外縁部の幅広く低い稜に2本の縫線がある。

・メロン類 (*Cucumis melo* L.) ウリ科キュウリ属

種子が検出された。淡-灰褐色、狭倒皮針形で偏平。長さ5.5-9.0mm、幅3.0-5.0mm、厚さ1.0-1.5mm程度と、藤下(1984)の基準による小型の雑草メロン型(長さ6.0mm以下)、中粒のマクワ・シロウリ型(長さ6.1-8.0mm)、大粒のモモルディカメロン型(長さ8.1mm以上)が確認される。種子の基部には倒「ハ」の字形の凹みがある。種皮表面は比較的平滑で、縦長の細胞が密に配列する。

<栽培植物以外>

・ヤマモモ (*Myrica rubra* Sieb. et Zucc.) ヤマモモ科ヤマモモ属

核(内果皮)が検出された。灰褐色、径6mm程度、厚さ3.5mm程度のやや偏平で歪な広楕円体。内果皮は硬く、表面には微細な網目模様がありゴツゴツする。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

核の破片が検出された。灰褐色、完形ならば径2.5cm程度の頂部が尖る広卵体。破片は1本の明瞭な

縦の縫合線に沿って不規則に割れた半分で、頂部を欠損することから、人による打撃痕の可能性はある。核は木質、硬く緻密で、表面には縦方向に溝状の浅い彫紋が走り、ごつごつしている。内面は平滑で、縫合線に沿って半分に割れた面の正中線両側には子葉が入る2つの大きな窪みがある。

・ナラガシワ (*Quercus aliena* Blume.) ブナ科コナラ属コナラ亜属

果実、殻斗が検出された。殻斗は灰褐色、径1.5cm、高さ8.0mm程度の椀型。表面には狭卵形の鱗片が覆瓦状に配列する。椀の壁は厚く、先端はやや細く内側を向く。殻斗に包まれた果実破片は上半部を欠損する。果皮は茶褐色、外面は平滑で微細な縦筋が目立つ。

・コナラ亜属 (*Quercus* subgen. *Quercus*) ブナ科コナラ属

果実の破片、殻斗の破片と幼果が検出された。果実は茶褐色、破片は大きさ2cm以下で丸みを帯び、完形は球体と推定され、ナラガシワやクヌギ、アベマキの類と思われる。殻斗、幼果は灰褐色、椀型で表面には狭卵形の鱗片が覆瓦状に配列する。幼果は径3.5mm程度で頂部の花柱を欠損する。

・イチイガシ (*Quercus gilva* Blume) ブナ科コナラ属アカガシ亜属

果実、殻斗、幼果、子葉が検出された。果実は茶-黒褐色、長さ1.0-1.5cm、径0.8-1.0cm程度の卵状楕円体。頂部には、殻斗の圧痕である輪状紋がみられる。基部はやや突出し、淡褐色、円形で維管束の穴が輪状に並ぶ着点がある。果皮外面は平滑で、微細な縦筋が目立つ。果実下部を包む殻斗は灰褐色、径0.8-1.0cm程度の椀状、表面には6-7段の輪状紋が配列する。幼果(未熟個体)は灰褐色、径4-7mm程度の椀状。表面には4-6段程度の輪状紋がある。幼果と果実の頂部には、短い花柱基部が突出し、突起状に残る。柱頭の先端部は3つに分かれ傘状で外側を向く。

子葉は炭化しており黒色。長さ1cm、径8mm程度の楕円-広卵体。2枚からなる子葉は極端に不揃いで、合わせ目は球体表面を蛇行して一周する。幼根は頂端からずれた位置にある。表面には、1本の深い溝が基部から頂部に向かい2/3程度まで発達している。子葉は硬く緻密で、表面は縦方向に走る維管束の圧痕がみられる。合わせ目の表面は平滑で、正中線上は僅かに窪み、頂部には小さな孔(主根)がある。

・アラカシ (*Quercus glauca* Thunberg) ブナ科コナラ属アカガシ亜属

果実が検出された。茶-黒褐色、長さ1.0-1.5cm、径0.8-1.0cm程度の卵状楕円体。頂部の輪状紋は突出せず、同心円状に薄く肩に広がる。花柱は短く太く、柱頭の先端部は内側から舌状に急に開く。基部は切形で淡褐色、円形で維管束の穴が輪状に並ぶ着点がある。果皮外面は平滑で、微細な縦筋がある。

・アラカシーシラカシ (*Quercus glauca* Thunberg- *Quercus myrsinaefolia* Blume)

ブナ科コナラ属アカガシ亜属

幼果が検出された。茶-黒褐色、径4-6mm程度の椀型で、5-6段の輪状紋をもつ。頂部にある花柱は短く太く、柱頭は急に舌状に開く。幼果では両種を区別する輪状紋の特徴を識別できず、ハイフォンで結んでいる。

・シラカシ (*Quercus myrsinaefolia* Blume) ブナ科コナラ属アカガシ亜属

果実が検出された。茶-黒褐色、長さ1.0-1.5cm、径0.8-1.0cm程度の卵状楕円体。頂部の輪状紋は大きく突出する。花柱は短く太く、柱頭の先端部は内側から舌状に急に開く。基部は切形で淡褐色、円形で維管束の穴が輪状に並ぶ着点がある。果皮外面は平滑で、微細な縦筋がある。

なお、果実頂部に殻斗の圧痕である輪状紋が認められるが、種の同定根拠となる柱頭を欠損する幼果、果実や殻斗のみの検出個体をアカガシ亜属(*Q.* subgen. *Cyclobalanopsis*)に、亜属の判別の根拠となる果

実頂部を欠損する果実破片をコナラ属(*Quercus*)にとどめている。アカガシ亜属の果実でイチイガシやアラカシとは区別される輪状紋が確認される個体は分けている。

・スダジイ (*Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii* (Makino) Nakai) ブナ科シイ属

果実の破片が検出された。黒褐色、長さ1.5cm、径8mm程度の狭卵状長楕円体で、頂部は尖り、基部を占める着点は灰褐色、円状不定形。果皮表面には細く浅い溝が縦列し、光沢がある。

・ツブラジイ近似種 (*Castanopsis* cf. *cuspidata* (Thunberg) Schottky) ブナ科シイ属

果実、殻斗が検出された。果実は黒褐色、長さ7mm、径4mm程度の広卵体で、スダジイよりも丸く小さい。頂部は尖り、基部を占める着点は灰褐色、円状不定形。果皮表面には細く浅い溝が縦列し、光沢がある。果実を包む殻斗は灰褐色、径7mm程度の卵状楕円体。表面には10個程度の突起の横輪が同心円状に配列し、短毛が密生する。なお、スダジイとツブラジイとの区別が困難な果実破片をシイ属にとどめた。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

果実の破片が検出された。黒褐色。果実は完形ならば径2-3cm程度の三角状広卵体で、一側面は偏平で反対面はわずかに丸みがある。検出された破片は、表面の縦筋模様に沿って割れており、大きさ2cm以下。果皮表面は平滑で、ごく浅く微細な縦筋がある。内面には灰褐色の内果皮(渋皮)がある。基部の全面を占める着点は、灰褐色で粗く不規則な粒状紋様がある。

・ムクノキ (*Aphananthe aspera* (Thunb.) Planchon) ニレ科ムクノキ属

核(内果皮)が検出された。灰褐色、径6mm、厚さ4mm程度の広倒卵体で一側面は狭倒卵形で他方は稜をなし薄い。基部に淡褐色、大きさ2-3mm程度の楕円形の突起がある。内果皮は厚く柔らかく脆い。表面には粒状網目模様がありざらつく。断面は柵状。

・クスノキ科 (Lauraceae)

種子が検出された。黒褐色、径5mm程度の球体。基部にはやや突出する臍からはじまる低い稜があり、側面の途中で終わる。種皮は硬く表面は粗面、断面は柵状。球状を呈する点から、クスノキ(*Cinnamomum Camphora* (L.) Presl)またはクロモジ属(*Lindera*)に由来すると思われる。

・サカキ (*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.) ツバキ科サカキ属

果実と種子が検出された。黒褐色、果実は径8mm程度の球体で基部に柄がある。果実内部には種子が2-3個確認される。種子は径2.5mm程度の歪な両凸レンズ状円形。基部の臍に向かいやや薄くなる。窪みがある。種皮表面は平滑で光沢があり、臍を中心に円形や楕円形の凹みによる網目模様が発達する。

・ムクロジ (*Sapindus mukorossi* Gaertn.) ムクロジ科ムクロジ属

種子が検出された。灰-黒褐色、径1.5-1.7cm程度の広楕円状球体。基部は切形で長さ7mm程度の線状の臍があり、臍周辺は肥厚する。種皮は厚く(1mm程度)、断面は柵状。表面はやや平滑-粗面。

・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

果実の破片、種子の破片が検出された。果実は灰褐色、完形ならば径3cm程度の歪な倒卵体で頂部はやや尖り、基部は切形。破片は基部と頂部を結ぶ3本の溝に沿って割れている。果皮は厚く弾力があり、表面には皮目状の斑点がある。種子は完形ならば径3cm程度の偏球体で、表面にはほぼ赤道面を蛇行して一周する曲線を境に、不規則な流理状模様がある光沢の強い黒色の上部と、粗面で光沢のない灰褐色の下部の着点に別れる。種皮は薄く硬く、割れ方は不規則。

・ギシギシ属 (*Rumex*) タデ科

果実が検出された。暗灰褐色、長さ3mm、径1.5mm程度の三稜状広卵体。三稜は鋭く明瞭で、両端は急に尖る。果皮表面は粗面。

4 考察

4-1. 各時代の大型植物化石の特徴

(1) 縄文時代の大型植物化石

縄文時代中期?とされる5・6区3152流路からは、イチイガシやクスノキ科などの常緑広葉樹を主体とした多様な木本植物に由来する種実などの大型植物化石が検出された。これらの種実類は、流路充填堆積物から出土したことから、集水域より水流によって運搬・堆積した異地性の群集と判断される。種実や葉などの大型植物化石群集の水流による淘汰の過程は、堆積物のシルト・砂・礫の量比の違いが影響し(黒松・粉川,1986)、同一単層内でも粒度の微妙な違いによって含まれる植物の形状や大きさが異なることが確認されている(百原・吉川,1997)。また、洪水流堆積物中の大型植物化石は、その大きさなどの形態の違いからベッドロードとして堆積するものと、浮遊沈降して堆積するものが存在することも指摘されている(中嶋ほか,2004)。今回の大型植物化石群集の形成過程についても、このような観点からの評価を行う必要があるが、いずれにしても水理的淘汰を受けていることが推定される。

最も多く検出されたイチイガシは、湿潤、肥沃で深い土壌をもつ内陸平坦地と後傾斜に極相林として発達する種で、現在は紀伊半島、四国、九州の山麓地に広く分布する。また、堅果はコナラ属の中でも渋みが少なく、アク抜きせずに生食可能で収量も多いため、遺跡出土例も多い(渡辺,1975;岡本,1979など)。イチイガシは果実と共に殻斗や幼果も検出されたことから、自然堆積の要素が強いが、当時の遺跡周辺域の森林から比較的容易に採取、利用され易かったことが推定される。その他に、常緑高木のヤマモモ、シイ属、落葉高木のムクノキ、サクラ属(一部)、ムクロジ、落葉藤本のブドウ属は果実や種子が食用可能で、イチイガシ以外のコナラ属(コナラ亜属、アラカシ、シラカシ、アカガシ亜属など)は、アク抜きすれば堅果が食用可能であるが、人による明らかな利用痕跡は認められない。草本種実はカヤツリグサ科、キランソウ属のみであるが、調査区周辺域に生育していたものに由来すると思われる。

縄文海進最盛期から縄文時代中期における考古遺跡の花粉化石群集層位分布では、縄文時代中期の層準で常緑広葉樹のアカガシ亜属が急増する事例が多く、地形変化と連動した変化であることが指摘されている(辻本,2007)。各地点におけるアカガシ亜属の産出率や変遷パターンは地点によって異なることも指摘されている。本地域では、同様の変化が長原遺跡の花粉化石群集変遷(渡邊,2001など)でも確認されている。ただし、河内台地では、この変化が起こる以前の段階で常緑広葉樹が分布を拡げており、縄文時代中期頃にさらに分布域を拡大したと考えるのが妥当であり、生駒山西麓の考古遺跡で捉えられる変化と異なる点として注目される。今回の縄文時代中期の大型植物化石群集は、流路の集水域より運搬堆積したものである可能性が高く、集水域沿いに常緑広葉樹林が存在したことを指示する結果といえる。また、林分構成要素として、イチイガシ、シラカシ、アラカシ、シイノキ属、クスノキ科、ヤマモモ、サカキなどの常緑広葉樹林要素のほかに、イヌシデ・アカシデ・クシ、ムクノキ、キハダ、エゴノキ属などの落葉広葉樹も林縁などに分布していたことが推定される。

縄文時代後期とされる5・6区3128流路からは、針葉樹のヒノキ、常緑高木のイチイガシ、アカガシ亜属、スダジイ、落葉高木のコナラ亜属(クヌギ・アベマキ・ナラガシワの類)、トチノキなどが検出された。

常緑広葉樹林の構成要素が多く、流路沿いや周辺の森林植生の構成要素であったと考えられる。産出種のうち、イチイガシのほかにスダジイも堅果が食用可能である。また、トチノキは、川沿いなどの湿った場所に生育する落葉高木で、種子はあく抜きすれば食用可能であるが、河内平野周辺の考古遺跡ではトチノキを食料として積極的な利用を示す植物遺体の産状は今のところ確認されていない。これは、本地域では、あく抜きをしないでも食用となる堅果が入手しやすい状況にあったことと関係している可能性が考えられる。

縄文時代晩期とされる15・16・17区3527流路からは、打撃痕の可能性のあるオニグルミが確認された。オニグルミは、トチノキと同様に川沿いなどの湿った場所に生育する落葉高木で、核内部の子葉が生食可能で遺跡出土例も多いことから、当時の遺跡周辺域の森林から採取され、利用された可能性がある。落葉高木のムクロジ、常緑高木のイチイガシとアカガシ亜属など、暖温帯林の構成要素が認められることは周辺考古遺跡の花粉分析結果とも同調的な産状として認識できる。

(2) 弥生時代の大型植物化石

弥生時代の土坑および自然流路からは、栽培植物のモモ5個（19区2122土坑1個、2123土坑2層1個、3層3個）、イネ胚乳40個（2123土坑3層）、マメ類1個（3層）が検出された。全て炭化しているため火を受けたことが推定される。これらは渡来種とされ、モモは観賞用の他、果実が食用、薬用等に広く利用される。今回確認されたモモは、5個とも小型で丸みを帯びた古い形状を呈す。植物質食糧のイネは、明瞭に胚乳の形を留める良好な状態であった。穎付着個体や発芽個体が確認されたことから、脱穀前の稲穂の状態および発芽に適した条件下で火を受けたことが推定される。マメ類は、種子が食用や調味料の原料として利用される。これらの栽培植物の利用と土坑内への廃棄等の人為的行為が推定される。

その他の分類群では、2122・2123土坑から炭化子葉が検出されたイチイガシは、本遺跡周辺の森林から採取され、栽培植物と共に植物質食糧として利用され、火を受けたことが推定される。10区2100流路で確認された落葉小高木のクリは、堅果が生食可能な有用植物で周辺域の森林より採取・食用されていた可能性がある。今回確認された部位は、果実の破片のみであることから利用後の残渣の可能性はあるが、全体の検出量が不明のため言及は控える。11区自然河川で確認された落葉高木のナラガシワ、コナラ亜属（クヌギ・アベマキ・ナラガシワの類）、エゴノキ属、常緑高木のアラカシ、アカガシ亜属、2123土坑3層より確認された常緑高木のヤマモモ、落葉高木のムクノキは、周辺の森林に生育していたものと思われる。

(3) 古墳時代初頭(庄内式期)の大型植物化石

栽培植物のイネの胚乳18個（断面2-4）・穎2個（断面4）、ヒエ近似種4個（断面2-4）、アサ4個（断面3・4・7）、マメ類（断面4）、シソ属94個（断面3・4・7）、ヒョウタン類7個（断面3・4）、メロン類24個（断面3-7）が検出され、ヒエを除き渡来種とされる。植物質食糧のイネの胚乳、ヒエ近似種と、マメ類は炭化しているため火を受けたことが推定される。アサは種子が食用や油料に、繊維が衣料や縄用等に利用される。エゴマを含むシソ属は果実が食用や油料に、ヒョウタン類は果実が食用や容器等に利用される。メロン類は、果実が食用されるが、藤下(1984)による大粒種子のモモルディカメロン型5個（断面3・5・6）、中粒種子のマクワ・シロウリ型7個（断面3・4・6・7）、小粒種子の雑草メロン型10個（断面6）が確認されることから、複数の品種が利用されていた可能性がある。これらの栽培植物の利用と3413井戸内への廃棄等が推定される。

その他の分類群は、明るく開けた場所などに生育する、いわゆる人里植物に属する草本主体の種類構成で、林床に生育する分類群や木本が著しく少ない。3413井戸周辺域は明るく開けた草地環境で、ギシギシ属、アカザ科、ヒユ科などが多いことからやや乾燥した場所であったことが推定される。また、少量ではあるが、ヘラオモダカ、ホタルイ属、イボクサなどの水生植物を含む分類群も認められることから、水湿地の存在が推定される。

木本は、伐採地や崩壊地、林縁などの明るく開けた場所に先駆的に侵入する低木類（クワ属、カジノキ属、ヒサカキ属、アカメガシワ、イヌザンショウ属、サンショウ属など）や藤本類（シマサルナシ、ブドウ属など）が確認されることから、周辺域の森林の林縁部などに生育していたものに由来すると考えられる。

（3）古墳時代の大型植物化石

3・4区3581流路から栽培植物のモモ2個が検出され、利用が推定される。その他は、3・4区3581流路から落葉藤本のブドウ属4個、落葉高木のエゴノキ属、1区3009流路から常緑高木のアカガシ亜属が検出され、周辺域の森林や林縁部などに生育していたものに由来すると考えられる。

（4）古墳時代？の大型植物化石

5・6区3127土坑から、栽培植物のナス科8個、メロン類36個（雑草メロン型9個、マクワ・シロウリ型22個、モモルディカメロン型1個を含む）が確認され、利用と土坑内への廃棄等が推定される。その他は、常緑または落葉低-高木のサンショウ属は、周辺域の森林の林縁部などに生育していたものに由来すると考えられる。

引用文献

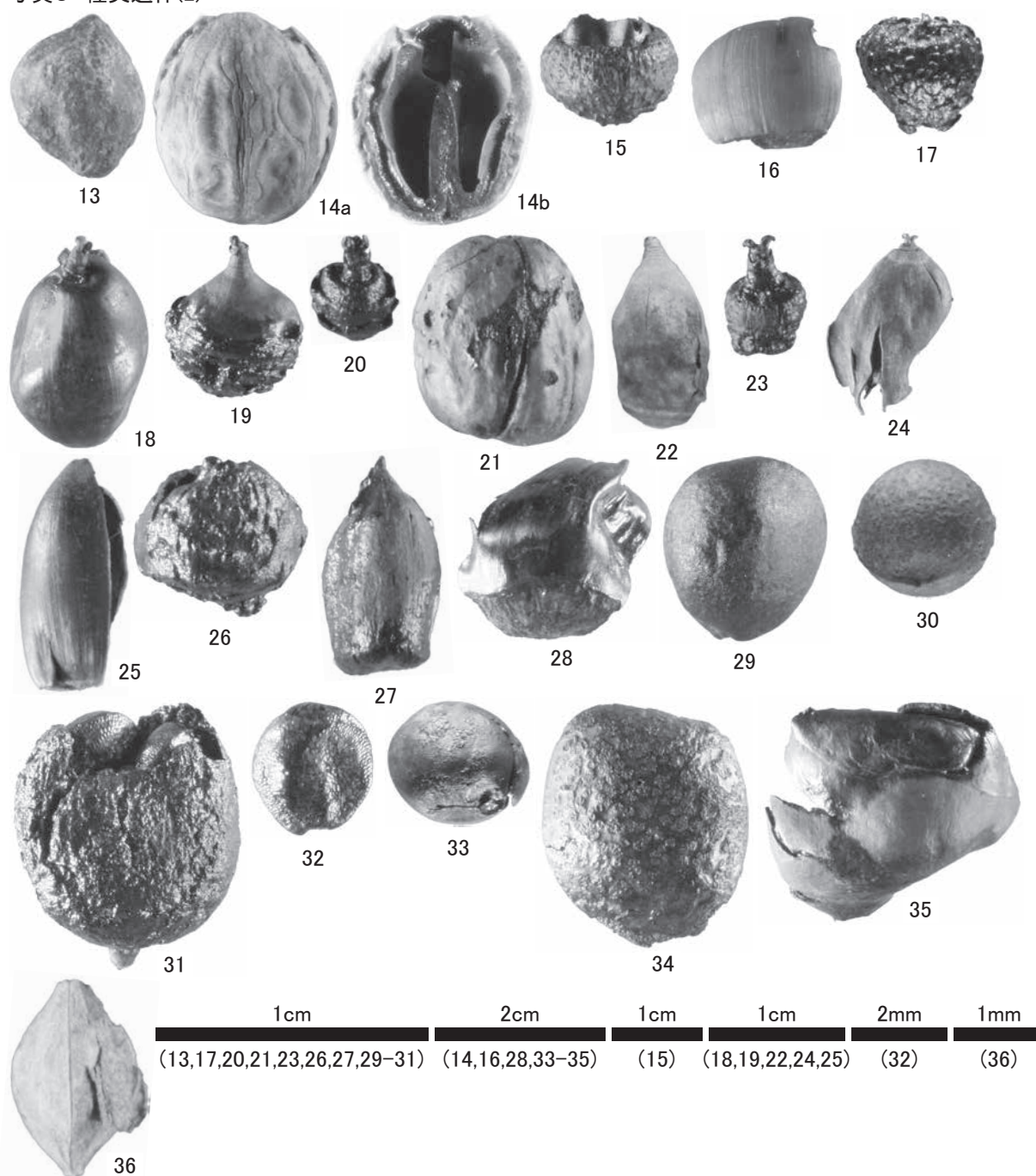
- 藤下典之 1984 『出土化石よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法-古文化財の自然科学的研究』古文化財編集委員会編 同朋舎 638-654
- 石川茂雄 1994 『原色日本植物種子写真図鑑』石川茂雄図鑑刊行委員会 328p
- 黒松康悦・粉川昭平 1986 「亀井遺跡出土の大型植物化石」『亀井（その2）近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-本文編』大阪府教育委員会・大阪文化財センター 339-388
- 百原 新・吉川昌伸 2007 「蛇行河川内での大型植物化石群の堆積過程」『植生史研究』5,1 15-27
- 中嶋雅宏・中山勝博・百原 新・塚越 実 2004 「中新統土岐口陶土層の堆積過程と産出する大型植物化石の水的挙動-岐阜県多治見市大洞地区の例-」『地質学雑誌』110(4) 204-221
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志 2000 『日本植物種子図鑑』東北大学出版会 642p
- 岡本素治 1979 「遺跡から出土するイチイガシ」『大阪市立自然史博物館業績』第230号 31-39
- 辻本裕也 2007 『1万年の植生史-大阪湾岸地域の考古遺跡における古植生調査を基に』 S-3
- 渡辺 誠 1975 『縄文時代の植物食』雄山閣出版 187p
- 渡邊正巳 2001 「長原遺跡東北地区における花粉・珪藻分析」『大阪市平野区 長原遺跡東部地区発掘調査報告書 IV 1998年度大阪市長吉東部地区土地区画整理事業施行に伴う発掘調査報告書』（財）大阪市文化財協会 79-88

写真4 種実遺体(1)



- | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. モモ 核(19区;123土坑 3) | 2. イネ 穎(19区;123土坑 3) |
| 3. イネ 胚乳(発芽)(19区;123土坑 3) | 4. ヒエ近似種 果実(7区;413井戸 断面4) |
| 5. アサ 種子(7区;413井戸 断面7) | 6. マメ類 種子(19区;123土坑 3) |
| 7. シソ属 果実(7区;413井戸 断面3) | 8. ナス科 種子(5・6区;127土坑) |
| 9. ヒョウタン類 種子(7区;413井戸 断面3) | 10. メロン類(モモルディカメロン型) 種子(5・6区;127土坑) |
| 11. メロン類(マクワ・シロウリ型) 種子(5・6区;127土坑) | |
| 12. メロン類(雑草メロン型) 種子(5・6区;127土坑) | |

写真5 種実遺体(2)



- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 13 . ヤマモモ 核(5・6区;152流路 植物遺体) | 14 . オニグルミ 核(頂部欠損)(11区;自然河川) |
| 15 . ナラガシワ 果実・殻斗(11区;自然河川) | 16 . コナラ亜属 果実(11区;自然河川) |
| 17 . コナラ亜属 幼果(5・6区;152流路 植物遺体) | 18 . イチイガシ 果実(15・16・17区;527流路 深堀トレンチ) |
| 19 . イチイガシ 果実・殻斗(5・6区;152流路 粗-極粗粒砂層) | 20 . イチイガシ 幼果(5・6区;152流路 植物遺体) |
| 21 . イチイガシ 子葉(19区;123土坑 3) | 22 . アラカシ 果実(5・6区;152流路 植物遺体) |
| 23 . アラカシ-シラカシ 幼果(5・6区;152流路 植物遺体) | 24 . シラカシ 果実(5・6区;152流路 植物遺体) |
| 25 . スダジイ 果実(5・6区;128流路(南アゼ) 流路埋土) | 26 . ツブラジイ近似種 果実・殻斗(5・6区;152流路 植物遺体) |
| 27 . ツブラジイ近似種 果実(5・6区;152流路 植物遺体) | 28 . クリ 果実(10区;100流路) |
| 29 . ムクノキ 核(19区;123土坑 3) | 30 . クスノキ科 種子(5・6区;152流路 植物遺体) |
| 31 . サカキ 果実(5・6区;152流路 植物遺体) | 32 . サカキ 種子(5・6区;152流路 植物遺体) |
| 33 . ムクロジ 種子(15・16・17区;527流路 深堀トレンチ) | 34 . トチノキ 果実(15・16・17区;527流路 深堀トレンチ) |
| 35 . トチノキ 種子(5・6区;128流路(南アゼ) 流路埋土) | 36 . ギンギシ属 果実(7区;413井戸 断面4) |

II 樹種同定分析

はじめに

今回の分析調査では、古墳時代の流路跡から検出された木杭群の構成木材を中心に、縄文時代および弥生時代の自然木、弥生時代の柱材等について、樹種同定を行い、各時期の木材利用の状況や古植生に関する検討を行う。

1 試料

試料は、古墳時代の3009流路から出土した木杭群の構成木材を中心とした木材試料33点（No. 1～33）である。

2 分析方法

剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織を観察し、その特徴を現生標本と比較して種類を同定する。

なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、各樹種の木材組織については、林(1991)、伊東(1995, 1996, 1997, 1998, 1999)や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

3 結果

樹種同定結果を表15に示す。木材は、針葉樹2種類（ヒノキ・マキ属）と広葉樹6種類（ヤナギ属・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・コナラ属アカガシ亜属・コナラ属・ヤマグワ）の解剖学的特徴等を記す。

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1～3個。放射組織は単列、1～10細胞高。

・マキ属 (*Podocarpus*) マキ科

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。樹脂細胞が早材部および晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～2個。放射組織は単列、1～5細胞高。

・ヤナギ属 (*Salix*) ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または2-3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を減少させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1～15細胞高。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1-3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、

表15 樹種同定結果

No.	調査区	採取遺構	採取層	時期	種類	樹種
1	1区	3009流路		古墳時代	不明木製品	ヒノキ
2	1区	3009流路	西端木杭群	古墳時代	Y字状材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
3	1区	3009流路	西端木杭群	古墳時代	材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
4	1区	3009流路	西端木杭群	古墳時代	加工痕あり	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
5	1区	3009流路	木杭群1	古墳時代	杭先	コナラ属コナラ亜属コナラ節
6	1区	3009流路	木杭群1	古墳時代	板材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
7	1区	3009流路	木杭群1	古墳時代	焼いた跡、板材に加工	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
8	1区	3009流路	木杭群1	古墳時代	焼いた跡、加工 横材	コナラ属アカガシ亜属
9	1区	3009流路	木杭群1	古墳時代	杭先	ヤナギ属
10	1区	3009流路	木杭群1	古墳時代	板材に加工 横材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
11	1区	3009流路	木杭群1	古墳時代	横材 加工痕なし	コナラ属コナラ亜属コナラ節
12	1区	3009流路	木杭群1	古墳時代	断面三角板材に加工 横材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
13	1区	3009流路	木杭群1	古墳時代	杭先 縦材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
14	1区	3009流路	木杭群2	古墳時代	木錘	コナラ属コナラ亜属コナラ節
15	1区	3009流路	木杭群2	古墳時代	木杭	コナラ属コナラ亜属コナラ節
16	1区	3009流路	木杭群2	古墳時代	木杭 縦材	マキ属
17	1区	3009流路	木杭群2	古墳時代	焼いた跡、加工 縦材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
18	1区	3009流路	木杭群2	古墳時代	横材 加工痕あり	コナラ属アカガシ亜属
19	1区	3009流路	木杭群2	古墳時代	木杭 縦材 先端部のみ加工	コナラ属コナラ亜属コナラ節
20	1区	3009流路	木杭群2	古墳時代	木杭 杭先	コナラ属コナラ亜属コナラ節
21	1区	3009流路	木杭群3	古墳時代	Y字状材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
22	5・6区	3128流路		縄文時代後期	流木	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
23	7区	3125流路	木杭群	古墳時代	木杭 杭先	コナラ属
24	7区	3125流路	木杭群	古墳時代	木杭	コナラ属アカガシ亜属
25	15・16・17区	3345井戸		古墳時代(庄内)	井戸枠(材)	コナラ属コナラ亜属コナラ節
26	9区	2258流路		古墳～飛鳥時代	加工痕のある板材	ヒノキ
27	10区	2100流路		弥生時代	流木	ヤナギ属
28	11区	自然河川		弥生時代	流木	コナラ属コナラ亜属コナラ節
29	11区	(292住居p1)		弥生時代	柱根	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
30	19区	(231住居p16)		弥生時代	柱根	ヤマグワ
31	19区	(434住居p2)		弥生時代	柱根	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
32	19区	(434住居p9)		弥生時代	柱根	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
33	19区	(435住居p10)		弥生時代	柱根	コナラ属コナラ亜属コナラ節

1～15細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1～3列、孔圏外で急激（時に緩やか）に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属 (*Quercus*)

試料は、No.23の1点で、乾燥により収縮した痕跡があり、保存状態が悪い。道管は、比較的厚壁で、単独で放射方向に配列しており、放射孔材のような組織配列を示す。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織には複合放射組織が認められる。

以上の特徴から、コナラ属であることは明らかであり、放射孔材のような組織配列から、アカガシ亜

属により似ている。しかし、観察した範囲で年輪が確認できず、環孔材のクヌギ節やコナラ節の早材部のみを観察している可能性も否定できないことから、コナラ属とした。

・ヤマグワ (*Morus australis* Poiret) クワ科クワ属

環孔材で、孔圏部は3-5列、孔圏外への移行は緩やかで、晩材部では単独または2-4個が塊状あるいは接線方向に複合して斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1~6細胞幅、1~50細胞高。

4 考察

樹種同定を実施した木材は、縄文時代後期の流木(1点)、弥生時代の流木(2点)および柱材(5点)、古墳時代の木錘(1点)、井戸枠(1点)、木杭群に伴う杭(8点)、板(2点)、縦材(2点)、横材(5点)、Y字状材、材、加工痕あり等を一括した不明(5点)、古墳~飛鳥時代の板(1点)である。時代別・器種別の種類構成を表16に示す。

縄文時代後期の流木は、河畔林などを構成する落葉広葉樹のクヌギ節であった。当該期の遺跡周辺は、河内湾に向かって北流する河川沿いの沖積地であり、こうした沖積地にクヌギ節が生育していたことが推定される。

弥生時代の流木は、落葉広葉樹のヤナギ属とコナラ節であった。いずれも河畔林を構成する種が含まれる分類群であり、流路沿いなどに生育していたことが推定される。

一方、住居跡から出土した柱材は、全て落葉広葉樹で、クヌギ節3点、コナラ節とヤマグワが各1点であり、重硬で強度の高い木材が利用されている。弥生時代の柱材については、大阪府内でも多くの樹種同定実施例があり、今回確認された種類も含めて多くの樹種が確認されている。しかし、明らかに住居の柱材と認定されている資料は少ないことから、今回の結果は重要な事例である。

古墳時代の資料は、ほとんどが3009流路から出土した木杭群に伴うものである。杭、板、横材、縦材等があり、落葉広葉樹のコナラ節やクヌギ節の利用が多いが、常緑広葉樹のアカガシ亜属も杭や横材に3点認められる。また、針葉樹のヒノキが不明木製品、マキ属が縦材に各1点認められた。木杭群は、木杭群1と木杭群2の試料が多いが、結果をみる限りではいずれもコナラ節・クヌギ節の利用が目立つ点で同様であり、種類構成の違いは認められない。クヌギ節、コナラ節、アカガシ亜属、マキ属は、重硬で強度の高い材質を有しており、全体的に強度の高い木材を利用する傾向があるが、強度・保存性が低いヤナギ属も1点認められる。また、不明木製品に認められたヒノキは、割裂性・耐水性が高く加工が容易な木材であり、こうした材質を考慮した木材利用が推定される。古墳時代では、この他に木錘と井戸枠があり、いずれもコナラ節が利用されている。井戸枠については強度、木錘については比重の重い木材として選択・利用されたことが推定される。

種実同定の結果から、クヌギ節、コナラ節、アカガシ亜属は周囲に生育していたことが推定される。また、ヤナギ属は、流路沿いなどに普通にみられる種類であり、木杭群は周囲で入手可能な木材を利用していることが推定される。ヒノキについては、尾根上等の比較的乾いた土地によく生育する種類であることから、周囲の台地上、扇状地上、山地尾根等に生育していた可能性がある。なお、大阪府内における古墳時代のヒノキ材利用状況をみると、板状を呈する製品を中心に認められているが、杭などの土木材にはほとんど確認されていない。

表16 時代別・器種別種類構成

分類群\時代・器種	古墳 ～ 飛鳥		古墳時代						弥生時代		縄文 後期	合計
	板	木錘	井戸杵	杭	板	横材	縦材	不明	柱根	流木	流木	
ヒノキ	1							1				2
マキ属							1					1
ヤナギ属				1						1		2
コナラ亜属クスギ節					2	1		3	3		1	10
コナラ亜属コナラ節		1	1	5		2	1	1	1	1		13
アカガシ亜属				1		2						3
コナラ属				1								1
ヤマグワ									1			1
合計	1	1	1	8	2	5	2	5	5	2	1	33

1)庄内期の井戸杵1点は、古墳時代に含めた。

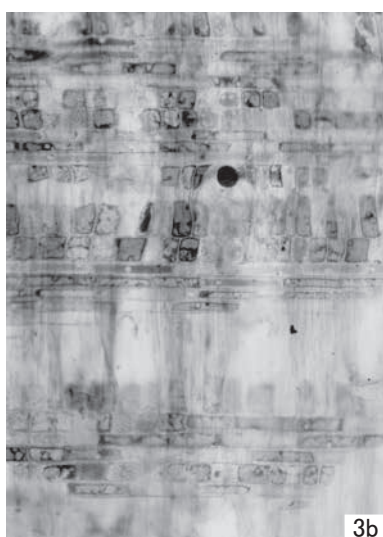
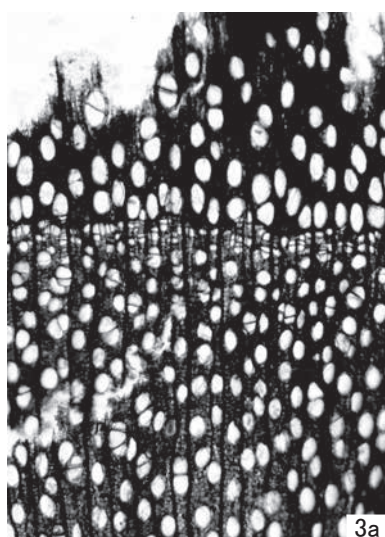
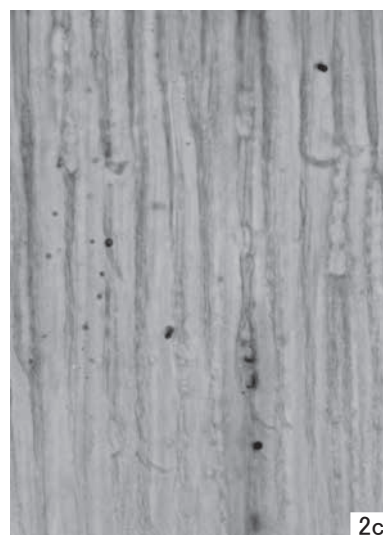
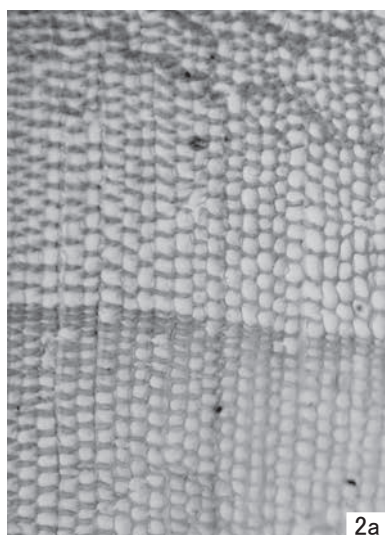
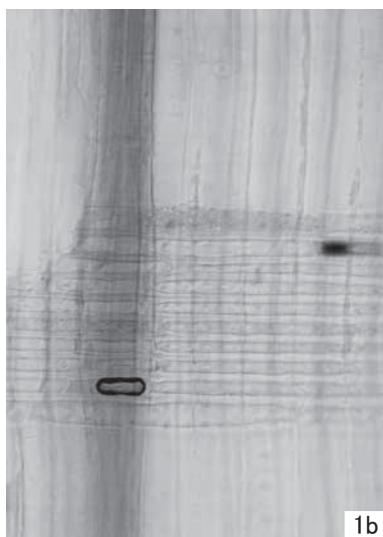
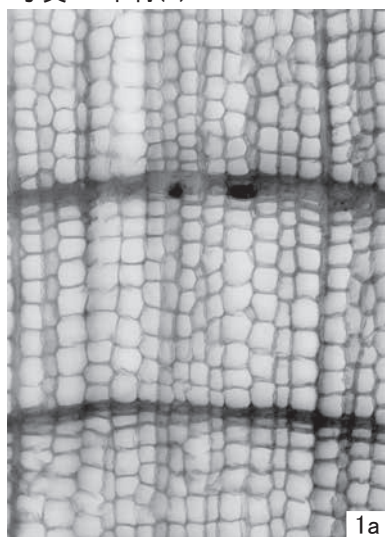
2)Y字状材、材、不明木製品、加工痕有は器種不明として一括した。

古墳時代～飛鳥時代の板は、針葉樹のヒノキであり、割裂性が高く、板の加工が容易な樹種が利用されている。用途の詳細は不明であるが、ヒノキは当該期の板状を呈する木製品に多く認められている樹種であり、今回の結果も調和的といえる。

引用文献

- 林 昭三 1991 『日本産木材 顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」 『木材研究・資料』 31 京都大学木質科学研究所 81-181
- 伊東 隆夫 1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」 『木材研究・資料』 32 京都大学木質科学研究所 66-176
- 伊東 隆夫 1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」 『木材研究・資料』 33 京都大学木質科学研究所 83-201
- 伊東 隆夫 1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」 『木材研究・資料』 34 京都大学木質科学研究所 30-166
- 伊東 隆夫 1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」 『木材研究・資料』 35 京都大学木質科学研究所 47-216
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (編) 2006 『針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』 伊東 隆夫・藤井 智之・佐野 雄三・安部 久・内海 泰弘 (日本語版監修) 海青社 70p
[Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification]
- 島地 謙・伊東 隆夫 1982 『図説木材組織』 地球社 176p
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編) 1998 『広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』 伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩 (日本語版監修) 海青社 122p [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification]

写真6 木材(1)



1. ヒノキ(No.26)
 2. マキ属(No.16)
 3. ヤナギ属(No.9)
- a: 木口, b: 柎目, c: 板目




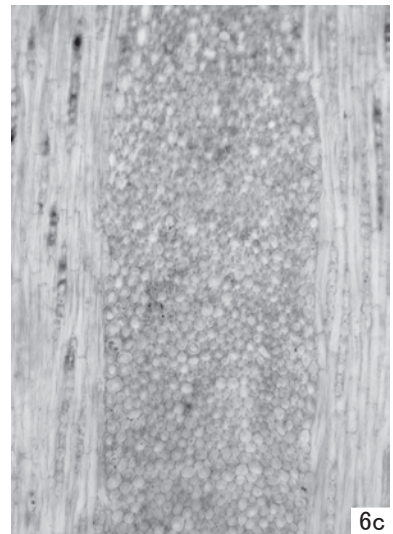
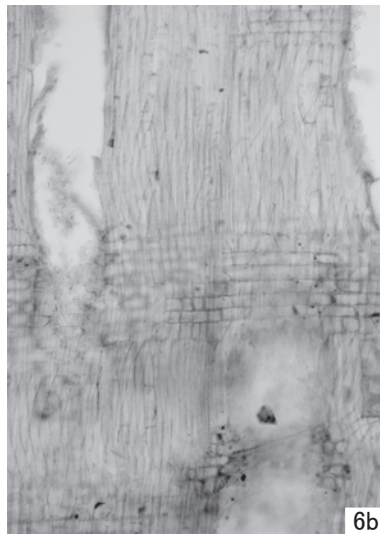
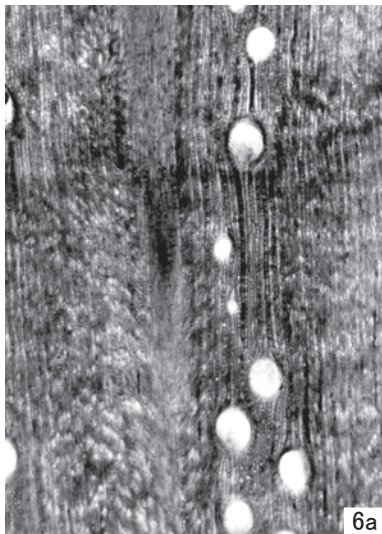
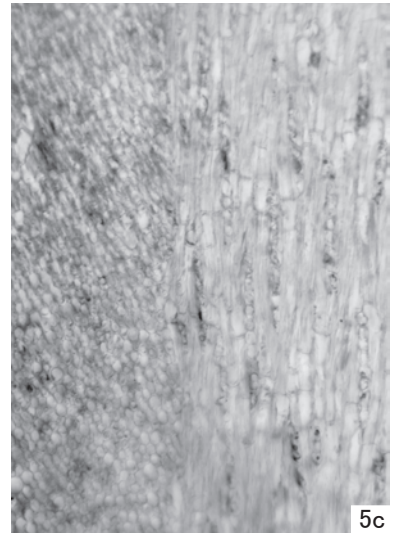
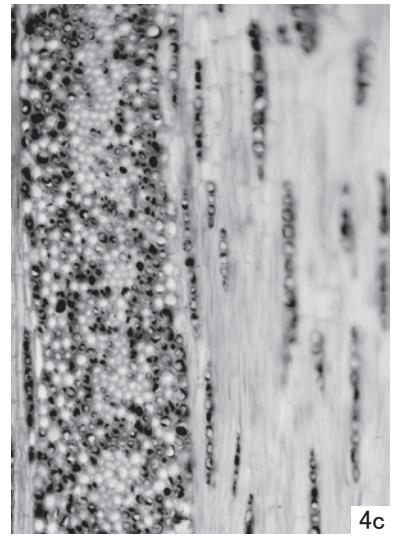
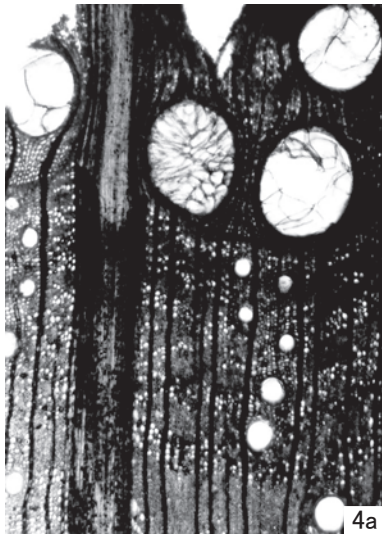
 300 μm:3a
 200 μm:1-2a,3b,c
 100 μm:1-2b,c

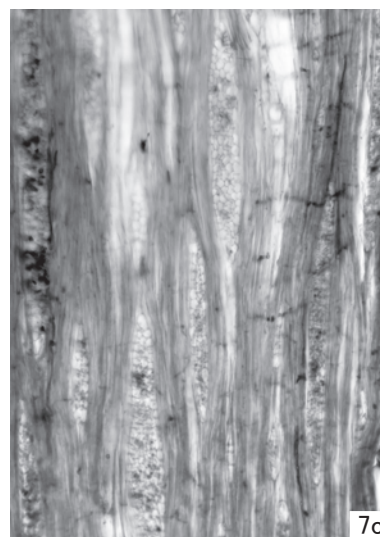
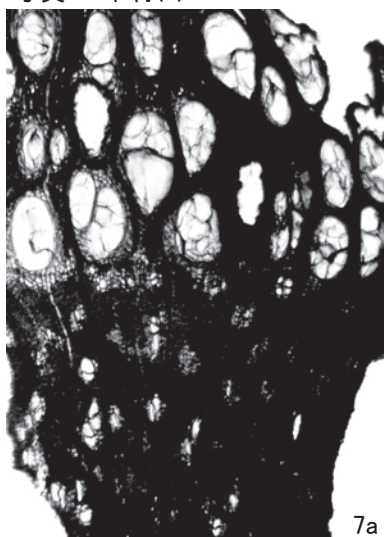
写真7 木材(2)



- 4. コナラ属コナラ亜属クヌギ節(No.3)
 - 5. コナラ属コナラ亜属コナラ節(No.15)
 - 6. コナラ属アカガシ亜属(No.18)
- a: 木口, b: 柁目, c: 板目

300 μ m: a
 200 μ m: b, c

写真8 木材(3)



7. ヤマグチ(No.30)

a: 木口, b: 柁目, c: 板目

300 μ m: a
200 μ m: b, c

第3節 大阪府松原市三宅西遺跡から出土した縄文時代後期の土器付着物の¹⁴C年代測定

はじめに

大阪府松原市の三宅西遺跡から出土した、縄文時代後期中葉の北白川上層式土器に付着した土器付着炭化物を用いて、¹⁴C年代測定、炭素・窒素安定同位体分析を行い、各土器の年代について検討した。

今回分析を行った土器は、大阪府松原市三宅西遺跡5・6区から出土した土器である。5・6区では、二時期の大規模流路跡が検出されており、北白川上層式土器は、流路内から出土したものである。これらの土器は、北白川上層式3期の土器と推定されている(清水2006)。

これらの土器には、非常に良好な状態で炭化物が付着していた。これまで、北白川下層式の付着物の¹⁴C年代測定例はほとんどなかったため、近畿地方における縄文時代後期中葉の土器型式の¹⁴C年代を明らかにする上で、重要な資料である。また、炭素・窒素安定同位体分析を併せて実施することで、海洋リザーバー効果の影響の有無、炭化物の起源について検討を行うことにした。

試料と方法

1. 試料の選定および採取

今回、試料の選定にあたっては、他の分析結果の比較を行うことを目的のひとつとして、渋谷綾子氏によってすでにデンプン分析が実施されている試料を優先した。

炭化物が付着した縄文時代後期の北白川下層式土器を、工藤・山本・中村・清水で協議したうえで、工藤が10点の土器片から付着物を採取した。いずれも、土器の内面に付着していた炭化物である(写真9、10)。それぞれの土器から、ステンレス製スパーテルおよびピンセットを用いて付着物約50～100mg程度削り取った。削り落とした付着物を実体顕微鏡で観察し、土壌や混入物などを可能な限り除去した後、秤量した。

採取したこれらの10点のうち、5点の試料について¹⁴C年代測定と炭素・窒素安定同位体分析を行うことにした。

2. 化学処理

以下に提示する試料の化学処理は、名古屋大学年代測定総合研究センターで工藤が実施した。¹⁴C年代測定試料の処理・調製は以下の手順で行った。

- 1) 土器に付着した接着剤やニス等を除去するため、振とう機を用いたアセトンによる洗浄を、溶液を交換しながら2時間行った。
- 2) 埋蔵中に生成・混入したフミン酸や炭酸塩などを溶解・除去するため、酸-アルカリ-酸(AAA)処理を行った。酸処理は、1.2Mの塩酸(HCl)で、水溶液の着色がなくなるまで、溶液を交換しながら一晩かけて処理を行った。アルカリ処理は、試料の状態に応じて0.001～1.2M水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液により、室温～80℃の処理を行った。徐々に濃度を濃

くして、水溶液が着色しなくなるまでこの操作を繰り返し、最終的に1.2Mまで行うのが一般的だが、試料の腐食が進んでいる場合には、全部溶解してしまう恐れがあるため、状態によりアルカリの濃度、加熱温度、時間を調整しながら行った（吉田2004）。三宅西遺跡から出土した土器付着物は遺存状態が非常に良好で、最終的に5点すべての試料について、1.2M濃度の水酸化ナトリウムまで処理を行った。その後、蒸留水によって中和した後、再び酸処理を行い、蒸留水で中和して、乾燥、秤量した。

- 3) AAA処理後の試料約5mgを、酸化銅600mg、還元銅500mgと共に石英管に入れて真空にして封入し、電気炉で850℃にして4時間加熱し、試料中の炭素を二酸化炭素に変換した。これを真空ガラスラインで精製し、モレキュラー・シーブを用いて窒素ガスを回収し、6mmパイレックス管に封入した。精製した二酸化炭素については2本に分け、一方は6mm管に封入して、炭素安定同位体分析用とし、もう一方は鉄触媒を用いた水素還元によってグラファイトを合成した。

3. 測定

年代測定総合研究センター建物が耐震改修工事期間にあたり、年代測定総合研究センターの加速器が稼働していなかったため（2007年11月～2008年4月まで停止）、¹⁴C標準試料(NIST)とブランク試料(IAEA-C1)とともに、(株)パレオ・ラボに測定を依頼し、¹⁴C年代測定結果を得た（機関番号PLD）。

炭素・窒素安定同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ 値、 $\delta^{15}\text{N}$ 値）の分析は、精製時に分取した二酸化炭素ガスと窒素ガスを用いて、名古屋大学年代測定総合研究センターに設置されている気体用安定同位体質量分析計：Finnigan MAT 社製 MAT-252 を用いて測定を行った。

4. 結果と考察

5点の付着物の¹⁴C年代測定結果は、3640～3525 ¹⁴C BPの間に集中し、おおよそ一致した¹⁴C年代測定結果が得られた（表17）。炭素・窒素安定同位体比（図321）を見てみると、MYW-9、MYW-236、MYW-237の3点は、米田（2004）が提示している食料資源の一般的な値と比較すると、いずれも陸上動植物の値とほぼ重なる結果が得られた。MYW-235のみ、炭素安定同位体比がやや高く、窒素同位体比もやや高かった。MYW-181の試料は、それらの中間的な値を示した。

MYW-235は、今回分析した5点の試料の中では、年代測定結果がやや古い試料である。同位体比は、陸上動植物と海生魚類の中間的な値であることから、海洋起源の有機物の影響を若干受けている可能性も考えられる。渋谷氏によるデンプン分析では、いずれの試料からも多くのデンプン粒が検出されているとのことである。デンプンを多く含む植物質食料資源と海生の魚などを煮炊きしていたかどうかは不明であるが、今後、C/N比などの別の方法による分析も行い、内容物の起源を検討してみることも必要であろう。MYW-235のみ、やや疑問が残るものの、他の試料に関しては、ほぼ海洋起源の有機物の影響は受けていない試料と考えてよいと推定される。

これらの5点について、暦年較正プログラムOxcal4.0 (Ramsey, 1995, 2001) を用いて、較正曲線Intcal04 (Reimer et al., 2004) で較正し、確率分布で表示した。上段のMYWの試料が、今回測定した三宅西遺跡の試料で、下段のTTHSの試料は、工藤ほか（2007）が実施した、東京都東村山市の下宅部遺跡から出土した、縄文時代後期の堀之内2式～加曾利B2式までの試料である。

今回測定した、北白川上層式3期とされる土器に付着した炭化物の¹⁴C年代は、工藤ら(2007)の下宅部遺跡のデータと比較すると、縄文時代後期前葉の堀之内2式の後半から、縄文時代後期中葉の加曾利B1式までの試料の¹⁴C年代とおおよそ一致している。北白川上層式3期は、加曾利B1式との併行関係が指摘されている土器であり(泉1981)、また、今回分析した土器は、北白川上層式3期のごく限られた時期のものであるとの見解が示されている(清水2006)。下宅部遺跡の土器付着物の¹⁴C年代と対比した場合、MYW-181、MYW-235は、加曾利B1式よりも堀之内2式の年代に近く、型式学的な編年観と、今回の¹⁴C年代測定結果には、若干の食い違いがみられる。5点の試料のうち、どの試料が今回の土器の年代を最も正確に反映しているのかを判断するのは難しいが、おおよそ、型式学的な併行関係とは矛盾しない測定結果が得られたものと推測される。

謝 辞

本研究は、平成19年度文部科学省・科学研究費補助金基盤研究(C)「縄文時代における栽培植物の帰属年代の再検討および貯蔵穴出土堅果類の年代決定」(課題番号19520653)(研究代表者：山本直人)の一部を使用して実施した。

引用文献

- 泉拓良 1981 「近畿地方の土器」 加藤晋平・小林達雄・藤本強編『縄文文化の研究 4 縄文土器Ⅱ』 雄山閣 166-175
- 工藤雄一郎・小林謙一・坂本 稔・松崎浩之 2007 「下宅部遺跡における¹⁴C年代研究：縄文時代後期から晩期の土器付着炭化物と漆を例として」『考古学研究』53-4 51-71
- Ramsey, B.C. (1995) Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: The OxCal program, Radiocarbon 37 (2) 425-430.
- Ramsey, B.C. (2001) Development of the radiocarbon calibration program OxCal, Radiocarbon, 43 (2A) 355-363.
- Reimer, P. J., Baillie, M. G. L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Buck, C. E., Burr, G. S., Culter, K. B., Damom, P. E., Edwards, R. L., Fairbanks, R. G., Friedrich, M., Guilderson, T. P., Herring, C., Hughen, K. A., Kromer, B., McCormac, G., Manning, S., Bronk Ramsey, C., Reimer, R. W., Remmele, S., Southon, J. R., Stuiver, M., Talamos, S., Taylor, F. W., van der Plicht, J. & Weyhenmeyer, C. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration 26-0 cal kyr BP. Radiocarbon 46, pp. 1209-1058.
- 清水梨代 2006 「三宅西遺跡出土の北白川上層式縄文土器について」『大阪文化財研究』30 9-14 (財)大阪府文化財センター
- 米田 穰 2004 「炭素・窒素安定同位体による古食性復元」 安田喜憲編『環境考古学ハンドブック』朝倉書店 411-418
- 吉田邦夫 2004 「火炎土器に付着した炭化物の放射性炭素年代」 新潟県立博物館編『火炎土器の研究』同成社 17-36

表 17 ^{14}C 年代測定, 炭素・窒素安定同位体比の分析結果一覧

※グラファイトを名古屋大学年代測定総合研究センターで調製し、 ^{14}C 年代は (株) パレオ・ラボで測定。

※炭素・窒素安定同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$, $\delta^{15}\text{N}$) は、名古屋大学年代測定総合研究センターに設置されている、気体用安定同位体質量分析計: Finnigan MAT 社製 MAT-252 で測定。

試料番号	遺跡名	出土区	管理番号	種類	採取部位	時代	土器型式	^{14}C BP ($\pm 1\sigma$)	機関番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$\delta^{15}\text{N}$ (‰)
MYW 9	三宅西遺跡	5・6区, 170-2g, 3128流路	9	土器付着物	焦 胴部内	後期中葉	北白川上層	3525 \pm 25	PLD-9090	-25.5	4.0
MYW 181	三宅西遺跡	5・6区, 170-4g, 3128流路	181	土器付着物	焦 胴部内	後期中葉	北白川上層	3600 \pm 25	PLD-9091	-25.1	9.1
MYW 235	三宅西遺跡	5・6区, 170-4g~4h, 3128流路	235	土器付着物	焦 口縁内	後期中葉	北白川上層	3640 \pm 25	PLD-9092	-23.6	9.7
MYW 236	三宅西遺跡	5・6区, 170-4g~4h, 3128流路	236	土器付着物	焦 胴部内	後期中葉	北白川上層	3535 \pm 25	PLD-9093	-26.9	6.5
MYW 237	三宅西遺跡	5・6区, 170-4g~4h, 3128流路	237	土器付着物	焦 胴部内	後期中葉	北白川上層	3590 \pm 25	PLD-9094	-26.2	3.9

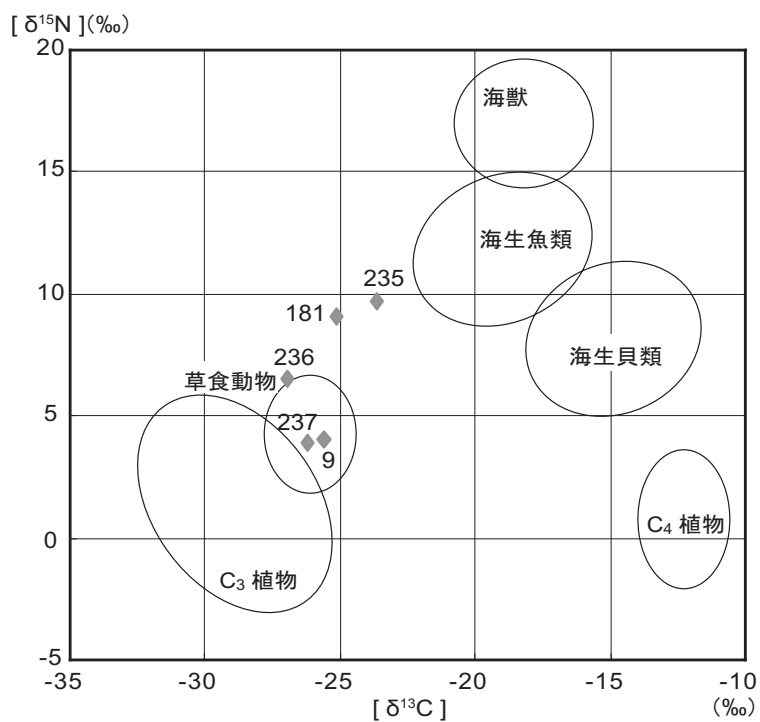


図 321 土器付着物の炭素・窒素安定同位体分析結果

楕円で示したそれぞれの食料資源の安定同位体比の値は、米田 (2004) を参照した。

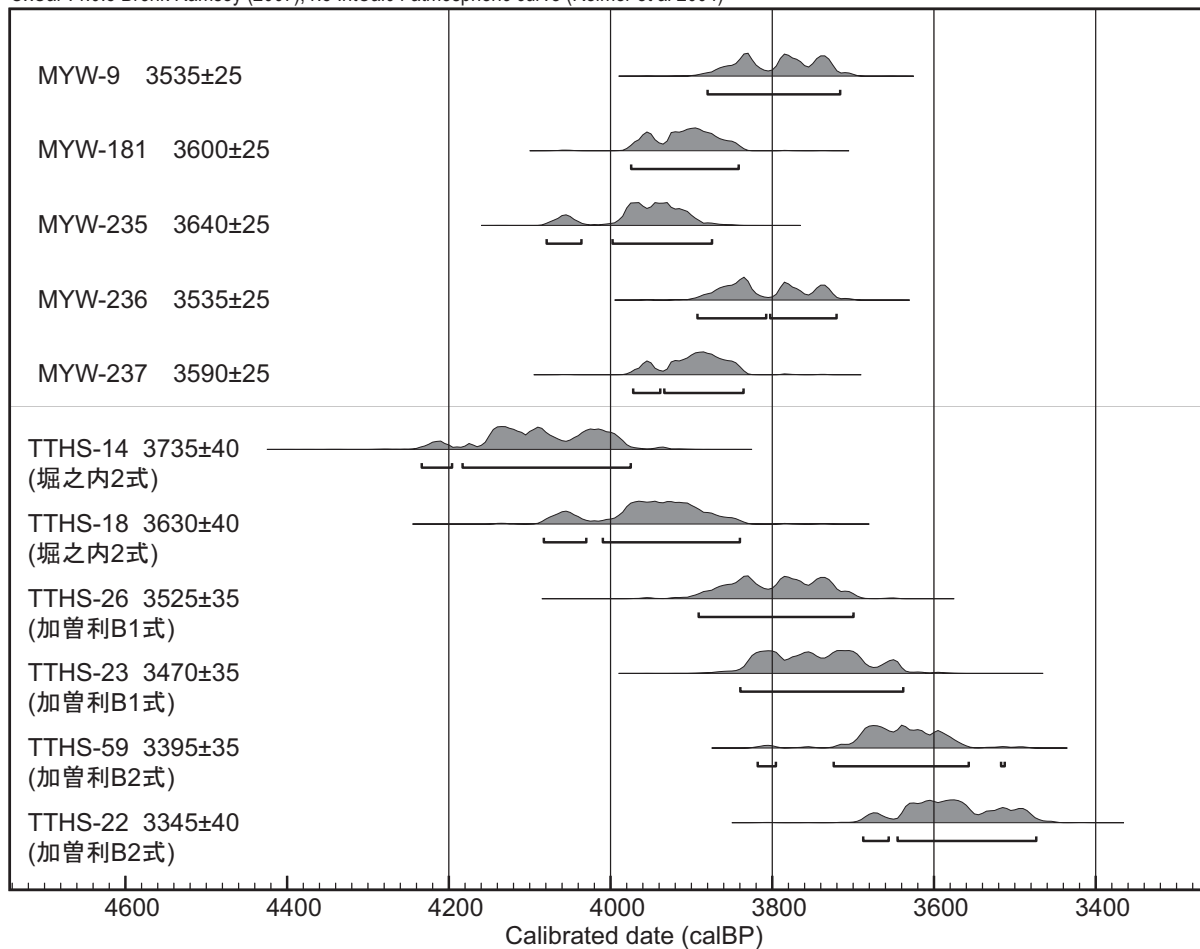


図 322 土器附着物の較正年代

Oxcal4.0 (Ramsey, 1995, 2001) を用いて較正曲線 Intcal04 (Reimer et al., 2004) で較正し、確率分布で表示した。上段の MYW の試料が、今回測定した三宅西遺跡の試料。下段の TTHS の試料は、工藤ほか (2007) が実施した、東京都東村山市の下宅部遺跡から出土した、縄文時代後期の堀之内 2 式～加曾利 B2 式までの試料の ¹⁴C 年代。

写真9 分析を実施した土器（1）



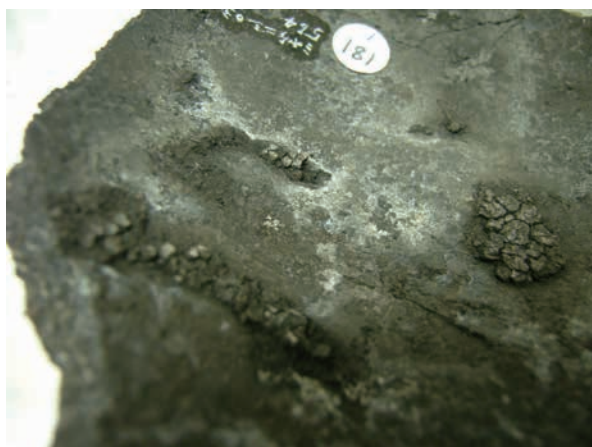
MYW-9 胴部内面 焦



MYW-9 胴部内面 焦（アップ）



MYW-181 胴部内面 焦



MYW-181 胴部内面 焦（アップ）

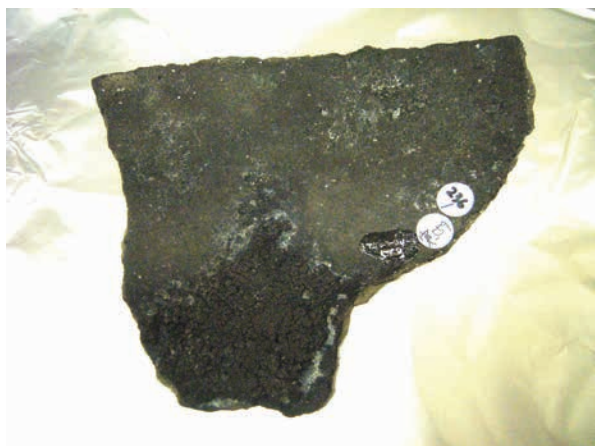


MYW-235 口縁部内面 焦



MYW-235 口縁部内面 焦（アップ）

写真10 分析を実施した土器（2）



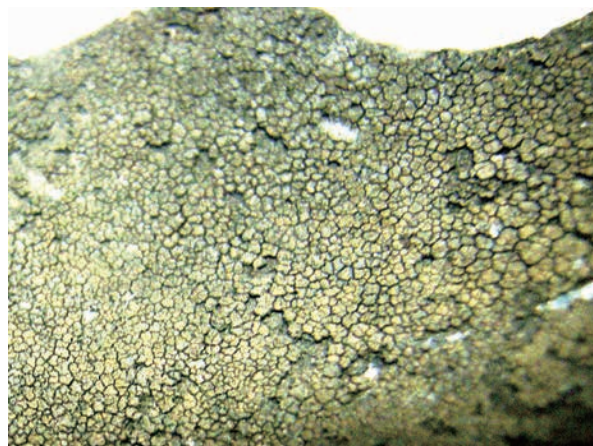
MYW-236 胴部内面 焦



MYW-236 胴部内面 焦（アップ）



MYW-237 胴部内面 焦



MYW-237 胴部内面 焦（アップ）

第4節 三宅西遺跡から出土した赤色顔料関係遺物

－大阪府下における縄文時代の赤色顔料－

縄文時代に用いられた赤色顔料としては、ベンガラ（酸化第二鉄(Fe₂O₃)、鉱物名；赤鉄鉱）と水銀朱（硫化水銀(HgS)、鉱物名；辰砂）の2種類である。ベンガラが旧石器時代から用いられているのに対し、水銀朱が用いられるようになるのは縄文時代中期以降であり、全国的に広がるのは縄文時代後期中葉以降である（註1）。わが国の水銀朱の産地は三重県、奈良県、徳島県等の中央構造線の周辺に集中し、産地が全国に無数にあるベンガラ原料と比べればその産地は限定されている。今回、三宅西遺跡で出土した赤色顔料が付着する縄文土器12点について、蛍光X線分析と光学顕微鏡観察を行い顔料の種類を明らかにした。また、同時に和泉市仏並遺跡、阪南市向出遺跡から出土した赤色顔料が付着する土器についても分析を行った。

調査方法

蛍光X線分析 赤色顔料の主成分元素の検出を目的として実施したものである。

【測定機器】 奈良大学保存科学研究室設置 エネルギー分散型蛍光X線分析装置
EAGLE II XXL NR（アメリカ EDAX inc.製）

【測定条件】 X線管球：クロム(Cr) 電圧－電流：35Kv－500μA
測定環境：真空 測定時間：200秒
測定ポイント数：1点につき5～10ポイント

実体顕微鏡観察 顔料の形状観察を目的として実施したものである。

【観察機器】 LECIA M651（×40 落斜光）

蛍光X線分析では水銀(Hg)および鉄(Fe)の有無にのみ着目した。なお、水銀朱は硫化水銀であることから、硫黄(S)の検出にも注意を払った。水銀が検出されたものは水銀朱が付着していると判断できるが、鉄は土器の胎土にも必ず含まれており、土器片を測定試料とした今回の分析では、赤色顔料に由来するものであるかどうかを判断する事が困難な場合もある。蛍光X線分析で水銀が検出されるか、実体顕微鏡で辰砂の粒子が確認された場合を水銀朱とした。また、蛍光X線分析で赤色顔料の付着していない部分よりも、明らかに鉄の検出が優位であり、実体顕微鏡で赤色顔料の付着が確認された場合をベンガラと判断した。

測定試料と顔料が付着する土器の種類について

土器の器面に赤色顔料が付着している場合、次の二つの可能性が考えられる。一つは土器器面の装飾を目的として赤色顔料を塗布した所謂、赤彩土器である。もう一つは、顔料の製造（精製）、貯蔵、運搬等、広義において土器に赤色顔料を入れて使用した結果である。前者の場合、縄文時代後期に限れば、彩色は外面に施す事がほとんどで、その多くは土器に施された文様を意識して部分的に施す事が多い。後者の場合、顔料が付着するのは基本的に内面であり、容器には専用の無文土器または一般的な土器を転用

している事が多いとされている。(註2)

以上のことを念頭において、三宅西遺跡の土器12点(後期中葉(北白川上層式3期):10点、晩期(滋賀里式):2点)、仏並遺跡の土器1点(後期初頭(中津式))、向出遺跡の土器5点(後期末葉(宮滝式))を観察し、その用途を判断した。

結果

蛍光X線分析と光学顕微鏡観察の結果、土器18点のうち、ベンガラを用いていたものが2点(三宅西No.384、仏並No.62)、水銀朱を用いていたものが16点(三宅西No.328、[223]、330、286、332、[227]、373、[229]、326、424、425、向出No.22、321、407、464、508)であることが判った。仏並No.62については、実態顕微鏡では水銀朱とベンガラの差異を確認することはできなかったが、100倍の生物顕微鏡観察では水銀朱の粒子とは異なる赤茶色のベンガラらしき物体を確認している。また、外面に赤色顔料が付着していたのは三宅西No.384、424、425であり、内外面に赤色顔料の付着が確認できたものは仏並No.62だけであり、残りは全て内面にのみ赤色顔料の付着が認められた。なお、三宅西No.384には、ベンガラの固着材と考えられる塗膜状のもの(漆?)が遺存している。

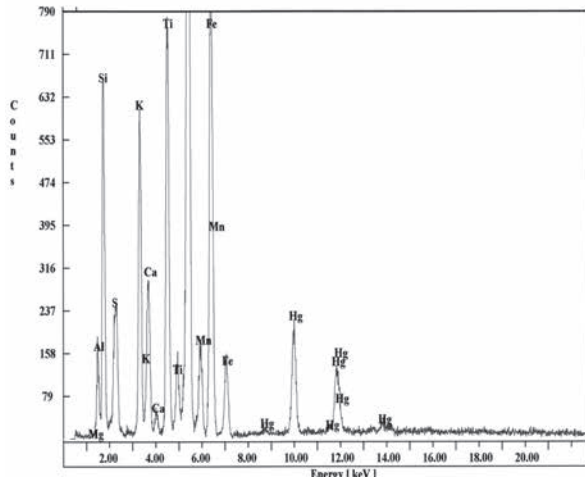
数字は、報告書掲載遺物の遺物番号を示している。[]付数字は、報告書未掲載のものであるが、縄文土器に関しては個別に管理番号を付けていることから、これを表している。

考察

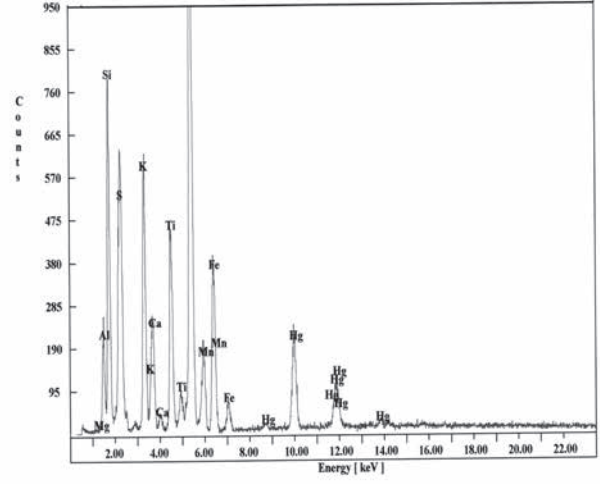
今回、行った18点の赤色顔料付着土器の科学的分析結果から、以下のような事が考えられる。

第一に、赤色顔料の付着状態と、目的の関連性が挙げられる。明らかに加飾を目的とした塗布である外面付着の4点(三宅西No.384、424、425、仏並No.62)は平面的に器面を被覆する状態で付着しており、赤彩土器であったと考えられる。また、向出遺跡No.464は内面付着ではあるが、前述の4点同様の付着状態であり、外反口縁内面という見えるところへの塗布であることから、これも赤彩土器であったと考えられる。それに対し、赤色顔料の容器として用いられていたと考えられるものは、粒子状または、三宅西No.224、227のように破断面にも赤色顔料の付着が確認されるものもある。これは土器使用時の段階で、既に存在していた亀裂に顔料が入り込んだ結果であると考えられる。

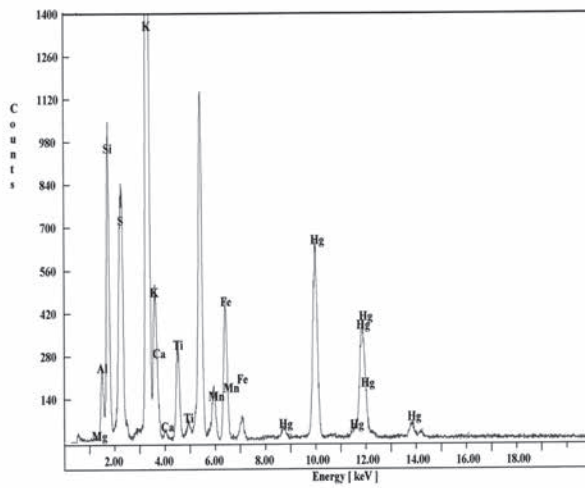
第二に、ベンガラと水銀朱の時期による消長が挙げられる。過去に行われた科学的分析の結果によると、大阪市森ノ宮貝塚(元住吉山I式)、阪南市向出遺跡(一乗寺K式、宮滝式)、堺市小阪遺跡(長原式)出土土器付着赤色顔料は水銀朱であることが確認されている(註3)。今回新たに行った仏並遺跡(中津式)でベンガラが確認されたのに対し、三宅西遺跡では北白川上層式3期の10点中、9点で水銀朱の使用が確認された。このことは、従来考えられていた一乗寺K式よりも早い段階から、水銀朱の利用が拡大していたことを示唆する結果であると考えられる。また、三宅西遺跡の晩期の土器(滋賀里II式)で水銀朱が確認された事は、従来の研究の成果と一致する結果である。これらと、近畿地方の他府県での様相を鑑みると、縄文時代後期初頭にあたる中津式~福田K2式まで、ベンガラが赤色顔料の主体であり、後期前葉の北白川上層式1期・2期をベンガラから水銀朱への移行期とし、後期中葉の北白川上層式3期で水銀朱が主体となり以後、縄文時代晩期末まで水銀朱が主体となる傾向が継続すると考えられるのである。



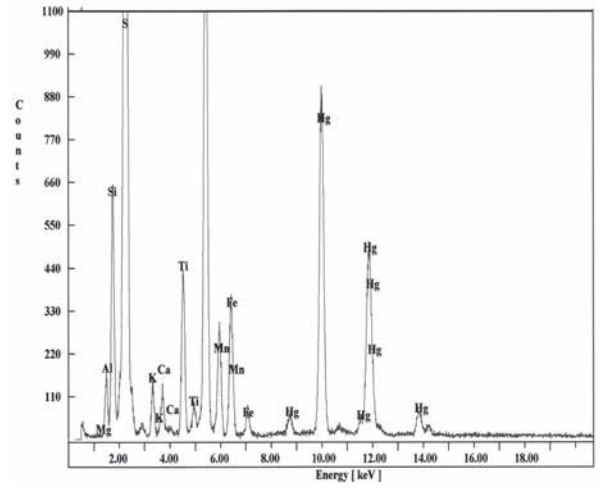
三宅西328



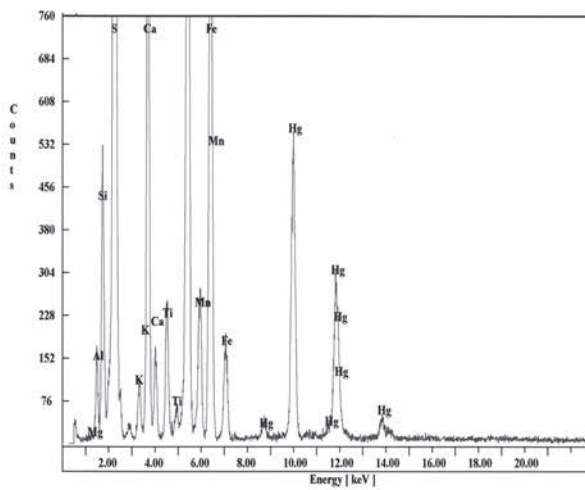
三宅西326



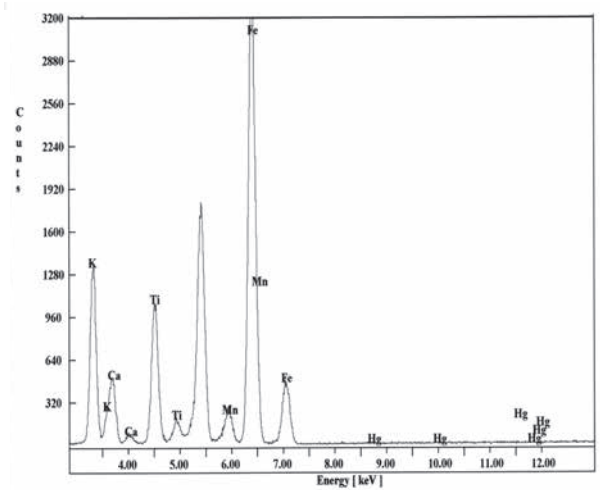
三宅西330



向出407



三宅西 [227]



仏並62

図323 縄文土器付着赤色顔料元素分析スペクトル

表18 近畿地方縄文後晩期土器赤色顔料付着状況

遺 跡	都道府県	時 期	型 式	朱	ベンガラ	併用	備 考	文 献
				点数 (内面)	点数 (内面)	点数 (内面)		
仏並	大阪府和泉市	後期初頭	中津		1 (1)		内外面	本報告
三宅西	大阪府松原市	後期中葉	北白川上層Ⅲ	9 (9)	1 (0)		ベンガラは漆(?)により固着	本報告
向出	大阪府阪南市	後期中葉	一乗寺K	1 (1)			確認のため今回再度分析	(成瀬2000)
森ノ宮	大阪府大阪市	後期中葉	元住吉山Ⅰ	1			付着部位不明	(成瀬1993)
向出	大阪府阪南市	後期後葉	宮滝	4 (4)			確認のため今回再度分析	(成瀬2000)
三宅西	大阪府松原市	晩期前半	滋賀里Ⅱ～Ⅲ	2 (0)				本報告
小阪	大阪府堺市	晩期後半	長原	1 (1)				(清水1992)
讃良郡条里	大阪府寝屋川市	晩期後半	長原併行	1 (0)			漆塗膜/EPMA分析 /浮線網状土器	(中尾)
下尾井	和歌山	後期初頭	福田KⅡ		2 (0)			(清水1979)
弘川佃	滋賀	後期前葉	北白川上層Ⅰ		1 (0)			(堀2007)
弘川佃	滋賀	後期前葉	北白川上層Ⅱ	1 (0)	3 (0)			(堀2007)
弘川佃	滋賀	後期前葉	北白川上層Ⅰ～Ⅱ	3 (3)				(堀2007)
弘川佃	滋賀	後期前葉	鐘崎		1 (0)			(堀2007)
弘川佃	滋賀	後期前葉	小池原上層		1 (0)			(堀2007)
弘川佃	滋賀	後期前葉	堀之内	2 (2)				(堀2007)
弘川佃	滋賀	後期前葉	松ノ木	1 (1)				(堀2007)
下尾井	和歌山	後期中葉	一乗寺K	2 (0)				(清水1979)
佃	兵庫	後期中葉	佃下層期	4 (2)	1 (0)			(成瀬1998)
穴太	滋賀	後期中葉	元住吉山Ⅰ	3			付着部位不明	(成瀬1993)
森山	京都	後期中葉	元住吉山Ⅰ	1 (1)	1 (0)		ベンガラ塗布は北陸系注口土器	(岡田1997)
佃	兵庫	後期中葉	元住吉山Ⅰ	26 (17)	2 (0)	1	内面朱付着5点は有孔皿形土器	(成瀬1998)
西坊城	奈良	晩期前半	滋賀里Ⅱ	6 (1)	3 (0)	2 (1)		(成瀬2003)
秋篠・山陵	奈良	晩期前半	滋賀里Ⅲa	3 (3)	3 (2)			(岡田1998)

表19 三宅西遺跡出土縄文土器（仏並・向出含む）分析結果表

番号	器種分類	赤色顔料付着位置	Fe	Hg	S
三宅西328	浅鉢	内面	—	◎	○
三宅西384	—	底部内外面	○	×	×
三宅西 [223]	—	内面	—	○	○
三宅西330	浅鉢	内面・断面	—	◎	○
三宅西286	深鉢	胴部・内面	—	○	○
三宅西332	浅鉢	胴部・内面	—	○	○
三宅西 [227]	—	内面・断面	—	◎	○
三宅西373	—	底部・内面	—	○	○
三宅西 [229]	—	内面	—	○	○
三宅西326	浅鉢	内面	—	◎	○
三宅西424	浅鉢	外面（口縁部沈線内）	—	○	○
三宅西425	浅鉢	外面（口縁部沈線内）	—	○	○
仏並62	深鉢	内外面	○	×	×
向出22	浅鉢	内面	—	○	○
向出321	深鉢	内外面	—	◎	○
向出407	浅鉢	内面	—	◎	○
向出464	注口？	内面	—	○	○
向出508	浅鉢	内面	—	○	○



写真11 三宅西遺跡出土縄文土器 赤色顔料付着状況

註

- 註1；成瀬正和 1998「縄文時代の赤色顔料Ⅰ」『考古学ジャーナルNo.438』 ニュー・サイエンス社
- 註2；註1参照
- 註3；小野山節・清水芳裕編 1979『和歌山県北山村下尾井遺跡』 和歌山県東牟婁郡北山村教育委員会
- 岡田憲一 1997 「縄文時代」『森山遺跡発掘調査報告書』 城陽市教育委員会
- 岡田憲一 1998 「縄文時代（滋賀里Ⅲa式段階）の遺物」『秋篠・山陵遺跡』 秋篠・山陵遺跡調査会 奈良大学
文学部考古学研究室 学校法人正強学園
- 奥 義次 1988 「出土遺物－縄文時代遺物を中心に－」『森添遺跡発掘調査概報Ⅱ』 度会町遺跡調査会
- 清水芳裕 1992 「小阪遺跡縄文土器の胎土」『小阪遺跡』 大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター
- 中尾智行 2007 『讚良群条里遺跡』 (財)大阪府文化財センター
- 成瀬正和 1993 「大開遺跡出土赤彩土器の赤色顔料」『大開遺跡』 神戸市教育委員会
- 成瀬正和 1997 「佃遺跡から出土した赤色顔料関連遺物」『佃遺跡』 兵庫県教育委員会
- 成瀬正和 2000 「向出遺跡から出土した赤色顔料」『向出遺跡』 (財)大阪府文化財調査研究センター
- 成瀬正和 2003 「西坊城遺跡出土赤彩土器に用いられた赤色顔料」『西坊条遺跡Ⅱ』 奈良県立橿原考古学研究所
- 堀 真人 2007 「赤色顔料について」『弘川佃遺跡・弘川宮ノ下遺跡』 滋賀県教育委員会
- 森川幸雄 1995 「天白遺跡」 三重県埋蔵文化財センター

第7章 総括

一般府道住吉八尾線外（都市計画道路大和川線及び都市計画道路堺松原線）の建設に伴う三宅西遺跡の調査成果は、これまで述べたとおりである。大和川線は、大阪都市再生環状道路計画の一部を形成する路線であり、松原市域で三宅西遺跡や池内遺跡を横断することから、今回の調査に至ったものである。事前確認調査の着手が平成15年10月であり、現地調査から整理作業を経て本報告書刊行（平成21年3月）までに5年半の歳月がかかったが、予想以上の調査成果を得ることができた。

もっとも重要なことは、いままで大規模な発掘調査がおこなわれておらず、遺跡の空白地帯であった地域に、東西方向の大きなトレンチ調査を実施したかたちとなったことである。北側には、大和川をはさんで、弥生時代を中心とする瓜破遺跡が知られており、（財）大阪市文化財協会などの調査によって、考古学的な成果のみならず、地質的な情報も含めて多くの成果があげられている。また、南側には上田町遺跡、西側には大和川今池遺跡などが古くから知られており、周囲には著名な遺跡が多く存在する地域である。今回の調査地は、このような遺跡に囲まれた立地であるが、遺跡の実態が不明な状況であった。その中で、調査地周辺は、条里地割が明瞭に残っている地域として知られていることは、第1章で述べた。そこで、条里地割について、ここで簡単にまとめておくこととする。三宅西遺跡の発掘調査では、坪境などに関係する畦畔や溝などの検出はなく、調査地における条里地割の状況は不明であった。ただ、方位に合う道路や水路が調査区を横切っていることから、条里地割の痕跡の可能性はあるが、どの時期までさかのぼれるものかどうかは不明である。土層の堆積状況をみると、特に調査区の東半部で大規模な自然流路が数条調査区を横切っていることから、洪水が多く発生するなど不安定な状況であったことがわかる。ただし、西半部から池内遺跡の範囲にかけては、安定した地形が広がることから、条里地割が残っている可能性があり、調査でも一部検出されている。むしろこの方面での検討が妥当といえよう。

また、今回の調査では、（財）大阪市文化財協会の協力を得られたことから、瓜破遺跡や長原遺跡の調査により蓄積されている、大和川以北の層序との対比ができ、地質的な見地から見た堆積状況や古環境の復元などが可能となった。現地調査においても、このような地質的な見地で層序を観察するという機会が増えたことから、従来の土層観察とは一味違った発見がみられたことなどがあり、有意義な調査がおこなえたといえる。

三宅西遺跡の調査成果は各時代にわたるが、ここでは調査担当者がその成果のうち、三宅西遺跡において特徴的と考えられる点についてまとめた文章を掲載して、総括にかえたいと思う。古い時期からあげると、縄文時代中期の一括土器や遺物の問題、弥生時代中期を中心とした集落、弥生集落における石器生産の問題、古墳時代の木組みが検出された流路などの成果を中心として、展開したものである。また、自然科学的分析を各種おこなっているが、第6章に掲載したそれらの成果に対する調査担当者の評価もあわせて盛り込んでいる。

なお、調査担当者の意見や文章をあまり手を加えずに構成したため、統一のとれていない点が多くみられる。また、それぞれの文章が完結したかたちになっているので、別の節で同じ内容について重複して言及している部分もみられる。本文中においても同様に、調査担当者の意見や表現を尊重したことから、一部異なった表現などがあることは了承されたい。

第1節 三宅西遺跡における自然科学分析の評価

三宅西遺跡では、自然科学分析として3128流路出土縄文土器の¹⁴C年代測定、赤色顔料の蛍光X線分析および各遺構出土の木材の樹種鑑定、種実同定を行った。また、全調査区を通して、隣接する池内遺跡および瓜破遺跡等との比較検討を行うことを目的に総合調査を行った。以下、時代ごとにその成果を述べる。

<縄文時代>

縄文時代中期と想定される3152流路からサンプリングした種実の同定結果では、生食可能で収量も多いイチイガシやクスノキが多く検出されている。3152流路出土のこれらの種実は、第6章第2節でも述べられているように、自然堆積によるものと考えられ、縄文海進最盛期の頃の本遺跡周辺には、食糧獲得が容易な常緑広葉樹を主体とした豊かな森が広がっていたものと推測される。一方、第6章第1節に掲載した総合調査における、花粉帯を基にした植生復元では、コウヤマキ等の針葉樹を主体とし、広葉樹が混交する林が想定されており、種実同定から推測される植生とは若干の齟齬をきたす結果であった。

縄文時代後期中葉の3128流路でも、3152流路同様に、イチイガシやコナラ亜属といった常緑広葉樹の構成要素となる種実が多く検出されている。一方、3128流路出土縄文土器の¹⁴C年代測定結果(名大)では、3550¹⁴C Bp前後に集中するという結果が得られた。3128流路出土縄文土器は、北白川上層式3期の一括資料であり、同形式と対応する加曾利B1式の東京都下宅部遺跡出土縄文土器の¹⁴C年代測定結果ともほぼ一致することから、両形式間の時空間における対応関係を土器形式からだけでなく、理化学年代においても裏付けることが出来た。

ただし、今回の¹⁴C年代測定の結果からは、今後の年代測定における大きな問題点も浮かび上がった。三宅西遺跡は、河内台地の縁辺部から沖積地にかけて立地し、海からは比較的距離のある内陸部の遺跡である。しかしながら、今回年代測定と同時に行った炭素・窒素安定同位体比分析の結果では、5点の内、確実に陸上動植物の値を示すものが3点あったのに対し、海洋起源の有機物の影響を受けている可能性を示す値のものが1点(MY-235)あった。この試料(MY-235)は、年代測定の結果においても、他の試料より古い年代が出ていることから、海洋リザーバー効果の影響を受けている可能性が考えられる。このことは、内陸部の遺跡で出土した土器付着炭化物を用いた年代測定の結果にも、海洋リザーバー効果の影響を考える必要性を示唆する結果であると言える。その意味では、今日行われているAMS年代測定法による土器の年代決定に関しても、この点から再検討の余地が考えられるのである。

なお、3128流路出土縄文土器の一部に認められた赤色顔料は、10点中9点が水銀朱(HgS)であった。このことは、従来考えられていた一乗寺K式よりも早い北白川上層式3期の段階で、水銀朱の利用が拡大していたことを示唆する結果であった。今回、大阪府下および他府県の縄文時代後晩期の土器付着赤色顔料の科学分析事例を集成したところ、赤色顔料の主体は、後期初頭ではベンガラ、後期前葉ではベンガラと水銀朱、後期中葉で水銀朱へと推移しており、おおよその傾向としては今回の分析結果と一致するものであった。しかしながら、分析された資料の個体数が絶対的に不足しており、今回の結果が時期差を反映したものであるのか、地域差を示すものであるのかについては今後、資料数の増加を待って再検討すべき課題であろう。

<弥生時代>

樹種鑑定を行った弥生時代の竪穴住居の柱根は、全て落葉広葉樹（コナラ節・クヌギ節・ヤマグワ）であった。これは、入手が容易で、重硬で強度がある木材を選択的に利用していた可能性を示すものである。

また、大量のサヌカイトが出土した2123土坑からは、栽培植物であるモモ、マメ類、イネの胚乳が検出された。これらはすべて炭化していることから、2123土坑は、石器製作に伴う石材貯蔵穴ではなく、廃棄土坑である可能性が高いと考えられる。

今回の調査では、調査区内において弥生時代の水田遺構を確認することは出来なかった。しかしながら、総合調査において弥生時代以降、イネ科および水田雑草と考えられる種類の花粉が、顕著に増加することが指摘されていることから、調査区外の極近在に本調査で検出した弥生時代の集落に伴う水田遺構が存在するものと考えられる。

<古墳時代>

3009流路および3125流路から出土した木組み群は、樹種鑑定の結果、落葉広葉樹のコナラ節やクヌギ節の利用が多いものの、常緑広葉樹であるアカガシ亜属や針葉樹であるヒノキやマキも確認された。これらは、種実同定や花粉分析等の結果から、三宅西遺跡周辺に多く生育していたと考えられ、比較的入手が容易で強度が高く、加工のしやすい木材が利用されている。また、3009流路で出土した木錘や3345井戸で出土した井戸枠には、重硬で強度の高いコナラ節が用いられているなど、目的に応じた木材の選択が行われていたと考えられる。

なお、3413井戸からは、炭化したイネの胚乳やマメ類、ヒョウタン類をはじめとする栽培植物が種実同定の結果、確認された。これらは、3413井戸の廃棄に伴う埋土内から出土していることから、3413井戸廃絶時に当時の生活廃棄物を廃棄したものであると考えられる。

以上、各時代において実施した自然科学分析の成果を検討した結果、花粉分析から想定される植生と遺構出土の種実同定および樹種鑑定から想定される植生では若干の齟齬をきたすことが判った。今回の齟齬が、用途による木材の選択的利用に伴い生じたものであるのか否かは不明である。しかしながら、花粉分析が、その対象とした時期の植生をどのくらい反映しているかについては今後、再考の余地があるといえるであろう。

また、三宅西遺跡は、河内台地の縁辺から沖積地にかけて立地し、複数の流路が調査地を横断している為、各層が収斂と分離を繰り返すきわめて複雑な地層であった。特に、調査区の西半では、東半で密に検出される弥生時代中期の遺構・遺物が全く検出されないなど、地層間における繋がりが遺構、遺物からだけでは判然としない状態であった。そこで各調査区において断面調査で深堀をかけることにより、下位層の状況と鍵層となる層準を把握することに努めた。その結果、三宅西遺跡全体を通して、横大路火山灰層（K-Ah）を含む層準であるMY11層が、安定的に存在することが判った。このMY11層を鍵層とすることで、上位層における地層間の繋がりを解明することが出来た。その意味では、三宅西遺跡のような複雑な地形に立地する遺跡の場合、このような火山灰分析による地層の把握は極めて有効な手段であるといえるであろう。

（清水）

第2節 縄文土器および古墳時代の土器について

<縄文土器>

三宅西遺跡においては、層内最下部より縄文時代晩期後半の長原式が出土する第7e層から、横大路火山灰層（K-Ah）を含む11層が、縄文時代に相当する層準である。なお、第7e層出土土器については、畿内第I様式を主体としていることから、弥生土器の項で後述する。

三宅西遺跡全体を通して、縄文時代後期中葉の一括資料が出土した3128流路を除き、明確な縄文時代の遺構・遺物の存在は希薄である。特に、縄文時代後期以前の遺物は極少量で、大部分がサヌカイト製石器である。

第10層内で検出した3152流路から出土した土器片231は、細片であるだけでなく、ローリングを強く受けている為縄文原体は不明であるが、縦方向の施文であることから、縄文時代中期の船元式の可能性が考えられる。

第9a層内で検出した3128流路から出土した縄文土器については、第5章第3節で詳細に分析、検討を行っているので、ここではその概要を述べるにとどめる。これらの縄文土器の大きな特徴として、器面の炭化物付着が顕著で、遺存状態が良好であり、大ぶりの破片が目立つことが挙げられる。また、有文土器に施された縄文原体の約99%がLR縄文であり、底部がすべて平底である等、北白川上層式3期の指標とされる特徴を有する。3128流路出土縄文土器は、流路資料であること、第5章第3節でも触れたように、北白川上層式3期の細分案（岡田2008）の分析に用いられた当該期の遺跡とは若干異なる様相を示すこと等、今後検討が必要ないくつかの問題点はあるものの、他の時期の土器を含まない一括性の高いまとまった資料であり、北白川上層式を細分する上での重要な資料となりうると考えられる。なお、3128流路を検出した第9a層上部で、サヌカイトおよび縄文土器が出土している。特に、弥生時代前期初頭～縄文時代晩期にかけて稼働していたと想定される、3527流路の影響を受けていない3128流路西肩周辺では、サヌカイトの出土が顕著であった。このうち、1235（11区）や151・152（3・4区）は小片で、摩耗も激しいが、その施文された文様から縁帯文土器と考えられ、縄文時代後期中葉の北白川上層式3期～元住吉山式に相当する。

第8層内流路である3527流路からは、縄文時代晩期の土器が出土している。これらの土器は、3128流路出土土器同様、大ぶりで遺存状態の良好な破片が多いが、一方で晩期前半の滋賀里Ⅱ式～後半の長原式までを含むなど一括性に乏しく、一定の時間幅が存在すると考えられる。

<古墳時代の土器>

三宅西遺跡では、包含層より須恵器および古式土師器が出土する第7a～c層が、古墳時代に相当する層準である。古墳時代の遺構密度が最も濃いのは、3～4区および13～16区であるが、全体的な傾向として、3344流路以西では第7層内から古墳時代の遺物が大量に出土しているのに対し、3344流路以东では古墳時代の遺構・遺物の存在が比較的希薄である。なお、3125流路以西（1～6・13・14区）では第7a～e層が、2362流路以东（9～11・18～20区）では第7a～c層が収斂していた為、一括で検出を行った。

三宅西遺跡から出土した古墳時代の土器を概観すると、庄内式期後半、布留式期前半、須恵器導入期の3時期に区分することができる。

このうち、最も遺構・遺物共に密度が低いのが庄内式期である。庄内式期では、第7c層上部で形成された、3413井戸から出土した庄内式Ⅳ期の河内型庄内甕を挙げることができる。なお、7・15～17区にかけて分布する第7c層からは、凶化可能な土器の出土はごくわずかであったが、生駒山西麓産の特徴的な胎土を持つ河内型庄内甕の土器片の出土が顕著であった。

布留式期前半は、三宅西遺跡の古墳時代においてもっとも遺構・遺物共に密度が高い時期である。特に、調査区外の南に集落が続くと考えられる、15～17区第7a層下面で検出した集落遺構から出土した土器は、壺・甕・高杯といった主要な器種をはじめとして多岐にわたる。特に、壺に関しては東阿波型(541)や西部瀬戸内系(526)といった外来系の搬入品が含まれているだけでなく、在地系の壺の中にも3192溝より出土した角閃石を含む粘土と含まない粘土を交互に使った複合口縁壺(497)のような特殊なものも含まれている。なお、これら第7a層下面検出の遺構群は、庄内式甕と布留式甕が供伴して出土するだけでなく、小型三種のうち口縁部の発達した小型丸底土器が出土するものが多いといった特徴を有することから、庄内併行布留に相当する期間を中心に存続したものと考えられる。

須恵器導入期の遺構は、3002・3009・3293流路といった流路遺構を除くとごくわずかであるが、一方で土器を含む遺物の出土量は非常に大きい。特に、これらの流路遺構から出土した土器に完形品が多くみられることから、今回の調査域の極近在に、当該期の集落本体が存在していることを示唆しているものと考えられる。このうち、最も遺物出土量が大きかったのが、3009流路である。3009流路からは、初期須恵器や韓式系土器、百済地域から持ち込まれた可能性のある瓶形土器等を含む土器や木製品など、5世紀中葉を中心とするコンテナ22箱に及ぶ遺物が出土している。

3009流路の出土遺物の検討・分析については、すでに第5章第1節で行っている為、ここではその要点を述べるにとどめる。3009流路出土の土器群は、前時代に比して土師器の器種構成内における高杯の高率化や坏の出現という須恵器導入期における供膳形態の変化を示唆するとされる近畿地方における当該期の一般的様相を示している。一方で、瓶形土器の出土をはじめ土師器と須恵器の比率がおおよそ3：1であるなど渡来人系集落とされる長原遺跡ほど顕著ではないものの、大陸系要素が強い傾向にある。また、ほぼ同時期と考えられる3293流路から出土した土器群でも、同様の傾向が認められる。なお、3293流路から出土した225の壺は、極めて特異なものである。器形的には、TK216前後の須恵器壺に近似するものを見いだせるものの、須恵器とは明らかに異なる後世の瓦質土器とよく似た胎土を有する。韓半島においては陶質以外に瓦質の土器が存在すること、兵庫県神戸市で当該期の瓦質土器の窯が発見されていることなどから鑑みると、225も韓式系土器の一種と位置付けられよう。

以上のような須恵器導入期の本遺跡における土器構成は、長原遺跡の周縁部に位置するという三宅西遺跡の立地上の関係とも深くかかわっているものと考えられる。

(清水)

第3節 弥生時代中期の集落について

今回の調査では、調査区の東半部で、現道等に分断されながらも、弥生時代中期前葉（畿内第Ⅱ様式）の集落跡を広い範囲にわたって検出できた。その成果の一部は、現地公開資料等を通じてすでに紹介さ

れ、論文（菅2007）に引用されている。本報告書においては十分な分析はできなかったが、いくつか気付いた点を簡単にまとめておく。

<弥生時代の居住域>

弥生集落の居住域は、竪穴住居、掘立柱建物、土坑などが集中する範囲から、東西方向については、東は自然流路（2100流路）、西は自然の傾斜地によって画された東西約100mの範囲にほぼ確定できる。一方、南北方向については、調査地域を越えて遺構が続く（少なくとも南北95m以上）が、概ね、直径100mの程度であったと推定される。この居住域は、既述したように、弥生時代前・中期の遺物包含層である第7e層によって覆われている。また、居住域より南西にやや離れた18区南端部には方形周溝墓が築かれており、墓域が存在したものと考えられる。なお、現地公開資料で10区中央北部に想定した小区画水田は、その後の検討で認められず、生産域は未検出となった。

居住域の東限となる2100流路は、西に円弧を描くように北流している。古代の流路に削平され、弥生時代の肩部は削られていたが、斜面に残された堆積層から、当時の川幅は約10m、深さ2.7mあったと推定され、自然の「濠」の役割も果たしたと考えられる。この2100流路の東には、流路に沿って伸びる細い溝（2301溝）を検出した以外、包含層は広がるものの、遺構がほとんどない。

一方、居住域の西限は、傾斜地にかかる部分までと考えられ、明瞭な区画施設を認めない。ただし、10区東半部の南北に並ぶ柱穴群（柱列10・11など）を柵と仮定すれば、部分的ではあるが、区画施設の役割を果たしたとも考えられる。この柱穴群より西側では、対応する地層が続くものの、遺物・遺構の密度が極端に減少し、斜面の谷底にあたる小規模な流路（2100流路）に至る。なお、居住域の西南の端は、現道や後世の流路によって確認できないが、18区と19区の間想定される。

周囲の地形は、緩やかに南東から北西に下降している。遺構面の標高は、19区南東端でT.P.+9.8m、10区北西端でT.P.+8.5mを測り、居住域に限れば、その南東端でT.P.+9.7m、北西端でT.P.+8.5mとなり、東西で約1.2mの差がある。さらに、細かくみると、2121及び2120流路の西岸に沿って、南西から北東に帯状に伸びる高まりと、19区西北端から10区東側にかけて東南から北西方向へ舌状に伸びる高まりが認められる。また、この2条の微高地にはさまれた11区西～中央部は、周囲より約0.5m谷状に窪む。竪穴住居や土坑など遺構の大多数はこの微高地上に営まれ、北に開く馬蹄形に分布している。こうした微起伏は弥生時代以前の古い流路がその形成に関与していると考えられる。

<遺構の時期と新旧関係>

検出された遺構には、弥生前期後葉（畿内第1様式新段階）のものと、弥生時代中期前葉（畿内第II様式後半が主体で、畿内第III様式初頭に下がる可能性のあるもの含まれる）のものに2分され、大半は後者に属している。

●弥生前期後葉の遺構

遺物が出土した確実な遺構をあげると、以下の通りである。（*は土器実測図を掲載したもの）

4231土坑・河内I-3様式（*）

2411土坑・河内I-4様式（*）

2430土坑・河内I-3様式（*）

4241土坑・河内I-3様式（*）

2121流路・河内I-4様式（*）

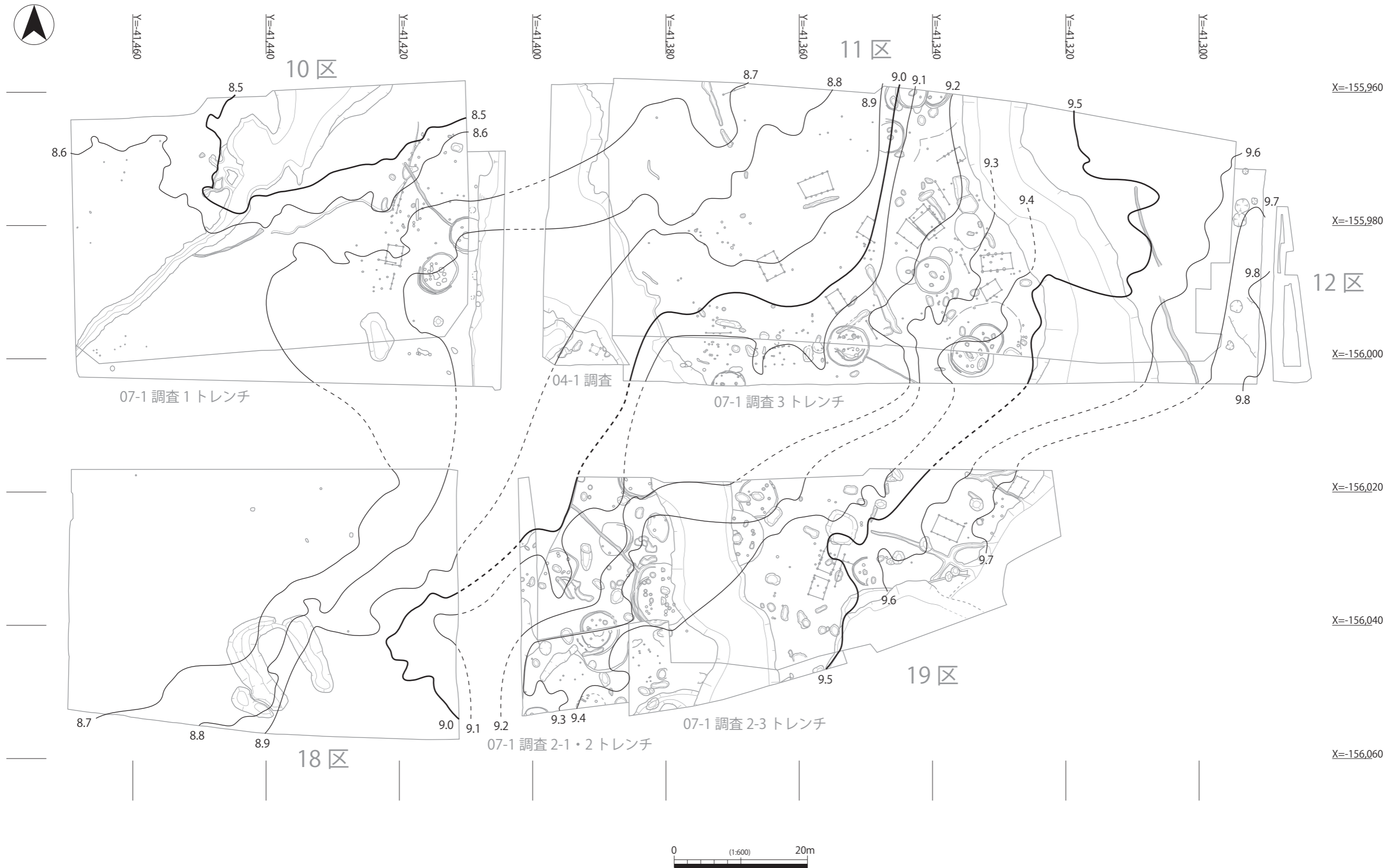


図324 弥生集落の遺構配置図およびコンター図

●弥生中期前葉の遺構

次に、弥生中期前葉の遺構を取り上げる。分布密度が高く、いわゆる切り合いが随所に認められた。また、部分的ではあるが、包含層である第7e層を、第7eii層上面、及び第7eiii層下面の2面に分けて遺構を検出した地区がある。ただし、遺構の所属面は必ずしも確定的なものではない。

○切り合い関係（I→II→IIIは竪穴住居の壁溝の重なりを示す。＊は土器実測図を掲載したもの）

10区

2029土坑（＊） → 2058溝（＊）（竪穴住居1排水溝）

竪穴住居2 I→II→III

11区

竪穴住居13・竪穴住居11 → 竪穴住居12（＊）・・・・・・規模拡大

竪穴住居8（＊）・竪穴住居9（＊） → 竪穴住居7（＊）・・・・・・規模拡大

竪穴住居6（＊）・4147土坑（＊） → 竪穴住居3（＊）I→II→III・・・・・・規模拡大

竪穴住居4 I→II

竪穴住居5 → 4081土坑

2273土坑 → 2270土坑

19区

竪穴住居17（＊） → 2205溝（＊）（竪穴住居19II（＊）の排水溝）

4240土坑 → 4233土坑

竪穴住居21（＊） → 竪穴住居20（＊）・・・・・・規模拡大

4314土坑（＊）・4301土坑（＊） → 4308溝（＊）

4237土坑（＊） → 4229土坑（＊）

2192土坑（＊） → 2119土坑（＊）

2125土坑 → 2193土坑

竪穴住居18 I→II → 4315土坑・4314土坑

竪穴住居19 I→II a→II b

○層位的上下関係

11区

2107溝（＊）・2117土坑（＊）・2110溝（＊） → 2130土坑（＊）・2129溝（＊）

19区

2203溝（＊） → 竪穴住居16（＊）・竪穴住居18（＊）・2215土坑（＊）

2415土坑（＊） → 2428土坑（＊）・2421土坑（＊）・2420土坑（＊）

<弥生集落の景観復元>

同時期の遺構群を抽出し、集落景観を復元することは、今後の課題として残るが、次の諸点を指摘しておく。

① 前期後葉の遺構群は、数が少ないが、19区中央の南側で微高地部分にまとまっている。ただし、住居跡が未確認であり、調査区を外れた南側に居住地の主要部分があったものと推定される。

② 中期前葉の遺構群は、先に想定した居住域の各所で切り合い関係が認められる。このことは、集落出現の当初から、直径100m程度の居住領域を有していたと考えられる。

③ 竪穴住居の多くには、最低1回の立て替えが認められ、さらに、壁溝の作り替えが2～3回伴うものがある。さらに、切り合うものは、竪穴住居19を除き平面規模の拡大が見てとれる。このことは、当初、比較的小型の竪穴住居群によって構成された集落から、次第に竪穴住居が大型化したことを示す。この場合、棟数が絞られていったか、あるいは、規模の格差が顕在化したかの、2つの場合が考えられる。

④ 竪穴住居の深度と平面形では、切られる側では、掘り込みが浅く楕円形を呈するなど、やや不定形であるのに対し、切る側では、掘り込みが明瞭でかつ円形に近づく例が多い。また、竪穴住居の中には、楕円形の中央土坑と長軸の対角方向の2箇所にピットを伴う、松菊里型住居が含まれているが、この内、切られる側である竪穴住居9及び、竪穴住居8では、中央土坑からピットの位置が離れ、2本のピットが支柱となるのに対し、切る側である竪穴住居7及び、竪穴住居3では、ピットが中央土坑に接近し、かつ小型化するとともに、これとは別に支柱が4本（竪穴住居3）ないし5本（竪穴住居7）設けられるなど、形態的な変化がみとめられる

⑤ 立て替えが、竪穴住居と掘立柱建物の双方に認められることから、両者は同時に並存し、セットとして機能した可能性が高いが、谷状のくぼ地に位置する掘立柱建物2などは、単独で存在したものと考えられる。

⑥ 切り合いと検出面による遺構の新旧関係が、弥生土器の微細な様式差に反映しているか検討したが、資料が少ないこともあって、十分な違いを認めることはできなかった。（次節参照）なお、自然流路及び、一部の土坑を除き、土器の残存状況は悪く、図化できたものは調査面積に較べて少ない。

⑦ ただし、畿内第Ⅱ様式でもその新相に出現する簾状文土器を出土した遺構（11区2271土坑・2129溝、19区2192土坑・2123土坑・掘立柱建物6柱穴）の分布を見ると、11区、19区の東部（2100流路西側の微高地）に集まることが判る。このことは、集落の最終段階に、居住域が東半部に後退・縮小した可能性を示す。なお、18区の方形周溝墓1は、この時期に属す可能性が高い。ただし、簾状文土器を出土した遺構が、前述した切り合い等による遺構新旧関係で、すべて新しいわけではない。

⑧ 前期後葉と中期前葉の土器様式の間には、若干の隔たりがあり、今回の調査区内では居住地として連続して営まれたものではないようである。（次節参照）

⑨ 中期前葉の集落が廃絶し、一定の時間をおいた弥生中期末～後期初頭に元の居住域を分断するように大規模な流路（2410流路）が流れ始める。それまでは、東縁に大規模な自然流路（2100流路）があったものの、比較的安定した自然環境を維持したと考えられる。

（森井）

註

菅榮太郎 2007 「弥生時代の集落景観と集団関係」『考古学に学ぶ（Ⅲ） 同志社大学考古学シリーズⅨ』同志社大学考古学シリーズ刊行会

第4節 三宅西遺跡出土の弥生土器

今回の調査において、弥生集落からだけではなく、調査区全域から出土した弥生土器（縄文時代晩期の長原式土器含む。）について、簡単にまとめておく。

<東半部>

三宅西遺跡10～12、18～20区からは、縄文系の長原式土器、弥生前期（畿内第Ⅰ様式）、中期前葉（畿内第Ⅱ様式）、中期後葉（畿内第Ⅳ様式）の弥生土器が出土している。弥生土器は、流路出土品を除いて、土質の影響で脆弱化し、文様や調整痕の残りが不良である。

長原式土器は、土坑、流路、包含層から、他の時期の遺物と混在して出土し、図化したものは6点ある。2120流路から椀形の深鉢で一段凸帯のものが、また、11区の第9層からは二段凸帯をもつ深鉢が出土している。761を除いて凸帯は蒲鉾形で細く、刻目も小型化していることから、長原式でも新しい段階に位置づけられる。761は、断面三角凸帯を口縁部に残す弥生土器の可能性が有る。生駒山西麓産の胎土は、6点中3点を占める。

弥生前期の土器は、11区2120流路で、弥生中期の土器と混在した状況で最も多く出土した。一方、19区南側の土坑群及び、2120流路によって切られる2121流路からは、前期の土器のみが出土している。図化したものは、31点である。複数個図化できた2430・4241・4231各土坑は、いずれも畿内第Ⅰ様式中段階の後半にあたる河内Ⅰ－3様式に比定される。他にも、この段階に相当する個体が多い。また、2411土坑と2121流路出土の広口壺は、やや時期が下り、河内Ⅰ－4様式であろう。これに対し、流路2120の出土品の中には、畿内第Ⅰ様式中段階の前半にあたる河内Ⅰ－2様式に遡る広口壺3点が含まれる。前述した長原式土器は、これらの土器群と同時期に使用されていた可能性がある。本調査区では、弥生前期末にあたる河内Ⅰ－4様式後半を特徴づける多条の沈線・貼付凸帯をもつ個体は少なく、集落遺構の土器群の主体である畿内第Ⅱ様式後半とは、時期の隙間が生じている。

器種構成では、広口壺16点、鉢2点、甕1点、甕蓋2点、有文の体部片9点、底部1点を数え、広口壺が圧倒的に多い。広口壺ではa形態の割合が高く、丈高なb形態が少ないことは、前期末小様式を欠くこととも関連する。988・993は、頸部が太短い形態の大型品である。文様では、沈線文2～7条で構成されるものが多く、段、削出し凸帯、貼付凸帯は少ない。739は、多条の削出し凸帯に布目圧痕文を施している。また、1001は灰白色の胎土を有し、文様構成からも搬入品と考えられる。生駒山西麓産は2点（内1点は有文の体部片）あり、全体の6%を占めるに過ぎないが、この時期の河内平野周辺としては通常のある方と考えられる。三宅西遺跡の在産とされる胎土は、石英、長石、チャートの1～2mmの砂粒を含むものと推定される。

弥生中期前葉の土器は、居住域を調査したこともあり、弥生土器の大半を占める。図化したものは、257点を数える。最も多く出土した遺構は11・19区2120流路であり、竪穴住居、土坑、溝からの出土品は概して残りが悪く、図化できたのは多くて各遺構7～8点以内である。個体の少なさは、保存状況に加え、集落の存続期間も影響していると考えられる。集落を構成する遺構群は、部分的に掘り分けられた層位的上下関係や切り合いによって、2～3段階に区別が可能であるが、土器様式上の識別は困難であった。ただし、河内平野における畿内第Ⅱ様式の3細分案によれば、河内Ⅱ－2・3様式に属するもので占められる。また、層位的に新しく位置づけられる18区方形周溝墓1と、19区中央から東方に広がる土坑群には、河内Ⅲ様式に近い、新しい様相が見られる。

器種は、広口壺33点、無頸壺5点、鉢13点（この内、朝鮮半島系の鉢3点）、甕84点、蓋18点（この内、裾端部を残すもの8点）、有文の体部破片16点、底部88点から構成される。図化資料のみによる統計であるが、口縁部が残存する個体143点に対する比率では、広口壺・無頸壺あわせて壺は26%であるのに対し、甕は59%を占めている。なお、鉢は9%、蓋は6%である。

広口壺には、畿内第Ⅱ様式特有の多様性が認められる。この内、畿内第Ⅰ様式の広口壺b形態の系譜を引く長頸広口壺は、口縁を欠く個体を含めると10点以上を数える。いずれも頸部が長く伸び、口縁部は比較的大きく外反する新しい形態をとるが、頸部と体部との境界は緩やかに移行しており、その部分の稜が明瞭となる畿内第Ⅲ様式に下るものではない。長頸広口壺の型式組列としては、頸部が筒状に立ち上がる形態から、頸部下端が絞られてラッパ状に開く形態へ変遷すると見られ、本調査の出土資料では740→1034→802の推移が考えられる。有文の壺には、頸部が短く外湾するもの(742・629)と、長頸気味で上方が窄まる形態のもの(679)が見られる。また、口頸部のみの破片だが、口縁端部が長く垂下し、外端面に指頭による刺突文を施したもの(615・709・765)、あるいは、その退化形と見られる縦長の刻目を施す土器(764・1159)が出土している。これらは、東海地域の縄文系壺に系譜を持ち、中期前葉に摂津地域等によく見られる器種であろう。この他、無文の壺では、頸部が太く直立気味に立ちあがった後、短く外反する形態(1033・1041)と口縁部が緩やかに外反する形態(798)がある。体部が算盤玉形に張る壺(640)は、無頸壺になる可能性もある。

無頸壺には、有文で体部が扁球形で口縁が内湾するもの(745・599)と口縁部が短く直立するもの(746)、無文で、やや算盤形の体部を有す小型のもの(631・1012)がある。

鉢には、有文で体部上半が内湾気味に直立するもの(747)と外傾するもの(748・819・1019)、無文のもの(638・753)がある。このうち、甕に近い形態の鉢(1076)は、上・下端に刻目、口縁内面に櫛描文を施し、琵琶湖沿岸地域の特徴をもつ。方形周溝墓1周溝出土の把手付の鉢は、従来畿内第Ⅲ様式以降に出現するとされていたが、八尾市山賀遺跡では畿内第Ⅱ様式に伴う例が見られ(財)大阪府文化財センター2007a)、型式学的にも、縦長の三日月状の把手形態や体部に描かれた稚拙な櫛描文をもつなど、古い特徴を示している。その他、朝鮮半島の後期無文土器との関連を指摘される口縁端部外面に粘土紐を付加した鉢は、2120流路及び包含層から3点出土している。いずれも口縁部の上端を引き延ばし、折り曲げるようにして凸帯を貼り付ける手法から、「擬朝鮮系無文土器」としてよいであろう(秋山浩三2000)。秋山浩三氏は、近畿出土の擬朝鮮系無文土器について凸帯が扁平化する過程を型式組列として示しており、これによれば、三宅西遺跡出土品は前期新段階後半の弥生土器に伴う池上曾根遺跡例より凸帯の小型・扁平化が進み、高井田遺跡と唐古・鍵遺跡例と同様か、やや遡る形状を呈している。また、体部上半の外反する形状からもその時期と考えて矛盾はない。従って、本例はもともと畿内第Ⅱ様式土器に伴う可能性が高い。

甕では、大、中、小のサイズがあり、これとは別に、器面調整法の差異と縄文的成形手法との関係で系統分類される(森田克行1996、若林邦彦1993)。器表が摩滅し、調整の不明な個体が多いが、判明するものでは、内外面にヘラミガキを多用し、口頸部が緩やかに外湾する「河内形」が、約20点と多数を占める。他の類型として、「河内形」と同様のヘラミガキを多用するが、体部上半に弱い稜をもち、その部分を挟んで体部のカーブが異なる「和泉形」が3点、体部外面を細かいハケ調整し、頸部にやや稜を持つ「瀬戸内形」(1194)が4点、倒鐘形で底部が厚く、重量感のある北河内に特有の形態(1195)(財)大阪府文化財センター2007b)が1点、体部外面に粗な縦ハケを施す「摂津形」(623)が1点認められる。また、体部上半に稜を持ち外面をヘラケズリする「紀伊形」は2点あり、その内1点は、体部上半までヘラ削りを行う「四分形」に近いものも認められる。いずれも、結晶片岩の細片を胎土に含む。なお、口縁端部に刻目を有するものは、大型の甕1点のみである。この他、焼成前に底部中央に穿孔した「甌」と考えられる底部が、4点出土している。

蓋は、ミニチュア品(1216)を除き、甕蓋として用いられている。完形品は、全体に丈高で、頂部は比較的薄くつくられ、上面を窪ませてナデ仕上げを行っている。裾部内面には炭化物の付着が顕著に認められる。

広口壺、無形壺、鉢には、櫛描文が施される。施文原体の幅は11～14mm、櫛描の条数は6～11条の範囲にほとんどが集中する。櫛描文には、条線の太さと幅が不揃いなものと、よく揃った均整のとれたものの両者が認められる。文様構成としては、櫛描直線文を縦に重ね、直線文間に一条程度のヘラミガキを加える例が、長頸広口壺、あるいは鉢に多用される。これは、泉北地域において中期初頭に出現する櫛描直線文帯と付加条沈線の文様構成に起源をもち、その沈線部分が形骸化して暗文化したものと考えられ、畿内第Ⅱ様式中～後葉期の特徴ととらえられる。流水文(佐原真1972)は、櫛を連続回転させてX形反転部を作り出したもので、壺が2点あるが、他は、直線文に縦一列に弧文を付加したものが鉢で2点、直線文2帯に連結して弧文を施したものが1点あるなど、形骸化が進んでおり、流水文の分布中心域である八尾・東大阪市域の縁辺部の特色を示している。この他、平行する直線文帯間に縦向けに直線文を加えることで袈裟禪的に方形区画を構成した例(607)が認められる。無頸壺(746)は、区画線を櫛描波状文によって行い、さらに直線文、刺突文、波状文を組み合わせた複雑な構成となっている。畿内第Ⅱ様式でも新しい要素である簾状文を施した個体も数は少ないが認められ、687は、簾状文と波状文を組み合わせた畿内第Ⅲ様式期に河内平野周辺部で多用される文様構成を採用している。その他、前述したように口縁部文様として、押圧刻み目や細かい刻み目をもつ例がある。

生駒山西麓産の胎土を有するものは、図示資料の内74点を数え、全体(257点)の29%を占める。ここで、生駒山西麓産胎土としたものには、いわゆるチョコレート色を呈する土器の内、粗粒の角閃石が目立つ典型的なものと、肉眼では角閃石が目立たないが、ルーペで観察すると0.5mm以下の微細な角閃石を多数認めるものに分かれる。前者は31点、後者は43点である。この他、色調は灰黄色～橙色であるが、微細な角閃石をやや多く認めるものがあるが、これは生駒山西麓産胎土より省いた。弥生中期の中での時期差も配慮しなければならないが、概ね、泉北地域の池上曾根遺跡の11.4%より高く、より原産地に近い亀井遺跡の36.4%(三好孝一2001)よりやや少ない値を示している。内訳は、広口壺13点、無頸壺2点、鉢5点、甕22点、蓋2点、底部25点(内底部穿孔2点)、有文体部破片5点である。口縁部残存個体では、壺20%、甕30%となる。母数は少ないが、蓋では3%と低い。次に、結晶片岩片を含む紀伊産の胎土を有する土器は、合計7点(甕3点、底部4点)で、全体の3%である。灰白色を呈し、あきらかな搬入品と考えられる土器も3点(壺、甕、鉢各1点)認められる。

弥生中期後葉の土器は、当該期の遺構である2410流路からまとまって出土し、他に、2120流路で畿内第Ⅰ・Ⅱ様式に混在して取り上げられている。このほか、包含層からも僅かに出土し、合計16点を数える。器種構成は、広口壺3点、水差形土器1点、甕5点、高杯1点(口縁を欠くものを含めると3点)、底部3点(内、1点は底部穿孔)有文体部1点となる。2410流路出土品は、口縁部が上下に拡張し円形浮文を貼り付ける広口壺(1205)、筒状の脚部を持つ高杯など、河内Ⅳ-4様式でも後半に下る特徴を備える。甕には、典型的な河内形(1208)が含まれる。生駒山西麓産は4点あり、全体の25%を占めている。

<西半部>

三宅西遺跡2～4、7・8、15～17区から、中期後半～後期の弥生土器が出土しているが、量的には少ない。

弥生中期後葉の土器は、15～17区3344流路で、後期に混在して広口壺(446)が1点認められる。ピッチの細かい簾状文を施すが、口縁端部がつまみ上げられることから、河内周辺部の特徴を有し、河内IV—2・3様式に相当するであろう。

弥生後期前～中葉の土器は、7・8区3410流路で図化できたものが8点あり、口縁外面に稜の痕跡を残す短頸広口壺、肩部に列点を施す甕、擬凹線と綾杉状列点文を施す器台などが、河内V—0様式に遡る要素である。他の器種も含め、後期前葉に該当する。15～17区3344流路下部の4層からは、畿内第V様式がまとまって出土し、図化できた12点の内、頸部が直立し口縁端部が垂下する広口壺、小型の鉢、椀状杯部をもつ高杯は、いずれも河内V—1様式の特徴を持ち、時期の限られた一括性の高い資料と考えられる。8区第8a層(MY 7d層)からは、図化できた6点の内、丈高の広口壺、口縁端部をつまみ上げた叩き目を持つ甕などが河内V—2・3様式に比定され、後期中葉の特徴を備えている。これらの後期前～中葉の土器は、砂粒の少ない淡灰黄色を呈する精良な胎土を持つものが多く、一方で、生駒山西麓産の胎土を持つものが全く含まれていない。

弥生後期後葉の土器は、当該期の遺構から出土したものとして、3区3366土坑の小型の広口壺1点と甕3点が挙げられる。いずれも、形態的には河内VI様式後半(畿内第V様式末後葉)に位置づけられよう。

その他、粗な叩き目など弥生後期的な技法の特徴をもつ甕の多くは、庄内式～布留式初頭の遺構、包含層から出土し、いわゆる伝統的V様式の範疇でとらえられるものである。

(森井)

註

佐原真 1972「流水紋」『日本の文様 水』光琳社出版

森田克行 1996「畿内第Ⅱ様式土器」『日本土器事典』雄山閣

若林邦彦 1993「弥生土器地域色頭在化の構図—中期前葉の近畿とその周辺の甕形土器の製作技法と系譜を中心に—」『弥生文化博物館研究報告』第2集

秋山浩三 2000「近畿における無文土器系土器の評価」『突帯文と遠賀川』土器持寄会(秋山浩三2007『弥生大型農耕集落の研究』青木書店に所収)

三好孝一 2001「手工業生産と集落」『弥生時代の集落』学生社

(財)大阪府文化財センター 2007a『山賀遺跡』

(財)大阪府文化財センター 2007b『上の山遺跡Ⅱ』

第5節 弥生時代中期の石器について

三宅西遺跡では、10・11・18・19区の弥生時代中期の遺構から大量のサヌカイトが出土した。また、石器製作に使用されたとと思われる礫石器も少々出土している。磨製石器は、石斧類と石庖丁が少量出土している。

サヌカイトは、調査区の北側よりも南側の方で多く出土している。特に、19区の竪穴住居19から大量のサヌカイトが出土し、10・11・18・19区出土のサヌカイト総重量が114kgあるうちの、1割強にあたる15kg余りが、竪穴住居19から出土している。サヌカイトは、二上山産と思われるものが殆どで、金山産に似たものは極少量であり、石核や剥片に自然面を残すものが多い。

サヌカイトの打製石器出土遺構では、大部分の竪穴住居から小型石器の未成品が出土しており、竪穴住居以外では土坑からも未成品が出土している。

19区の竪穴住居19では、サヌカイトの石器未成品、剥片、チップ、石核ともに出土量が多い。それに対し、11区の竪穴住居3・6・7と19区の4311、4314、2131、4275、4334、2122、2125、2192土坑出土サヌカイトは、チップの出土量が多く、石核の出土量が少ない。

当遺跡出土のサヌカイト製石器未成品には、石鏃、石錐、中型尖頭器、石槍、石小刀があるが、圧倒的に石鏃の未成品が多く、ついで中型尖頭器の未成品が多い。石小刀は、極めて少ない出土量である。石鏃未成品は、石錐未成品と混同している可能性があるとしても、石鏃や石錐などの小型のサヌカイト成品を多く製作していた事は違いないといえる。小型石器類の石核は、片面に自然面を残したのものや、原礫から薄く輪切り状に割られた剥片素材で、ともに作業面が固定されており、片面だけで剥片を採取しているのが特徴的である。

石鏃では、円基式の形態が大半を占める事と、薄手で精巧な作りのものが目立つ点に特徴がある。鋸歯状剥離のもので観察すると、薄手で精巧な作りのものは剥離の間隔が極めて狭く、0.5～1.5mmの間でもおおよそ1mm間隔が多い。また、剥離の長さは短く、1～3.5mmでもおおよそ1～2mmのものが多い。そのような剥離状態を示すのは、栗田薫氏の論文（栗田1995）で指摘されているように、押圧剥離の際、かなり鋭い工具を用いた可能性を示す。

石槍や中型尖頭器といった大きめの石器は、殆どが製作段階で割れて破損したものが目立つ。中型尖頭器は、成品が極めて少なく、未成品が多いのが特徴的である。石槍は、出土量そのものが少なく、成品は両側縁部に再加工された痕跡を留める完形品が1点のみであり、他に破片が極少量みられる程度である。石槍の未成品は少量あり、大きさ4～5cmくらいのポイントフレイクも少しだが認められる。また、石核としたもののなかには中型尖頭器の未成品かと思われるものがある。それは片面を自然面そのまま残し、その反対側の面を作業面として剥離成形し、粗く成形する途中のものであろうかと考えられるものである。これらのことから、石槍は原礫から製作していたかどうか定かでは無いが、ポイントフレイクの存在により製作していた可能性は高いと思われる。また、中型尖頭器については、原礫から成品まで製作していた可能性がある。以上のことから、三宅西遺跡では大型品、小型品ともに量の違いはあったとしてもサヌカイト製石器製作を行っていた可能性があるといえる。

原礫は、長さ約20cm未満、幅約10cm、厚さは不明であるが、おそらく幅と同じ位かそれよりも薄い板状のものを遺跡内に持ち運んで加工したものと思われる。原礫の長軸を縦方向に置いて観察した場合、側面から打撃して片面の自然面を除去し、さらに同一側面で打点を多少移動させながら、2～3枚の剥片を剥離した後、相対する側面からの打撃により2～3枚の剥片を剥離している。石の目が原礫の長軸に平行である場合、側面の打点は上面寄りと直ぐその下にみられる例があり、剥離の痕跡も右側面2回、左側面2回と、交互に剥離作業を行っている可能性のある石核もみられる。石の目が長軸に対して斜めになっている場合には、剥離作業がうまくいかず、両側面を2～3回、交互に剥離するようなことはせず、何度も同じ場所周辺ないしは同じ側面を叩いて剥片を剥離しようとしている傾向がみられる。石の目の方向など関係なく、作業面は常に同一面であり、裏面には自然面を留めるのが特徴的である。剥片の大きさは、竪穴住居19出土の剥片で、残存状況の良いものでは長さ2～3cm、幅2～4cmのものが半分以上を占める。

礫石器では、サヌカイトの石器製作に使用したと考えられる敲き石が多くみられる。石材は、砂岩が

7割強、チャートが1割強、その他の石材として花崗斑岩、流紋岩、凝灰岩、石英斑岩、結晶片岩、黒雲母花崗岩、ホルンフェルス、斑レイ岩がある。形態的なものでは、チャートは丸い礫を、砂岩は扁平な礫や掌に握りやすい大きさの礫を主に選んでいるようである。使用痕跡でみると、チャートは打撃により表面が凸凹し、割れたものもみられる。砂岩製のもの、剥離を伴う打撃痕や割れもあるが、長軸末端部に敲打痕、側面などに線状打撃痕をもつものが特徴的である。これらのことから、サヌカイトを石器製作する際、チャートで荒割りし、砂岩製の敲き石で剥離調整したものかと考えられる。

台石と思われるものは、竪穴住居3と竪穴住居19から各1点、2120流路や包含層から出土のものを含めると合計5点みられ、竪穴住居出土のものには研磨痕もある。砥石は砂岩製のものが3点あり、竪穴住居7・19から各1点、2122土坑から1点出土している。

磨製石斧類の出土点数は、太型蛤刃石斧が8点、扁平片刃石斧では扁平片刃石斧と思われる破片を含めると4点、柱状片刃石斧は2点ある。石斧類の残存状態は悪く、殆どが破損している。完形の小型柱状片刃石斧では、一回り大きい柱状片刃石斧を再加工した可能性があり、扁平片刃石斧では、太型蛤刃石斧の破片を再加工したと考えられるものがある。これら石斧類の未成品は出土していない。太型蛤刃石斧の石材は、凝灰岩が4点、砂岩が2点、閃緑岩？1点、花崗岩類が1点である。柱状片刃石斧では、安山岩？1点、結晶片岩1点である。扁平片刃石斧では、凝灰岩が2点、砂岩が1点、粘板岩が1点である。

石庖丁は、小さいかけらまで入ると40点あり、そのうち粗割り段階の未成品かそのかけらと思われるものが14点ある。石庖丁の石材は、緑色片岩、黒色片岩、泥質片岩などの結晶片岩が8割強を占める。結晶片岩以外では1割弱の流紋岩、その他に凝灰岩か不明、安山岩か、泥質片岩または粘板岩がみられる。

これらのことから、磨製石器の石斧類は成品で搬入されたものを、研ぎ直しや大型石斧の折損品を小型石斧に再加工して使用されたものかと推測される。これに対し、石庖丁は搬入された素材の状態は不明であるが、少なくとも粗割り成形した状態のものが認められたことから、石庖丁の仕上げ加工を集落で行っていたことが推測できる。

太型蛤刃石斧では打撃痕、石庖丁では背部や刃部に線状の打撃痕が、出土点数は多くないが認められた。

参考文献

竹岡俊樹 1989 『石器研究法』 言叢社

同志社大学歴史資料館 1999 『大阪府和泉市 観音寺山遺跡発掘調査報告書』

松本百合子・久保和士 1993 「石器作りの家―長原遺跡の調査から―」 『大阪市文化財情報 葦火』 45号
(財) 大阪市文化財協会

富田林市教育委員会 1997 『富田林市埋蔵文化財調査報告28 平成8年度富田林市内遺跡群発掘調査報告書』

粟田薫 1995 「打製石剣の製作技術」 『大阪府立弥生文化博物館研究報告』 第4集

以上、石器のまとめとしたが、整理の段階で多くの方々のご協力を得た。石器整理の手順や観察項目、接合資料の実測など、上峯氏には大変お世話になった。また、菅氏、粟田氏、船築技師、真田氏、安富氏には色々と御教示頂いた。記して感謝の意を表す。私の不勉強と理解不足で、折角の御教示が活かし切れず、事実誤認のところなどはお許しを願い、弥生時代中期のサヌカイト石器製作の実体がより明ら

かになるように、これらの資料がより多くの方々に見学されることを希望する。

(村上)

第6節 3009流路の木組みについて

1区で検出された3009流路は、南東―北西方向に延びる大規模な流路であり、古墳時代中期の須恵器および土師器、百濟土器などが多く出土したものである。土層断面の観察により、廃絶時は砂礫を中心とした埋土により一挙に埋没したと考えられる。川幅が最も広がり、両岸に広い平坦部を持ち二段落ちとなっている1区中央部、および北西端部の支流（3002溝）との交差部分の底部で、木杭を組み合わせた木組み施設が検出された。これらの施設は川幅が広く、水流の弱まる場所や支流との交差部に設置されていることから、水利目的の施設である可能性が考えられる。

北西端部の支流（3002溝）との交差部分の木組みに関しては、ほとんど破壊されており、木杭が散乱した状況であったため、形状を復元することはできなかった。また、調査区端部での検出であることから、本体は調査区外の北側に位置するものと考えられ、全容も把握できなかった。ほぼ直交する支流（3002溝）があることから、水利のための堰が設けられて、3009流路から南側へ水を引いていた可能性も考えられるが、3002溝が調査区外の西側に延びることから、状況は不明である。

一方、1区中央部で検出された木組みは、大破している部分はあるものの、全容がある程度復元できるものである。第5章でも述べているが、3基の木組みが設けられていたことが認められる。そのうち、2基の遺存状態は良好で、その構造を観察することができた。

もっとも下流にあたる中央の木組み施設（木組み1）は、流路に直交して流路の幅いっぱいに横切る大型の堰である。X字状に交差させた縦材を流路を横切るように、底に打ち込み、横に長い板材が渡されていた。長さ3.5mにも及ぶ材も、数本確認された。堰の表面（上流側）には植物質が残存しており、観察により、芦のような植物を何層にも重ねて、材と材の間に挟んでいたものと考えられる。縦材の一部は、表面を加工し易いように焼成してから、先端を鋭く尖らせており、横材は角材または板材に加工

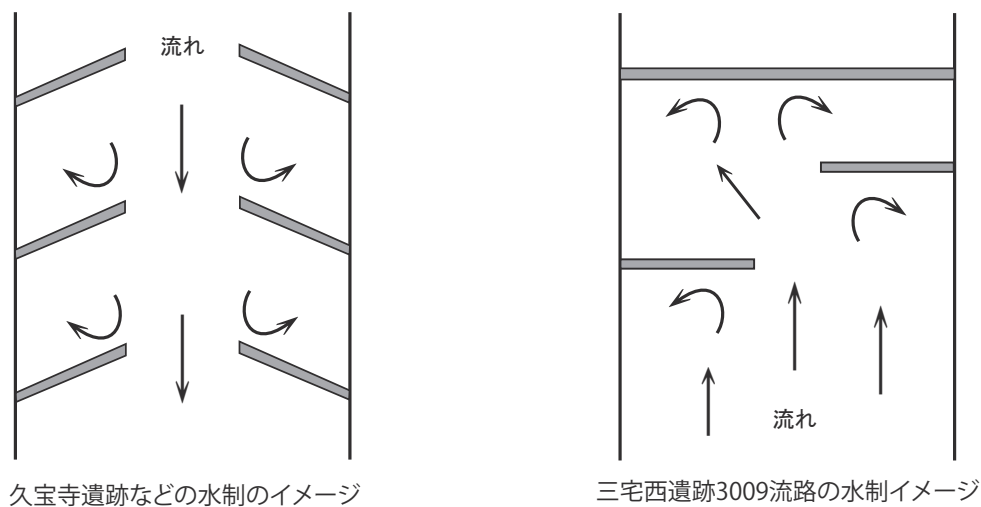


図325 水制のイメージ図

したものを用いている。柱材からの転用材もみられる。水圧を強く受ける後側（下流側）の縦材には、比較的太い材を用いている。

やや上流に位置する北東の木組み施設（木組み2）は、木組み1より規模が小さく、流路の幅いっぱいには達しないものと考えられる。流路の右肩からほぼ流路の中央部までの堰と推定される。縦材として板状に加工した材を用い、ほとんど加工が施されていない材を横材として用いている。出土状況から、縦材を前後二列の合掌状に組み、その上に横材を2本わたす構造になっていたものと推定される。上流からの水圧を支えきれなくなり、崩れたものといえる。木組み1の表面でみられたような植物質は、確認できなかった。木組み2のほぼ対岸かやや上流側では、ほとんど材が流されており残存していなかったが、底部で打ち込まれた木杭がみられ、形状は復元できないものの、同様の木組み施設が設けられていたことがわかる。木組み2と同様に、上流からの水圧を支えきれなくなり、崩れたものと考えられ、一部の材は木組み1の材の中に混在してしまったものといえる。なお、打ち込まれた木杭の確認により、流路の幅いっぱいには達しておらず、流路の左肩からほぼ流路の中央部までの堰と推定される。これらの木組み施設に使用されていた材は、クヌギやマキ、ヒノキをはじめとした多様なものである。構築にあたっては、材の選定はおこなっておらず、材質よりも太さや長さこだわっていたことが推測される。

このような木杭などを用いて流路に設置された堰は、弥生時代以降、各地の遺跡で検出されており、水利目的の可能性が高いものと考えられている。一般的には、流路を堰き止めて水田などに水を引く目的のものが多いと推測されるが、三宅西遺跡で検出された木組み群では、水を引く水路がみられない。このため、用水目的の施設とは考えられないものといえることができる。

同様の施設としては、規模はかなり大きくなるが、八尾市久宝寺遺跡（竜華地区）で検出された木組みがあげられる（（財）大阪府文化財調査研究センター 1998ほか）。ここでは、流れに対して上向きに設置された木組みがみつかり、合掌型に組み合わせているが、流れを堰き止めることはできない構造である。この構造に対しては、横木を堅固に設置するための工夫（本田奈都子1996）や、水の流れを弱め川岸をまもる水制（小山田宏一2001）などの説がある。また、堰の表面に植物質が残存していた例としては、豊中市利倉遺跡や多賀城市山王遺跡などでみられる。利倉遺跡の堰も、流れに対して直交して設置された木組みであり、三宅西遺跡のものに類似している。

これらの調査例から、3009流路中央部で検出された木組み施設は、流路の流れを制御する水制目的のために設置された施設と考えられる。このような技術は、現在でも使われており、河川改修工事などで、水流の調節のために不可欠な技術となっている。単なる灌漑用の施設だけではなく、水制となると、かなりの土木技術が必要となると考えられるが、この流路から百済土器や韓式系土器などが出土していることから、渡来系の人々の存在も推測され、関与もあろうものといえる。ただ、かなり破壊されていることから、構造を正確に把握できないことや、この場所の選定の理由、さらにこの流路における水制の必要性の有無など、様々な疑問がわいてくる。現状では、検出状況から導き出されることとして、水制目的の施設としておきたい。議論の余地はあるものと考えられ、今後、類例の収集や技術的な面からの検討なども必要であろう。

（中村）

註

（財）大阪府文化財調査研究センター 1998 『久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅱ』

本田奈都子 1996 「古墳時代の合掌型堰—久宝寺遺跡・竜華地区検出例をもとに—」『大阪文化財研究』10

小山田宏一 2001 「渡来人と治水技術」『古代の土木技術 大阪府立狭山池博物館図録3』大阪府立狭山池博物館
利倉遺跡発掘調査団 1976 『利倉遺跡』
多賀城市埋蔵文化財調査センター 1990 『山王遺跡第8次発掘調査報告』

第7節 まとめにかえて

5・6区で検出された自然流路である、3128流路から出土した縄文土器は、きわめて一括性の高い資料であり、保存状態も良好であった。このため、整理段階で考古学的な分類をおこない、第5章第3節の調査成果の中に掲載した。

本文中で述べたように、3128流路出土縄文土器の大きな特徴として、ローリングをほとんど受けておらず、炭化物が厚く付着しているなど、遺存状態が非常に良い事が挙げられる。このことは、これらの縄文土器は流れによって遠くから運ばれたとは考えにくく、ほとんど動いていないものということができよう。このため、流路のすぐ近くか、上流である調査地南側に集落が営まれていた可能性が高いことを示していると考えられる。3128流路より東側では、下層の流路の影響で縄文時代相当層（第9a層）は第7層と収斂しているが、西側では続いており、層の上部から縄文土器、サヌカイト片が少量出土している。さらに、層の下面では住居跡はみられないものの、不定形の土坑（人為的かは不明）などが検出されている。削平で失われたというよりも、調査地内には居住地が存在しなかったと考えたほうが良いのかもしれない。自然流路の底部に当時の土器や石器、サヌカイトなどの遺物がそのままパックされた状況である。

また、この地域での縄文土器の出土量はきわめて少なく、あまりこの時期の研究対象となる遺跡もみつかっていなかった。このことから、出土状態が良好というだけでなく、地域的に空白であったところから一括遺物が出土したことは、非常に意義のあることといえる。

この縄文土器群は、整理段階で多くの研究者に実見される機会が多く、様々な意見や助言、コメントをいただいている。出土遺物のデータに関しては、極力網羅して報告するように努めたので、内容についてはさらなる今後の検討が必要であると考えます。

また、土器付着物が多く遺存していたことから、自然科学的分析として、デンプン分析と¹⁴C年代測定をおこない、第6章で結果を掲載した。

渋谷氏によるデンプン分析では、多くのデンプン粒が検出された。ただ、分解状態のものが多いこともあって、残存デンプンの候補植物の特定はできなかった。現時点では、デンプンを多く含む植物質食料資源と海生の魚などを煮炊きしていたかどうかは不明であるが、今後、別の方法による分析もおこない、内容物の起源を検討してみることも必要である。

なお、縄文土器付着物の¹⁴C年代測定結果は、3640～3525 ¹⁴C BPの間に集中し、おおよそ一致した¹⁴C年代測定結果が得られている。炭素・窒素安定同位体比を見てみると、やや値が異なるものがあるものの、食料資源の一般的な値と比較すると、いずれも陸上動植物の値とほぼ重なる結果が得られているといえる。

今回測定した、縄文土器付着物の¹⁴C年代は、関東地方の東村山市下宅部遺跡のデータと比較すると、

縄文時代後期前葉の堀之内2式の後半から、縄文時代後期中葉の加曾利B1式までの試料の¹⁴C年代とおおよそ一致している。北白川上層式3期は、加曾利B1式との併行関係が指摘されている土器である。下宅部遺跡の土器付着物の¹⁴C年代と対比した場合、加曾利B1式よりも堀之内2式の年代に近いものがあり、型式学的な編年観と今回の¹⁴C年代測定結果には、若干の食い違いがみられる。分析に出した試料はわずか5点であるため、そのうちのどれが、土器の年代を最も正確に反映しているのかを判断するのは難しいが、おおよそ型式学的な併行関係とは矛盾しない測定結果が得られたものと推測されている。

今回出土した縄文土器は、北白川上層式3期に属するものと考えられる。本資料は自然流路から出土したものであるが、一括性の高いまとめた資料であり、当該期および地域における基準資料の一つとなるほどの価値のあるものと考えられる。今回は、新たな資料の提示および報告という点を重視しており、できればこの報告を契機に、当該期の研究の一助となれば幸いである。

以上が、調査成果をふまえて、調査担当者が各自まとめたものである。ここでとりあげて総括的な内容としてまとめるつもりであったが、統一的な流れができておらず、ひとつの遺構や遺物などの特徴に関して執着するあまりに、全体を見ていない部分が多いことを、この場を借りてお断りしておく。調査成果の報告においても、同様に反省すべき点が多くあり、全体の状況が把握しにくいかたちになってしまったことは、大いに反省すべきものといえる。

ただ、調査成果を改めて振り返ってみれば、今回の調査では大きな成果をあげることができたといえる。これまで調査例がなく、遺跡の実態が明らかでなかった地域に、東西方向の大きなトレンチを入れたような調査がおこなわれたことは意義深く、北側の和川以北で、(財)大阪市文化財協会がまとめつつある土層のひろがりや、和川の南側の広い範囲においても確認されたことになる。さらに、この地域ではほとんどみられなかった縄文土器の一括資料、弥生時代中期前葉を中心とした集落の検出、日本では出土例のあまりない百濟土器の瓶形土器など、新たな成果を多く得ることができた。

本来は、この成果をもとに様々な論考を展開すべきところであろう。たとえば、弥生時代だけでも、竪穴住居の構造の問題や集落の構成、弥生土器の問題、石器製作の問題、他地域との関連性など、様々な問題点がわいてくる。ただし、今回の整理作業では、まず調査成果の公表という点を重視し、まとめることを第一とした。内容に関しては、現地で調査に携わった多くの担当者や研究者から見ると、非常に不満足な点が多いことも承知している。すべての責任は、編集者の力不足にあるということで、勘弁していただきたい。機会があれば、この成果をふまえた論考を展開してみたいと思う。また、各専門の研究者の方々により、これらの調査成果がさらに各方面での研究の発展の一助となれば、幸いである。

約5年6ヶ月におよぶ調査期間は、いろいろな問題点を抱えており、必ずしも順調なものではなかったが、ここに調査成果をまとめることができ、都市計画道路和川線を中心とした道路建設工事も供用開始に向け始動したことは、結果的には大きな前進であるといえる。今後、この成果を活用していただくことがあれば、編集者として喜ばしいことである。

(中村)

参考文献

工藤雄一郎・小林謙一・坂本 稔・松崎浩之 2007 「東京都下宅部遺跡における¹⁴C年代研究—縄文時代後期から晩期の土器付着炭化物と漆を例として—」『考古学研究』第53巻第4号(通巻212号)

研究代表者 西田泰民 2007 『日本における稲作以前の主食植物の研究 平成16年度～平成18年度科学研究費補助金 基盤研究(B)(1)研究成果報告書』

遺物観察表

遺物観察表

3128流路出土縄文土器観察表

打製石器観察表

磨製石器観察表

竪穴住居19出土サヌカイト観察表

観察表凡例

層名は、調査時の層名であるため、本文の記述と異なる場合がある。利用にあたっては、注意されたい。

土器

- ・胎土は、以下の略称を用いた。
Fl：長石 Q：石英 M：雲母 Am：角閃石 ch：チャート
- ・法量の()内数値は、復元値である。

石器

- ・器種名のRFは、二次加工のある剥片をさす。
- ・石器の計測は、石器研究法による。
- ・自然面の有無には、打面が自然面のものを含んでいない。
- ・ポジティブな剥離面は、○が1面、◎が2面あることを示す。
- ・トーン表示は、赤色ないし不明の物質付着を示す。

遺物観察表(1)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
1	13		1	3106・ 3107流路 の交点	縄文 土器	深鉢	10以下		(外・内・断)灰黄褐 10YR4/2	細 FI+Q(1mm以下を少 量)	磨耗が激しい 縄文後期～晩期初 頭
4	16	50	1	3018土坑	須恵器	杯蓋	ほぼ 100	口径：13.8 器高：4	(外)灰白N7/0～灰N6/0 (内)灰白N7/0 (断)灰10YR6/1	FI(微細～2mm前後を多く) +黒色粒(多く)	TK43
5	16		1	3179土坑	土師器	甗	40	口径：(16.7)	(外)明褐灰2.5YR7/2 (内・断)灰黄2.5Y7/2	細 FI+Q+ch+クサリ礫	布留式系甗
6	16	50	1	3179土坑	須恵器	杯身	100	口径：12.5 器高：4.5	(外)灰N6/0 (内)青灰5B6/3 (断)灰白10YR8/1 (釉)オリーブ灰2.5GY5/1	細 FI(1.5mm以下)+Q(4mm)	TK10
7	20	44	1	3009流路 上層	須恵器	杯蓋	90	口径：12.8 器高：4.1	(外)灰5Y5/1 (内)灰褐5YR5/2 (断)灰褐5YR5/2	細 FI(微細)+Q(1～2mm前 後を少量)	TK216～ON46・ 内面にへら記号あ り
8	20	44	1	3009流路 下層	須恵器	杯蓋	100	口径：12.1 器高：4.1	(外・内)灰N6/0	FI(微細～2mm前後)+Q(1mm 前後を少量)+黒色粒	TK216?
9	20		1	3009流路 上層	須恵器	杯蓋	30	口径：12.8 器高：3.8	(外)灰白N6/0 (内・断)灰白N5/0 (釉)オリーブ灰10Y4/2	FI(微細～1mmを少量)	TK216～ON46
10	20	44	1	3009流路	須恵器	杯蓋	99	口径：11.6 器高：3.7	(外)灰白N7/0 (内)灰N5/0	やや粗 FI(1mm前後)+Q(1 ～2mmを少量)	TK216以前
11	20		1	3009流路	須恵器	杯蓋	25	口径：13.6 器高：5	(内)紫灰5P5/1 (外・断)赤灰2.5YR5/1	精良 FI(1mm前後をやや多 く、3mm1粒あり)	TK216～ON46
12	20		1	3009流路 木組群直下	須恵器	杯蓋	60	口径：12.8	(外)灰7.5Y6/1 (内)黄灰2.5Y6/1 (断)灰褐7.5YR6/2	やや粗 FI(1mm前後を少 量)	TK216～ON46
13	20	44	1	3009流路	須恵器	杯身	98	口径：10.9 器高：4.3	(外・内)灰白N7/0 (断)灰白N7/0	FI(1mm大、2mm大)	TK216
14	20		1	3009流路 上層	須恵器	杯身	90	口径：11.3 器高：4.9	(外・内)灰N5/0 (断)灰N4/0	FI(微細～3mm)+Q(3～5mm) +ch(3～5mm)+黒色粒	ON46～TK208
15	20		1	3009流路 上層	須恵器	杯身	60	口径：10 器高：5	(外・内・断)灰N5/0	FI(1～2mmを少量)+ch(1～ 2mmを少量)	ON46
16	20	44	1	3009流路	須恵器	杯身	85	口径：10.8 器高：5.2	(内・外)黄灰2.5Y6/1(断) 黄灰2.5Y5/1 (釉)灰白N7/0	精良 FI(1～1.5mmを少量) +黒色粒(少量)	TK216
17	20		1	3009流路	須恵器	杯身	60	口径：11.4 器高：4.6	(外・内)灰N5/0 (断)暗赤褐2.5YR3/3	FI(1mm前後を少量)	TK216～ON46
18	20		1	3009流路 木組群直下	須恵器	杯身	50	口径：9.4 底径：4.6	(外・断)灰N6/0 (内)灰N5/0	FI(微細)+Q(2mm以下)	TK216以前
19	20	44	1	3009流路 上層	須恵器	杯身	100	口径：10.6 器高：4.9	(外)灰N5/0 (内)灰赤2.5YR6/2	FI(1mm前後を少量)+Q(1mm 前後を少量)+ch(1mm前後 を少量)	TK216～ON46
20	20		1	3009流路 上層	須恵器	杯身	50	口径：9.6 器高：5	(外)灰白N7/0 (内)灰白N7/0 (断)灰白N7/0～8/0 (釉)暗オリーブ7.5Y4/3	FI(微細)+黒色粒	TK73以前
21	20		1	3009流路	須恵器	無蓋 高杯	40	口径：(11)	(内・外面)灰N4/0 (断面)灰N4/0・褐灰 10YR5/1	やや細 FI(微細を少量)	TK216～ON46
22	20		1	3009流路	須恵器	高杯	30	底径：9.3	(内・外)灰N5/0 (断)灰褐7.5YR5/2	密 Q(微細)	TK216以前
23	20	44	1	3009流路 上層	須恵器	壺	80	頸部径：5.6 体部径： 11.4	(外)灰4/0 灰白N7/0(底部) (内)灰N6/0～5/0 (断面)灰N4/0・暗赤褐 10R3/2	FI(微細を少量)+黒色粒	TK216以前
24	20	44	1	3009流路	須恵器	壺	80	体部径：15	(外)灰白N8/0～灰白7/0～ 灰5/0 (内)灰N5/0 (断)灰白N7/0	細 FI(1～2mmを僅か)+ Q(1mm前後を少量)	TK216以前
25	20		1	3009流路 下層	須恵器	壺	10	口径：(13.2)	(外)灰N4/0 (内・断)灰N6/0	FI(1～2mm大)+クサリ礫	TK73前後
26	20		1	3009流路 上層	須恵器	甗	10	口径：19.4	(外)にぶい赤褐5YR5/3 (内)灰白2.5Y7/1 (断)にぶい赤褐5YR5/3	細 FI(微細～1mm前後を少 量)	TK216以前
27	20	44	1	3009流路	須恵器	甗	90	口径：(18) 器高：30.2	(外)暗オリーブ灰N4/1 (内)灰N5/0～褐灰 7.5YR5/1 (断)褐灰7.5YR5/1	やや粗 FI(1～2mm前後を 多く)+Q(1～2mm前後を多 く)	TK216以前

遺物観察表(2)

遺物番号	図版番号	写真図版	調査区	遺構	種別	器形	残存率(%)	口径(cm) 器高(cm)	色調	胎土	備考
28	20	45	1	3009流路上層	陶質土器	瓶形土器	90	底径:(9.6)	(外)灰N5/0 (内)明褐灰7.5YR6/1 (断)赤褐灰2.5YR6/1 (底)灰白N7/0	Fl(微細)+Q(1mm前後を少量)	搬入品 百濟土器
29	20	45	1	3009流路上層	土師器	杯	98	口径:13.6 器高:5.9	(外・内)灰褐7.5YR5/2~ 灰褐7.5YR4/2 (断)灰褐7.5YR5/2	Fl+Q+Mi+Am	
30	20		1	3009流路上層肩部	土師器	杯	60	口径:(12.4) 器高:6	(内・外)にぶい褐 7.5YR6/3 (断)にぶい褐7.5YR6/3	Fl(微細)+Q(1mm前後)+ch	
31	20	45	1	3009流路	土師器	杯	100	口径:11.9 器高:5.2	(内・外)褐灰10YR5/1~ 4/1	Fl(1mm以下)+Q(1mm以下) +Am(1mm以下)	
32	20		1	3009流路上層	土師器	杯	90	口径:12.1 器高:5.5	(外・内)灰白10YR7/1 (断)赤褐2.5YR4/6	Fl(微細)+ch+クサリ礫	
33	20		1	3009流路	土師器	杯	ほぼ 100	口径:14.1 器高:5.1	(外・断)橙5YR6/6 (内)にぶい橙5YR6/4	Fl(微細)+ch+クサリ礫	
34	20	45	1	3009流路上層	土師器	杯	100	口径:13.9 器高:5.2	(外)にぶい橙7.5YR7/4 (内)黄褐10YR5/6	細 Fl(微細を少量)+シャ モットorクサリ礫(僅か)	
35	20		1	3009流路	土師器	杯	50	口径:(12.6) 器高:5.8	(外)にぶい橙7.5YR6/4 (内・断)にぶい黄橙 10YR7/3	良 Fl+Q+Mi+Am+ch	
36	20		1	3009流路上層肩部	土師器	鉢	20	口径:(11)	(内・外)灰黄2.5Y7/2	やや細 Fl(微細)+Q(微細) +ch(微細)	
37	20		1	3009流路上層	土師器	鉢	80	底径:3	(外)灰黄褐10YR6/6 (内)にぶい黄2.5Y6/3 (断)灰5Y4/1	粗 Fl(2~3mm前後)+Q(2 ~5mm)+ch(3mm前後)	畿内第V様式系
38	20	45	1	3009流路下層	土師器	鉢	60	口径:(9.1) 器高:3.8	(外・内・断)黄灰2.5Y4/1	やや粗 Fl(1~2mmをやや 多く)+Q+Am+ch(1~2 mmをやや多く)+シャモ ット	畿内第V様式系
39	21	45	1	3009流路上層	土師器	無稜 高杯	90	口径:12.1 底径:9.1 器高:11	(内・外・断)にぶい橙 5YR6/4	やや粗 Fl(微細)+Q(1~2 mmを少量)+ch(1~2mmを 少量)+黒色粒?	
40	21		1	3009流路上層	土師器	無稜 高杯	60	口径:13.2 底径:9.6 器高:11	(内・外)浅黄2.5Y7/3 (断)明赤褐2.5YR5/6	Fl(1mm前後を少量, 微細) +Q(1mm前後を少量)+ch(1 mm前後を少量)	
41	21		1	3009流路上層肩部	土師器	椀型 高杯	70	口径:(13.9) 底径:9.8 器高:10.9	(内・外)灰黄2.5Y7/2 (断)橙5YR6/6	細 Fl(1.5mm以下を僅か)+ Q+クサリ礫	
42	21		1	3009流路上層肩部	土師器	椀型 高杯	90	口径:12 底径:8.4 器高:11.3	(内・外)にぶい黄橙 10YR7/3 (断)橙5YR6/6	やや細 Fl(微細)+シャ モット(少量)	
43	21		1	3009流路上層	土師器	椀型 高杯	70	口径:13 底径:9 器高:11.5	(内・外)にぶい黄橙 10YR7/2 (断)にぶい橙5YR6/3	Fl+クサリ礫	
44	21	45	1	3009流路肩部	土師器	椀形 高杯	80	口径:13.9 底径:9 器高:9.2	(内・外)にぶい黄橙 10YR7/4 (断)にぶい黄橙7.5YR6/4	やや細 Fl(微細を少量)	
45	21		1	3009流路上層	土師器	無稜外 反高杯	70	口径:(18.2) 底径:12.6 器高:13.2	(内・外)にぶい黄 2.5Y7/3・灰N4/0	Fl(2mm以下)+Q+Mi(少量) +ch	布留式Ⅲ期併行
46	21	46	1	3009流路上層	土師器	無稜 高杯	80	口径:12.9 底径:(9.6) 器高:11.4	(外・内)にぶい黄橙 10YR7/4~橙2.5YR6/6 (断)灰黄褐10YR6/2	やや粗 Fl(微細~1mm)+ Q(1mm前後を少量)+ch(1mm 前後を少量)	
47	21		1	3009流路下層	土師器	有段 高杯	85	口径:13 底径:9 器高:11.5	(内・外)橙7.5YR6/6 (断)橙7.5YR6/6	やや粗 Fl(微細~2mm)+ Q(2mm前後)+ch(2mm前後)	
48	21	46	1	3009流路南岸肩部	土師器	有段 高杯	80	口径:(14.8) 底径:(9.5) 器高:12.1	(外)にぶい橙2.5YR6/4 (内・断)にぶい黄橙 10YR7/3	やや細 Fl(1mm前後を少 量)+クサリ礫	
49	21		1	3009流路下層	土師器	有段 高杯	40	底径:(11)	にぶい黄橙10YR7/3 ・明赤褐5YR5/6	Fl(2mm以下)+Q+ch+ Mi(やや多く)+クサリ礫 (やや多く)	
50	21		1	3009流路肩部	土師器	大型有 段高杯	40	口径:(21.8)	(外・内)にぶい黄橙 10YR7/3 (断)にぶい橙7.5YR7/4	細 Fl(微細を少量)+Q+ ch	
51	21		1	3009流路上層肩部	土師器	大型有 段高杯	40	口径:(23.1)	(内)褐7.5YR4/3 (外・断)にぶい橙 7.5YR7/4	やや粗 Fl(微細~1mm前後 を少量)+Q(1~3mmを少量) +ch(1~3mmを少量)	

遺物観察表 (3)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
52	21		1	3009流路 上層	土師器	大型有 段高杯	30	口径：(24.3)	(外)にぶい黄橙10YR7/4 (内)明黄褐10YR6/6 (断)にぶい褐7.5YR6/4	細 FI(微細を少量)+Q+ Am?+ch	
53	21		1	3009流路 下層	土師器	大型有 段高杯	20	口径：(25.5)	(外・内)にぶい黄2.5Y6/3 (断)にぶい褐7.5YR5/4	やや粗 FI(1mm前後をやや 多く)+Q(1mm前後をやや多 く)+ch(1mm前後をやや多 く)	
54	21		1	3009流路 上層	土師器	有段 高杯	50	底径：(9.7)	(外・内)にぶい黄2.5Y6/3 ～黄灰2.5Y5/1 (断)にぶい橙5YR7/4	やや細 FI(微細を多く)+ Q(多く)+ch(少量)	
55	21		1	3009流路 上層	土師器	椀型 高杯	25	口径：13.6	(外・内)浅黄2.5Y7/3 (断)明赤褐2.5YR5/6	FI+Q+Mi+ch	
56	21		1	3009流路 北岸上面か ら肩部	土師器	椀型 高杯	50	口径：(12.3)	(外・内)灰黄2.5Y7/2 (断)橙2.5YR6/6	FI(微細, 6.5mm1粒あり)+ Q(1.5mm以下)+ch(3mm以 下)+Am?	
57	21		1	3009流路 上層肩部	土師器	椀型 高杯	50	口径：12.9	(内・外)にぶい橙 7.5YR6/4 (断)にぶい黄橙10YR6/3	細 FI(微細)+Q(1～2mmを 少量)+Mi(微細)+ch(1～2 mmを少量)	
58	21		1	3009流路 木組2の下	土師器	無稜 高杯	50	口径：14	(外・内)灰白2.5Y8/2 (断)灰5Y6/1	FI(微細)+Q+ch+クサリ 礫+黒い角ばった粒	
59	21		1	3009流路 上層	土師器	無稜 高杯	20	口径：(14.8)	(外・内)にぶい黄橙 10YR7/4～明黄褐 10YR7/6 (断)黄灰2.5Y4/1	FI(微細)+Q+ch	
60	21		1	3009流路 上層	土師器	有段 高杯	25	口径：(15)	(外・内)橙7.5YR7/6 (断)明赤褐2.5YR5/6 ・灰7.5Y4/1	FI(微細)+Q+クサリ礫+ Am?	
61	21		1	3009流路 上層?	土師器	有段 高杯	25	口径：14.4	(外)にぶい橙7.5YR6/4～ にぶい褐7.5YR5/3 (内)にぶい黄橙10YR6/3 (断)にぶい赤褐2.5YR5/4	FI(微細)+Q+ch+Am?+ クサリ礫	
62	21		1	3009流路 底部(北端 木組周辺)	土師器	有段 高杯	50	口径：14.4	(内・外・断)橙5YR7/8	細 FI(微細を少量)	
63	21		1	3009流路 木組群直下	土師器	有段 高杯	25	口径：(14)	[杯部上半]にぶい黄橙 7.5YR7/3 [杯部下半]褐灰10YR4/1～ 黒褐10YR3/1	FI(微細)+Q+ch+Am?+ クサリ礫(少量)	
64	21		1	3009流路 底部(北端 木組周辺)	土師器	有段 高杯	40	口径：14.5	(外・断)にぶい黄橙 10YR7/2 (内)にぶい黄橙10YR6/4	細 FI(微細を少量)	
65	21		1	3009流路 下層	土師器	無稜 高杯	40	口径：(13.8)	(外)にぶい黄橙10YR7/2 (内)浅黄褐10YR8/4 (断)にぶい黄褐10YR6/4	細 FI(微細を少量, 6mm) +Q(微細を少量, 6mm)+ ch(微細を少量)	
66	22		1	3009流路 上層	土師器	高杯	40	底径：9.4	(外)明黄褐10YR6/6 (内)黄褐10YR5/6 (断)明黄褐10YR6/6	細 FI(微細をごく僅か)+ Q+ch	
67	22		1	3009流路 上層	土師器	高杯	50	底径：9.4	(外・内・断)にぶい橙 7.5YR6/4	細 FI(5mm以下)+ch(1mm を少量)	
68	22		1	3009流路	土師器	高杯	45	底径：9.6	(外・内)にぶい橙 2.5YR6/4 (断)灰黄6/2	FI(1mm大)	
69	22		1	3009流路 下層	土師器	高杯	30	底径：(10)	(外・内)にぶい黄橙 10YR7/2 (断)黄灰2.5Y6/1	やや粗 FI(1mm前後をやや 多く)+Q(1mm前後をやや多 く)+ch(1mm前後をやや多 く)+Am?	
70	22		1	3009流路 木組3	土師器	高杯	50	底径：7.8	(外・内)明黄褐10YR6/8 ・橙7.5YR6/6 (断)黄灰2.5Y5/1	細 FI(微細を少量)+Q+ ch(微細を少量)	透かし孔あり
71	22		1	3009流路	土師器	高杯	50	底径：9	(外・内)灰褐7.5YR6/2 (断)橙5YR6/6	FI(微細)	
72	22		1	3009流路 上層	土師器	高杯	50	底径：8.7	(外)灰黄褐10YR5/2 (内)黄灰2.5Y4/1 (断)灰黄褐10YR5/2	細 FI(微細を僅か)	
73	22		1	3009流路 肩部	土師器	高杯	50	底径：9.7	(外・内・断)灰黄2.5Y7/2	FI(微細を少量)+Q+ch+ Am?	
74	22		1	3009流路 下層	土師器	高杯	50	底径：13.1	(外・内)灰黄2.5Y7/2 (断)明赤褐5YR5/6	FI(微細)+Q+ch	

遺物観察表(4)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
75	22		1	3009流路 上層	土師器	高杯	40	底径：14.3	(外・内・断)にぶい黄 2.5Y6/3~にぶい褐 7.5Y6/3	細 FI(微細を僅か)+Q+ Mi+クサリ礫	
76	22		1	3009流路 上層	土師器	高杯	25	底径：(10.2)	(外・内)にぶい黄橙 10YR6/3 (断)橙5YR6/6	FI(1.5mm以下)+Q+ch+ク サリ礫	
77	22		1	3009流路 上層肩部	土師器	高杯	50	底径：14.3 器高：9.1	(内・外)灰黄褐10YR6/2 (断)灰褐7.5YR6/2	やや細 FI(微細)+Q(1mm 前後を少量)+ch(1mm前後 を少量)+シャモット(少量)	透かし孔あり
78	22		1	3009流路 上層肩部	土師器	高杯	40	底径：11.7 器高：7.5	(内・外)にぶい橙 7.5YR6/4 (断)灰白2.5Y7/1	細 FI(微細を少量)	透かし孔あり
79	22		1	3009流路 下層	土師器	高杯	50	底径：8.8	(外・内・断)にぶい黄褐 10YR5/3	細 FI+Q(微細を僅か)+ ch	透かし孔あり
80	22		1	3009流路 上層	土師器	高杯	50	底径：(8.8)	(外)橙7.5YR6/6 (内・断)橙7.5YR6/8	細 FI(微細を僅か)+Q(微 細を僅か)+ch(微細を僅 か)+Am?	透かし孔あり
81	22	46	1	3009流路 木組1下層	土師器	小型 器台	40	口径：(11)	(外・内・断)橙2.5YR6/8	細 FI(微細を少量)+Q(微 細を少量)+シャモット+ Am?	小型三種
82	22	46	1	3009流路 上層肩部	土師器	小型丸 底土器	90	頸口径：7.6	(外・内)灰黄褐10YR6/2 (断)にぶい黄橙5YR4/3	FI(微細を少量)+Q(2mm前 後)	東海系の瓢壺の在 地のものか?
83	22	46	1	3009流路 上層肩部	土師器	短頸壺	90	口径：(6.2) 器高：10.5	(内・外)にぶい黄橙 10YR7/3 (断)オリーブ黒5Y3/1	FI(微細)+Q(1mm前後を少 量)	
84	22	46	1	3009流路 木組群直下	土師器	直口壺	98	口径：9.6 器高：14.4	(内・外)灰黄2.5Y7/2 (断)赤褐2.5YR4/6	FI(微細)+クサリ礫	
85	22	48	1	3009流路 木組群直下	土師器	直口壺	ほぼ 100	口径：10.7 器高：15.5	(外)明赤褐2.5YR5/6 灰褐 7.5YR6/2 (内・断)明赤褐2.5YR5/6	やや粗 FI(1~2mmを多く)	
86	22		1	3009流路 上層	土師器	直口壺	50	口径：(10.1)	(外・内)にぶい黄橙 10YR7/3 (断)にぶい褐7.5YR6/1	やや細 FI(微細を少量)	
87	22		1	3009流路 上層	土師器	壺	20	底径：7.8	(外)にぶい黄橙10YR6/3 (内)黒N2/0 (断)浅黄橙7.5YR8/3	FI(微細~2mm)+クサリ礫	
88	23	48	1	3009流路	土師器	甕	60	口径：12.6 器高：11.7	(外)橙7.5YR7/6 (内)にぶい黄橙10YR7/3	FI(1~2mmを少量)+ch(少 量)	韓式系土器の影響 を受けた土器
89	23	48	1	3009流路 底部(北端 木組周辺)	土師器	甕	90	口径：(13.2) 器高：14.8	(内・外)にぶい黄橙 10YR7/3 (断)浅黄橙10YR8/3	やや粗 FI(微細)+Q(1mm 前後)	韓式系土器の影響 を受けた土器
90	23		1	3009流路 上層	土師器	甕	25	口径：(13)	(外・内)にぶい橙 7.5YR6/4 (断)にぶい赤褐5YR4/4	やや粗 FI(5.5mm, 3.5mm 以下)+Q(3.5mm以下)+ ch(3.5mm以下)	在地
91	23	47	1	3009流路 下層	土師器	甕	70	口径：15.2 器高：21.6	(外・断)灰黄2.5Y6/2 (内)黄灰2.5Y6/1	やや粗 FI(4.5~6.5mmを 多く)+Q(4.5~6.5mmを多 く)+ch(1mm前後を多く)	布留式甕
92	23	47	1	3009流路 上層	土師器	甕	90	口径：14.1 器高：17.8	(外)にぶい橙2.5YR6/4 灰 黄褐10YR5/2 (内)灰黄褐10YR5/2 (断)にぶい橙2.5YR6/4	やや粗 FI(1~2mmを多く) +Q+ch+Mi+Am	布留式甕
93	23		1	3009流路 下層	土師器	甕	30	口径：(13.4)	(外)浅黄2.5Y7/4 (内)にぶい黄褐10YR5/4 (断)明褐7.5YR5/6	やや細 FI(微細を多く)	布留式甕
94	23		1	3009流路 上層	土師器	甕	40	口径：(14.7)	(外・内・断)にぶい黄橙 10YR6/4~褐灰10YR5/1	やや粗 FI(1mm前後を多 く)+Q	布留式甕
95	23	48	1	3009流路 木組1	土師器	甕	90	口径：12.6 器高：19.1	(外)にぶい黄2.5Y6/3 (内)にぶい黄橙10YR6/3 (断)にぶい黄2.5Y6/3	やや粗 FI(1mm前後を多 く)	在地
96	23	48	1	3009流路 上層肩部	土師器	甕	90	口径：12.1 器高：21.6	(内・外)灰黄2.5Y6/2 (断)にぶい黄橙10YR6/3	やや粗 FI(1mm前後を多 く)	布留式甕
97	23	47	1	3009流路 上層	土師器	甕	50	口径：(17.8)	(外・断)にぶい橙 7.5YR7/4 (内)にぶい黄橙10YR6/4	やや粗 FI(1mm前後を多 く)+Q(3mm前後を少量)	布留式甕
98	23		1	3009流路 上層	土師器	甕	90	口径：(16.4) 器高：26.4	(内・外)黄褐10YR5/6~浅 黄2.5Y7/3 (断)赤褐2.5YR4/6	FI(1.5mm以下)+Q+ch(2mm) +クサリ礫	在地
99	24	47	1	3009流路 上層	土師器	甕	ほぼ 100	口径：15.3 器高：26.1	(外・内)浅黄2.5Y7/3 (断)にぶい黄橙10YR6/4	やや粗 FI(1mm前後)+ ch(1mm前後)	布留式系長胴甕?

遺物観察表 (5)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
100	24	48	1	3009流路 肩部	土師器	甗	80	口径：15.2 器高：28.5	(外・内)灰黄2.5Y6/2 (断)灰黄2.5Y7/2	やや細 FI(1mm前後を少量)+Q(1mm前後を少量)+ch(1mm前後を少量)	長胴甗
101	24		1	3009流路 上層	土師器	甗	20	口径：16.7	(外・内・断)にぶい黄橙10YR6/3	FI(1mm以下をやや多く)+クサリ礫	布留式系長胴甗
102	24		1	3009流路 肩口	土師器	甗	10	口径：(18)	(外・内)灰黄褐10YR6/2～ にぶい黄橙10YR6/3 (断)灰5Y5/1	FI(微細)+Q+ch(4mm1粒あり)+Mi+Am+クサリ礫	布留式系長胴甗
103	24		1	3009流路 上層	土師器	甗	25	口径：14.4	(内・外)灰黄褐10YR6/2 (断)にぶい黄橙10YR7/2	やや粗 FI(2mm以下)+Q(2mm以下)+ch(2mm以下)+クサリ礫	布留式系長胴甗
104	24	47	1	3009流路 肩部上層?	土師器	甗	50	口径：15.8	(?)灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y7/2(?)明赤褐2.5YR5/6	FI(2mm以下)+Q+ch+クサリ礫	布留式系長胴甗
105	25		1	3009流路 上層	土師器	甗	10	口径：(13.4)	(外・内)にぶい黄橙10YR6/3 (断)にぶい橙7.5YR6/4	やや粗 FI(2mm前後を少量)+Q(2mm前後を少量)+ch(2mm前後を少量)	長胴甗?
106	25		1	3009流路 上層	土師器	甗	40	口径：(18.1)	(外)橙7.5YR6/6 (内・断)にぶい黄橙10YR7/4	やや細 FI(1mm前後)+Q(1～2mm前後)+ch	長胴甗
107	25	47	1	3009流路	土師器	甗	40	口径：(13.7)	(外)にぶい黄橙10YR6/4 (内・断)にぶい橙7.5YR7/4	細 FI(1mm程度を少量)+Q+クサリ礫	長胴甗
108	25		1	3009流路 上層	韓式系 土器	甗	20	体部径： 24.6 器高：22.9	(外)にぶい橙7.5YR7/4 (内)にぶい黄橙10YR7/4 (断)にぶい橙5YR6/4	やや粗 FI(1mm前後を多く)	格子タタキ
109	25		1	3009流路	木製品	不明 板材		長さ：21.5 幅：2.6～6.9 厚さ：2			中央部寄りに不明加工痕あり
110	25	49	1	3009流路	木製品	木錘		長さ：13.9 径：8.4×6.3 中央：4.1×3.5		樹種 コナラ	
111	26		1	3009流路	木製品	Y字状 材		長さ：76 幅：31.2 厚さ：10.9		樹種 コナラ	
112	26		1	3009流路 木組3	木製品	Y字状 材		長さ：62.4 幅：16.6 厚さ：7.5		樹種 クヌギ	加工痕跡あり
113	26		1	3009流路	木製品	板材		長さ：68.6 幅：13.4 厚さ：2		樹種 クヌギ	焼いた後、鑿等で加工/用途不明
114	27		1	3009流路 木組群	木製品	横材		長さ：126.5 幅：6.1～12.7 厚さ：0.5～2.8		樹種 コナラ	鑿等で板材に加工
115	27		1	3009流路 木組群	木製品	横材	50	長さ：306 直径：5～8.2		樹種 コナラ	明確な加工痕無(自然木をそのまま利用?)
116	27		1	3009流路?	木製品	横材	25	長さ：296.5 幅：6.1～7.9 扶部分幅：3 厚さ：5～5.5		樹種 アカガシ	焼いた後、加工。側面に樹皮があり、断面三角形
117	29	49	1	3001・ 3002流路 交差部	須恵器	甗	90	体部径：13	(外)[頸部]灰N5/0 [体部上半]灰白N8/0 [体部下半]灰N5/0 [底部]灰白N7/0 (内)灰白N8/0～灰N5/0 (断)褐灰5YR5/1	細 FI(1mm前後を少量)	TK208
118	29	49	1	3002流路	土師器	直口壺	ほぼ 100	口径：10 器高：14	(外)にぶい橙7.5YR7/4 (内・断)橙2.5YR6/8	細 FI(微細を僅か)	
119	29	49	1	3002流路	土師器	直口壺	95	口径：9.8 底径：4.3 器高：14.2	(外)灰黄2.5Y7/2 (内)灰黄2.5Y6/2 (断)黄灰2.5Y5/1	やや粗 FI(微細を多く)+Q(1～2mmを少量)+ch(1～2mmを少量)	
120	29	49	1	3002流路 下層	土師器	鉢	ほぼ 100	口径：4.5 底径：3.8 器高：4.6	(外)灰黄2.5Y6/2 (内)灰黄褐10YR6/2 (断)灰黄2.5Y6/2	粗 FI(微細～2mmを多く)+Q(1～3mmを少量)+ch(1～3mmを少量)	手づくね(ミニチュア土器の可能性あり)

遺物観察表(6)

遺物番号	図版番号	写真図版	調査区	遺構	種別	器形	残存率(%)	口径(cm) 器高(cm)	色調	胎土	備考
121	29	49	1	3002流路 下層	土師器	甕	50	口径：(14.6)	(外・内)灰黄褐10YR6/2 (断)にぶい橙5YR6/4	細 FI(微細を少量)+礫(4mm)	布留式甕
122	29		1	3002流路 上層	土師器	甕	10	口径：(18.6)	(外)灰黄褐10YR5/2 (内)黄灰2.5Y4/1 (断)黒10YR2/1	粗 FI(微細を多く)+Q(1mm前後)+Am(1mm前後)	布留式甕?
123	29		1	3002流路	土師器	甕	50	口径：16 器高：18.3	(外)灰黄褐10YR5/2 (内・断)灰黄褐10YR6/2	粗 FI(2mm前後を多く)+Q(2mm前後を多く)	布留式系長胴甕
124	31		1	7層上位	須恵器	杯蓋	20	口径：(12.6)	(外・内・断)明褐灰7.5YR7/1	細 FI(1mm前後を少量)+Q+クサリ礫	TK216～ON46
125	31		1	7層上位	須恵器	杯蓋	25	口径：(15.4)	(外・内・断)にぶい橙5YR6/4	細 FI(1mmを少量)+クサリ礫	TK10～TK43
126	31		1	7層上位	須恵器	杯身	50	底径：5	(外・内)灰N6/0 (断)褐灰7.5YR4/1	細 FI(1mm前後と2mm大を少量)+Q+ch	TK208
127	31		1	7層上位	須恵器	杯身	25	口径：(14.6)	(外・内)明青灰5B7/1 (断)灰白N7/0	細 FI(1mm前後を少量)+Q	TK10～TK43
128	31		1	7層上位	須恵器	杯身	60	口径：10.9 底径：6.1 器高：4	(内・外・断)灰N6/0	FI(4mm前後を少量、微細)+Q(4mm前後を少量)+黒色粒	TK209～TK217
129	31		1	7層上位	須恵器	無蓋高杯	30		(外)灰白N7/0 (内)にぶい黄2.5Y6/3 (断)灰白7.5Y7/1		TK208～TK23
130	31		1	7層上位	須恵器	無蓋高杯	20	口径：(15.4)	(外)灰白N7/0 (内)明オリーブ灰2.5GY7/1 (断)灰白N7/0	細 FI(1mm前後を少量)	TK23前後
131	31		1	7層上位	須恵器	壺	10以下	体部径：12.4	(外)灰白7.5Y7/1 (内・断)灰白5Y7/1	やや細 FI(微細を少量)+Q+クサリ礫	TK208
132	31		1	7層上位	須恵器	甕	10以下	口径：(21)	(外・内・断)灰白N7/0	やや粗 FI(1mmと2mmをやや多く)+Q(2mm)+ch(1mm)+クサリ礫?	
133	31		1	7層上位	土師器	高杯	40	底径：(14.4)	(外・内・断)にぶい黄橙10YR6/3	細 FI(微細を少量)	
134	31	50	1	7層上位	土師器	無稜外反高杯	70	口径：(13.4) 底径：8.8 器高：11	(外・内・断)にぶい橙7.5YR7/4	やや粗 FI(微細を多く)+Q(多く)+Am+ch(多く)	
135	31		1	7層上位	土師器	甕	20	口径：(12.9)	(外)灰黄褐10YR6/2 (内)にぶい黄橙10YR7/4 (断)灰白2.5Y7/1	やや粗 FI(1mm前後を多く、2.5mm)+Q(4.5mm)+ch(3.5mm)+クサリ礫	
136	31	50	1	7(8)層上位	土師器	甕	80	口径：(12.3) 器高：24.3	(外)[体部上半]にぶい黄橙10YR7/2 [体部中段]黒褐10YR3/1・明赤褐2.5YR5/6 (内・断)黒褐10YR3/1	粗 FI(3～4mm前後を多く)+Q(3～4mm前後を多く)	
137	35	50	1	3010 ピット	須恵器	杯	80	口径：14.9 底径：11 器高：3.9	(内・外)灰白N7/0 (断)灰N5/0	FI(微細～5mmをやや多く)+Q(1～3mmをやや多く)+ch(1～3mmをやや多く)	飛鳥V～平城II杯B
138	35	50	1	3172 落ち込み	白磁	端反皿		口径：(11.2) 底径：(6.1) 器高：3	(外・内・断)灰白7.5Y8/1		景德鎮窯系?
139	35		1	3004溝	土師器	甕	10以下	口径：(14.4)	(外・内・断)橙5YR6/6	細 FI(微細を少量)	
140	35	50	1	3017井戸 底面	土師器	鉢	40	口径：15.2 底径：10.2 器高：7.9	(外・内・断)にぶい橙7.5YR7/3	やや細 FI(2.5mm以下)+Q(2.5mm以下)+Mi(2.5mm以下)+Am(2.5mm以下)+クサリ礫(2.5mm以下をやや多く)	平城IV
141	35		1	3017井戸 底面	土師器	甕	10以下	底径：14.6	(外・内・断)にぶい黄橙10YR7/3	やや細 FI(1mm前後を少量)+Q+ch?+クサリ礫	平城IV
142	35		1	7層上位	須恵器	杯	10	底径：(9.4)	(外・内・断)灰白7.5Y7/1	細 FI(4mm1粒あり)+Q	平城II～III
143	35		1	7層上位	須恵器	壺	10以下	底径：(8.2)	(外)灰N5/0 (内)灰白N7/0 (断)褐灰7.5YR6/1	細 FI(1mm前後を少量)	
144	35		1	7層上位	須恵器	壺	20	底径：4	(外・内)灰N6/0 (断)灰N6/0・褐灰10YR5/1	細 FI(微細を少量)	
145	35		1	7層上位	須恵器	杯	20	底径：(9.3)	(外・内)青灰5PB6/1 (断)赤灰10R6/1	細 FI(2mm大1粒あり)	平城II～III
146	35		1	7層上位	土師器	皿	50	口径：9.7 器高：2.6	(外)灰白10YR8/2 (内)にぶい黄橙10YR7/4 (断)灰白10YR8/2	細 FI(微細を僅か)+Q+ch+クサリ礫	手づくね土師器皿A

遺物観察表 (7)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
147	35		1	7層上位	土師器	皿	20	口径：(11.3)	(外・内・断)にぶい黄橙 10YR7/4	細 精緻	「て」字型土師器 皿
148	35	50	1	7層上位	土師器	皿	50	口径：(10.2) 器高：2.5	(外・内・断)にぶい黄橙 10YR7/3	細 FI(微細を少量)+Q+ Am?+クサリ礫	手づくね 土師器皿A
149	35		1	7層上位	土師器	皿	25	口径：(14.5)	(外)明黄褐10YR6/6 (内)にぶい黄橙10YR7/4 (断)明黄褐10YR6/6	やや細 FI(微細を多く)+ Q(多く)+Am(多く)+ch(少 量)	土師器皿D
150	35		1	北側溝	陶器	播鉢	10以下	口径：(27.7)	(外・内)褐灰7.5YR4/1 (断)灰5Y6/1	細 FI+Q+クサリ礫+黒 い砂粒(?)	備前
151	39		3・4	8b層	縄文 土器	深鉢	10以下		(外・内・断)褐灰10YR4/1	粗 FI+Q(1mm以下を多く)	後期中葉
152	39		3・4	9層	縄文 土器	深鉢	10以下		(外・内・断)褐7.5YR4/3	やや粗 FI+Q+ch(1mm以 下を少量)	後期中葉
153	39		3・4	7層	縄文 土器	深鉢	10以下		(外・内・断)灰黄褐 10YR4/2	やや粗 FI+Q(1mm前後を やや多く)	長原式
154	39		3・4	7層	縄文 土器	深鉢	10以下		(外・内)灰黄褐10YR4/2 (断)黒10YR2/1	やや粗 FI+Q+Am(1mm前 後を多く)	長原式 磨耗が激しい
160	46	53	3・4	3596土坑	須恵器	甗	50	口径：(15.6)	(外)黄灰2.5Y6/1 (内)灰5Y6/1 (断)にぶい橙7.5YR7/4	精良 FI(微細を少量)+ シャモット(微細を少量)	TK216前後
161	46	53	3・4	3596土坑	土師器	甗	75	底径：11	(外)淡赤橙2.5YR7/4 (内)にぶい橙5YR7/4・橙 2.5Y6/6 (断)褐灰7.5YR5/1	良 FI(微細と2~3mmを多 く, 4~6mmを微量)+Q(微 細と2~3mmを多く, 4~6 mmを微量)+ch(微細と2~3 mmを多く, 4~6mmを微量)	
164	46	52	3・4	3596土坑	土師器	甗	80	口径：(10.8) 器高：11.9	(外)灰白7.5YR8/1 (内)灰白10YR8/2	FI(微細を多く)+ch(微細を 多く)	
165	46	52	3・4	3596土坑	土師器	鉢か杯	30	口径：(11.2)	(外)にぶい橙7.5YR6/4 (内)にぶい橙7.5YR7/4	FI(1~4mmを少量)+Q(1~4 mmを少量)+ch(1~4mmを少 量)	
166	46		3・4	3596土坑	土師器	高杯	40	底径：9	(外)にぶい橙5YR6/4・に ぶい橙7.5YR7/4 (内)にぶい褐7.5YR5/3・ 明褐灰7.5YR7/2 (断)にぶい橙7.5YR7/3	良 FI+Q+シャモット	精製高杯
167	46	53	3・4	3596土坑	土師器	鉢	85	底径：3.4 器高：3.4	(外・内)にぶい黄橙 10YR7/2	FI(1~2mmを少量)+Q(1~2 mmを少量)	手づくね
168	46		3・4	3597土坑	土師器	甗	10	口径：(17.4)	(外)にぶい橙7.5YR7/4 (内)浅黄橙10YR8/3 (断)にぶい黄橙10YR6/4	FI(微細)+Q(2~3mm大)+ ch(1~2mm)	
169	46	51	3・4	3608土坑	土師器	甗	30	底径：4	(外)灰黄2.5Y7/2 (内)灰N4/0	FI(微細を多く, 2mm程度) +Q(微細を多く, 2mm程度) +ch(微細を多く)	
170	47	51	3・4	3366土坑	土師器	壺	70	底径：3 器高：16.2	(外)灰白10YR8/2 (内)灰白2.5Y7/1	Q(2~3mm大)+ch(2~4mm 大)	
171	47	51	3・4	3366土坑	土師器	甗	60	口径：(14.2)	(外・断)にぶい黄橙 10YR7/4 (内)にぶい黄橙10YR7/3	粗 FI(2mm以下を僅か)+ Q(4mm以下を僅か)+ch(5mm 以下を僅か)	畿内V様式系甗
172	47	51	3・4	3366土坑	土師器	甗	40	口径：(13.7)	(外)にぶい黄橙10YR7/4 (内・断)灰白10YR8/2	FI(微細)+Q(2~3mm大)+ ch(3~4mm大)+クサリ礫	畿内V様式系甗
173	47	51	3・4	3366土坑	土師器	甗	60	口径：(14.2)	(外)明黄褐10YR7/6・にぶ い黄橙10YR7/2 (内・断)浅黄橙10YR8/3	粗 FI(2mm以下を多く)+ Q(5mm以下を多く)+ch(6mm 以下を多く)+シャモット (2mm以下を多く)+クサリ 礫	畿内V様式系甗
174	47	52	3・4	3363土坑	土師器	高杯	30	底径：(10.8)	(外・断)にぶい黄橙 10YR7/3 (内)にぶい橙7.5YR7/4	粗 FI(2mm以下を少量)+ Q(3mm以下を少量)+ch(2mm 以下を少量)+シャモット (2mm以下を少量)	
175	47	51	3・4	3362土坑	土師器	高杯	30	底径：(12)	(外)黄灰2.5Y5/1 (内・断)橙5YR6/6	粗 FI(2mm以下を少量)+ Q(3mm以下を少量)+ch(3mm 以下を少量)	
176	50	52	13・ 14	3129土坑	土師器	小型 器台	80	口径：7.7 底径：(9.9) 器高：7.4	(外・内・断)にぶい橙 7.5YR7/4~にぶい黄橙 10YR7/2	細 FI(微細を少量)+Q(微 細を少量)+ch+シャモッ ト	
177	50	52	13・ 14	3129土坑	土師器	甗	40	口径：(17.4)	(外)明赤褐2.5YR5/6・に ぶい黄橙10YR6/3 (内)灰黄褐10YR5/2 (断)明赤褐2.5YR5/6	粗 FI(2mm以下を僅か)+ Q(5mm以下を僅か)+ch(4mm 以下を僅か)	畿内V様式系甗

遺物観察表(8)

遺物番号	図版番号	写真図版	調査区	遺構	種別	器形	残存率(%)	口径(cm) 器高(cm)	色調	胎土	備考
178	50	52	13・14	3129土坑	土師器	甕	30	口径:(13.8)	(外)灰黄褐10YR5/2 (内・断)暗灰黄2.5Y5/2	良 FI(微細を多く, 2~3mmを少量, 5mm2粒あり)+Q(微細を多く, 2~3mmを少量)+Am(微細を多く)	庄内式甕
179	50		13・14	3028土坑最上層	土師器	壺?	20?	口径:14.2	(外)にぶい橙7.5YR7/3 (内)灰黄褐10YR6/2 (断)灰白10YR8/2・橙5YR7/6	良 FI+Q+ch+赤色粒	
180	50		13・14	3132土坑	土師器	複合口緑壺	10以下	口径:(15.8)	(外)灰黄褐10YR5/2 (内)浅黄橙10YR8/3	FI(1~2mmを多く)+Q(1~2mmを多く)+ch(1~2mmを多く)+クサリ礫	竹管文による円形浮文(庄内式複合口緑壺)
181	50		13・14	3134土坑	土師器	碗型高杯	30	口径:(13.2)	(外・内)灰黄2.5Y7/2 (断)赤10R5/8	良 FI(微細を少量, 5mm2粒あり)+ch(2mm1粒あり)	
182	50		13・14	3134土坑	土師器	複合口緑壺	10以下	口径:(29)	(外)暗灰黄2.5Y5/2 (内)灰黄褐10YR5/2	FI(1~4mm)+Q(1~2mm)+Mi+Am	東阿波型搬入品
183	52	53	13・14	3027井戸第1層	須恵器	杯蓋	50	口径:(13.2)	(外)灰N5/0 (内・断)灰白N7/0	やや粗 FL(1.5mm以下)+Q(4mm以下)+ch(3mm以下)	TK10(新)
184	52		13・14	3131井戸	土師器	有段高杯	45	口径:14.6	(外・内)にぶい黄橙10YR7/2	良 FI(2mm以下, 7mm1粒あり)+Q(2mm以下)+ch(2mm2粒あり)	
185	52		13・14	3131井戸基底部直上	土師器	小型丸底土器	80	口径:(10)	(外)灰黄2.5Y7/2 (内)にぶい黄橙10YR7/2	良 FI(微細)+Q(3~5mm)+ch(2mm前後)	底部穿孔?
186	52	53	13・14	3131井戸	土師器	甕	15	口径:17.3	(外・断)にぶい黄橙10YR7/2 (内)灰黄褐10YR6/2	良 FI(1mmを多く, 2mmを少量)+Q(1mmを多く, 2mmを少量)+ch(2mmを少量)	
187	52	53	13・14	3131井戸	土師器	甕	90	口径:(17.8) 器高:32.3	(外)灰白2.5Y8/2 (内)灰白10YR8/2	FI(微細)+Q(2mm前後)+ch(2~3mm前後)+シャモット	
188	52		13・14	3131井戸	土師器	甕	10		(外・断)にぶい橙7.5YR7/4 (内)橙7.5YR7/6	FI(1mm前後)+Q(1~2mm)+ch	
203	53		3・4	3350溝	土師器	大型有段高杯	20	口径:(24)	(外・内)浅黄橙10YR8/3・にぶい赤橙10YR6/4 (断)にぶい赤橙10YR6/4	良 FI(6mmと3mm以下と微細を少量)+Q(3mm以下を少量)+ch(3mm以下を少量)	
204	55	55	13・14	7層	須恵器	高杯蓋	95	口径:16.7 器高:4.9	(外)灰N5/0 (内)灰N6/0 (断)灰N4/0	FI(微細~1mm)+黒色粒	TK216
205	55		2	7層	須恵器	杯蓋	50	口径:(12) 器高:4.9	(外)灰白N7/0 (内)灰N6/0	良(やや粗い) FI(3mm前後を少量)	TK47
206	55	55	13・14	7層	須恵器	杯身	85	口径:10.4 器高:5.4	(外)灰N6/0~灰N5/0 (内)灰N6/0 (断)暗赤褐色10R3/2	FI(微細を少量)	TK73
207	55	55	13・14	7層	須恵器	杯身	95	口径:11.4 器高:4.2	(外・内・断)灰N6/0	FI(2mm以下)	TK216
208	55	55	3・4	7層	須恵器	子持ちの椀	ほぼ100	口径:6.7 器高:5.1	(外・内・断)灰白N7/0	FI(微細~1mm前後)	
209	55		3・4	7層	土師器	無稜外反高杯	20	口径:(14.2)	(外)にぶい橙5YR6/4 (内)にぶい黄橙10YR7/2	FI(微細を多く)+Q(微細を多く, 2mmを少量)+ch(微細を多く)	
210	55	55	2	7層	土師器	無頸壺	60	口径:(8.4) 器高:10.6	(外)灰白7.5YR8/2 (内)灰白10YR8/2	FI(微細を多く, 3mmを僅か)+Q(微細を多く, 3mmを僅か)+ch(微細を多く)	
211	55		3・4	7層	土師器	大型有段高杯	15	口径:(25.2)	(外)灰白10YR8/2 (内)にぶい黄橙10YR7/3	FI(微細を多く)+Q(微細を多く)+ch(微細を多く)	
212	55		3・4	7層	土師器	小型丸底土器	20	口径:(10.8)	(外・内)浅黄橙7.5YR8/4	FI(微細を多く)+Q(微細を多く, 2mmを僅か)+ch(微細を多く)	
213	55		3・4	7層	須恵器	甕	20以下	口径:(17.5)	(外・内・断)灰白N7/0	蜜 FI(微細)+Q(微細)	ON46~TK208
214	55		3・4	7層	須恵器	甕	10	口径:(22)	(外)灰白N7/0・灰オリーブ7.5Y5/2 (内)灰N6/0 (断)灰白N7/0	FI(微細)+赤色粒	ON46~TK208
215	59	54	3・4	3293流路	土師器	大型有段高杯	80	口径:(23.6) 底径:(14.7) 器高:17.4	(外・内・断)にぶい橙7.5YR6/4	やや粗 FI(微細をやや多く)+Q(微細をやや多く)	
216	59		3・4	3581流路	土師器	大型有段高杯	30	口径:(21.8)	(外)橙5YR6/6 (内・断)にぶい黄橙10YR7/4	粗 FI(2mm以下を少量)+Q(2mm以下を少量)+ch(2mm以下を少量)	

遺物観察表(9)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
217	59	54	3・4	3293流路	土師器	無稜 高杯	85	口径：(12.9) 底径：(9.6) 器高：11.4	(外)灰白2.5Y8/2 (内)灰黄2.5Y6/2 (断)灰黄褐10YR5/2	良 FI(1mmと2~3mmを少 量)+Q(1mmを少量)+シャ モット(微量)	
218	59		3・4	3293流路	土師器	無稜 高杯	70	口径：(13.6) 底径：9.4 器高：11.7	(外)にぶい黄橙10YR6/3・ 褐10YR4/4 (内)にぶい黄橙10YR6/4 (断)暗赤褐5YR3/6	良 FI(微細と2mmを少量) +Q(微細を少量)	
219	59	55	3・4	3293流路	土師器	無稜 高杯	70	口径：14.2	(外)橙5YR6/6 (内)にぶい黄橙10YR6/4 (断)褐7.5YR4/3	FL(1~2mmを多く)+Q(1~ 2mmを多く)+ch(1~2mmを 多く)	
220	59		3・4	3293流路	土師器	椀型 高杯	40	口径：(13.6)	(外)橙5YR6/8 (内)明赤褐5YR5/6 (断)にぶい褐7.5YR5/4	FI(微細)+Q(1~2mm)+茶 色粒	
221	59		3・4	3581流路	土師器	高杯	35	底径：(9)	(外・内)にぶい黄橙 10YR7/2 (断)にぶい赤褐5YR5/4	良 FI+Q+ch	
222	59		3・4	3293流路 最下層	土師器	高杯	50	底径：9.9	(外)橙5YR8/7 (内)橙5YR6/6	精良 FI(1~2mmを少量)+ シャモット(少量)	
223	59	55	3・4	3293流路 最下層	土師器	高杯	30	底径：(13.8)	(外)にぶい黄橙10YR7/2 (内)にぶい黄橙10YR7/3 (断)褐灰10YR5/1・にぶい 褐7.5YR5/4	良 FI+Q+ch+赤色粒	
224	59		3・4	3293流路 最下層	土師器	杯か鉢	35	口径：(11.4) 器高：6	(外)灰黄褐10YR6/2 (内)にぶい黄橙10YR6/3	FI(1~2mmをやや多く)+ Q(1~2mmをやや多く)+ ch(1~2mmをやや多く)+赤 色粒(1~2mmをやや多く)	
225	59	55	3・4	3293流路	瓦質 土器	壺	70	体部径： 25.9	(外・内)灰5Y5/1 (断)灰白5Y7/1	細 FI(微細を少量)+Q(微 細を少量)	韓式系土器
226	59		3・4	3293流路 最下層	土師器	甗	25	口径：(12.4)	(外)にぶい黄橙10YR7/3 (内)浅黄橙10YR8/4	良 FI(微細~3mm)+Q(2~ 5mm)+ch(3mm前後を少量)	
227	59		3・4	3581流路	土師器	甗			(外)黒褐10YR4/1 (内・断)にぶい黄橙 10YR7/4	粗 FI(微細を少量)+Q(3 mm以下を少量)+ch(2mm以 下を少量)	韓式系土器
228	59		3・4	3293流路	土師器	甗	30	口径：(14)	(外)にぶい黄橙10YR6/3 (内)灰黄褐10YR6/2 (断)にぶい黄橙10YR6/4	良 FL(微細を多く、2mm 前後と5mmを少量)+Q(微細 を多く、2mm前後を少量)	畿内第V様式系
229	59	54	3・4	3293流路	須恵器	甗	60	口径：(25) 器高：52	(外)灰N6/0 (内)青灰5PB6/1 (断)灰赤10R6/2	精良 FI(1mm前後を少量)	TK216頃
231	68		5・6	3152流路	縄文 土器		10以下		(外・断)灰黄2.5Y7/2 (内)浅黄2.5Y7/3	粗 FI+Q+Mi+Am+ ch(1~2mmを多く)	胎元?
411	86	72	5・6	シルト~極 細粒砂層か ら砂礫層	土師器	小型 器台	60	頸部径：2.8 底径：(10.8)	(外・内)にぶい黄橙 10YR7/2 (断)にぶい黄橙10YR7/2・ 橙5YR6/6	良 FI+Q+ch+シャモッ ト	
412	86	72	5・6	中・近世作 土層以下	土師器	皿	80	口径：15.2 器高：4.4	(外・内・断)明赤褐 5YR5/8	細 FI(2mmと微細を少量) +ch(6mm1粒あり)	土師器皿D
413	86		5・6	7層上位	白磁	碗	20	口径：(15.6)	(外・内)灰白7.5Y7/1 (断)灰白N8/0		輸入陶磁器
417	95		15~ 17	3527流路 底部付近	縄文 土器	鉢	10以下		(外・内・断)黄灰2.5Y4/1	粗 FI+Q+Am(1~2mm前 後を少量)	滋賀里II~IIIa
418	95		8	3622流路	縄文 土器	深鉢	10以下		(外・内・断)黒2.5Y2/1	細 FI(微細)+Q(1~2mm 前後を少量)	滋賀里IIIa
419	95		8	3115流路 下層	縄文 土器	鉢?	10以下		(外)灰褐7.5YR5/2 (内・断)黒褐7.5YR3/1	やや粗 FI+Q(1mm前後を やや多く)+Am	滋賀里II~IIIa 外面炭化物付着
420	95		8	3621流路	縄文 土器	深鉢	10以下		(外)黒褐2.5Y3/2 (内・断)灰黄2.5Y6/2	やや粗 FI+Q+ch(1mm以 下をやや多く)	磨耗が激しい 滋賀里II
421	95		8	3619流路	縄文 土器	深鉢			(外・内・断)褐灰 7.5YR4/1	粗 FI+Q+Mi+Am(1mm 前後を多く)	長原式
422	95		8	3116-5流 路	縄文 土器	深鉢	10以下		(外・内)灰黄褐10YR6/2 (断)にぶい黄橙10YR7/3	細 FI+Q(2~3mmを少量)	
423	95		8	3622流路	縄文 土器	浅鉢	10以下		(外・内)褐灰10YR4/1 (断)灰黄褐10YR6/2	細 FI+Q+Mi(1mm前後を 少量)	滋賀里II~IIIa
424	95		8	3116流路 下層	縄文 土器	浅鉢	10以下	口径：(22.2)	(外)灰黄褐10YR4/2 (内・断)黒10YR2/1	細 FI(微細~1mm以下)+ Q(1~2mm前後)+Mi+Am +ch(1mm前後)	滋賀里II 赤色顔料付着
425	95		8	3620流路	縄文 土器	浅鉢	10以下	口径：(35)	(外・内・断)黒5YR2/1	粗 FI(微細)+Q(1~3mm前 後)+Am	滋賀里I~II 黒色磨研土器 赤色顔料付着

遺物観察表 (10)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
426	95		8	3622流路	縄文 土器	深鉢	10以下		(外)褐灰10YR4/1 (内・断)褐灰10YR5/1	細 FI+Q(1mm以下を少量)	焼成後の穿孔あり
427	95		8	3622流路	縄文 土器	深鉢	10以下		(外・内・断)灰黄褐 10YR5/2	細 FI+Q(1mm以下を少量) +Mi+Am	繊維束による横方 向ケズリ
428	95		8	細粒砂～中 粒砂層	縄文 土器	鉢	10以下		(外・断)黄灰2.5Y6/1 (内)黄灰2.5Y5/1	やや粗 FI+Q+Mi(1mm前 後をやや多く)	
429	95		8	細粒砂～中 粒砂層	縄文 土器	鉢	10以下		(外・断)黄灰2.5Y6/1 (内)黄灰2.5Y5/1	やや粗 FI+Q+Mi(1mm前 後をやや多く)	
430	95		15～ 17	3527流路 底部付近	縄文 土器	鉢	10以下		(外)にぶい褐7.5YR5/3 (内・断)黒7.5YR2/1	やや粗 FI+Q(1mm以下を 少量)	
431	95		8	3621流路	縄文 土器	深鉢	30	底径：4.8	(外・内)灰黄褐10YR5/2 (断)にぶい赤褐2.5YR5/4	細 FI+Q(1mm前後を少量)	くぼみ底 滋賀里Ⅲ
432	95		8	3622流路 肩部	縄文 土器	深鉢	10以下	底径：(11)	(外・内・断)灰黄褐 10YR5/2	粗 FI+Q+Mi+Am(1mm 前後を多く)	
434	99		8	7d層	弥生 土器	鉢	20	口径：(18.4)	(外)灰白10YR8/2 (内)灰白2.5Y8/2	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)	畿内第V様式
435	99	75	8	7d層	弥生 土器	鉢	60	口径：(11.4) 底径：4 器高：5.8	(外・内)灰白2.5Y8/2 (断)オリーブ黒7.5Y3/1	FI(微細)+クサリ礫	畿内第V様式
436	99		8	7d層	弥生 土器	甕	10	底径：4.2	(外)灰白10YR8/1 (内)灰白5Y7/1・暗灰N3/0 (断)灰白10YR8/1	FI(微細)+Q(2～3mm)+c h	畿内第V様式
437	99	75	8	7d層	弥生 土器	甕	20	口径：(17)	(外)にぶい黄橙10YR7/2 (内)灰黄2.5Y6/2 (断)暗褐7.5YR3/3	FI(4mm以下)+Q+ch+シャ モット+クサリ礫	畿内第V様式
438	99		8	7d層	弥生 土器	甕	30	底径：4	(外)浅黄2.5Y7/3 (内)灰黄褐10YR5/2 (断)にぶい黄橙10YR7/3	FI(微細と2～3mm大)+Q(2 mm大)+ch	畿内第V様式
439	99	75	8	7d層	弥生 土器	壺	90	口径：13 底径：4.2 器高：26.7	(外)灰黄2.5Y7/2 (内)橙2.5YR6/6 (断)明赤褐2.5YR5/6	FI(微細を多く)+Q+ch+ Am+クサリ礫	畿内第V様式
440	101	72	7	3413井戸	土師器	甕	ほぼ 100	口径：15 器高：20.8	(外)黒N2/0 (内)黒褐2.5Y3/2・暗灰黄 2.5Y4/2	FI(2mm以下)+Am(2mm以下) +Mi	河内型庄内式甕
441	106	75	8	3115流路 下層	弥生 土器	蓋	50	底径：(11.2) 器高：6.1	(外)灰白2.5Y7/1 (内・断)灰黄2.5Y7/2	細 FI+Q+ch+Mi(僅か)	畿内第V様式 無頸壺か台付壺の 蓋
442	106		8	3115流路	弥生 土器	鉢	20	口径：(11.2) 底径：4 器高：6.6	(外・内)浅黄2.5Y7/3 (断)灰黄2.5Y6/2	細 FI(微細を少量)+Q(微 細を少量)+ch(微細を少 量)+シャモット	畿内第V様式
443	106	75	8	3115流路	弥生 土器	鉢	95	口径：14.6 底径：3.8 器高：6.8	(外・内)灰白2.5Y8/2 (断)灰N4/0	FI(微細)+Q+ch+シャ モット	畿内第V様式
444	106		8	3115-2流 路	弥生 土器	壺	5以下	口径：(18)	(外・内)灰黄2.5Y7/2 (断)灰N5/0	FI(4mm以下)	畿内第V様式
445	106	75	8	3115-2流 路	弥生 土器	壺	5以下	口径：(12.6)	(外・内)灰白2.5Y8/2 (断)にぶい黄橙10YR7/3	FI(1.5mm以下)+Q(1.5mm以 下)+ch(1.5mm以下)+シャ モット	畿内第V様式
446	106	76	15～ 17	3344流路	弥生 土器	広口壺	20	口径：20.8 器高：11.5	(外)にぶい黄橙10YR7/3 (内)にぶい黄橙10YR6/4 (断)褐灰10YR4/1	Q(4mm以下を僅か)+ch(2mm 以下を僅か)	畿内第V様式
447	106		8	3115流路	弥生 土器	甕	50	底径：5.2	(外・内・断)灰黄2.5Y6/2	細 FI(1mmを少量)+Q(1mm を少量)+Am	畿内第V様式
448	106		15～ 17	3344流路	弥生 土器	甕	15	底径：4.5	(外)褐灰10YR4/1 (内)黄灰2.5Y5/1	FI(1mm前後)+Q(1mm前後を 少量)	畿内第V様式
449	106		8	3115流路	土師器	甕	30	口径：(18.9)	(外・内・断)にぶい橙 7.5YR7/4	やや粗 FI(1～3mmを多く) +Q(1～3mmを多く)+Am	布留式甕
450	106	76	15～ 17	3344流路 下層	土師器	台付鉢	40	底径：(10.6)	(外・内)にぶい黄橙 10YR7/2 (断)黄灰2.5Y5/1	良 FI+Q+ch+シャモッ ト	
451	106		8	3115-2流 路	弥生 土器	鉢	20	口径：(22.8)	(外・内)灰白10YR8/2	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く, 4mmを僅か)+ch(微 細を多く)	
452	106	75	8	3115流路	弥生 土器	椀型 高杯	80	口径：16.6 底径：12.1 器高：13.2	(外・内)にぶい橙 7.5YR6/4 (断)褐灰7.5YR5/2	細 FI(1mm前後を少量, 3 mm1粒あり)+Q(1mm前後を 少量)+ch(1mm前後を少量) +Am?	畿内第V様式

遺物観察表 (11)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
453	106		8	3115流路	土師器	壺	10	頸部径： 10.1	(外・断)にぶい黄橙 10YR7/3 (内)オリーブ黒5Y3/1	FI(微細～2mm大)+Q(2mm 大)+ch	
454	106	75	8	3116流路 上層	土師器	壺	5以下	口径：(16.3)	(外・内)灰黄2.5Y7/2～浅 黄2.5Y7/3 (断)赤褐2.5YR4/6	FI(1.5mm以下を多く)+Q+ シャモット+Am+クサリ 礫	畿内第V様式
455	106		8	3115・ 3116流路	弥生 土器	甗	20	口径：(22)	(外・内)灰白10YR8/2	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く, 2mmを僅か)+ch(微 細を多く)	畿内第V様式
456	106		8	3116流路	弥生 土器	甗	20	口径：(15.8)	(外・内・断)にぶい橙 7.5YR7/3	細 FI(微細を少量)+ch(微 細を少量)+Q+シャモッ ト?	畿内第V様式 西部瀬戸内系
457	106		8	3116流路 上層	弥生 土器	甗	10以下	底径：3	(外・内)にぶい黄橙 10YR7/3 (断)にぶい黄橙10YR7/3・ にぶい橙7.5YR7/4	粗 FI(2mm以下を少量)+ Q(3mm以下を少量)+ch(3mm 以下を少量)+シャモット (5mm以下を少量)	畿内第V様式
458	106	72	7	3410流路 中層	弥生 土器	鉢	30	底径：4	(外・内・断)灰白2.5Y7/1	細 FI(微細をごく少量)+ Q+ch	畿内第V様式
459	106		8	3115・ 3116流路	弥生 土器	甗	5以下	底径：5	(外)にぶい黄橙10YR6/4 (内)にぶい黄橙10YR6/3 (断)明赤褐2.5YR5/8	FI(4mm以下)+Q+ch+シャ モット	畿内第V様式
460	106	72	7	3410流路 中層	弥生 土器	鉢		底径：3.7	(外・内)灰白2.5Y8/2 (断)にぶい橙7.5YR6/4	細 FI(微細を少量)+Q+ ch+シャモット	畿内第V様式
461	106	75	8	3116流路	弥生 土器	器台	40	底径：(13.2)	(外・内)灰黄2.5Y6/2 (断)黄灰2.5Y6/1	良 FI(微細を少量)+Q(微 細を少量)+ch(微細を少 量)	畿内第V様式
462	107	72	7	7c層	土師器	甗	40	口径：14.6	(外・内)にぶい橙 7.5YR7/3 (断)褐灰10YR6/1	やや粗 FI(1mm前後を多 く)+Q(1mm前後を多く)+ ch+クサリ礫	布留式甗?
463	107		15～ 17	7c層	土師器 か弥生 土器	甗	10以下	口径：(15.7)	(外・内・断)にぶい黄褐 10YR5/4～黄褐10YR5/6	やや粗 FI(微細～1mmをや や多く)+Q(微細～1mmをや や多く)+ch(微細～1mmを やや多く)+Am	畿内第V様式系
464	107	76	15～ 17	7c層	土師器	甗	20	口径：(14.2)	(?)にぶい黄橙10YR7/3 (?)黒褐2.5Y3/1	FI(微細)+Q(微細, 2mm大)	庄内式甗
465	107		15～ 17	7c層	土師器	小型 器台	30	底径：8.6	(外)橙5YR7/6 (内)にぶい橙2.5YR6/6 (断)にぶい橙2.5YR6/6・ 橙5YR6/6・にぶい橙 5YR6/4	良 FI(微細～2mmを少量) +ch(微細～2mmを少量)	
466	111		15～ 17	3195竪穴 遺構	土師器	無稜外 反高杯	60	口径：(15.3)	(内)褐灰7.5YR6/1・淡赤 橙2.5YR7/4 (断)灰N4/0 (内)にぶい橙7.5YR7/3	良 FI+Q+ch+Mi+ シャモット	
467	111	76	15～ 17	3195竪穴 遺構	土師器	小型 器台	30	底径：12	(外)灰黄2.5Y7/2 (内)明赤褐2.5Y5/6 (断)赤褐2.5Y4/6	FI(微細)+Q+Mi+Am?+ クサリ礫	
468	111	76	15～ 17	3195竪穴 遺構	土師器	甗	40	口径：(10.6)	(外)灰黄褐10YR5/2 (内)にぶい黄橙10YR7/2	FI(1～2mm)+Q(1～2mm)+ ch(1～2mm)	布留式甗
469	111		15～ 17	3195竪穴 遺構	土師器	小型丸 底土器	10	口径：(12)	(外)浅黄橙10YR8/4 (内)にぶい黄橙10YR7/3 (断)にぶい褐7.5YR5/3	FI(微細)+Q(1mm大)	
470	111		15～ 17	3195竪穴 遺構	土師器	甗	20	口径：(15.2)	(外)にぶい黄橙10YR6/3 (内・断)にぶい黄橙 10YR7/4	やや粗 FI(1mm前後をや や多く)+Q(1mm前後をや や多く)+Am	布留式甗
471	111	76	15～ 17	3330溝	土師器	小型丸 底土器	20	口径：(11.3)	(外)橙5YR6/6 (内)にぶい黄橙10YR7/4 (断)にぶい黄橙10YR6/4	細 FI(1mm前後を少量)+ Q(1mm前後を少量)+Am+ Mi	
472	111		15～ 17	3330溝	土師器	甗	20	口径：(14.2)	(外・内・断)灰黄褐 10YR6/2	やや粗 FI(1～2mmをや や多く)+Q(1～2mmをや や多く)+Am(1～2mmをや や多く)+Mi	庄内式甗
473	111	76	15～ 17	3221竪穴 遺構下面	土師器	甗	5以下	口径：(13)	(外・内)黄褐2.5Y5/3 (断)黒褐2.5Y3/1	FI(4mm以下を多く)+Q+ Am+クサリ礫	生駒山西麓産 庄内式甗
474	114	77	15～ 17	3194土坑	土師器	甗	40	口径：17.8	(外・内)灰黄褐10YR4/2	FI(3mm以下)+Q+Am+ Mi(少量)+シャモット?(僅 か)	生駒山西麓産 庄内式甗
475	114		15～ 17	3194土坑	土師器	小型 器台	30	底径：10.5	(外)にぶい橙5YR7/4 (内)赤橙10R6/6 (断)にぶい赤褐2.5YR4/4	FI(微細)+Q+ch+シャ モット+クサリ礫	

遺物観察表 (12)

遺物番号	図版番号	写真図版	調査区	遺構	種別	器形	残存率(%)	口径(cm) 器高(cm)	色調	胎土	備考
476	114	77	15~17	3194土坑	土師器	小型器台	80	口径：11.6 底径：(12.9) 器高：9.6	(外・内・断)にぶい黄橙10YR7/2	細 FI(微細を少量)+Q(微細を少量)+ch(5.5mm)	
477	114	76	15~17	3194土坑	土師器	甗	30	口径：(17.2) 体部径：25	(外・内)黄褐2.5Y5/3~灰黄褐10YR5/2 (断)黄褐2.5Y5/3	粗 FI(1~5mm前後を多く)+Q(1~5mm前後を多く)+Am(1mmを少量)+クサリ礫	生駒山西麓産 庄内式甗
478	114		15~17	3194土坑	土師器	広口壺 か直口壺	30	口径：(17.5)	(外・内)にぶい橙7.5YR7/4 (断)灰褐7.5YR6/2	細 FI(微細)+Q(1~2mm)+ch(1~2mm)+シャモット	生駒山西麓産
479	114	77	15~17	3194土坑	土師器	甗	60	口径：14 器高：13.5	(外・内)灰黄2.5Y7/2 (断)赤褐2.5YR4/6	FI(微細)+Q+ch+クサリ礫	在地
480	114	77	15~17	3324土坑	土師器	小型器台	40	口径：(9)	(外・内・断)にぶい橙7.5YR6/4	細 FI(微細を僅か)+Q(微細を僅か)+ch+クサリ礫	
481	114		15~17	3324土坑	土師器	製塩土器	20	底径：4.6	(外・内・断)にぶい橙5YR7/4~淡赤橙2.5YR7/4	やや細 FI(微細を少量)+Q+ch+クサリ礫	脚台Ⅱ式orⅢ式
482	114	77	15~17	3324土坑	土師質	土錘	95	幅：2.9 厚さ：0.6 長さ：8.1	(外・断)暗灰N3/0 (内)橙5YR7/6	FI(微細を多く)+Q+ch	
483	114	77	15~17	3324土坑 下層	土師器	複合口 緑壺	30	口径：17.2	(外・内)灰黄2.5Y7/2 (断)赤褐5YR4/6	FI(1.5mm以下)+Q(1.5mm以下)+クサリ礫	和泉(搬入品)
484	114	77	15~17	3324土坑 下層	土師器	小型丸底土器	40	口径：(9.8) 器高：5.8	(外)にぶい黄橙10YR7/2 (内)灰白2.5Y7/1 (断)黄灰2.5Y5/1	細 FI(1mmをごく少量)+Q(1mmをごく少量)+ch	
485	114	77	15~17	3324土坑 下層	土師器	小型丸底土器	30	口径：(10.6) 器高：6	(外・内)にぶい黄橙10YR7/3 (断)灰白5Y4/1	やや粗 FI(1mmをやや多く)+Q(1mmをやや多く)+ch(1mmをやや多く)+シャモット	
486	114		15~17	3324土坑	土師器	広口壺	10	口径：(19)	(外)にぶい黄褐10YR5/3 (内)黄褐2.5Y5/3 (断)黄灰2.5Y4/1	粗 FI(1~2mm前後を多く)+Q(1~2mm前後を多く)+Am+Mi+シャモット	
487	114		15~17	3203落ち 込み	土師器	直口壺	5以下	口径：(18.6)	(外)褐灰10YR5/1 (内)灰白2.5Y8/2 (断)灰N5/0	FI(2mm以下をやや多く)+Q+ch	
488	114		15~17	3203落ち 込み	土師器	有段高杯	40	底径：(10.4)	(外)にぶい黄橙10YR7/4 (内・断)にぶい褐7.5YR5/4	細 FI(微細を僅か)+Q(微細を僅か)+ch	
489	114	78	15~17	3203落ち 込み	土師器	甗	50	口径：(11.9) 底径：3 器高：(21.6)	(外)にぶい黄橙10YR7/3 (内)にぶい黄橙10YR7/2 (断)灰白10YR7/1	粗 FI(微細を多く)+Q(微細を多く)+ch(5mm)+シャモット	在地
490	114	78	15~17	3616落ち 込み	土師器	小型器台	80	口径：(10.1) 底径：7.5 器高：6.8	(外)浅黄橙7.5YR8/3 (内)淡橙5YR8/4 (断)にぶい橙7.5YR7/3	FI(微細)+Q(1~2mm大)+赤色粒	
491	114	78	15~17	3616落ち 込み	土師器	小型器台	70	口径：9.6	(外)黄灰2.5Y6/1	良 FI+Q+ch	
492	114		15~17	3253落ち 込み中層?	土師器	無稜外 反高杯	20	口径：(15.8)	(外)橙5YR6/6 (内・断)橙5YR7/6	FI(微細)+Mi(微細)+赤色粒	
493	114		15~17	3253落ち 込み中層?	土師器	甗	20	頸部径： (9.6)	(外)灰白10YR7/1 (内)黒褐10YR3/1 (断)明赤褐5YR5/6	FI(微細)+Q(2~3mm大)	布留式甗
494	114	78	15~17	3253落ち 込み中層?	土師器	器台	70	口径：(12) 底径：(14.2) 器高：13.1	(外)灰白2.5Y7/1・灰白2.5Y8/1 (内)灰白2.5Y8/2 (断)にぶい橙5YR7/4	良 FI+Q+ch	畿内第V様式系
495	118	78	15~17	3192溝	土師器	鉢か杯	40	口径：(9.8) 器高：5	(外・内)灰白2.5Y8/2 (断)赤褐5YR4/6	FI(3mm以下)+Q+ch+Am? +シャモット	
496	118	78	15~17	3192溝	土師器	小型器台	60	口径：(8.8) 底径：(11.4) 器高：8.7	(外)灰黄2.5Y7/2 (内)明赤褐5YR5/6 (断)赤褐5YR4/6	FI(微細)+Q+ch	庄内?
497	118	78	15~17	3192溝	土師器	複合口 緑壺	20		(外・内)にぶい橙7.5YR7/4~にぶい橙7.5YR6/4 (断)黄灰2.5Y6/1	やや粗 FI(1mm前後をやや多く)+Q(1mm前後をやや多く) <異種粘土使用>FI+Q+Am+クサリ礫	在地 角閃石を含む胎土 (生駒山西麓産系)と含まない胎土を交互に用いる
498	118		15~17	3192溝	土師器	広口壺	20	口径：(22.8)	(外)にぶい黄橙10YR6/3 (内)黄灰2.5Y4/1 (断)黄灰2.5Y4/1・にぶい黄橙10YR6/3	やや粗 FI(微細をやや多く)+Q(微細をやや多く)+シャモット(微細をやや多く)+Am?	

遺物観察表 (13)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
499	118		15~ 17	3192溝	土師器	台付壺	20		(外)灰黄2.5Y7/2 (内)にぶい黄橙10YR7/4 (断)にぶい黄褐10YR5/3	細 FI(微細を少量)+Q(微細を少量)+シャモット+Am?	
500	118		15~ 17	3192溝	土師器	壺	5以下	底径：8.6	(外)灰黄2.5Y7/2 (内)灰黄2.5Y6/2 (断)明赤褐5YR5/6	FI(4mm以下)+Q+ch+シャモット+Am?	
501	118		15~ 17	3192溝	土師器	鉢	20	口径：(40.7)	(外・内・断)にぶい黄褐10YR5/4	やや粗 FI(2mm前後を多く)+Q(2mm前後を多く)+ch+シャモット	
502	118		15~ 17	3193溝 肩部	土師器	甗	30	口径：(15.4)	(外・内・断)にぶい黄橙10YR7/4	粗 FI(1mm前後を多く)+Q(1mm前後を多く)+ch(1mm前後を多く)+シャモット+Am?	布留祖形甗
503	118	79	15~ 17	3336溝	土師器	小型丸 底土器	70	口径：(10.5) 器高：8.7	(外・内)にぶい黄橙10YR7/2 (断)灰黄褐10YR5/2	細 FI(微細を僅か)+Q(微細を僅か)+ch(少量)	
504	118		15~ 17	3328溝	土師器	甗	20	口径：15	(外・内・断)にぶい橙7.5YR6/4	やや粗 FI(1mm前後をやや多く)+Q(1mm前後をやや多く)+ch(1mm前後をやや多く)+シャモット	布留式甗or布留式系甗
505	118	78	15~ 17	3328溝	土師器	小型丸 底土器	50	口径：(10.6)	(外・内)橙5YR6/6 (断)にぶい褐7.5YR5/3	細 FI(微細を少量)+Q+ch+クサリ礫?	
506	118		7	3273溝	弥生 土器	甗	20	底径：2.7	(外)にぶい褐7.5YR5/4 (内)褐灰7.5YR5/1 (断)灰黄褐10YR5/2	細 FI(微細をごく少量)+Q+ch+シャモット	畿内第V様式系 焼成後穿孔
508	126	79	15~ 17	3323土坑	須恵器	杯身	40	口径：(11.1) 器高：3.7	(外・内)灰N5/0 (断)にぶい褐7.5YR5/4	粗 FI(1mm前後を多く)+Q(1mm前後を多く)+ch(1mm前後を多く)	TK209
509	126	79	15~ 17	3323土坑	土師器	ミニ チュア 土器	80	底径：1.8 頸部径：3.8	(外・内)灰白2.5Y7/1 (断)橙5YR6/6	FI(1.5mm以下をやや多く)+Q+ch	
510	126		15~ 17	3323土坑	土師器	小型丸 底土器	30	口径：(11.4)	(外・内・断)明赤褐5YR5/6	細 FI(微細を少量)+Q(微細を少量)+ch+シャモット	
511	126	79	15~ 17	3511井戸	須恵器	杯蓋	60	口径：13.9 器高：4.8	(外・内)灰白7.5Y7/1 (断)明赤褐5YR5/6	FI(微細)+Q+ch	MT15
512	126		8	3098溝 下層	須恵器	杯蓋	50	口径：(10.3) 器高：3.1	(外・内・断)灰白5Y7/1	粗 FI(微細を多く)+Q(微細を多く)+ch(微細を多く)+シャモット?	TK217
513	126		15~ 17	3188溝 底部付近	須恵器	壺	40	体部径： (12.2)	(外・内・断)青灰5B6/1	細 FI(微細を少量)+Q(微細を少量)+クサリ礫	
514	126	79	15~ 17	3188溝	土師器	小型甗	50	口径：(12.2) 底径：3.5 器高：10	(外)橙5YR6/6 (内)灰白2.5Y8/2 (断)赤褐5YR4/6	FI(微細をやや多く)+Q+ch	畿内第V様式系甗
515	126		15~ 17	3189溝	土師器	甗	30	口径：(15.2)	(外)にぶい黄褐10YR5/3 (内)橙7.5YR7/6 (断)黄褐10YR5/6	細 FI(1mmを少量)+Q(1mmを少量)+ch+Mi	布留式甗
516	126	79	15~ 17	3189溝	土師器	小型 器台	30	口径：(7.4)	(外・内)橙7.5YR6/6・灰黄2.5Y7/2 (断)褐7.5YR4/4	FI(微細)+Q+ch+Mi	
517	127	73	5・6	3125流路 最上層	須恵器	杯身	70	口径：(12.4) 器高：4.7	(外・内・断)オリーブ灰N6/1	精良 FI(微細をやや多く)	TK10
518	127	73	7	3125流路	須恵器	甗	80	頸部径：4.6 体部径：9.6	(外)灰N6/1 (内)灰N5/1	FI(1~2mmを少量)+Q(1~2mmを少量)	TK10
519	127	74	5・6	3125流路 肩部?	土師器	有孔鉢	50	口径：(14) 器高：9	(外)灰白10YR8/2・明黄褐10YR6/8 (内)浅黄2.5Y7/4 (断)明褐7.5YR5/6	良 FI(1~4mmを多く)+Q(1~4mmを多く)+ch(1~4mmを多く)	畿内第V様式系
520	127		7	3125流路	土師器	鉢	20	口径：(14.9) 器高：6.8	(外)橙7.5YR6/6 (内)にぶい褐7.5YR6/3 (断)にぶい橙7.5YR7/4	良 FI(2mm以下を少量)+Q(2mm以下を少量)+ch(2mm以下を少量)+シャモット(少量)	
521	127	73	15~ 17	3125流路	土師器	鉢	80	口径：8.8 底径：3.2 器高：5.2	(外)にぶい黄橙10YR6/4 (内)明赤褐5YR5/6	FI(1~5mmを少量)+Q(1~5mmを少量)	
522	127		5・6	3125流路 第2層	土師器	鉢	10	口径：(37.2)	(外)橙2.5YR6/8・橙5YR7/6 (内)橙2.5YR6/8・灰黄褐10YR6/2 (断)橙2.5YR7/6	良 FI(2mm以下と2~3mmを少量)+Q(2mm以下と2~3mmを少量)+ch(2~3mmを少量)	

遺物観察表 (14)

遺物番号	図版番号	写真図版	調査区	遺構	種別	器形	残存率(%)	口径(cm) 器高(cm)	色調	胎土	備考
523	127	74	5・6	3125流路	土師器	小型丸底土器	30	口径:(11.4) 器高:7.9	(外)にぶい黄橙10YR6/3 (内)断橙5YR6/8	良 シャモット(微量)	
524	127	73	7	3125流路	土師器	高杯	50	底径:11.9	(外・内・断)にぶい黄橙 10YR7/3	細 FI(微細を少量)+Q(微細を少量)+ch+クサリ礫	
525	127		5・6	3125流路	土師器	広口壺	10	口径:(13.2)	(外・断)浅黄橙7.5YR8/4 (内)灰白2.5Y7/1	FI(微細)+Q(1~2mm)+ch+赤色粒	在地
526	127	74	15~17	3125流路	土師器	複合口緑壺		口径:(19.6)		FI(1mm前後)+Q(1mm前後)+ch(1mm前後)	西部瀬戸内(搬入品)
527	127	73	7	3125流路	土師器	直口壺	ほぼ100	口径:11.4 器高:17.1	(外・内・断)にぶい黄橙 10YR7/4	やや粗 FI(1mm前後を多く)+Q(1mm前後を多く)+ch(1mm前後を多く)+Mi(1mm前後を多く)+シャモット	
528	127	74	7	3125流路 底部	土師器	壺	90	体部径:16	(外・内)浅黄2.5Y7/3 (断)にぶい橙7.5YR6/4	細 FI(1mmを少量)+Q(1mmを少量)+ch(1mmを少量)	
529	127	74	7	3125流路 底部	土師器	壺か甗	90	体部径:17.6	(外・内・断)にぶい黄橙 10YR7/4	細 FI(1mm前後を少量)+Q(1mm前後を少量)+ch(1mm前後を少量)	
530	127		5・6	3125流路	弥生土器	甗	70	底径:5	(外)灰5Y6/1 (内)灰黄2.5Y6/2 (断)橙7YR6/6	良 FI(微細を少量)	畿内第V様式
531	127		7	3125流路	土師器	甗		口径:(18.8)	(外)にぶい黄橙10YR7/2 (内)にぶい黄橙10YR6/3 (断)にぶい黄橙10YR7/3	良 FI+Q+ch	畿内第V様式系甗
532	127		5・6	3125流路 第2層	土師器	甗	30	口径:(14.6)	(外)灰黄褐10YR4/2 (内)褐10YR4/6 (断)にぶい黄褐10YR4/3	良 FI(微細を少量)+Q(微細を少量)+Mi(微細を少量)	庄内甗
533	127	74	7	3125流路	土師器	甗	20	口径:(13.8)	(外)にぶい黄褐10YR5/2 (内)オリブ黒5Y3/2 (断)にぶい黄褐10YR4/3	良 FI(微細と2mmを少量)+Q(微細と2mmを少量)	布留祖形甗
534	127	73	15~17	3125流路	土師器	甗	70	口径:(11.9) 器高:20	(外)浅黄橙10YR8/4 (内)灰黄2.5Y6/2	FI(微細)+Q(1mm前後を少量)+ch(1mm前後を少量)	布留式甗
535	127	74	7	3125流路 底部	土師器	甗	90	体部径:18.8	(外・内・断)にぶい黄橙 10YR7/4	細 FI(1mmを少量)+Q(1mmを少量)+ch(5mmを少量)	
536	128	80	15~17	7a層	須恵器	杯蓋	50	口径:(10.2) 器高:3.3	(外・内・断)灰N6/0	細 FI(1mmを少量)+Q(1mmを少量)	TK209
537	128	80	15~17	7a層	須恵器	杯蓋	60	口径:15.6 器高:4.6	(外・内)青灰5PB6/1	精良 FI+Q+黒色粒	TK10
538	128		15~17	7a層	須恵器	杯身	10以下	口径:(12.6)	(外・内・断)灰白N7/0	細 FI(微細を少量)+黒色粒	TK10
539	128		15~17	7a層	土師器	直口壺	5以下	口径:(13.2)	(外・内)灰黄2.5Y7/2 (断)黒褐2.5Y3/1	FI(2mm以下)+Q+ch+シャモット+クサリ礫	
540	128		15~17	7a層	土師器	広口壺	10以下	口径:(16.1)	(外・内・断)明褐 7.5YR5/6	やや細 FI(微細を少量, 4.5mm1粒あり)+Q(微細を少量)+シャモット+Am?	畿内第V様式系
541	128		15~17	7a層	土師器	複合口緑壺	10以下	口径:(22)	(外・内)にぶい橙 7.5YR6/4 (断)灰黄2.5Y6/2	やや粗 FI(2mm前後をやや多く)+Q(2mm前後をやや多く)+シャモット+結晶片岩(8mm×7mmの石英片岩)	東阿波型土器(搬入品)
542	128		15~17	7a層	土師器	複合口緑壺	10以下	口径:(19.7)	(外)にぶい黄橙10YR6/3 ~明赤褐2.5YR5/6 (内・断)にぶい黄褐 10YR5/3	やや細 FI(微細を少量)+Q(微細を少量)+Mi(微細を少量)+Am?+シャモット	在地 生駒山西麓産系
543	128		15~17	7a層	土師器	複合口緑壺	5以下	口径:(22)	(外・内)灰黄2.5Y7/2 (断)暗灰黄2.5Y5/2	FI(微細を多く, 2mm前後)+Q(2mm前後)+Am(微細を多く)	在地
544	128		15~17	7a層	土師器	鉢	20	口径:(17.4) 器高:4.6	(外・内・断)にぶい橙 7.5YR7/4	細 FI(微細を少量)+Q+Am?+シャモット	小型精製三種
545	128		15~17	7a層	土師器	小型器台	40	底径:(11.5)	(外・内)橙5YR6/6 (断)明赤褐5YR5/8	FI(微細)+Q+Am+クサリ礫	
546	128	79	15~17	7a層	土師器	小型器台	50	口径:(9.8)	(外・内・断)にぶい黄橙 10YR6/4	細 FI(1mmを少量)+Q+ch(5.5mm1粒あり)+Am?	
547	128	80	15~17	7a層	土師器	高杯	40	底径:14.2	(外・内)灰白10YR7/1 (断)にぶい橙2.5YR6/3	良 FI+Q+ch	
548	128		8	7a層	弥生土器	ミニチュア土器	80	底径:2.4	(外)にぶい黄橙10YR7/2~ 明褐7.5YR5/6 (内)明褐7.5YR5/6 (断)にぶい黄橙10YR7/2	やや粗 FI(微細~2mmをやや多く)+Q(微細~2mmをやや多く)+ch(微細~2mmをやや多く)+シャモット	

遺物観察表 (15)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
549	128		15~ 17	7 a層	土師器	製塩 土器	20以下	底径：(3.6)	(外・内・断)にぶい橙 7.5YR7/4~橙2.5YR6/6	やや細 FI(微細をやや少 量)+Q(微細をやや少量)+ ch	脚台Ⅲ式
550	128		15~ 17	7 a層	土師器	製塩 土器	10以下	底径：3.1	(外・内)褐灰7.5YR6/1~ 灰褐7.5YR6/2 (断)黄灰2.5Y4/1	細 FI(微細をごく僅か)+ Q(微細をごく僅か)+ch	脚台Ⅲ式
551	128		15~ 17	7 a層		蛸壺	20	体部径： (5.6)	(外・内)にぶい黄橙 10YR7/4 (断)明赤褐5YR5/6	やや粗 FI(1mm前後を多 く)+Q(1mm前後を多く)+ ch(1mm前後を多く)	
552	128	80	15~ 17	7 a層	土師質	蛸壺	100	口径：3.2 器高：7.8	(外・内)灰黄2.5Y7/2	FI(微細)+Q+ch	
553	128	80	15~ 17	7 a層	土師質	土錘	95	幅：2.6 厚さ：0.7 長さ：6.7	(外・内・断)にぶい褐 7.5YR5/4	FI(2mm以下)+Q+ch+シャ モット	
554	128		15~ 17	7 a層	土師器	甗	20	口径：16.1	(外・内・断)黄灰2.5Y6/1	やや粗 FI(微細を多く)+ Q(微細を多く)+ch+シャ モット	庄内式甗
555	128		15~ 17	7 a層	土師器	甗	10	口径：17	(外・内・断)にぶい黄褐 10YR5/3	やや粗 FI(1mm前後をや やく)+Q(1mm前後をや やく)+Am	庄内式甗
556	128		15~ 17	7 a層	土師器	甗	25	口径：13 器高：12	(外)にぶい橙5YR7/4 (内・断)橙5YR6/6	良 FI(2~3mmと微細を少 量)+Q(2~3mmと微細を少 量)+シャモット	布留式甗
557	128	80	15~ 17	7 a層	土師器	直口壺	50	口径：9	(外)灰白10YR8/2 (内)黄灰2.5Y5/1	やや良 FI(1~3mm)+ch(3 mm前後)+シャモット	
558	128	80	15~ 17	7 a層	土師器	手焙り 型土器	15		(外・内)灰黄2.5Y6/2 (断)灰黄2.5Y6/2・橙 7.5YR7/6	粗 FI(2mm以下を少量)+ Q(2mm以下を少量)	
559	128	79	15~ 17	7 a層	土師器	小型丸 底土器	ほぼ 100	口径：12.4 器高：8	(外・内)灰白10YR7/1・ 7.5YR8/2 (断)にぶい黄橙10YR6/4 (内)灰白10YR8/2	やや粗 FI+Q+ch+シャ モット	
561	131	81	9	2258溝	須恵器	杯蓋	70 (口縁 1/2残)	口径：13 器高：4.5	(外)10YR6/3にぶい黄橙・ 2.5Y4/1黄灰 (内)10YR6/3にぶい黄橙	1~3mm大のFI・Qを少量含 む	TK217
562	131		9	2258溝	木製品	板状 製品	100	最大長： 70.1 最大幅： 12.7 厚さ：2.6			
563	133	81	9	2362流路	土師器	杯	95 (口縁 7/8残)	口径：14.3 器高：3.7	(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)5YR7/6橙	1~2mm大のFI・Q・ch・ シャモットを少量含む	平城Ⅲ~Ⅳ
564	133	81	9	2362流路	土師器	甗	45 (口縁 1/3残)	口径：(11.8) 器高：7.9	(外)7.5YR6/6橙 (内)10YR7/3にぶい黄橙	1~2mm大のFI・Q・chを少 量含む	平城Ⅲ~Ⅳ
565	133	81	9	2362流路	土師器	甗	15	体部最大径： 16.3	(外)7.5YR7/4にぶい橙 (内)7.5YR7/6橙	1~2mm大のFI・Qを少量含 む	平城Ⅲ~Ⅳ 人面墨書土器
566	133		9	2362流路	土師器	壺	55 (底部 4/5残)	底径：13	(外・内・断)5YR6/6橙	蜜 1mm以下のFI・Q・微 粒Am?・クサリ礫を含む	平城Ⅲ~Ⅳ
567	133		9	2362流路	土師器	有蓋把 手付壺	20 (底部 1/3残)	底径：(14.2)	(外・内・断)5YR6/6橙	1~2mm以下のFI・Q・クサ リ礫を含む	平城Ⅲ~Ⅳ
568	133	81	9	2362流路	土師器	高杯	40 (脚部、 底部 3/5残)	底径：10.8	(外)7.5YR8/2灰白 (内)10YR7/3にぶい黄橙	1~4mm大のFI・Q・chを少 量含む	平城Ⅲ~Ⅳ
569	133	81	9	2362流路	須恵器	杯蓋	ほぼ 100 (口縁 9/10 残)	つまみ部径： 2.8 口径：17 器高：2.4	(外・内)5Y6/1灰	3mm以下のFI・Q・ch・黒 色粒を少量含む	平城Ⅲ~Ⅳ
570	133	81	9	2362流路	須恵器	広口壺	75 (口縁 1/4弱 残)	口径：(17) 底径：9.2 器高：15.1	(外)10YR7/1灰白 (内)5Y6/1灰 (断)7.5Y7/1灰白	FI・Q・黒クサリ礫を含む	平城Ⅲ~Ⅳ

遺物観察表 (16)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
571	137	72	7	3271 ピット	土師器	杯	60	口径：(15) 器高：4.2	(外・内)にぶい黄橙 10YR7/4 (断)にぶい赤褐5YR5/4	細 FI(微細をごく少量)+ ch(微細をごく少量)+Q+ クサリ礫	平城IV 杯A
572	137	72	7	3255溝	瓦器	椀	70	口径：(15.6) 底径：(5.4) 器高：5.6	(外・内・断)黄灰2.5Y6/1	細 FI(微細を少量)+Q(微 細を少量)	和泉型Ⅱ期
573	137		7	褐色作土層	瓦器	椀	25	口径：(14.7)	(外・内)灰N5/0 (断)灰白N7/0	細 FI(微細をごく少量)+ ch	和泉型Ⅱ期
574	137	72	7	暗色帯(4 層?)上面 か?	瓦器	椀	40	口径：(15.8) 底径：5.5 器高：5	(外・内)灰N5/0 (断)灰白5Y7/1	細 FI(微細をごく少量)+ Q+クサリ礫	和泉型Ⅱ-3～Ⅲ期
575	137		15～ 17	灰白砂質シル ト層下面	土師器	甕	70	口径：(18)	(外・内)にぶい黄橙 10YR7/4	FI(微細, 3mm大)+Q(2mm 大)	
576	137		15～ 17	灰白色シル ト層(砂礫 ～黄橙色砂 礫混じりシル ト層直上 作土)	白磁	碗	5以下	底径：(6)	(外・内)灰白N7/0 (釉)明オリブ灰 2.5GY7/1	精緻	輸入陶磁器
577	137		8	4層上位	白磁	碗	10	底径：(6.8)	(外・断)灰白7.5Y8/1 (釉)灰白7.5Y7/2	精緻	輸入陶磁器
578	137		15～ 17	中・近世作 土層	青磁	碗	10以下	口径：(16.8)	(外・内)オリブ灰 2.5GY6/1 (断)灰白N7/0	精緻	輸入陶磁器 龍泉窯系青磁 蓮弁文碗
579	137		15～ 17	攪乱	青磁	碗	5以下	口径：(16)	(外・内)オリブ灰 5GY6/1 (断)灰白N8/0	精緻	輸入陶磁器 龍泉窯系青磁 蓮弁文碗
580	137		15～ 17	灰白色シル ト層(砂礫 ～砂礫混じ りシルト層 直上作土)	青磁	碗	10以下	口径：(15.7)	(外・内)オリブ灰 10Y5/2 (断)灰7.5Y6/1	精緻	輸入陶磁器 龍泉窯系青磁 蓮弁文碗
581	137		15～ 17	機械掘削面	青白磁	合子蓋	25	口径：(2.9) 器高：1.3	(外)明青灰5BG7/1 (内)灰白2.5GY8/1～灰白 7.5Y8/1 (断)灰白7.5Y8/1	細	輸入陶磁器 景德鎮窯系青白磁
582	142		10	竪穴住居 1 1期目埋土	弥生 土器	甕	10 (口縁 2/5残)	口径：(18.4)	(外)にぶい赤褐 (内)赤褐 (断)明赤褐	4～5mm大のQを少量、1～ 2mm大のFI・Q・Amを含む	生駒山西麓産
583	142		10	竪穴住居 1 2期目炉	弥生 土器	甕	15 (口縁 1/7残)	口径：(20.4)	(外)にぶい褐 (内)にぶい黄橙 (断)黒褐	1～2mm大のFI・Q・Mi、3 ～4mm大のFIを含む	生駒山西麓産
593	152		10	2028土坑	弥生 土器	甕	20 (口縁 1/8残)	口径：(17.8)	(外)7.5Y2/1黒 (内・断)10YR6/3にぶい黄 橙	1mm大のFI・Q・ch、微粒 Am?を含む	
594	152		10	2029土坑	弥生 土器	甕	10 (口縁 1/12 残)	口径：(17.6)	(外)7.5YR4/1褐灰 (内・断)10YR5/2灰黄褐	FI・Q・chの砂粒を多く含 む	
595	152		10	2029土坑	弥生 土器	甕	10 (口縁 1/4残)	口径：(15)	(外・内)7.5YR4/3褐 (断)5YR5/4にぶい赤褐	1～3mm大のFI・Q・Am・ ch・金Mi・シャモットを 含む	生駒山西麓産
596	152		10	2029土坑	弥生 土器	甕	40 (口縁 1/4残)	口径：(19)	(外)10YR4/1褐灰 (内・断)10YR5/2灰黄褐	1.5mm以下のFI・Q・ch、 微粒Amを含む	
597	152		10	2029土坑	弥生 土器	甕	5 (底部 1/2残)	底径：(4.6)	(外)10YR5/2灰黄褐 (内・断)2.5Y8/2灰白	1～2mm大のFI・Q・chを 含む	
598	152		10	2029土坑	弥生 土器	甕	10 (底部完 存)	底径：4.6	(外・内・断)10YR6/2灰黄 褐	1～3mm大のFI・Q・ch・ シャモットを含む	
599	152		10	2031土坑	弥生 土器	無頸壺	(口縁～ 体部片 口縁 1/28 残)	口径：(20.6)	(外・内)2.5Y7/2灰黄	2mm大のFI・Q、3mm大のch を含む	拓本あり

遺物観察表 (17)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
601	152		10	4104土坑	弥生 土器	甗	10 (底部の み)	口径：7	(内・外・断)2.5Y3/1黒褐	Fl(1~3mm大)+Q(1~3mm 大)+Mi(1~3mm大)+Am(1 ~3mm大)+赤色粒(1~3mm 大)	生駒山西麓産
602	152	84	10	4104土坑	縄文 土器				(内)10YR5/1褐灰 (外)10YR4/1褐灰 (断)5YR5/2灰褐	Fl(微細)+Q(2mm前後)+ Mi(微細)+Am?	緑帯文土器 北白川上層3式~ 一乗寺K (元住吉 山1式)
603	152		10	4047土坑	弥生 土器	甗	5 (底部の み)	口径：(5.4)	(内)2.5Y8/2灰白 (外)10YR3/1黒褐 (断)7.5YR6/6橙・N5/0灰	Fl(1~3mm大)+Q(1~3mm 大)+Am(1~3mm大)	
604	154	87	10	2100流路	弥生 土器	広口壺	60 (口縁 1/3残)	口径：18.1 底径：7.8 器高：25.5	(外・断)10YR6/3にぶい黄 橙 (内)10YR5/2灰黄褐	1~3mm大の白・灰・黒色 砂粒を含む	
605	154	87	10	2100流路	弥生 土器	甗	65 (口縁 3/5残)	口径：(18.5) 底径：(7) 器高：28.15	(外・内・断)10YR7/2にぶ い黄橙	1~2mm大のFl・Q・chを 含む	
606	154		10	2100流路	弥生 土器	鉢	(口縁~ 体部片 口縁 1/12 残)	口径：(34.2)	(外)2.5YR5/8明赤褐 (内)5YR5/4にぶい赤褐	4mm以下のFl、5mm以下の Q、1.5mm以下のAm、金 Mi・黒Mi、3.5mmの花崗 岩?1粒、4mm大の土器片?1 つを含む	生駒山西麓産 拓本あり
607	154		10	2100流路	弥生 土器	壺	(体部 片)		(外・内)10YR7/2にぶい黄 橙	Fl・Q・ch・クサリ礫を 含む	拓本あり
608	154		10	2100流路	弥生 土器	蓋	(つま み部の み、完 存)	つまみ部径： 3.9	(外)10YR5/2灰黄褐 (内)10YR7/2にぶい黄橙 (断)10YR8/3浅黄橙	粗 1~4mmのFl・Q、1~3 mmのchを含む	
609	154		10	2100流路	弥生 土器	甗	(底部 のみ、 1/2残)	底径：(6.2)	(外)10YR5/1褐灰 (内)2.5Y5/2暗灰黄 (断)2.5Y5/1黄灰	細 0.5~2mm大のFl・Q・ 水晶?、1~2mm大のchを 含む	底部穿孔 生駒山西麓産
610	154		10	2100流路	弥生 土器	甗	(底部の み、完 存)	底径：7.5	(外)2.5YR5/6明赤褐 (内)10YR5/3にぶい黄褐 (断)10YR5/1褐灰	やや粗 0.5~4mm大のFl、 0.5~3mm大のQ、1~4mm大 のch、1mm大のAm・シャ モットを含む	生駒山西麓産
611	154		10	2100流路	弥生 土器	甗	(底~体 部、底 部2/5 残)	底径：(7.6)	(外)10YR8/4浅黄橙 (内)10YR5/1褐灰 (断)7.5YR7/4にぶい橙	やや粗 1~3mm大のFl・ Q・ch、1~2mm大のシャ モットを含む	
615	156		10	9層	弥生 土器	広口壺	10 (口縁 1/3残)	口径：(23)	(外・断)7.5YR5/4にぶい 褐 (内)5YR4/6赤褐	3mm以下のFl・Q・Am、6 mm以下の花崗岩類?を含む	生駒山西麓産
622	170	85	11	竪穴住居4	弥生 土器	甗	約33	口径：(16.2) 底径：5.6 復元高： (25.5)	(内)10YR4/1褐灰 (外)10YR4/4にぶい黄橙	Fl(微細、3mm前後)+Q(3mm 前後)+Mi+Am	河内形 生駒山西麓産
623	170		11	竪穴住居4	弥生 土器	甗	5以下 (口縁 1/20 残)	口径：(16.2)	(外)5YR4/3にぶい赤褐 (内)10YR7/1灰白 (断)5YR4/4にぶい赤褐	1~3mm大のFl・Q・ch・金 Miを含む	大和か摂津形
624	170		11	北壁断面 竪穴住居4 上部包含層	弥生 土器	壺	(底部 のみ、 3/4残)	底径：(6.2)	(内)10YR3/2黒褐 (外)10YR4/2灰黄褐	Fl(微細を多く、2mm前後を 僅か)+Q(微細を多く、2 mm前後を僅か)+ch(微細を 多く)+Mi(微細を多く)+ Am(微細を多く)	生駒山西麓産
625	170		11	北壁断面 竪穴住居4 上部包含層	弥生 土器	壺	(底部 のみ、 1/3残)		(内)2.5Y8/2灰白 (外)10YR7/3にぶい黄橙	Fl(微細を多く、2mm前後を 僅か)+Q(微細を多く、2mm 前後を僅か)+ch(微細を多 く)+Mi(微細を多く) 胎 土が粗い	
626	170		11	竪穴住居4 4100ピット	弥生 土器	甗	(底部の み)	底径：5.8	(内)10YR7/2にぶい黄橙・ 7.5Y5/6明褐 (外)2.5Y8/3淡黄・ 2.5Y5/1黄灰	Fl(微細・2mm程度を多く) +Q(微細・2mm程度を多く) +ch(微細・2mm程度を多 く)	
627	170		11	北壁断面 竪穴住居4 上部包含層	弥生 土器	蓋?	(底部 のみ、 1/4残)	底径：(4.6)	(内)10YR7/2灰白 (外)10YR8/1灰白	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)	

遺物観察表 (18)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
628	170		11	竪穴住居 4	弥生 土器		5以下 (底部 1/5残)	口径：(5.6)	(外)10YR7/2にぶい黄橙 (内)5YR6/6橙 (断)2.5Y4/1黄灰	1~2mm大のFl・Q・ch、 シャモットを含む	
629	170		11	竪穴住居 9	弥生 土器	広口壺	8 (口縁 1/6残)	口径：(11.2)	(外)10YR7/1灰白 (内)10YR7/2にぶい黄橙 (断)10YR6/3にぶい黄橙	1mm~4mm弱のFl・Q・chを 含む	
630	170		11	竪穴住居 9	弥生 土器	壺	(底部の み、完 存)	口径：9.7	(外・内)10YR8/2灰白 (断)2.5YR6/8橙	2~4mm強のFl・Q・ch・ シャモットを含む	
631	170	85	11	竪穴住居 6	弥生 土器	無頸壺	90 (口縁 2/3残)	口径：8.9 底径：7.7 器高：17	(外)5YR6/6橙・2.5Y2/1黒 (内・断)2.5Y2/1黒	粗 1~3mm大のFl・Q・ ch・シャモット?を含む	
632	170		11	竪穴住居 6	弥生 土器	鉢か甕	40 (口縁 1/10 残)	口径：(26.8)	(外)7.5YR3/1黒褐 (内・断)7.5YR4/1褐灰	1mm以下のFl・Q・ch・微 粒Am?を含む	
633	170		11	竪穴住居 6	弥生 土器	甕蓋	15	つまみ部径： 5	(外・内)5Y5/1灰 (断)7.5YR5/6明褐	1~3mm大のFl・Q・chを含 む	畿内第 I 様式?
634	170		11	竪穴住居 12	弥生 土器	甕蓋	10 (つまみ 部4/5 残)	つまみ部径： 3.8	(外)2.5Y6/1黄灰 (内)10YR8/2灰白 (断)7.5YR7/6橙	Fl・Q・chの砂粒を多く、 3~4mm大のFl・Q・chを含 む	
635	170		11	竪穴住居 12	弥生 土器	甕	20	口径：(17.3)	(外)10YR2/1黒 (内)10YR6/3にぶい黄橙 (断)2.5YR5/8明赤褐・ 2.5YR6/8橙	1mm強~3mm弱のFl・Q・ch を含む	河内形
636	170		11	竪穴住居 12	弥生 土器	甕	5 (口縁 1/20 残)	口径：(23)	(外・内・断)5YR6/6橙	Fl・Q・Am・シャモット の砂粒を多く、3~4mm大 のFlを含む	生駒山西麓産
637	170		11	竪穴住居 8	弥生 土器	壺	30 (底部の み、完 存)	口径：5.7	(外)7.5YR7/2明褐灰 (内)2.5Y8/2灰白 (断)5YR7/6橙	2mm以下のFl・Q・ch・赤 色粒を多く、3~4mm大の Fl・Q・chを含む	
638	170	85	11	竪穴住居 7 2277-1 ピット	弥生 土器	鉢	55 (口縁 1/4残)	口径：(12.9) 底径：5.2 器高：12.9	(外)2.5Y6/1黄灰 (内)7.5Y5/4にぶい褐 (断)10YR6/2灰黄褐	1mm以下のFlを多く、1mm 以下のQ・chを含む	
639	170		11	竪穴住居 3	弥生 土器	甕	13	口径：(17.5)	(内)10YR7/2にぶい黄橙 (外)10YR6/2灰黄褐・ 7.5YR6/4にぶい橙	Fl(微細を多く、2mm前後) +Q(微細を多く、2mm前後) +ch(微細を多く)+Mi(微 細を多く)+結晶片岩	紀伊産?
640	170		11	竪穴住居 3	弥生 土器	壺	10	体部最大径： 28.2	(内・外)10YR8/1灰白	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く、2~3mm程度を少し) +ch(微細を多く、2~3mm 程度を少し)+クサリ礫(微 細を多く)+シャモット	
641	170	85	11	竪穴住居 3 4150土坑	弥生 土器	広口壺	5		(内・外・断)7.5YR5/4に ぶい褐	Fl(1~3mm大)+Q(1~3mm 大)+ch(1~3mm大)+Am(1 ~3mm大)	生駒山西麓産
642	170		11	竪穴住居 3	弥生 土器	甕	(底部の み)	底径：5	(内)10YR6/3にぶい黄橙 (外)7.5YR7/6橙	Fl(微細)+Q(微細)+ch(微 細)+Mi(微細)	
643	170		11	竪穴住居 3	弥生 土器	甕	(底部 のみ、 1/3残)	底径：(7.4)	(内)7.5YR?/?にぶい橙 (外)5YR6/6橙	Fl(微細を多く、3mm前後を 僅か)+Q(微細を多く、3mm 前後を僅か)+ch(微細を多 く)+クサリ礫(微細を多く)	
644	170		11	竪穴住居 3	弥生 土器	甕	(底部の み)	底径：7.4	(内)10YR6/2灰黄褐 (外)7.5YR6/4にぶい橙	Fl(微細、4mm前後)+Q(微 細、4mm前後)+Mi(微細)+ ch(微細)	生駒山西麓産
645	170		11	竪穴住居 3	弥生 土器	甕	(底部 のみ、 1/4残)		(内)2.5Y7/2灰黄 (外)7.5YR6/3にぶい褐	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)	
672	187		11	4094土坑	弥生 土器	広口壺	5 (口縁の み)	口径：(27.6)	(内・外・断)10YR5/3にぶ い黄褐	Fl(1~6mm大)+Q(1~6mm 大)+Mi(1~6mm大)	
673	187		11	4094土坑	弥生 土器	甕蓋	(つま み部の み、 1/3残)	つまみ部径： (5.3)	(内・外)10YR5/2灰黄褐	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く、2mm前後を僅か)+ ch(微細を多く、2mm前後を 僅か)+Am(微細を多く)	

遺物観察表 (19)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
674	187		11	2117土坑	弥生 土器	甗	(口縁～ 体部、 口縁 1/6残)	口径：(16.4)	(外)10YR7/2にぶい黄橙 (内・断)7.5YR6/6橙	細 FI・Q・金Mi・シャ モットを含む	
675	187		11	2117土坑	弥生 土器	甗	(口縁 のみ、 1/24 残)	口径：(34.6)	(外)7.5YR5/6明褐 (内)10YR5/4にぶい黄褐 (断)10YR5/2灰黄褐	細 FI・Q・微粒Am・ シャモットを含む	
676	187		11	2117土坑	弥生 土器	甗	(底部 のみ、 1/4残)	底径：(6.7)	(外)7.5YR7/4にぶい橙 (内)10YR7/4にぶい黄橙 (断)7.5YR7/6橙	細 FI・Q・ch・シャモッ トを含む	
677	187		11	2117土坑	弥生 土器	壺?	(底部 のみ、 9/10 残)	底径：(7.6)	(外)10YR6/3にぶい黄橙 (内)10YR5/3にぶい黄褐 (断)2.5Y5/1黄灰	細 1～4mm大のFI、Q(1 cm大1粒含む)・ch・Am・ Mi・シャモット、5mm大の 花崗岩1粒を含む	生駒山西麓産
678	187		11	4081土坑	弥生 土器	広口壺	20 (口縁～ 頸部)	口径：(29)	(内)5YR5/6明赤褐 (外)5YR5/4にぶい赤褐 (断)7.5YR6/1褐灰	FI(1～4mm大)+Q(1～4mm 大)	生駒山西麓産
679	187		11	2130土坑	弥生 土器	広口壺	35 (口縁部 欠損)	底径：6.2	(外)7.5YR3/1黒褐・ 10YR7/2にぶい黄橙 (内)10YR5/2灰黄褐	1～6mm大のFI・Q・ch・ シャモットを含む	外面黒色物質塗付
680	187		11	4096土坑	弥生 土器	壺	5以下		(内・外・断)5YR5/6明赤 褐	FI(1～3mm大)+Q(1～3mm 大)+Am(1～3mm大)	畿内第Ⅰ様式?
681	187		11	4096土坑	弥生 土器	甗	10	口径：(21.4)	(内)10YR5/2灰黄褐 (外)10YR8/1灰白	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)	
682	187		11	4096土坑	弥生 土器	甗	(口縁 のみ、 1/5残)	口径：(20.2)	(内)7.5YR4/1褐灰 (外)7.5YR3/1黒褐	Q(微細を多く)+ch(微細を 多く)+Am(微細を多く)	
683	187		11	4096土坑	弥生 土器	甗	5	口径：(18)	(内・外)7.5YR8/4浅黄橙	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)	
684	187		11	4096土坑	弥生 土器	甗	(底部 のみ、 1/2残)	底径：(6.4)	(内)7.5YR7/3にぶい橙 (外)5YR8/4淡橙	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く、2mm程度を僅か)+ ch(微細を多く、2mm程度を 僅か)	
685	187		11	4096土坑	弥生 土器	壺	(底部 のみ、 1/2残)	底径：(7.8)	(内)10YR8/3浅黄橙 (外)7.5YR8/4浅黄橙	FI(微細を多く)+Q(微細・ 2mm程度を多く)+ch(微 細・2mm程度を多く)	
686	187		11	2266土坑	弥生 土器	広口壺	20 (口縁 1/4残)	口径：(18)	(外)10YR6/4にぶい黄橙 (内・断)10YR4/1褐灰	1～3mm大のFI・ch・Am、 1～3mm大・1cm大のQを含 む	生駒山西麓産
687	187		11	2270土坑	弥生 土器	壺	(体部 片)		(外)10YR7/2にぶい黄橙 (内)2.5YR8/2? (断)2.5YR5/1赤灰	FI・Q・ch・赤色粒の砂粒 を多く含む	畿内第Ⅲ様式?
688	187		11	2296土坑	弥生 土器	甗	15 (底部 6/7残)	底径：(5.6)	(外)7.5YR7/6橙 (内)10YR6/3にぶい黄橙	2mm大のFI・Q・ch・シャ モットを含む	
689	187		11	2283土坑	弥生 土器	甗	30 (底部完 存)	底径：4.6	(外)10YR7/2にぶい黄橙・ 10YR4/1褐灰 (内)10YR7/4にぶい黄橙	粗 2mm大のFI・Q、3mm大 のch、1mm大のシャモット を含む	底部穿孔
690	187		11	2268土坑	弥生 土器	甗	6 (口縁 1/8残)	口径：(29.1)	(外)2.5YR5/8明赤褐 (内)7.5YR6/3にぶい褐 (断)2.5YR5/1赤灰	1～4mm大のFI・Q・ch・ Am・Mi・シャモットを含 む	生駒山西麓産
691	187	86	11	2273土坑	弥生 土器	甗	70 (口縁 17/20 残)	口径：28.2	(外)5YR5/6明赤褐 (内・断)2.5YR3/4暗赤褐	1～3mm大のFI・Q・Mi・ Am・花崗岩を含む	生駒山西麓産
692	188		11	4061土坑	弥生 土器	甗	10	口径：(19.4)	(内)10YR3/2黒褐 (外)10YR7/2にぶい黄橙・ 10YR3/2黒褐	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く、2mm程度を僅か)+ Mi(微細を多く)	生駒山西麓産
693	188		11	4061土坑	弥生 土器	壺	(底部 のみ、 1/3残)	底径：(10.8)	(内・外)2.5Y8/2灰白	FI(微細を多く、2mm前後) +Q(微細を多く、2mm前後) +ch(微細を多く、2mm前 後)	
694	188		11	4147土坑	弥生 土器	広口壺	5 (口縁の み)	口径：(20.4)	(内)5YR7/3にぶい橙 (外・断)10YR7/2にぶい黄 橙	FI(1～2mm大)+Q(1～2mm 大)+赤色粒(1～2mm大)	
695	188		11	4147土坑 炭層直下層	弥生 土器	広口壺	(口縁 のみ、 1/5残)	口径：(19.6)	(内)10YR6/2灰黄褐 (外)10YR5/2灰黄褐	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)+ Am(微細を多く)	

遺物観察表 (20)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
696	188	85	11	4147土坑 炭層	弥生 土器	甕	10	口径：(20)	(内)10YR6/2灰黄褐 (外)10YR5/2灰黄褐	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)+ 結晶片岩	紀伊形
697	188		11	4147土坑	弥生 土器	甕	(口縁 のみ、 1/8残)	口径：(16.8)	(内)10YR6/2灰黄褐 (外)10YR4/1褐灰	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)+ Mi(微細を多く)	畿内第Ⅱ様式の紀 伊型甕?(搬入品?)
698	188		11	4147土坑	弥生 土器	甕	(底部の み)	底径：5.6	(内)7.5YR4/1褐灰 (外)7.5YR6/3にぶい、褐	Fl(微細・2mm前後を多く) +Q(微細・2mm前後を多く) +ch(微細・2mm前後を多 く)+Mi(微細を多く)	
699	188		11	4147土坑	弥生 土器	壺	(底部 のみ、 1/4残)	底径：(7.6)	(内)10YR5/2灰黄褐 (外)2.5Y5/2暗灰黄	Fl(微細を多く)+Q(微細 を多く)+ch(微細を多 く)+Mi(微細を多く)	
700	188	85	11	4152土坑 下層	弥生 土器	甕	約40	口径：(29) 底径：9 器高：45.1	(内・断)2.5Y6/2灰黄 (外)2.5Y5/2暗灰黄	Fl(微細、1mm前後)+Q(1mm 前後、3mm以上を少量)+ Am?	
701	188		11	4152土坑 上層	弥生 土器	高杯か 鉢	(脚部 のみ、 1/2残)	底径：(9.4)	(外)10YR5/2灰黄褐	Fl(微細を多く、3~5mm)+ Q(微細を多く、3~5mm)+ Mi(微細を多く)+Am(微細 を多く)	生駒山西麓産
702	188		11	4152土坑 下層	弥生 土器	甕	(底部の み)	底径：5.6	(内)10YR7/2にぶい黄橙 (外)10YR6/2灰黄褐	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)+ Mi(微細を多く)	
703	188		11	4152土坑 下層	弥生 土器	鉢	(底部 のみ、 1/3残)	底径：(6.2)	(内・外)2.5Y7/2灰黄	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く) 胎土がやや粗い	
704	188		11	4075土坑	弥生 土器	壺	(底部)	底径：7.8	(内・外)10YR6/2灰黄褐	Fl(微細を多く、2mm前後) +Q(微細を多く、2mm前後) +ch(微細を多く、2mm前 後)+Mi(微細を多く)	
709	192		11	2128溝	弥生 土器	広口壺	10 (口縁 1/5残)	口径：(25)	(外)10YR4/3にぶい黄褐 (内)7.5YR4/4褐	細 Fl・Q、1~2mm大の Amを多く含む	生駒山西麓産
710	192		11	2128溝	弥生 土器	壺	40 (底部の み)	底径：(9.4)	(外)7.5YR5/3にぶい、褐 (内)7.5YR3/2黒褐 (断)5YR4/6赤褐・5YR3/1 黒褐	1~5mm大の白色小石、2.5 mm内のAm、クサリ礫を含 む	生駒山西麓産
711	192		11	2107溝	弥生 土器	甕	10 (口縁 1/5残)	口径：(21.4)	(外)7.5YR5/3にぶい、褐 (断)7.5YR4/3褐	1~8mm大のFl・Q・Am・ 赤色粒・花崗岩を含む	生駒山西麓産
712	192		11	2301溝	弥生 土器	甕蓋	45 (つまみ 部1/2 残)	つまみ部径： 4.5	(外)7.5YR7/6橙 (内)7.5YR7/4にぶい、橙 (断)5YR8/4淡橙	2~4mm大のQ、2mm大の Fl・ch、1mm大のシャモツ トを含む	
713	192		11	2127溝	弥生 土器		(底部の み、完 存)	底径：(5.4)	(外・内)10YR7/2にぶい、黄 橙 (断)7.5YR7/6橙	細 Fl・Q・chを含む	
714	192		11	2127溝	弥生 土器		(底部 のみ、 1/2残)	底径：(6.4)	(外・断)2.5Y5/2暗灰黄 (内)2.5Y4/1黄灰	やや粗 1~5mm大のFl、 Q・Am・金Miを含む	
715	192		11	2127溝	弥生 土器		(底部 のみ、 1/4残)	底径：(7.8)	(外)2.5Y8/2灰白 (内)10YR7/3にぶい、黄橙 (断)10YR6/1褐灰	細 Fl・Q・ch・シャモツ トを含む	
716	192		11	2129溝	弥生 土器	広口壺	55	口径：(15.3)	(外)10YR7/1灰白・ 2.5Y4/1黄灰 (内・断)10YR7/1灰白	1~5mm大のFl・Q・ch・赤 ch・Am・黒色粒を含む	
717	192		11	2129溝	弥生 土器	壺	(体部 片)		(外)5YR3/2暗赤褐 (内)7.5YR3/4暗褐	2mm以下のFl、1.5mm以下 のQ・Am、金Mi・黒Mi、 3.5mmの花崗岩1粒含む	生駒山西麓産 拓本あり
718	192		11	2129溝	弥生 土器	甕	12 (口縁 1/6残)	口径：(15.4)	(外・内・断)灰白	1~2mm大のFl・Q・chの砂 粒を多く、シャモツトを含 む	
719	192		11	2129溝	弥生 土器	甕	(底部の み、完 存)	底径：4.7	(外)10YR5/4にぶい、黄褐・ 10YR4/1褐灰 (内・断)10YR5/4にぶい、黄 褐	細 1~3mm大のFl・Q、金 Mi・Am・シャモツトを含 む	生駒山西麓産 底部外内より穿孔 痕
720	192		11	2110溝	弥生 土器	甕	(口縁の み)	口径：(17.8)	(外)10YR4/2灰黄褐 (内)2.5Y5/2暗灰黄 (断)10YR5/6黄褐	粗 4mm以下のFl・Q・ ch・シャモツトを含む	

遺物観察表 (21)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
721	192		11	2110溝	弥生 土器	甗	(口縁 のみ、 1/16 残)	口径：(20.6)	(外・内・断)10YR7/3にぶ い黄橙・10YR4/1褐灰	細 1.5mm以下のFl・Q・ ch・金Miを含む	
722	192		11	2110溝	弥生 土器	壺	25 (底部完 存)	底径：7.3	(外)10YR8/3浅黄橙 (内)10YR8/2灰白	2mm弱～4mm強のFl・Q・ ch、6mm長の礫1粒、シャ モットを含む	
723	192		11	2110溝	弥生 土器	甗	(底部 1/3残)	底径：(5.4)	(外・内)5Y3/2オリーブ黒	細 2mm以下のFl・Q・ Am・シャモット、6mm大 の花崗岩?1粒、4mm大の閃 緑岩?1粒を含む	生駒山西麓産
724	192		11	2110溝	弥生 土器	壺	(底部 1/4残)	底径：(8.4)	(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)10YR7/3にぶい黄橙 (断)7.5YR6/6橙	細 Fl・Q・ch・シャモッ トを含む	
727	195	84	11	2120流路	縄文 土器	深鉢	20 (口縁 1/12 残)	口径：(22.6)	(外・断)10YR5/2灰黄褐 (内)10YR3/1黒褐	1mm大のFl・Q、2～3mm大 のAmを含む	長原式 生駒山西麓産
728	195	84	11	2120流路	縄文 土器	深鉢	(体部 片)		(外)5YR5/1褐灰 (内)5YR5/2灰褐 (断)5YR3/1黒褐	1mm弱～3mm強のFl・Q・ ch・Amを含む	生駒山西麓産
729	195	84	11	2120流路	縄文 土器	深鉢	35 (底～体 部)	底径：(4.8)	(外)10YR4/1褐灰 (内・断)10YR5/1褐灰	1～3mm大のFl・Q、1～2mm 大のAmを含む	生駒山西麓産
730	195	84	11	2120流路	縄文 土器	深鉢	(口縁部 片)		(外・内)7.5YR2/2黒褐	1mm大のFl・Q、0.5mm強の Amを多く、4mm大の花崗 岩を1粒を含む	長原式 拓本あり
731	195	84	11	2120流路	縄文 土器	深鉢	(底部の み)		(外)7.5YR2/1黒 (内)7.5YR5/3にぶい褐 (断)7.5YR5/2灰褐	1mm弱～3mm強のFl・Q・ Amを含む	生駒山西麓産
732	195		11	2120流路 河川下部付 近	弥生 土器	広口壺	5 (口縁 1/4残)	口径：(24)	(外・断)7.5YR7/3にぶい 橙 (内)7.5YR6/6橙	1～6mm大のFl・Q・ch・ シャモットを含む	
733	195		11	2120流路	弥生 土器	広口壺	15 (口縁 1/3残)	口径：(16)	(外・内)7.5YR6/6橙 (断)2.5Y5/1黄灰	1～4mm大のFl・Q・ch・金 Miを含む	
734	195		11	2120流路	弥生 土器	広口壺	20 (口縁 1/6以 下残)	口径：(25.4)	(外)2.5Y6/3にぶい黄 (内・断)2.5Y5/1黄灰	1～4mm大のFl・Q・ch・ク サリ礫を含む	
735	195		11	2120流路	弥生 土器	広口壺	5 (口縁 1/6残)	口径：(18.1)	(外)5YR7/6橙 (内)2.5YR6/6橙・ 5YR6/4にぶい橙 (断)5YR7/8橙・5YR6/6橙	1mm強～4mm強のFl・Q・ ch・シャモットを含む	
736	195	86	11	2120流路	弥生 土器	広口壺	55 (口縁 2/3残)	口径：(15.4) 底径：8 器高：27	(外)10YR6/2灰黄褐 (内)10YR5/2灰黄褐 (断)7.5YR6/6橙	1～2mm大のFl・Q・chを含 む	生駒山西麓産
737	195		11	2120流路	弥生 土器	広口壺	20 (口縁 1/9残)	口径：(18.8)	(外)7.5YR4/1褐灰 (内・断)7.5YR5/2灰褐	1～2mm大のFl・Q・Amを 含む	生駒山西麓産
738	195		11	2120流路 下部付近	弥生 土器	広口壺	(頸～肩 部)		(外)10YR6/2灰黄褐 (内)7.5YR5/4にぶい褐	3.5mm以下のFl・Q、4mm以 下のchを含む	布目庄痕文
739	195		11	2120流路 北側下部	弥生 土器	広口壺	(体部)		(外・内)10YR4/1褐灰～ 5YR3/1黒褐	細 1～2mm大のFl・Q、 0.5mm大のchを含む	黒色物質塗付 拓本あり
740	195	86	11	2120流路	弥生 土器	広口壺	80 (口縁 1/6残)	口径：(17.3) 底径：6.2 器高：30.9	(外・内面共に黒色物を塗 布?)	1～3mm大のFl・Am・Miを 含む	
741	195		11	2120流路 下部付近	弥生 土器	広口壺	20 (口縁 1/10 残)	口径：(21)	(外)7.5YR4/1褐灰 (内)2.5Y5/2暗灰黄 (断)2.5Y6/2灰黄	Fl・Q・Am・金Miの砂粒 を多く、3～4mm大のFl・Q を含む	生駒山西麓産
742	195	86	11	2120流路	弥生 土器	壺	15 (口縁完 存)	口径：(16.2)	(外・内・断)10YR5/2灰黄 褐	1～6mm大のFl・Q・Amを 含む	生駒山西麓産
743	195		11	2120流路	弥生 土器	壺	(体部)		(外)7.5Y3/1オリーブ黒～ 2.5Y6/2灰黄 (内)2.5Y7/3浅黄	1～2mm大のFl・Q、0.5mm 大のAmを少量含む	拓本あり

遺物観察表 (22)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
744	195		11	2120流路	弥生 土器	壺	(体部)		(外・内・断)7.5YR5/3に ぶい褐	Fl・Q・金Mi・Amの砂粒 を多く、赤色粒の砂粒を少 量含む	生駒山西麓産 拓本あり
745	196		11	2120流路	弥生 土器	無頸壺	10 (口縁 3/100 残)	口径：(15.8)	(外・内)2.5Y6/3にぶい黄 (断)7.5YR6/3にぶい褐	1～3mm大のFl・Q・ch・ シャモットを含む	
746	196	86	11	2120流路	弥生 土器	無頸壺	20 (口縁 3/100 以下残)	口径：(15.4)	(外・内)7.5YR4/2灰褐 (断)10YR5/3にぶい黄褐	1mm大のFl・Q・Am・シャ モットを含む	生駒山西麓産
747	196		11	2120流路	弥生 土器	鉢	20 (口縁 1/8残)	口径：(25.8)	(外)10YR5/2灰黄褐 (内)10YR6/4にぶい黄橙	細 1～2mm大のFl・Q、 Mi・シャモットを少量含 む	
748	196		11	2120流路 下部付近	弥生 土器	鉢	10 (口縁 1/5残)	口径：(23.2)	(外)10Y3/1オリーブ黒 (内)10YR4/2灰黄褐	細 2mm大のFl・Am、1mm 弱の金Miを少量含む	生駒山西麓産
749	196		11	2120流路	弥生 土器	甗蓋	40	つまみ部径： 6.1	(外)7.5Y6/6橙 (内・断)10YR6/3にぶい黄 橙	1～5mm大のFl・Q・chを含 む	
750	196	86	11	2120流路	弥生 土器	甗蓋	40	つまみ部径： 5.7 口径：21.7 器高：10.6	(外・断)10YR5/3にぶい黄 褐 (内)7.5YR3/3暗褐	1～2mm大のFl・Q・微粒 Am?を含む	
751	196		11	2120流路 下部付近	弥生 土器	甗蓋	(つま み部 のみ、完 存)	つまみ部径： 5.7	(外・内)2.5Y6/2灰黄	やや粗 1～3mm大のFl・ Q、1～2mm大のchを含む	
752	196		11	2120流路 下部付近	弥生 土器	甗	30 (口縁 1/8残)	口径：(21.2)	(外)7.5YR3/1黒褐 (内・断)10YR5/2灰黄褐	1～3mm大のFl・Q・Amを 含む	生駒山西麓産
753	196		11	2120流路	弥生 土器	甗	30 (口縁 1/6残)	口径：(24)	(外)10YR4/2灰黄褐 (内・断)10YR6/3にぶい黄 橙	1～2mm以下のFl・Qを含む	
754	196		11	2120流路	弥生 土器	甗	20 (口縁 1/8残)	口径：(17.2)	(外)2.5Y3/1黒褐 (内)10YR6/2灰黄褐 (断)7.5YR6/3にぶい褐	1～2mm大のFl・Q・Amを 含む	
755	196		11	2120流路	弥生 土器	甗	30 (口縁 1/8残)	口径：(18.4)	(外)7.5YR4/2灰褐 (内・断)10YR4/2灰黄褐	1mm以下のFl・Qを含む	
756	196		11	2120流路	弥生 土器	壺?	10 (底部 1/2残)	底径：6.6	(外・内・断)2.5Y7/2灰黄	1～2mm大のFl・Q・chを含 む	
757	196		11	2120流路 下部付近	弥生 土器		(底部の み、底 部1/4 残)	底径：(7.2)	(外)7.5Y3/1オリーブ黒 (内)10YR6/6明黄褐 (断)10YR6/8明黄褐	やや粗 1～3mm大のFl・ Q・chを含む	
758	196		11	2120流路 下部付近	弥生 土器		(底部 のみ、 4/5残)	底径：(8)	(外)10YR5/3にぶい黄褐 (内)10YR5/2灰黄褐 (断)2.5YR5/1黄灰	細 1～2mm大のFl・Q、1 mm大のchを含む	
759	196		11	2120流路	弥生 土器		(底部の み、完 存)	底径：(5.3)	(外・断)10YR5/3にぶい黄 褐 (内)10YR5/2灰黄褐	細 0.5～2mm大・5mm大の Fl、0.5～2mm大のQ、0.5 ～1mm大のAmを含む	底部穿孔 生駒山西麓産
760	197	84	11	9層	縄文 土器	深鉢	3 (口縁 1/10 残)	口径：(29.4)	(外)10YR4/1褐灰 (内)10YR5/2灰黄褐 (断)10YR4/2灰黄褐	1mm弱～3mm弱のFl・Q・ Amを含む	長原式 生駒山西麓産
761	197	84	11	9層	縄文 土器	深鉢	(口縁部 片)		(外・内)10YR8/3浅黄橙 (断)10YR7/3にぶい黄橙	1mm弱～5mm強のFl・Q・ch を含む	長原式
762	197	84	11	9層	縄文 土器	深鉢	(体部 片)		(外)10YR8/2灰白 (内)10YR7/3にぶい黄橙 (断)2.5YR5/1赤灰	Fl・Q・Mi・赤色粒の砂粒 を多く含む	長原式
763	197	87	11	9層	弥生 土器	鉢	(口縁部 片)		(外・断)2.5YR5/6明赤褐 (内)5YR5/4にぶい赤褐	Fl・Q・Amの砂粒を多 く、3mm以上のFlを含む	生駒山西麓産 朝鮮半島系
764	197		11	9層	弥生 土器	広口壺	(口縁部 片)		(外)5YR4/8赤褐 (内)2.5YR4/8赤褐	3mm以下のFl、4mm以下の Q、1.5mm以下のAm、金 Mi、5mmの花崗岩1粒を含 む	生駒山西麓産

遺物観察表 (23)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
765	197		11	9層	弥生 土器	広口壺	(口縁部 のみ、 1/6残)	口径：(26.4)	(外・内)5YR5/6明赤褐	2.5mm以下のFl、3.5mm以下のQ、2mm以下のAm、シャモット、4mm大の花崗岩1粒を含む	生駒山西麓産
766	197		11	9層北壁断面	弥生 土器	壺	10		(内)7.5YR7/4にぶい橙 (外)10YR5/2灰黄褐	Fl(微細を多く)+Q(微細を多く、2mm前後を僅か)+ch(微細を多く、2mm前後を僅か)	
767	197		11	9層	弥生 土器	鉢	(体部 片)		(外)10YR4/2灰黄褐 (内)10YR2/1黒	Fl・Q・金Mi・Amを含む	生駒山西麓産
768	197	87	11	9層	弥生 土器	広口壺	55 (口縁部 欠損)	底径：7.4	(外)2.5Y4/1黄灰 (内)2.5Y5/1黄灰 (断)7.5Y2/1黒	1mm大のFl・Q・Am・シャモットを含む	生駒山西麓産
769	197		11	9層	弥生 土器	甗	30 (口縁 1/15 残)	口径：(23)	(外・内・断)10YR6/3にぶい黄橙	1~2mm大のFl・Q、2~6mm大のAm、1mm以下の赤色粒を含む	生駒山西麓産
770	197	87	11	9層	弥生 土器	甗蓋	17 (つまみ 部、完 存)	つまみ部径： 4.9 口径：18.3 器高：11.1	(外)10YR8/2灰白 (内)10YR7/2にぶい黄橙 (断)7.5YR7/6橙	1~3mmのFl・Q・chを含む	
771	197		11	9層	弥生 土器	甗	50	底径：6	(内)5YR5/4にぶい赤褐 (外)10YR6/3にぶい黄橙・ 5YR5/4にぶい赤褐	Fl(微細を多く、3mm前後を僅か)+Q(微細を多く、3mm前後を僅か)+ch(微細を多く) 胎土が粗い	
772	197		11	9層	弥生 土器	甗	(底部 のみ、 1/2残)	底径：(6)	(内)10YR5/1褐灰 (外)10YR5/2灰黄褐	Fl(微細を多く)+Q(微細を多く)+ch(微細を多く)	
773	197		11	9層	弥生 土器	壺	(底部の み)	底径：7	(内・外)10YR5/2灰黄褐	Fl(微細、5mm前後)+Q(微細、5mm前後)+Mi(微細)+Am(微細)+赤色粒	生駒山西麓産
774	197		11	9層	弥生 土器	甗	(底部 のみ、 1/4残)	底径：(9.2)	(内・外)5YR5/6明赤褐	Fl(微細を多く、2mm前後)+Q(微細を多く、2mm前後)+ch(微細を多く)+Mi(微細を多く)+Am(微細を多く)	生駒山西麓産
775	197		11	9層	弥生 土器	壺	(底部 のみ、 1/3残)	底径：(7.2)	(内)10YR5/3にぶい黄褐・ 10YR3/1黒褐 (外)10YR7/3にぶい黄橙	Fl(微細を多く、2mm程度を僅か)+Q(微細を多く、2mm程度を僅か)+ch(微細を多く)	
776	197		11	9層	弥生 土器	壺	(底部の み)	底径：(8.4)	(内)10YR6/3にぶい黄橙 (外)7.5YR6/4にぶい橙	Fl(微細)+Q(微細)+ch(微細)	
777	197		11	9層下部北壁断面	弥生 土器	甗	(底部の み)	底径：5.6	(内)10YR5/4にぶい黄褐 (外)7.5YR5/6明赤褐	Fl(微細を多く、4mm前後を僅か)+Q(微細を多く、4mm前後を僅か)+ch(微細を多く)+Mi(微細を多く)+Am(微細を多く)	生駒山西麓産
778	197		11	9層	弥生 土器	甗	20 (底部 1/4残)	底径：(6.2)	(外)5YR6/4にぶい橙 (内)10YR5/2灰黄褐 (断)10YR5/1褐灰	Fl・Q・Mi・赤色粒の砂粒を多く、3~4mm大の結晶片岩を含む	紀伊産
779	197		11	9層	弥生 土器		(底部 のみ、 1/2残)	底径：(6.4)	(内)7.5YR7/6橙 (外)10YR8/1灰白	Fl(微細を多く)+Q(微細を多く、3mm前後)+ch(微細を多く、3mm前後)+結晶片岩 胎土がやや粗い	
780	197		11	9層	弥生 土器	壺?	(底部 のみ、 1/8残)	底径：(8.4)	(内)7.5YR7/4にぶい橙 (外)7.5YR6/4にぶい橙	Fl(微細を多く、2mm前後を僅か)+Q(微細を多く、2mm前後を僅か)+ch(微細を多く) 胎土が粗い	
781	197		11	9層	弥生 土器	壺	(底部 のみ、 1/2残)	底径：(6.9)	(内)10YR4/2灰黄褐 (外)10YR5/3にぶい黄褐	Fl(微細を多く、2mm前後)+Q(微細を多く、2mm前後)+ch(微細を多く)+Mi(微細を多く)+Am(微細を多く)	生駒山西麓産
782	197		11	9層	弥生 土器	甗	(底部の み)	底径：6.6	(内)10YR6/2灰黄褐 (外)10YR7/1灰白	Fl(微細・2mm程度を多く)+Q(微細・2mm程度を多く)+ch(微細)+Am(微細)	
797	205	96	18	方形周溝墓 1 西側周溝	弥生 土器	鉢	60 (口縁部 欠損)	底径：8.4	(外)10YR8/3浅黄橙・ 2.5YR7/4淡赤橙 (内)10YR8/3浅黄橙	1~2mm大の白色砂粒を多く含む	把手付

遺物観察表 (24)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
798	205		18	方形周溝墓 1 北側周溝	弥生 土器	広口壺	30 (口縁 5/6残)	口径：(11.2)	(外・内・断)にぶい橙	1~2mm大・3~4mm大の Fl、1~2mm大のQ・ch・ シャモットを含む	
802	221	96	19	竪穴住居 15 2220-5 ピット	弥生 土器	広口壺	75 (口縁 1/7残)	口径：(18.2) 底径：6.2 器高：29.1	(外・内)7.5YR5/3にぶい 褐 (断)5YR4/6赤褐・5YR5/1 褐灰	1~4mm大のFl・Q・Amを 多く含む	
803	221	96	19	竪穴住居 16 遺物1	弥生 土器	甗	70 (口縁 1/2残)	口径：15.4	(外・内・断)10YR4/1褐灰	1~3mm大のFl・Q・chを含 む	
804	221		19	竪穴住居 16	弥生 土器	甗	5 (口縁 1/10 残)	口径：(20.4)	(外)10YR4/3にぶい黄褐 (内)10YR6/3にぶい黄橙	1~4mm大のFl・Q・Mi・ Amを少量含む	生駒山西麓産
805	221		19	竪穴住居 18	弥生 土器	直口壺	5 (口縁 1/9残)	口径：(13)	(外)7.5YR5/4にぶい褐 (内)10YR6/2灰黄褐 (断)7.5YR5/4にぶい褐	1~3mm大のFl・Q・ch・赤 色粒を含む	
806	221		19	竪穴住居 17 遺物1	弥生 土器	壺	20以下 (底部完 存)	底径：5.8	(外)2.5Y7/3浅黄 (内・断)10YR7/2にぶい黄 橙	7mm大・1~3mm大のFl・ Q・ch・微粒Am?・シャ モットを含む	
807	221		19	竪穴住居 19 壁溝	弥生 土器	甗蓋	5 (つまみ 部のみ 残)	つまみ部径： 5	(外・内)2.5Y4/1黄灰・黒 (断)10YR7/2にぶい黄橙	1~3mm大のFl・Q・ch・ シャモットを含む	
808	221		19	竪穴住居 19	弥生 土器	甗	10 (口縁 1/8残)	口径：(16.5)	(外)5YR4/2灰褐 (内)5YR6/4にぶい橙 (断)5YR5/3にぶい赤褐	1mm強~3mm強のFl・Q・ Amを含む	生駒山西麓産
809	221		19	竪穴住居 19 壁溝 遺物14	弥生 土器	甗	5以下 (口縁 1/15 残)	口径：(34.8)	(外・内・断)7.5YR5/3に ぶい褐	1~3mm大のFl・Q・Amを 含む	生駒山西麓産
810	221		19	竪穴住居 19 2231-7 ピット	弥生 土器	甗	10以下 (口縁 1/12 残)	口径：(25.6)	(外)10YR5/2灰黄褐 (内)2.5Y7/1灰白 (断)5YR6/6橙	1~3mm大のFl・Q・ch・黒 色粒を含む	19区西P7
811	221		19	竪穴住居 19 上層	縄文 土器	深鉢	(体部)		(外)7.5YR7/4にぶい橙 (内)7.5YR7/2明褐灰 (断)7.5YR4/1褐灰	1mm弱~3mmのFl・Qを多 く、ch・赤色粒を少量、 Miを含む	
812	221	96	19	竪穴住居 19 遺物32	弥生 土器	壺	(底部の み、完 存)	底径：6.2	(外)10YR7/1灰白 (内)7.5YR7/1明褐灰・ 7.5YR6/1褐灰 (断)10YR6/1褐灰	1mm弱~3mm強のFl・Qを含 む	19区中西遺物2
813	221		19	竪穴住居 19 遺物28	弥生 土器	壺	15以下 (底部の み)	底径：5.8	(外・内・断)10YR7/2にぶ い黄橙	1~5mm大・6mm大のFl・ Q・chを含む	
814	221	100	19	竪穴住居 19	土製品	土製 円盤	100	直径：4.5 厚さ：0.7	(外・内・断)明灰	2mm以下のFl・Q・chを含 む	土器片再加工円盤
815	221		19	竪穴住居 20 2434-10 ピット(仮)	弥生 土器	甗	5 (口縁 1/8残)	口径：(18.8)	(外・断)2.5Y4/1黄灰 (内)5YR5/4にぶい赤褐	3mm以上のFl、Fl・Q・ Am・シャモットの砂粒を 多く含む	
816	221		19	竪穴住居 22 2433-7 ピット	弥生 土器	甗蓋	15 (つまみ 部完存)	つまみ部径： 4.8	(外)N4/0灰 (内)N4/0灰・2.5Y5/2暗灰 黄 (断)2.5Y7/1灰白	1~3mm大のFl・Q・ch・ シャモットを含む	
817	221	96	19	竪穴住居 22 周辺	弥生 土器	甗	55 (口縁 1/2残)	口径：(18) 底径：6 器高：24.3	(外)5YR5/4にぶい赤褐 (内)7.5YR7/4にぶい橙 (断)7.5YR5/1褐灰	1~2mm大のFl・Q・ch(4mm 大1粒含む)・シャモットを 含む	紀伊形
818	221		19	竪穴住居 22 周辺	弥生 土器	甗	30 (口縁 1/4残)	口径：(22)	(外・内・断)7.5YR7/2明 褐灰	1~3mm大のFl・Q・ch・ シャモットを含む	2423土坑出土破 片と接合 紀伊形
819	221		19	掘立柱建物 6 2184 ピット	弥生 土器	鉢	(口縁 のみ、 1/8弱 残)	口径：(16.1)	(外・内)2.5Y8/1灰白 (断)7.5YR6/6橙	1mm以下のFlを多く、2mm 大のFlを少量、1mm以下の Qを多く、2mm以下のchを 少量、2.5mm以下のシャ モットを少量含む	
820	221		19	竪穴住居 21 2435-11 ピット	弥生 土器	広口壺 (体部 片)			(外)10YR8/3淡黄橙 (内)10YR8/2灰白 (断)2.5YR6/6橙	1mm弱~3mm強のFl・Q・ ch・赤色粒を含む	

遺物観察表 (25)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
821	221		19	竪穴住居 21	弥生 土器	甗	5 (口縁の み)	口径：(29.6)	(外)7.5YR5/3にぶい褐 (内)7.5YR5/4にぶい褐 (断)5YR5/6明赤褐	1~3mm大のFl・Q・赤色 粒、1.5mm大のAmを含む	
822	217		19	竪穴住居 19 2231-44 ピット	木製品	柱根	30	最大長： 21.1 最大幅： 13.5			19区中西P16
823	217		19	竪穴住居 20 2434-9 ピット	木製品	柱根	15	最大長： 17.7 最大幅：8.3			
824	217		19	竪穴住居 20 2434-2 ピット	木製品	柱根	30	最大長： 45.8 最大幅： 11.5			
988	255		19	4231土坑 土器群D	弥生 土器	広口壺	30	口径：(29.4) 底径：(14) 復元高： (48.9)	(内・断)10YR7/2にぶい黄 橙 (外)7.5YR5/1褐灰	Fl(1~3mm大)+Q(1~3mm 大)+黒色粒(1~3mm大)	
989	255		19	4231土坑 土器群C	弥生 土器	甗	10	口径：(27.2)	(内・外)10YR7/2にぶい黄 橙	Fl(微細・2mm程度を多く) +Q(微細・2mm程度を多く) +ch(微細・2mm程度を多 く)	
990	255		19	4231土坑 土器群A	弥生 土器	甗	(底部の み、完 存)	口径：(27.2)	(内)7.5YR5/2灰褐 (外)10YR7/2にぶい黄橙	Fl(微細・2mm程度を多く) +Q(微細・2mm程度を多く) +ch(微細を多く)	
991	255	97	19	2411土坑	弥生 土器	広口壺	75 (口縁部 欠損)	底径：5.9	(外・内・断)10YR6/2灰黄 褐	1~3mm大のFl・Q・ch・ク サリ礫?、1~3mm大のMiを 少量含む	
992	255	97	19	2411土坑	弥生 土器	広口壺	80 (口縁 1/4残)	底径：7.9	(外・内)7.5YR5/4にぶい 褐・10YR7/4にぶい黄橙 (断)10YR3/1黒褐	1~5mm大のFl・Q・ch・ク サリ礫を含む	
993	256	99	19	4241土坑	弥生 土器	壺	35	底径：5.7	(内・断)10YR8/2灰白 (外)10YR7/3にぶい黄橙	Fl(1~3mm大を多く)+Q(1 ~3mm大を多く)+ch(1~3 mm大を多く)+シャモット (ごく少量)	
994	256		19	4241土坑	弥生 土器	甗	20	口径：(19.2)	(内)10YR7/2にぶい黄橙 (外)7.5YR7/2明褐灰・ 7.5YR4/1褐灰	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く、2mm程度を少し)+ ch(微細を多く、2mm程度を 少し)	
995	256	99	19	4241土坑	弥生 土器	鉢	90	口径：14.2 底径：4.6 器高：11	(内・外)7.5YR6/4にぶい 橙	Fl(微細を多く、2mm程度) +Q(微細を多く、2mm程度) +ch(微細を多く、2mm程 度)	
996	256		19	4241土坑	弥生 土器	壺	5		(内・外・断)10YR6/2灰黄 褐	Fl(1~2mm大)+Q(1~2mm 大)+Am(1~2mm大)	
997	256	98	19	2430土坑	弥生 土器	広口壺	75 (口縁 1/3残)	口径：(17.9) 底径：7.2 器高：26.5	(外・内・断)10YR7/3にぶ い黄橙	1~4mm大のFl・Q・ch・ シャモットを含む	
998	256	98	19	2430土坑	弥生 土器	広口壺	60 (口縁 1/20以 下残)	口径：(11.2) 底径：6.2 器高：15.5	(外・内・断)10YR7/2にぶ い黄橙	1~3mm大のFl・Q・ch、1 ~3mm大の微粒Am?を少量 含む	
999	256	98	19	2430土坑	弥生 土器	広口壺	75 (口縁 4/5残)	口径：14.6 底径：6.3 器高：23.1	(外)10YR5/3にぶい黄褐 (内)10YR6/2灰黄褐 (断)5YR4/4にぶい赤褐	1~3mm大のFl・Q・ch・微 粒Am?を含む	
1000	256	98	19	2430土坑	弥生 土器	広口壺	50 (口縁端 部欠損)	底径：5.7	(外・内)10YR7/3にぶい黄 橙 (断)7.5YR5/6明褐	1mm以下のFl・Q・ch・微 粒Amを含む	
1001	256		19	2430土坑	弥生 土器	広口壺	5 (体部)		(外・断)灰白 (内)灰	1~2mm大のFl・Q・ch、 シャモットを含む	
1002	256	97	19	2430土坑	弥生 土器	鉢	85 (口縁 4/5残)	口径：19 底径：7.5 器高：13.3	(外・内・断)10YR7/2にぶ い黄橙	1~4mm大のFl・Q・chを含 む	
1003	256		19	2207土坑	弥生 土器	広口壺	(口縁の み、口 縁1/24 残)	口径：(22.6)	(外)7.5YR7/4にぶい橙 (内)7.5YR7/6橙 (断)10YR7/2にぶい黄橙	細 1~2mm大のFl・Q・ch を含む	

遺物観察表 (26)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
1004	261	131	19	2122土坑	鉄器	鉄斧		長さ：3.5 幅：2.9 厚さ：(0.4)			鍛造？ 重さ：14.9g
1005	263		19	2215土坑	弥生 土器	広口壺	(口縁 のみ、 1/24 残)	口径：(18.7)	(外)10YR6/3にぶい黄橙 (内)10YR7/4にぶい黄橙 (断)10YR8/4浅黄橙	細 1~2mm大のFl・Q、1 mm大のchを含む	
1006	263		19	2215土坑	弥生 土器	広口壺	(口縁 のみ、 1/12 残)	口径：(25.2)	(外)7.5YR8/4浅黄橙 (内)10YR8/3浅黄橙 (断)10YR8/4浅黄橙	やや粗 1~3mm大のFl・Q を含む	
1007	263		19	2215土坑	弥生 土器	甕	(口縁 ~体 部、口 縁1/14 残)	口径：(19.3)	(外)10YR6/3にぶい黄橙 (内)2.5Y7/2灰黄 (断)10YR8/2灰白	細 1~3mm大のFl・Qを含 む	
1008	263		19	2215土坑	弥生 土器	甕	(底部 のみ、 1/18 残)	底径：(5.2)	(外)7.5YR4/1褐灰 (内)10YR3/1黒褐 (断)5YR7/8橙	粗 1~2mm大のFl・Q、結 晶片岩を含む	紀伊産
1009	263		19	2215土坑	弥生 土器	甕	(底部 のみ、 9/10 残)	底径：7.6	(外)7.5YR7/3にぶい橙 (内)10YR7/3にぶい黄橙 (断)10YR6/4にぶい黄橙	やや粗 1~2mm大のFl・ Q・ch、シャモットを含む	
1010	263		19	2238土坑	弥生 土器	甕	40 (底部 1/2残)	底径：(7)	(外)2.5YR6/6橙 (内)10YR4/1褐灰 (断)10YR6/1褐灰	Fl・Q・Mi・赤色粒・結晶 片岩の砂粒を多く含む	紀伊産
1011	263		19	2218土坑	弥生 土器	甕	15 (口縁 1/4残)	口径：(18.2)	(外・内)灰褐 (断)にぶい褐	3~4mm大のFl・chを含む	
1012	263	99	19	4273土坑	弥生 土器	無頸壺	50	口径：(8.2) 器高：17.7	(内・外)7.5YR5/4にぶい 褐	Fl(微細を多く、2~3mm)+ Q(微細を多く、2~3mm、5 mm程度を僅か)+ch(微細を 多く)+Mi(微細を多く)	生駒山西麓産
1013	263		19	4273土坑	弥生 土器	甕	(底部の み、完 存)	底径：5.4	(内)10YR5/2灰黄褐 (外)10YR5/3にぶい黄褐	Fl(微細を多く、2mm程度を 僅か)+ch(微細を多く)+ Am(粗粒)	生駒山西麓産
1014	263		19	4273土坑	弥生 土器	甕	(底部の み、完 存)	底径：5.4	(内)7.5YR4/2灰褐 (外)10YR5/3にぶい黄褐	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く、2~3mm程度を僅か) +ch(微細を多く、2~3mm 程度を僅か)+Mi(微細を多 く)+Am(粗粒)	生駒山西麓産
1015	263		19	2210土坑	弥生 土器	甕	10 (口縁 1/6残)	口径：(20.6)	(外)5YR6/6橙 (内)7.5YR7/6橙 (断)5YR7/4にぶい橙	Fl・Q・ch・Miの砂粒を多 く、3~5mm大のFl・Q・ch を含む	
1016	263		19	4274土坑	弥生 土器	甕蓋	20	口径：(19.8)	(内・外)7.5YR5/3にぶい 褐	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)+ Mi(微細を多く)+Am(粗粒)	生駒山西麓産
1017	263		19	4274土坑	弥生 土器	甕	5	口径：(16.2)	(内)2.5Y4/1黄灰 (外)10YR5/2灰黄褐	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く、2~3mm程度を僅か) +ch(微細を多く)	
1018	263		19	4274土坑	弥生 土器	甕	30	口径：(22)	(内)10YR4/2灰黄褐 (外)10YR3/2黒褐	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く、3mm程度を僅か)+ ch(微細を多く、3mm程度を 僅か)+Mi(微細を多く)+ Am(粗粒)	生駒山西麓産
1019	263	99	19	4274土坑	弥生 土器	鉢	20	口径：(20.4)	(内・外)10YR3/2黒褐	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く、2mm程度を少し)+ ch(微細を多く、2mm程度を 少し)+Am(微細を多く)	
1020	263		19	4274土坑	弥生 土器	甕	20	底径：4.8	(内)2.5Y7/3浅黄 (外)2.5Y8/3淡黄	Fl(微細を多く、2~3mm程 度)+Q(微細を多く、2~3 mm程度)+ch(微細を多く、 2~3mm程度)	生駒山西麓産
1021	263		19	4301土坑	弥生 土器	甕	30	口径：(18.8)	(内・外)10YR7/3にぶい黄 橙 (断)N4/0灰・7.5YR5/4に ぶい褐	Fl(1~4mm大)+Q(1~4mm 大)+Am(1~4mm大)+赤色 粒(1~4mm大)	紀伊形
1022	263		19	4301土坑	弥生 土器	甕	15	口径：(21.8)	(内・外・断)10YR5/4にぶ い黄褐	Fl(1~2mm大)+Q(1~2mm 大)+Mi(1~2mm大)	生駒山西麓産

遺物観察表 (27)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
1023	263		19	4301土坑	弥生 土器	蓋	10 (つまみ 部のみ)	つまみ部径： 5.7	(内)N4/0灰・7.5YR7/2明 褐灰 (外)2.5Y7/1灰白 (断)7.5YR7/2明褐灰	Fl(1~4mm大)+Q(1~4mm 大)+ch(1~4mm大)	
1024	263		19	4311土坑	弥生 土器	壺	10 (口縁の み)	口径：(31.2)	(内・外・断)10YR4/3にぶ い黄褐	Fl(1~4mm大)+Q(1~4mm 大)+Am(粗粒)	生駒山西麓産
1025	263		19	4311土坑	弥生 土器	甗	60	口径：(21.4)	(内・外・断)7.5YR5/3に ぶい褐	Fl(1~3mm大)+Q(1~3mm 大)+Mi(1~3mm大)	生駒山西麓産
1026	263		19	4314土坑	弥生 土器	甗	20	口径：(22.2)	(内)10YR5/4にぶい黄橙 (外)10YR4/3にぶい黄橙	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く、2~3mm程度を少し) +ch(微細を多く)+Mi(微 細を多く)	生駒山西麓産
1027	263		19	4314土坑	弥生 土器	甗	25	口径：(17)	(内・断)2.5Y7/2灰黄 (外)7.5YR3/2黒褐	Fl(1~2mm大)+Q(1~2mm 大)+ch(1~2mm大)	
1028	263		19	4314土坑	弥生 土器	甗	15	口径：(16)	(内・外・断)10YR6/2灰黄 褐	Fl(1mm大)+Q(1mm大)	
1029	263		19	4314土坑	弥生 土器	甗	30	口径：(15.2)	(内)10YR7/3にぶい黄橙 (外)10YR4/2灰黄褐	Fl(微細を多く、2mm程度を 少し)+Q(微細を多く、2mm 程度を少し)+ch(微細を多 く)	
1030	263		19	4237土坑	弥生 土器	甗	(口縁 のみ、 1/20 残)	口径：(21.6)	(内)10YR5/2灰黄褐 (外)10YR4/1褐灰	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)	
1031	263		19	4237土坑	弥生 土器	甗	(底部 のみ、 9/20 残)	底径：(5.4)	(内)10YR3/1黒褐 (外)7.5YR5/3にぶい褐	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く、2~3mm程度を少し) +ch(微細を多く)	生駒山西麓産
1032	263		19	4239土坑	弥生 土器	広口壺	(口縁 のみ、 1/10 残)	口径：(20.4)	(内)10YR5/4にぶい黄褐 (外)7.5YR5/4にぶい褐・ 7.5YR4/1褐灰	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く、3mm程度を少し)+ ch(微細を多く)+Mi(微細 を多く)+Am(粗粒)	生駒山西麓産
1033	264		19	4307土坑 下部	弥生 土器	広口壺	10 (口縁~ 頸部)	口径：(27)	(内)7.5YR4/1褐灰 (外)7.5YR3/2黒褐 (断)10YR4/2灰黄褐	Fl(1~5mm大)+Q(1~5 mm大)+Mi(1~5mm大)+ Am(粗粒)	生駒山西麓産
1034	264	99	19	4307土坑 下部	弥生 土器	広口壺	55	口径：(19.7) 器高：(35)	(内・断)10YR5/2灰黄褐 (外)7.5YR5/4にぶい褐	Fl(1~5mm大)+Q(1~5mm 大)+Mi(1~5mm大)	生駒山西麓産
1035	264		19	4307土坑 下部	弥生 土器	甗	5 (口縁~ 頸部)	口径：(21) (口径不確定)	(内)5Y3/1オリーブ黒 (外・断)5Y5/1灰	Fl(1~3mm大)+Q(1~3mm 大)+Mi(1~3mm大)+結晶 片岩	紀伊産
1036	264		19	4307土坑 下部	弥生 土器	壺	10 (底部の み)	底径：9	(内・外・断)10YR3/2黒褐	Fl(1~4mm大)+Q(1~4mm 大)+ch(1~4mm大)+Mi(1 ~4mm大)+Am(1~4mm大)	生駒山西麓産
1037	264		19	4309土坑	弥生 土器	甗	10 (底部の み)	底径：(6)	(内・断)10YR5/3にぶい黄 褐 (外)7.5YR5/4にぶい褐	Fl(1~4mm大)+Q(1~4mm 大)	
1038	264		19	4304 落ち込み 上部	弥生 土器	甗	5 (底部の み)	底径：6.7	(内)10YR3/1黒褐 (外・断)10YR7/2にぶい黄 橙	Fl(1~3mm大)+Q(1~3mm 大)+ch(1~3mm大)+Am(1 ~3mm大)	
1039	264		19	2131土坑	弥生 土器	甗	(口縁 のみ、 1/12 残)	口径：(21.8)	(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)10YR8/2灰白 (断)10YR8/4浅黄橙	粗 1~3mm大のFl・Q、 0.5mm大のchを含む	
1040	264		19	2131土坑	弥生 土器		(底部 のみ、 1/4残)	底径：(8.1)	(外)10YR4/3にぶい黄橙 (内)10YR4/2灰黄褐 (断)10YR5/2灰黄褐	やや粗 0.5mm~4mm大の Fl、1~2mm大のQ、ch・ Am・Miを含む	生駒山西麓産
1041	264		19	2131土坑 (2層目)	弥生 土器	広口壺	20 (口縁 1/4残)	口径：(28)	(外・内)2.5Y5/1黄灰 (断)2.5Y7/1灰白	1~3mm大のFl・Q・ch・ シャモットを含む	
1042	264	97	19	2131土坑	弥生 土器	広口壺	20 (口縁 3/4残)	口径：(21.8)	(外)10YR3/2黒褐 (内・断)10YR5/3にぶい黄 褐	1~6mm大のFl・Q・Amを 含む	生駒山西麓産
1043	264	97	19	2131土坑	弥生 土器	甗	55 (口縁 4/5残)	底径：(7)	(外・内・断)10YR3/1黒褐	1~3mm大のFl・Q・金Mi・ Amを含む	生駒山西麓産

遺物観察表 (28)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
1044	264		19	2428土坑	弥生 土器	甗	(口縁 のみ、 1/12 残)	口径：(28)	(外)10YR5/2灰黄褐 (内)7.5YR7/3にぶい橙 (断面)7.5YR6/6橙	やや粗 1~2mm大・4mm大 のFI、1~2mm大のQ・ch・ シャモットを含む	
1045	264		19	4229土坑	弥生 土器	甗	10	口径：(21)	(内)10YR7/1灰白 (外)10YR7/2にぶい黄橙	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く、2mm程度を少し)+ ch(微細を多く、2mm程度を 少し)	
1046	264		19	4229土坑	弥生 土器	甗	10	口径：(21.2)	(内・外)5YR6/6橙	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)	
1047	264		19	4229土坑	弥生 土器	甗	(口縁 のみ、 1/5残)	口径：(19)	(内面)7.5YR5/3にぶい褐 (外面)7.5YR5/4にぶい褐	Q(微細を多く)+ch(微細を 多く)	生駒山西麓産
1048	264		19	4229土坑	弥生 土器	甗	(口縁 のみ、 3/20 残)	口径：(29.4)	(内)10YR8/1灰白 (外)7.5YR5/3にぶい褐	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)	
1049	264		19	4229土坑	弥生 土器	甗	(口縁 のみ、 1/10 残)	口径：(16.4)	(内)7.5YR5/4にぶい褐 (外)7.5YR5/3にぶい褐	FI(微細を多く、2mm程度を 僅か)+Q(微細を多く、2 mm程度を僅か)+ch(微細を 多く)+Mi(微細を多く)+ Am(粗粒)	生駒山西麓産
1050	264		19	4229土坑	弥生 土器	鉢	5		(内)10YR7/3にぶい黄橙 (外)2.5Y8/1灰白	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)	
1051	264		19	4229土坑 上層	弥生 土器	甗	5 (底部の み)	底径：5.4	(内・外・断)10YR7/2にぶ い黄橙	FI(1~2mm大)+Q(1~2mm 大)+ch(1~2mm大)	
1052	264		19	4229土坑	弥生 土器	甗	(底部 のみ、 2/5残)	底径：(6.6)	(内)10YR5/1褐灰 (外)10YR7/2にぶい黄橙	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く、1~2mm程度を僅か) +ch(微細を多く)	
1053	265		19	4234土坑 土器群B	弥生 土器	甗	(口縁 のみ、 1/10 残)	口径：(21.8)	(内)10YR8/3浅黄橙 (外)7.5YR8/3浅黄橙	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く、2mm程度を少し)+ ch(微細を多く)	
1054	265		19	4234土坑 土器群B	弥生 土器	甗	(口縁 のみ、 3/20 残)	口径：(17.2)	(内)10YR8/3浅黄橙 (外)10YR7/2にぶい黄橙	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)	
1055	265		19	4234土坑	弥生 土器		(底部 のみ、 1/2残)	底径：(6.2)	(内)2.5YR4/1黄灰 (外)10YR5/2灰黄褐・ 7.5YR6/4にぶい橙	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く、2mm程度を少し)+ ch(微細を多く、2mm程度を 少し)	
1056	265	100	19	4234土坑 土器群B	弥生 土器	土製 円盤	100	直径：5.3	(内)2.5Y3/1黒褐・ 2.5Y7/2灰黄 (外)10YR2/1黒褐	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く、2mm程度を少し)+ ch(微細を多く)	土器片再加工円盤
1057	265		19	4234土坑 土器群A	弥生 土器	壺	40	底径：6.8	(内)10YR8/2灰白 (外)2.5Y8/2灰白	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く、3mm程度を少し)+ ch(微細を多く、3mm程度を 少し)	
1058	265		19	4234土坑 土器群C	弥生 土器	甗蓋	20	口径：(18)	(内・外・断)2.5Y8/2灰白	FI(1~2mm大)+Q(1~2mm 大)	
1059	265		19	4234土坑 土器群A	弥生 土器	甗蓋	20	口径：(19.2)	(内)10YR8/2灰白 (外)5YR6/6橙	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)	
1060	265		19	4233土坑	弥生 土器	甗	15	口径：(20.2)	(内・外)10YR6/3にぶい黄 橙 (断)10R6/4にぶい赤橙	FI(1~3mm大)+Q(1~3mm 大)+黒色粒(1~3mm大)	
1061	265		19	4235土坑	弥生 土器	甗	(底部 のみ、完 存)	底径：5	(内・外)7.5YR8/4浅黄橙	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く、2mm程度を僅か)+ ch(微細を多く、2mm程度を 僅か)	底部外面に木葉圧 痕
1062	265		19	4240土坑	弥生 土器	鉢	5	口径：(21.4)	(内・外)7.5YR5/2灰褐 (断)5YR6/6橙	FI(1~2mm大)+Q(1~2mm 大)	
1063	265		19	4240土坑	弥生 土器	壺	(口縁 のみ、 3/20 残)	口径：(15.8)	(内)5YR7/6橙 (外)5YR6/6橙	Q(微細を多く、2mm程度を 少し)+ch(微細を多く、2 mm程度を少し)	無頸壺の可能性あ り

遺物観察表 (29)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
1064	265		19	4240土坑	弥生 土器	甗	(口縁 のみ、 1/10 残)	口径：(25.4)	(内)10YR8/2灰白 (外)10YR7/3にぶい黄橙	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く、2mm程度を僅か)+ ch(微細を多く、2mm程度を 僅か)	
1065	265		19	4240土坑	弥生 土器	甗	20	口径：(25)	(内)10YR5/4にぶい黄褐 (外)10YR5/2灰黄褐	FI(微細を多く、2mm程度を 僅か)+Q(微細を多く、2 mm程度を僅か)+ch(微細を 多く)+Mi(微細を多く)+ Am(粗粒)	生駒山西麓産 河内形
1066	265		19	4240土坑	弥生 土器	甗	(底部 のみ、 2/5残)	底径：(7.2)	(内)7.5YR5/3にぶい褐 (外)7.5YR5/4にぶい褐	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く、2mm程度を僅か)+ ch(微細を多く)+Am(粗粒)	生駒山西麓産
1067	265		19	2122土坑	弥生 土器	甗	(口縁 のみ、 1/24 残)	口径：(20.6)	(外)7.5YR7/6橙 (内・断)7.5YR7/4にぶい 橙	細 1mm大のFI・Q、1.5mm 以下のchを含む	
1068	265		19	2125土坑	弥生 土器	甗	15以下 (底部の み)		(外)7.5YR7/3にぶい橙 (内)10YR4/1褐灰	1~2mm大のFI・Q・c hを やや多く含む	畿内第Ⅲ様式?
1069	265		19	2119土坑	弥生 土器	甗	5 (口縁 1/8残)	口径：(30.5)	(外)10YR6/2灰黄褐 (内)10YR7/3にぶい黄橙 (断)10YR6/1褐灰	Q・シャモット・結晶片岩 の砂粒を多く含む	紀伊産
1070	265		19	2119土坑	弥生 土器	広口壺	(口縁 のみ、 1/8残)	口径：(15.2)	(外)7.5YR7/4にぶい橙 (内)5YR7/4にぶい橙 (断)7.5YR7/2明褐灰	やや粗 1~2mm大のFI・ Q・ch、1mm大のシャモッ トを含む	
1071	265		19	2119土坑	弥生 土器		(底部 のみ、 1/4残)	底径：(7.4)	(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内・断)10YR6/3にぶい黄 橙	粗 1~3mm大のFI・Q、1 ~2mm大のchを含む	
1072	265		19	2123土坑	弥生 土器	甗	5 (底部の み)	口径：(16.3)	(外)灰 (内・断)灰黄	結晶片岩を多く含む、2~ 3mm大の小石混じり	紀伊産
1073	265		19	2123土坑	弥生 土器	甗	5 (口縁 1/8残)	口径：(20.4)	(外・断)褐灰 (内)にぶい黄橙	結晶片岩を多く含む、2~ 3mm大の小石混じり	紀伊産 1072と同一個体 と思われる
1074	265		19	2123土坑	弥生 土器	甗	(口縁 のみ、 1/24 残)	口径：(30.5)	(外)2.5Y6/2灰黄 (内・断)10YR6/2灰黄褐	細 1~2mm大のFI・Qを含 む	
1075	265		19	2123土坑	弥生 土器	甗蓋	(口縁 のみ、 1/8残)	口径：(17.9)	(外)2.5Y7/3浅黄 (内・断)10YR6/3にぶい黄 橙	やや粗 1~2.5mm大のFI・ Q、ch・Miを含む	
1076	265		19	2123土坑	弥生 土器	鉢	15 (口縁 1/6残)	口径：(17.8)	(外)黒 (内)浅黄 (断)灰白	FI・Q・ch・Miを含む	搬入品の可能性あ り
1077	265		19	2192土坑	弥生 土器	甗	(底部 のみ、 1/3残)	底径：(5.6)	(外)10YR4/3にぶい黄褐 (内)5YR5/8明赤褐 (断)7.5YR6/4にぶい橙	やや粗 1~3mm大のFI・ Q・Am・シャモット、金 Miを含む	底部穿孔 生駒山西麓産
1078	265		19	2192土坑	弥生 土器	広口壺	10 (口縁 1/8残)	底径：(4.1)	(外)5YR7/6橙 (内・断)5YR7/4にぶい橙	FI・Q・ch・シャモットの 砂粒を多く含む	
1079	265		19	2415土坑	弥生 土器	甗	30 (口縁 1/6残)	底径：6.5	(外)10YR3/1黒褐 (内・断)2.5Y7/2灰黄	1~3mm大のFI・Q・ch・微 粒Am?・シャモットを含む	
1080	265		19	2421土坑	弥生 土器	甗	15 (底部 3/4残)	底径：(4.1)	(外)10YR7/1灰白 (内)10YR7/2にぶい黄橙 (断)2.5YR6/4にぶい橙・ 10YR4/1褐灰	1~2mm大のFI・Q、金Mi・ シャモット、chを少量含 む	
1081	265		19	2420土坑	弥生 土器	甗	(口縁 のみ、 1/24 残)	口径：(15.6)	(外・内)10YR8/4浅黄橙 (断)10YR7/3にぶい黄橙	粗 1~3mm大のFI・Q、1 mm大のシャモットを含む	
1082	265		19	4313土坑	弥生 土器	甗	10以下	口径：(17.2)	(内・断)10YR7/2にぶい黄 橙 (外)10YR5/3にぶい黄褐	FI(1~3mm大)+Q(1~3mm 大)+黒色粒(1~3mm大)	
1083	265		19	4313土坑	弥生 土器	壺	15 (口縁の み)	口径：(21.4)	(内・外)2.5YR5/6明赤 褐・10YR4/2灰黄褐 (断)10YR4/2灰黄褐	FI(1~5mm大)+Q(1~5mm 大)+Mi(1~5mm大)+Am(1 ~5mm大)	

遺物観察表 (30)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
1084	265		19	4313土坑	弥生 土器	壺	10以下		(内・外)10YR7/2にぶい黄 橙 (断)10YR7/2にぶい黄橙・ 2.5YR5/6明赤褐	Fl(1~3mm大)+Q(1~3mm 大)+黒色粒(4mm大)	
1159	272		19	4223溝	弥生 土器	広口壺	(口縁 のみ、 1/10 残)	口径：(22.2)	(内)7.5YR7/6橙 (外)7.5YR6/6橙	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)	
1160	272		19	4308溝	弥生 土器	壺	5 (口縁~ 頸部)	口径：(19.4)	(内・外)10R6/6赤橙 (断)5YR6/1褐灰	Fl(1~3mm大)+Q(1~3mm 大)	
1161	272		19	4308溝	弥生 土器	壺	(底部 のみ、 4/5残)	底径：7	(内)5YR6/4にぶい橙 (外)2.5YR6/6橙 (断)10YR7/3にぶい黄橙	Fl(1~5mm大)+Q(1~5mm 大)+赤色粒(1~5mm大)	
1162	272		19	2205溝	弥生 土器	鉢	(口縁 ~体 部、口 縁1/28 残)	口径：(18.6)	(外)7.5YR7/6橙 (内)10YR7/2にぶい黄橙 (断)7.5YR6/4にぶい橙	やや粗 1~3mm大のFl・ Q・ch・シャモットを含む	
1163	272		19	9層	弥生 土器	壺	(口縁 部)		(外・内)10YR5/3にぶい黄 褐~10YR6/3にぶい黄橙	1~3mm大のFl・Qを多く、 2mm大のAm、0.5mm大の シャモットを含む	生駒山西麓産
1164	272		19	2202溝 (周溝)	弥生 土器	鉢	20 (脚部 のみ、底 部4/5 残)	底径：7.4	(外・内)にぶい黄褐 (断)褐灰	所々に3~4mm大の小礫が 混じる、Am(粗粒)を含む	生駒山西麓産
1165	272		19	2203溝 (周溝)	弥生 土器	広口壺	10 (口縁 1/5残)	口径：(24.5)	(外・断)灰黄 (内)灰黄褐	Fl・Amを多く含む	2202溝(周溝) 出土破片と接合 生駒山西麓産
1166	272		19	9層	弥生 土器	甗	5以下 (口縁 1/20 残)	口径：(25.6)	(外)7.5YR8/3浅黄橙 (内・断)7.5YR8/2灰白	1~3mm大のFl・Q・ch、 シャモットを含む	
1167	272		19	2203溝 (周溝)	弥生 土器		5 (底部 1/3残)	底径：(6.9)	(外)5YR7/6橙 (内)2.5Y7/2灰黄	1~4mm大のFl・Q・ch・ シャモットをやや多く含む	底部穿孔
1168	272		19	9層	弥生 土器	甗	3以下 (底部 のみ)	底径：(3)	(外)10YR5/2灰黄褐 (内・断)10YR7/2にぶい黄 橙	1~3mm大のFl・Qを含む	ミニチュア土器の 底部か?
1193	276	100	19	2121流路	弥生 土器	広口壺	80 (口縁 1/2残)	口径：15.8 底径：6.6 器高：22.4	(外・内)10YR7/2にぶい黄 橙 (断)7.5YR5/6明褐	1~3mm大の白・灰色小石 を含む	
1194	276	100	19	2120流路 下層	弥生 土器	甗	60 (口縁 1/2残)	口径：21.3 底径：6.5 器高：25.1	(外)10YR3/2黒褐 (内)10YR4/1褐灰	1~3mm大の白色砂粒を含 む	生駒山西麓産
1195	276		19	2120流路	弥生 土器	甗	60 (口縁 1/2残)	口径：21.6 底径：7.2 器高：25.2	(外・内)7.5YR5/2灰褐 (断)10YR7/2にぶい黄橙	1~3mm大のFl・Q・chを含 む	
1196	276	100	19	2120流路	弥生 土器	甗	75 (口縁 2/3残)	口径：(18)	(外・内)10YR5/3にぶい黄 褐 (断)2.5Y5/1黄灰	1mm以下のFl・Q・シャ モット?、3mm大のchを含 む	確認調査03-1 (三宅西04-2の19 区東)
1197	276		19	2120流路	弥生 土器	広口壺	4 (口縁 1/5残)		(外)5YR7/8橙 (内)7.5YR8/4浅黄橙 (断)5YR6/1褐灰	1mm弱~7mm強のFl・Q・ch を含む	
1198	276	100	19	2120流路	弥生 土器	広口壺	40 (口縁部 欠損)	底径：(7.5)	(外・内)2.5Y5/1黄灰 (断)2.5Y5/3黄褐	1~2mm大のFlを多く、1~ 2mm大のQ、1~2mm大のc hを少量含む	II-3-III-1様式
1199	276	99	19	2120流路	弥生 土器	鉢	(口縁 部)		(外・内)5YR6/4にぶい橙 (断)5YR7/4にぶい橙	Fl・Q・Am・赤色粒・ シャモット?の砂粒を多 く、3mm以上のFlを含む	生駒山西麓産 朝鮮半島系
1200	276		19	2120流路	弥生 土器	高杯	20	口径：(23)	(外)7.5YR6/4にぶい橙 (内)7.5YR7/4にぶい橙 (断)7.5YR8/4浅黄橙	1~3mm大のFl・Q・chを含 む	
1201	276		19	2120流路	弥生 土器	高杯	15 (口縁 1/8残)	底径：4.8	(外)灰黄褐 (内・断)にぶい黄橙	1mm程度のQ・Am・黒 Mi、1mm程度・3~4mm大 のFl、赤色粒を含む	生駒山西麓産

遺物観察表 (31)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
1202	276		19	2120流路 下層	弥生 土器	甗	(底部の み、完 存)	口径：(16.8)	(外)10YR5/2灰黄褐 (内)10YR7/4にぶい黄橙 (断)7.5YR7/2明褐灰	細 1~2cm大のFl・Q・ ch・シャモットを含む	底部穿孔
1203	277		19	4220流路	弥生 土器	広口壺	(口縁 のみ、 1/10 残)	口径：(24.4)	(内・外)5YR7/8橙	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)	+登362
1204	277		19	4220流路	弥生 土器	広口壺	3	口径：(19)	(内・外・断)7.5YR5/4に ぶい褐	Fl(1~4mm大)+Q(1~4mm 大)+黒色粒(1~4mm大)	
1205	277		19	2410流路	弥生 土器	広口壺	1 (口縁 1/10 残)	口径：(19.6)	(外・内)10YR8/3浅黄橙 (断)10YR5/1褐灰	1~2mm大のFl・Q・シャ モットを多く、黒chを含 む	
1206	277		19	2410流路	弥生 土器	蓋	10 (底部 9/10 残)	口径：(19.6)	(外・内)10YR5/2灰黄褐~ 7.5YR5/8明褐	細 2mm大のFl・Q、0.5mm 大のch、0.5mm大の金Miを 少量含む	
1207	277		19	2410流路	弥生 土器	甗	1以下 (口縁 1/13 残)	口径：(39.8)	(外・内)2.5Y7/2灰黄	1~2mm大のFl・Q、1mm大 のchを含む	
1208	277		19	2410流路	弥生 土器	甗	35 (口縁 1/6残)	底径：(5.8)	(外)10YR4/1褐灰 (内)10YR4/2灰黄褐 (断)N3/0暗灰	1~2mm大のFl・Q・Amを 含む	生駒山西麓産
1209	277		19	2410流路	弥生 土器	甗	2 (口縁 1/9残)	口径：(18.6)	(外)2.5Y4/1黄灰 (内)10YR5/3にぶい黄褐	細 Fl、0.5mm大のAm・金 Miを多く含む	生駒山西麓産
1210	277		19	4220流路	弥生 土器	甗	5以下	口径：(15.8)	(内・断)10YR8/2灰白 (外)10YR7/2にぶい黄橙	Fl(微細)+Q(微細)	
1211	277		19	2410流路	弥生 土器	水差形 土器	(口縁部 片)	口径：(10.7)	(外)10YR4/1褐灰 (内)10YR8/3浅黄橙 (断)10YR5/1褐灰	1mm弱~2mm強のFl・Qを含 む	拓本あり
1212	277		19	4220流路	弥生 土器	高杯	約50 (脚部 4/5)	底径：9	(内・外)10YR4/2灰黄褐	Fl(微細)+Q(微細、5mm程 度)+Mi(微細)+Am(微細)	生駒山西麓産
1213	277		19	4220流路 東斜面第9 層たれ込み 部分	弥生 土器	甗	(底部 のみ、 1/2残)	底径：(5.8)	(内)2.5Y8/2灰白 (外)2.5Y6/2灰黄	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)	
1214	277		19	4220流路	弥生 土器	甗	(底部の み、完 存)	底径：4.8	(内)2.5Y8/1灰白 (外)2.5Y8/2灰白	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く、2~3mm程度を僅か) +ch(微細を多く、2~3mm 程度を僅か)	
1215	282	131	19	8・9層	青銅器	銅鏃		長さ：2.9 幅：1.1 厚さ：0.4			重さ：2.6 g
1216	278		19	9a層下面	弥生 土器	蓋	70 (口縁 1/4残)	つまみ部径： 3.1 口径：8.3 器高：3.2	(外・内)2.5Y8/1灰白	1mm以下のFl・Qを少量含 む	ミニチュア
1217	278		19	9a層	弥生 土器	壺	(口縁 部)		(外)7.5YR8/4浅黄橙 (内)7.5YR7/4にぶい橙 (断)5YR7/6橙	1mm強~4mm強のFl・Q・金 Mi・Am?を多く、ch・赤 色粒・シャモットを少量含 む	生駒山西麓産
1218	278		19	9c層	弥生 土器	壺	5 (口縁の み)	口径：(18)	(内・外)10YR7/2にぶい黄 橙 (断)5YR7/6橙・7.5YR4/1 褐灰・10YR7/2にぶい黄 橙	Fl(1~2mm大)+Q(1~2mm 大)+Am(1~2mm大)	生駒山西麓産
1219	278	99	19	9層	弥生 土器	鉢	(口縁 部)		(外)5YR7/6橙 (内)5YR7/6橙・7.5YR8/2 灰白	3.5mm以下のFl・Q・chを 含む	朝鮮半島系
1220	278		19	9c層下面	弥生 土器	壺	3以下		(内)2.5Y8/2灰白 (外)7.5YR6/3にぶい褐 (断)7.5YR4/4褐	Fl(1~3mm大)+Q(1~3mm 大)+ch(1~3mm大)+Am(1 ~3mm大)	
1221	278		19	9c層	弥生 土器	壺	3		(内・外・断)5YR5/6明赤 褐	Fl(1~2mm大)+Q(1~2mm 大)+Am(1~2mm大)	

遺物観察表 (32)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
1222	278		19	9層	弥生 土器	甕蓋	20	口径：(18.2)	(内)7.5YR3/2黒褐 (外)10YR4/2灰黄褐	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く、3mm程度を少し)+ ch(微細を多く)	生駒山西麓産
1223	278		19	9層	弥生 土器	甕	(口縁 のみ、 1/5残)	口径：(18.6)	(内・外)5YR5/6明赤褐	FI(微細を多く、2mm程度) +Q(微細を多く、2mm程度) +ch(微細を多く)	
1224	278		19	9c層	弥生 土器	甕	(口縁 のみ、 1/5残)	口径：(17.4)	(内・外)10YR7/3にぶい黄 橙	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く、2mm程度を僅か)+ ch(微細を多く、2mm程度を 僅か)	
1225	278		19	9層	弥生 土器	甕	(口縁 のみ、 1/5残)	口径：(19.6)	(内)10YR7/3にぶい黄橙 (外)7.5YR5/3にぶい褐	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)	
1226	278		19	9層	弥生 土器	甕	3 (口縁 1/24 残)	口径：(41.2)	(外)2.5Y6/1黄灰 (内)10YR7/2にぶい黄橙 (断)10YR5/1褐灰	FI・Q・Miを多く、ch・ シャモットを少量含む	大和形
1227	278		19	8・9層	弥生 土器	甕	3 (口縁 1/12 残)	口径：(39.6)	(外・内)褐灰 (断)灰白	2~3mm大のFI・Q・Miを含 む	大和形
1228	278		19	9層	弥生 土器	鉢	10		(内・外)10YR6/2灰黄褐	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)	生駒山西麓産
1229	278	100	19	9層	土製品	土製 円盤		長径：5.1 短径：4.6 厚さ：0.8	(外)7.5YR7/4にぶい橙 (内)2.5YR7/4淡赤橙 (断)2.5YR7/6橙	FI・Q・ch・クサリ礫を含 む	土器片再加工円盤
1230	278		19	9層	弥生 土器	壺	(底部 のみ、 1/2残)	底径：(8)	(内)2.5Y8/2灰白 (外)10YR8/2灰白	FI(微細を多く、2mm程度) +Q(微細を多く、2mm程度) +ch(微細を多く)	
1231	278		19	9c層	弥生 土器	甕	(底部 のみ、 1/2残)	底径：(4)	(内)5Y4/1灰 (外)7.5YR7/6橙	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く、2~3mm程度)+ch(微 細を多く、2~3mm程度)	
1232	278		19	9c層	弥生 土器	甕	(底部 のみ、 1/2残)	底径：(6.4)	(内)10YR4/2灰黄褐 (外)2.5YR6/6橙	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)	
1233	278		19	9c層	弥生 土器	甕	(底部 のみ、 2/5残)	底径：(8.2)	(内)10YR8/2灰白 (外)2.5Y8/2灰白	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く、2~3mm程度)+ch(微 細を多く)	
1234	278		19	9層以下 南壁断面	弥生 土器	甕	3		(内・断)10YR7/2にぶい黄 橙 (外)7.5YR5/2灰褐	FI(1~4mm大)+Q(1~4mm 大)+Am(1~4mm大)	
1235	278	84	19	9e層	縄文 土器		3以下		(内・断)10YR7/2にぶい黄 橙 (外)5YR4/6赤褐	FI(1~3mm大)+Q(1~3mm 大)	北白川上層3期~ 一乗寺K(元住吉山 I式)
1257	287	132	10	4層	須恵器	杯蓋	70 (口縁 1/2残)	口径：(10.8)	(外・内)N5/0灰・N3/0暗 灰	1~3mm大の白色小石を多 く含む	
1258	287	132	10	4層	須恵器	杯身	35 (口縁 1/30 残)	頸部径： 16.4	(外)N7/1灰白・N3/1暗灰 (内)N6/1灰	1mm以下のFI・Qを少量含 む	
1259	287		10	4層	須恵器	杯身	(口縁~ 体部、 口縁 1/5残)	口径：(15.4)	(外・内)5B6/1青灰 (断)5B7/1明青灰	細 1~3mm大のFI、1~2 mm大のQを含む	
1260	287	132	10	4層	須恵器	杯身	50 (口縁 1/3残)	頸部径： 16.4	(外)7.5Y6/1灰 (内)5Y6/1灰	1mm以下のFI・Qを少量含 む	
1261	287		10	4層	須恵器	杯身	10 (口縁 1/4残)	口径：(15.4)	(外)7.5Y7/1灰白 (内)5Y6/1灰 (断)10Y7/1灰白	2mm以下のQ、FI・ch・黒 クサリ礫を含む	
1262	289	132	11	4031土坑	土師器	高杯	80	口径：9.4 底径：6.4 器高：8.7	(内・外)5YR6/6橙	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)+ Mi(微細を多く)	
1263	289		11	4031土坑	土師器	甕	(頸部 のみ、 1/4残)	頸部径： 16.4	(内)10YR6/2灰黄褐 (外)10YR7/2にぶい黄橙	FI(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)+ Mi(微細を多く)	

遺物観察表 (33)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
1264	291		11	8層	土師器	杯	40 (口縁 3/7残)	底径：(8.6)	(外・内)2.5YR6/8橙～ 7.5YR7/6橙	細 1～2mm大のQを含む	
1265	291		11	3層	白磁	碗	(口縁 のみ、 1/8残)	口径：(17.6)	(内・外)5Y7/1灰白 (断)10Y8/1灰白		白磁碗IV-1a(福建省系) 11c末～12c初
1266	291	132	11	7層	須恵器	杯蓋	50 (口縁 1/2残)	口径：(16.4)	(外・内)N6/0灰	1～2mm大のFl・Q・クサリ 礫を含む	
1267	291		11	4層	須恵器	杯身	17	底径：(8.6)	(内)N6/1灰 (外)N5/1灰	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く)+ch(微細を多く)	飛鳥IVの杯B又は 飛鳥～平安の壺
1268	291	132	11	7層	須恵器	壺	60	頸部径： 10.5	(外・内)N6/0灰 (断)N7/0灰白	1～2mm大の白色砂粒を含 む	
1269	291		11	4～6層	瓦質	平瓦	12	口径：(17.6)	(外・内)7.5YR5/8明褐	Fl・Q、金Miを微量を含む	桶板を用いた型で 製作か?
1270	291		11	4040流路	土師質 土器	羽釜	(口縁部 のみ、 1/8残)	口径：(15.4)	(内)2.5Y8/2灰白 (外)7.5YR5/6明褐	Fl(微細を多く、2mm前後を 僅か)+Q(微細を多く、2mm 前後を僅か)+ch(微細を多 く)	
1271	293		18	2002流路	土師器	皿?	15 (底部 1/10 残)	口径：(12.2)	(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)5YR5/6明赤褐 (断)5YR6/6橙	Fl・Qの砂粒を多く含む	
1272	293		18	2002流路	須恵器	杯	17	底径：11	(外・内・断)N7/0灰白	1mm弱～3mm弱のFl・Q・ ch?・黒色粒を含む	杯B
1273	293		18	2002流路	須恵器	杯蓋	(口縁～ 体部、 口縁 1/8残)	口径：(18.5)	(外)5Y5/1灰 (内)10Y5/1灰 (断)7.5Y5/1灰	1～3mm大のFl、1～2mm大 のQを含む	
1274	293	132	18	2002流路	土師器	盤	25 (口縁 1/6残)	口径：(18)	(外・内・断)7.5YR5/4に ぶい褐	蜜 1mm大のFl・Q・chを 含む	盤B
1275	293		18	2002流路	土師器	盤	10	口径：(24.6) 底径：(14)	(外)7.5YR6/6橙 (内)7.5YR6/8橙 (断)10YR6/8明黄橙	細 1mm大のFl・ch・Am・ シャモット、1～2mm大のQ を含む	盤B
1276	293		18	2002流路	土師器	甗	20 (口縁 1/8残)	口径：(18)	(外)7.5YR4/4褐 (内・断)7.5YR4/6褐	蜜 1mm以下のFl・Q・ Mi・微粒Am?・シャモッ トを含む	
1277	293		18	2002流路	土師器	甗	30 (口縁 1/10 残)	口径：(21.2)	(外)10YR7/6明黄褐 (内)10YR7/3にぶい黄橙 (断)10YR7/4にぶい黄橙	1mm弱のFl・chを含む	
1278	293		18	2002流路	土師器	把手付 有蓋壺	10 (口縁 1/6残)	底径：(11.8)	(外)5YR6/6橙 (内)5YR6/4にぶい橙 (断)5YR8/4淡橙	1mm弱～2mm弱のFl・Q・黒 色粒・シャモット、金Mi を含む	
1279	293		18	2002流路	須恵器	甗	20 (口縁 1/3残)		(外)7.5Y6/1灰 (内)10Y4/1灰 (断)7.5Y7/1灰白	細 Fl、0.5mm大のch?を含 む	
1280	293		18	2002流路	須恵器	壺	(底～体 部、底 部1/3 残)	口径：(24.6)	(外)2.5Y5/2暗灰黄 (内)2.5Y7/1灰白 (断)5Y5/1灰	細 1～2mm大のFl、1mm大 のQ、1～2.5mm大の黒色粒 を含む	
1281	298		19	4208 ピット	土師器	有段 高杯	(杯部 のみ、 1/10 残)	口径：(21.2)	(内)5YR7/6橙 (外)5YR6/6橙	Fl(微細を多く)+Q(微細を 多く、2mm程度を僅か)+ ch(微細を多く)	
1282	298	132	19	2399溝	須恵器	杯身	80 (口縁 1/3残)	口径：(14.4)	(外)N4/0灰 (内)N6/0灰 (断)2.5Y5/1黄灰	2.5mmのFlを多く、1.5mm 以下のQ、ch(8mm大1粒含 む)、クサリ礫を含む	3399溝出土破片 と接合
1283	298		19	2369土坑	須恵器	杯身	40 (口縁 1/3残)	口径：(14.4)		1mm以下のFl・黒色粒を少 量含む	
1284	298	132	19	2016溝	土師器	皿	100	口径：15.6 器高：2.7	(外・内)10YR7/2にぶい黄 橙 (断)5YR5/6明赤褐	1mm大のFl・Q・ch?を含む	
1285	298	132	19	2016溝	須恵器	高杯蓋	70 (口縁 1/3残)	口径：(13.5) 器高：5.3	(外・内)N5/0灰	1～3mm大のFl・Q・クサリ 礫を含む	

遺物観察表 (34)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	調査 区	遺 構	種別	器形	残存率 (%)	口径(cm) 器高(cm)	色 調	胎 土	備 考
1286	298		19	4272流路 下層	瓦器	椀	10	口径：(12)	(内・外)N5/0灰	F1(微細を多く)+Q(微細を 多く)	
1287	298		19	4~6層	須恵器	杯蓋	5	口径：(13.6)	(内・外)N6/0灰 (断)5RP5/1紫灰	密	
1288	298	132	19	4層	須恵器	杯身	60 (口縁 1/20 残)	口径：(9.4) 器高：2.7	(外・内)N6/1灰	1mm以下のF1・Qを極少量 含む	
1289	298		19	4層	須恵器	樽形 甕	(底~体 部?、底 部? 1/11 残)	底径?：(11)	(外)5PB5/1青灰 (内)5PB6/1青灰 (断)5RP6/1紫灰		
1290	298		19	7層中	須恵器	樽形 甕	(底~体 部?、底 部?1/5 残)	底径?： (11.2)	(外)5PB6/1青灰 (内)5PB7/1明青灰 (断)5RP6/1紫灰	細	
1291	298		19	7層	須恵器	樽形 甕	5	口径：(17.6)	(内)N7/0灰白 (外)N5/0灰 (釉)10Y3/2オリーブ黒	微細の砂粒を多く含む	
1292	298		19	3b層	瓦器	椀	20	底径：(6.4)	(内)N5/灰 (外)2.5Y7/1灰白・ 2.5Y4/1黄灰	F1(微細を多く)+Q(微細を 多く、3mmをごく僅か)	和泉型Ⅱ期
1293	298		19	4層	白磁	皿	(口縁の み、口 縁1/7 残)	口径：(10.4)	(外)10Y7/1灰白 (内)10Y8/1灰白 (断)2.5GY8/1灰白		輸入陶磁器
1294	298		19	3b層	青磁	碗	(底部 のみ、 1/4残)	底径：(6.4)	(内・外)5Y8/1灰白 (釉)5YR6/2灰オリーブ		輸入陶磁器
1295	298		19	3b層	青磁	碗	5	口径：(12)	(釉)7.5YR6/1灰 (断)N8/0灰白	密	輸入陶磁器 龍泉窯系青磁 蓮弁文碗
1296	298		19	4層	青磁	碗	(口縁~ 体部、 口縁 1/8残)	口径：(18)	(外・内)7.5Y6/2灰オリー ブ (断)10Y7/1灰白		輸入陶磁器 龍泉窯系青磁 蓮弁文碗
1297	298	132	20	2013土坑	土師器	杯	98	口径：(10.8)	(外・内)7.5YR6/1褐灰 (断)2.5YR5/6明赤褐	F1(2.5mm大1粒含む)、Q、 ch(4mm大1粒含む)、クサリ 礫を含む	
1298	298		20	2013土坑	土師 器?	甕	55 (口縁 1/2以 上残)	口径：(13.6)	(外・断)2.5Y4/1黄灰 (内)2.5Y5/1黄灰	密 1mm以下のF1・Q・ ch・微粒Amを含む	

3128流路出土縄文土器観察表(1)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	器種	分類		形態・文様の特徴	胎土	備考
				I	1a			
240	71	56	深鉢	I	1a	外反口縁／(外) 胴部にLR縄文を施文 (内) 口縁直下に沈線を1条持ち、口縁端部 にLR縄文を施文・ナデ	Fl(微細を多く含む)+Q(1mm 前後を少量含む)+Mi	約1/3残存／内面に炭化 物付着多し／AMS年代 測定
241	71	56	深鉢	I	1a	口縁部／弱く外反／口縁端部が三角形に尖 る／無文	Fl(微細)+Q(1mm以下を含 む)	外面全体に炭化物付着
242	71	56	深鉢	I	2a	口縁部／弱く内湾する／(外) 口縁に並行す る2条の縄文帯(沈線+LR縄文)・ミガキor ナデ(内)ナデ	Fl(微細)+Q(1~2mmを少量 含む)+ch	内面が部分的に磨耗して いる
243	71	56	深鉢	I	2a	水平口縁／(外) 4条の並行する縄文帯(沈 線+LR縄文)・ナデ(内)ナデ	Fl(微細~2mmを含む)+Q(1 mm前後を少量含む)+Mi+Am	
244	71	56	深鉢	I	2a	口縁部／口縁端部を四角く面取り/ (外)(内)ナデ	Fl(微細~2mm前後を含む)+Mi	
245	71	56	深鉢	I	2a	口縁部／無文／(外)(内)ケズリorナデ	Fl(微細)+Q(2mm前後を少量 含む)+ch(+Am?)	口縁端部が丸みを帯びる 寸胴タイプ
246	71		深鉢	I	2a	口縁部／口縁端部を四角く面取りし、わずか に内屈する／(外)(内)ケズリ	Fl(微細)+Q(1~2mm前後を 多く含む)+Mi+ch+Am	
247	71		深鉢	I	2a	口縁部／口縁端部を丸くおさめる／寸胴型? ／(外)(内)ミガキ	Fl(微細を多く含む)+Q(1mm 前後を少量含む)+Mi	
248	71	56	深鉢	I	2a	内湾型口縁／口縁端部を内折し、丸く収める ／無文／(外)(内)ナデ	Fl(微細)+Q(1mm前後を含 み、礫を少量含む)+ch(+ Am?)	
249	71	56	深鉢	I	2a	内湾型口縁／口縁端部を内折し、丸く収める ／無文／(外)(内)ナデ	Fl(微細)+Mi(+ch?)	
250	71	56	深鉢	I		深鉢胴部／横走する1条縄文帯(沈線+LR縄 文)	Fl(0.5mm以下を多く含む)+Q (1~2mmを含む)+Mi/河内の 胎土	
251	71	57	深鉢	I	3a	口縁部／寸胴型の深鉢?／内面の口縁端部直 下に1条の縄文帯(沈線+LR縄文)	Fl(微細)+Q(1~2mm前後を 少量含む)+ch(1mm前後を少量 含む)(+Am?)	シャモットを含む(シャ モットはFeOが集積した ものか?)
252	71	56	深鉢	I	3a	口縁部(弱く外反し、弱く波状する)／口縁 端部を面取り(断面台形)／無文/ (外)ミガキ(内)ケズリ	Fl(微細)+Q(1~3mmを含 む)+Mi(+Am?)	
253	71	56	深鉢	I	3a	口縁部(弱く外反)／無文／(外)(内)ナデ	Fl(微細)+Q(1~2mmを少量 含む)+Mi	外面に炭化物付着
254	71	56	深鉢	I	3a	口縁部／無文／(外)(内)ナデ	Fl(微細)+Q(2mm前後を少量 含む)+Mi+ch	
255	71	56	深鉢	I	3a	口縁部／弱く外反し、口縁端部を面取りする (断面四角形)／無文／(外)(内)ナデ	Fl(微細を少量含む)+Mi+ch (+Am?)	焼成後、穿孔
256	71	56	深鉢	I	3a	口縁部／口縁は肥厚し、端部を面取りする/ (外)(内)ミガキ	Fl(微細を多く含む)+Q(1mm 前後を少量含む)+Mi+ch(+ Am?)	
257	71	56	深鉢	I	3a	口縁部／無文／(外)ミガキ(内)ナデ	Fl(微細)+Q(1~2mmを少量 含む)+ch	
258	71	57	深鉢	I	3b	やや内湾する波状口縁で端部を面取りする/ (外)縦連続渦巻き系の「S」字の中心飾りの 上下に波状口縁に並走する縄文帯(沈線+LR 縄文)と横走する2条の縄文帯(沈線+LR縄 文)をもつ・ナデ(内)ミガキ	Fl(微細)+Q(1mm前後を少量 含む)+Mi++Am	外面に炭化物付着
259	71	57	深鉢	I	3b	波状口縁／端部は面取り(断面四角形)／ (外)斜行する縄文帯(多条沈線+LR縄 文)(内)ナデ	Fl(微細~2mmを含む)+Q(1 ~2mmを少量含む)+ch	北白川上層式3期の典型
260	71	57	深鉢	I	3b	波状口縁／わずかに内湾し、口縁端部を面 取り／上に3条1組の縄文帯(沈線+LR縄 文)、下に2条1組?の縄文帯を配し、S字 (蛇竜)の連続する中心飾り(沈線+LR縄 文)を伴う(=横連続渦巻き文系・上の2本 目の縄文帯と連続)	Fl(微細)+Q(1mm前後を少量 含む)+Mi+ch(1mm前後を少 量含む)(+Am?)	外面に炭化物付着／元素 分析
261	71	57	深鉢	I	3b	波状口縁／口縁端部を面取り／(外)波状口 縁に並行し、波頂部の中心飾りに向けて収斂 する縄文帯(多条沈線+LR縄文)と横走する 縄文帯(沈線+LR縄文)により三角形を呈 する(内)ナデ	Fl(微細)+Q(1mm前後を少量 含む)+Mi	無文帯の部分に黒色物質 の塗布?あり(ススの可 能性あり)

3128流路出土縄文土器観察表(2)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	器種	分類	形態・文様の特徴	胎土	備考
262	72	59	深鉢	II 1a	口縁部～胴部/外反口縁の内面口縁直下に沈線を伴う/(外)逆C字の中心飾りに2条の並行する縄文帯(沈線+LR縄文)を伴う・ナデ(内)ナデ	Fl(微細)+Q(1mm前後を含む)	全体の約1/2残存 内面に炭化物付着
263	72	57	深鉢	II 1a	口縁部～胴部/口縁端部を面取り(断面四角形)/無文/(外)ミガキ(内)ケズリ	Fl(微細)+Q(1~3mmを含む)+ch(+Am?)/胎土はやや粗い	外面に炭化物付着
264	72	57	深鉢	II 1a	口縁部～胴部(外反口縁)/口縁端部を面取りする(断面四角形)/無文	Fl(1~2mmを多く含む)+Mi(+ch?)	
265	72	57	深鉢	II 1a	口縁部～胴部/口縁部は弱く外反する/無文/(外)ミガキ(内)ナデ	Fl(微細)+Q(1~2mm前後を含む)+ch/胎土がやや粗い	外面炭化物付着
266	72		深鉢	II 1a	口縁部(外反口縁)/口縁端部を面取りする(断面四角形)/無文/(外)(内)ケズリ	Fl(微細を多く含む)+Q(1mm前後を多く含む)	ローリングを受けている
267	72	57	深鉢	II 1a	口縁部(外反口縁)/(外)(内)ナデ?(磨耗が激しいため調整不明瞭)	Fl(微細~2mm前後を多く含む)+Q(1~2mm前後を含む)+Mi+Am/胎土は粗い	
268	72	57	深鉢	II 1a	口縁部～胴部/弱く外反し、口縁端部を面取り/無文/(外)ミガキ(内)ナデ	Fl(微細)+Q(1~2mm前後を少量含む)+Mi	
269	72	57	深鉢	II 1a	口縁部～胴部(外反口縁)/無文/(外)(内)ナデ	Fl(微細)+Q(2mm前後を少量含む)	
270	73	58	深鉢	II 1b	口縁部～頸胴部/4単位の波状口縁/口縁端部は四角面取り後、弱く凹状に仕上げる(波頂部端部の凹状が特に顕著であり、波底部端部は水平に近い)/(外)波底部から波頂部にかかる上がり端に区画を持つ・上下に3条一組の縄文帯(沈線+LR縄文)を配し、波頂部に中心飾り(S字?)をもつ・頸胴部以下ナデ(内)ナデ	Fl(微細を少量含む)+Q(1~2mmを少量含む)+Mi+ch(+Am?)	
271	73	58	深鉢	II 1b	口縁部～頸胴部/波状口縁/口縁端部は面取りされ、断面四角形/(外)波状口縁に並走する縄文帯(多条沈線+LR縄文)と横走する縄文帯(多条沈線+LR縄文)が波底部で収斂する・ナデ(内)ナデorミガキ	Fl(微細)+Q(1mm前後を少量含む)+Mi	炭化物付着
272	73	59	深鉢	II 2a	口縁部～胴部/無文	Fl(微細を多く含む)+Q(1~2mm前後を多く含む)+ch	炭化物付着
273	73	59	深鉢	II 2b	口縁部/波状口縁/(外)区画を持つ入り組み文風の横位の文様を沈線+RL縄文で描く・3条の文様帯は波底部で収斂される・縄文は波頂部下では横位に、区画部分のみ縦位に施文する(内)ミガキorナデ	Fl(微細)+Q(1~2mmを少量含む)+Mi	加曾利B式の影響
274	73	59	深鉢	II 2b	口縁部(波状口縁)/無文/(外)ナデ(内)ナデ・口縁部のみ指おさえ	Fl(微細)+Q(1~2mmを含む)+Mi/胎土は粗い	粗製の波状口縁は珍しい
275	73	59	深鉢	II 2b	口縁部(波状口縁)/口縁端部波頂部内面にこぶを持つ/(外)口縁直下と頸胴部のくびれに1条の縄文帯(沈線+LR縄文?)を配し、波頂部より隆帯が垂下する(内)ミガキorナデ	Fl(微細)+Q(1mm前後を少量含む)+Mi	内外面に炭化物付着/堀ノ内II式段階で三重県内で見られる堀ノ内系の添付隆帯と同系統?
276	74	60	深鉢	II 1	胴部/(外)上段に並行する3条の縄文帯(沈線+LR縄文)が横走し、中・下段には中心飾り(沈線+LR縄文)から斜行する縄文帯(多条沈線+LR縄文)が斜行する(内)ナデ	Fl(1mm前後を多く含む)+Q(1~2mmを含む)+Mi(+Am?)	外面に炭化物付着
277	74	60	深鉢	II 1	胴部/(外)中心飾り(沈線+LR縄文)の上下に横走する3条の縄文帯(沈線+LR縄文)と上下の縄文帯に斜行する縄文帯(沈線+LR縄文)を有する(内)ナデ	Fl(微細を少量含む)+Mi	
278	74	60	深鉢	II 1	胴部/(外)横走する上下の縄文帯(沈線+LR縄文)と、斜行する縄文帯(沈線+LR縄文)で三角形を描く(内)ナデ+指オサエ	Fl(微細~2mm前後を含む)+Q(1~2mmを少量含む)+ch	炭化物付着

3128流路出土縄文土器観察表（3）

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	器種	分類		形態・文様の特徴	胎 土	備 考
				II	1			
279	74	60	深鉢	II	1	胴部／(外) S字の中心飾りの上段に横走する3条の縄文帯(沈線+LR縄文)と下段に斜行する縄文帯(沈線+LR縄文)を伴う。上下の縄文帯は収斂する可能性がある (内) ナデ	Fl(微細を含む)+Q(2mm前後を少量含む)+Mi	
280	74	60	深鉢	II	1	胴部／(外) 入り組みのS字の中心飾り(沈線+LR縄文)を伴う横走する2条の縄文帯(沈線+LR縄文)と斜行する縄文帯(多条沈線+LR縄文) (内) ナデ	Fl(微細を少量含む) / 胎土は精良	外面に炭化物付着
281	74	60	深鉢	II	1	胴部／中心飾りに向かって収斂する縄文帯(多条沈線+LR縄文)を伴う(縦断続渦巻文系) / LR縄文の原体を羽状縄文のように方向を変えて施文する	Fl(1~3mmを含む)+Q(1~4mmを少量含む)+Mi+ch	
282	74	60	深鉢	II	1	胴部／(外) S字の中心飾り(沈線+LR縄文) (内) ナデ?	Fl(微細~2mm前後を含む)+Q(1~3mmを少量含む)+Mi+Am	外面、磨耗している
283	74	60	深鉢	II	1	胴部／(外) 上段に横走する3条の縄文帯(沈線+LR縄文)を持ち中心飾りから斜行する2条の縄文帯(沈線+LR縄文)を伴う (内) ナデ	Fl(微細を含む)+Q(1~2mm前後を少量含む)	
284	74	60	深鉢	II	1	胴部／(外) 並行して横走する3条の縄文帯(沈線+LR縄文)を蛇行沈線で区切る (内) ナデ	Fl(微細~2mm前後を含む)+Q(1~2mm前後を含む)+Mi+ch	炭化物付着
285	74	60	深鉢	II	1	胴部／(外) 楕円形の中心飾り(沈線+LR縄文)を伴う並行して横走する3条の縄文帯(沈線+LR縄文)・ナデ (内) ナデ	Fl(微細を含む)+Q(1mm前後を少量含む)+Mi+ch	
286	74	60	深鉢	II	1	胴部／(外) 中心飾りを伴う斜行する縄文帯(多条沈線+LR縄文) (内) ナデorケズリ	Fl(微細を含む)+Q(1mm前後を少量含む)+ch+Mi	内面に赤色顔料(光沢のある淡い朱色)付着 / 元素分析(HgS検出)
287	74	60	深鉢	II	1	頸胴部／(外) 3条の横走する縄文帯(沈線+LR縄文)・ナデorミガキ (内) ナデorミガキ	Fl(微細~2mm前後を含む)+Q(1~2mmを少量含む)+Mi+ch	
288	74	60	深鉢	II	1	胴部／(外) 頸胴部くびれ直下に3条の縄文帯(沈線+LR縄文)が横走し、それらに1条の縄文帯(沈線+LR縄文)が斜行する (内) ナデ	Fl(微細を含む)+Mi(+Am?)	
289	74	60	深鉢	II	1	胴部／(外) 並行して横走する2条の縄文帯(沈線+LR縄文)	Fl(微細を多く含む)+Q(1mm前後を少量含む)+ch(3mm前後を1粒含む)	
290	74	60	深鉢	II	1	頸胴部／(外) 頸部ナデ・胴部縄文地(1・2本目の撚りはLR、3本目の撚りは無節のLr) (内) 指圧痕あり	Fl(微細を含む)+Q(1mm前後を含む)+Mi	
291	74		深鉢	II	1	頸胴部／無文／(外) (内) ナデ	Fl(微細を含む)+Q(1mm前後を少量含む)+Mi+ch(+Am?)	
292	74	60	深鉢	II	1	頸部~胴部上端／外反口縁／(外) ナデ(頸部) ナデ+LRの縄文帯(頸胴部界)	Fl(微細を少量含む)+Q(1mm前後を少量含む)+Mi+Am	
293	74	60	深鉢	II	1	胴部／(外) 胴部上部にLR縄文の縄文地 (内) ナデ	Fl(微細を含む)+Q(2~3mm前後を少量含む)+Mi(+ch?)	
294	74	60	深鉢	II	1	胴部／(外) 縄文地(LR縄文) (内) ナデ	Fl(微細を少量含む)+Q(2mm前後を含む) / 酸化鉄系(シャモットorクサリ礫)を含む	いわゆる縄文地深鉢 / 外面に炭化物付着
295	74	61	深鉢	II		胴部／中心飾りに向かって斜行して収斂する上下の縄文帯(多条沈線+LR縄文)	Fl(微細を少量含む)+Q(微細を少量含む)	
296	74	61	深鉢	II		胴部／波状口縁／(外) 渦巻文の中心飾りに、多条沈線+LR縄文の縄文帯で三角形を描く(上の縄文帯は内面に肥厚する) (内) ナデ / 胴部の継ぎ方が見える	Fl(微細を含む)+Q(1~2mmを少量含む)+Mi	

3128流路出土縄文土器観察表(4)

遺物番号	図版番号	写真図版	器種	分類	形態・文様の特徴	胎土	備考
297	74	61	深鉢	II	胴部／(外) 中心飾りから斜行する縄文帯(沈線+LR縄文)と横走する縄文帯(沈線+LR縄文)により三角形を形成する (内) ナデ	Fl(微細～2mm前後を含む)+Mi 胎土はやや粗い	外面に炭化物付着
298	74	61	深鉢	II	胴部／多条沈線+LR縄文の縄文帯で三角形を描く	Fl+Q+Mi+ch(+Am?)	
299	74	61	深鉢	II	胴部／(外) 中心飾りで収斂する縄文帯(多条沈線+LR縄文)・ナデ (内) ケズリのちナデ?	Fl(微細を含む)+Q(1～2mm前後を含む)+Mi(+Am?)	縄文帯の部分に炭化物付着
300	74	61	深鉢	II	胴部／(外) 中心飾りで収斂する縄文帯(多条沈線+LR縄文)・ナデ (内) ナデ	Fl(微細～2mmを含む)+Q(1～2mm前後を含む)+Mi+ch(+Am?)	
301	74	61	深鉢	II	胴部／(外) 多条沈線+LR縄文で無文になる互い違いの三角形を描く (内) ナデ	Fl(微細を含む)+Q(3mm前後を少量含む)+Mi+ch	
302	74	61	深鉢	II	胴部／(外) 斜行する縄文帯(多条沈線+LR縄文)に上下2段の渦巻文の中心飾り(沈線+LR縄文)を伴う (内) ナデ	Fl(微細を多く含む)+Q(1～3mm前後を多く含む)+ch(胎土は粗い)	北サブトレ (東端アゼ (LP+7.00m))
303	74	61	深鉢	II	胴部／(外) 並行して横走する2条の縄文帯(沈線+LR縄文)・ナデ (内) ナデ	Fl(微細～2mm前後を含む)+Q(2mm前後を少量含む)+Mi	内面に炭化物付着(特に内面下方部に厚く付着) AMS年代測定/デンブ分析(サンプル8)
304	74	61	深鉢	II	胴部／(外) 中心飾りの渦巻き文から連続する縄文帯(多条沈線+LR縄文)(横連続系?)・ナデ (内) ナデ	Fl(微細を含む)+Mi+ch(1mm前後を少量含む)	外面に炭化物付着多し/ 注口土器の可能性もあり
305	74	61	深鉢	II	胴部／(外) 櫛歯状工具による施文のち、沈線により施文・縦位の文様構成 (内) ナデ	Fl(微細を含む)+Q(1mm前後を少量含む)+Mi	やや、時期の古いもの (北白川上層式I～II) or搬入品の可能性あり
306	74	61	深鉢	II	胴部／(外) 横走する2条の縄文帯(沈線+LR縄文(?)) (内) ナデ	Fl(微細)+Q(1mm前後を少量含む)+Mi+ch	在地のものではない(搬入品?)
307	74	61	深鉢	II	胴部／(外) ナデ・並行する2列の刺突文が横走する (内) ナデ	Fl(微細～2mm前後を多く含む)+Mi+クサリ礫(1～3mm前後を多く含む)	
308	74	61	深鉢	II	胴部／羽状縄文(LR縄文)	Fl(0.5～1mmを多く含む)+Q(1～2mmを含む)(+ch?)	羽状縄文(北白川上層式2期の特徴を留める)
309	75	61	浅鉢	I 2a	口縁部／無文／(外) (内) ナデ	Fl(微細)+Q(1～2mmを含む)+Mi/胎土がやや粗い	
310	75	61	浅鉢	I 2a	口縁部～底部／無文／(外) ナデorミガキ (内) ナデ	Fl(微細)+Q(1～2mmを含む)+Mi(大きなものを多く含む)/胎土がやや粗い	
311	75	61	浅鉢	I 2a	水平口縁／(外) 口縁と並行に沈線と短沈線を交互(沈線+短沈線が3条)に配し、縦への区切りを有する・ナデ (内) ミガキ	Fl(微細～2mm前後を含む)+Q(2mm前後を含む)+Mi/胎土はやや粗い	北陸系の加曾利B式の影響を受けている/在地産で模倣がうまくいかなかった?
312	75	61	浅鉢	I 2a	口縁部～胴部(弱く内湾する椀状浅鉢か?) ／(外) 並行して横走する3条の縄文帯(沈線+LR縄文)・ナデ (内) ナデ	Fl(微細を少量含む)+Mi(+Am?)	堀ノ内II式or加曾利B1式の影響
313	75	61	浅鉢	I 2a	口縁部／水平口縁／口縁端部を面取りする(断面台形)／(外) やや弧状を呈する上下2段(上段は3条・下段は2条)の縄文帯(沈線+LR縄文)・上段の口縁直下は押し引きによる沈線・区切り文の代りに空白で区切る (内) ナデ	Fl(微細を含む)+Q(1～2mm前後を含む)+Mi	堀ノ内II式でみられるものが極めて在地化したものか、あるいは山陰系
314	75	61	浅鉢	I 2a	口縁部／水平口縁(波状口縁の可能性あり)／(外) 上段:弱く波状を呈する多条沈線(4～5条)・中段:対向多重弧線文・下段:区切り文(弧線)をもつ多条沈線 (内) ナデ	Fl(微細を含む)+Q(1mm前後を少量含む)+Mi	堀ノ内系のモチーフ、北陸の気屋式の影響も考えられる
315	75	61	浅鉢	I 2b	口縁部～胴部／波状口縁／口縁端部を折り返して肥厚させる／(外) 横走する2条の文様帯を波頂部から垂下する文様帯が切る・文様帯は沈線施文後、櫛歯状の工具により施文 (内) ナデ	Fl(微細を含む)+Q(1～3mmを含む)+Mi(+Am?)	加曾利B式併行の北陸系か

3128流路出土縄文土器観察表（5）

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	器種	分類		形態・文様の特徴	胎 土	備 考
				I	2b			
316	75	61	浅鉢	I	2b	弱く内湾する波状口縁／（外）多条沈線で横方向に展開する入り組み文（内）ナデ	Fl（微細を多く含む）+Q（1～3mmを含む）+Mi／胎土はやや粗い／焼成は堅緻	
317	75	61	浅鉢	I	2b	波状口縁／口縁端部をわずかに面取り／（外）3条（4条？）の並行して横走る縄文帯（沈線+LR縄文）（内）ナデ	Fl（微細を少量含む）+Q（1mm前後を少量含む）／シャモットを含む	
318	75	62	浅鉢	I	3a	口縁部～底部／水平口縁／（外）並行する2条の縄文帯（沈線+LR縄文）にコの字状の区切りを伴う・ナデ（内）ナデ	Fl（微細～2mm前後を含む）+Q（1～3mm前後を含む）+Mi（+Am?）	口縁部から底部まで約2/5残存／内面に炭化物付着
319	75	62	浅鉢	I	3a	口縁部～胴部／水平口縁（口縁端部を面取りする）／（外）口縁に並行する2条の縄文帯（沈線+LR縄文）・ナデ（内）ナデ	Fl（微細を含む）+Q（2mm前後を少量含む）+Mi	縄文帯の間の無文帯に黒色物質付着（塗布?）
320	75	62	浅鉢	I	3a	口縁部～胴部／水平口縁／（外）沈線+LR縄文の並行する縄文帯が3条（内）ナデ	Fl（微細を含む）+Q（1mm前後を少量含む）+Mi	細い撚りと太い撚りがある加曾利BⅡ式系浅鉢独特の撚り
321	75	62	浅鉢	I	3a	口縁部～胴部／口縁端部を面取りする（断面四角形）／（外）並行して横走る2条の縄文帯（沈線+LR縄文）・上の縄文帯の幅が下の幅より広い（上：約1cm下：約0.5cm）（内）ナデ	Fl（微細を含む）+Q（1～2mmを含む）+Mi	
322	75	62	浅鉢	I	3a	口縁部／水平口縁／口縁端部内面を面取り／（外）口縁直下に沈線が1条横走り、菱形の文様を描いた後、LR縄文施文（内）強いナデ	Fl（1mm前後を少量含む）+Q（1mm前後を少量含む）+Mi+Am	類例はあまりないが端部内面が面取りされているので北白川上層式3期で良いと考えられる
323	75	62	浅鉢	I	3a	口縁部／端部を面取りする／並行して横走る3条の縄文帯（沈線+LR縄文）	Fl（微細を少量含む）+Q（1mm前後を少量含む）+シャモット?	
324	75	62	浅鉢	I	3a	口縁部／口縁端部を面取り（断面四角形）／無文	Fl（微細を少量含む）+Q（1mm前後を少量含む）	
325	75	62	浅鉢	I	3a	口縁部～底部／小型の椀形浅鉢／（外）（内）ナデ	Fl（微細を含む）+Mi+ch+Am（少量含む）	
326	75	62	浅鉢	I	3a	胴部／（外）並行する2条の縄文帯（沈線+LR縄文）・ミガキ?（内）ミガキ	Fl（微細を含む）+Q（1mm前後を少量含む）+Mi	内面に赤色顔料付着／元素分析（水銀朱（HgS））
327	75	63	浅鉢	I	3b	口縁部／波状口縁（波状は弱い）・弱く内湾／口縁端部は内折後、面取り／（外）S字の中心飾りを伴う縄文帯（多条沈線+LR縄文）（内）ナデ	Fl（微細を含む）+Q（1～3mmを含む）+Mi+ch	
328	75	63	浅鉢	I	3b	波状口縁／口縁端部を四角く面取りする／（外）蛇行する区切り文を伴う横走る縄文帯（多条沈線+LR縄文）（内）ナデ	Fl（微細を含む）+Q（1mm前後を少量含む）+Mi	段があって内側に入る口縁は一乗寺K式の古いものにある／内面に赤色顔料付着／元素分析（水銀朱（HgS））
329	75	63	浅鉢	I	3b	口縁部～胴部／弱く波状を呈する口縁／口縁端部を面取り（断面四角形）／（外）波状を呈する口縁に沿って横走る2条の縄文帯（沈線+LR縄文）（内）ナデ	Fl（微細を少量含む）+Q（1mm前後を少量含む）+Mi+Am（少量含む）	
330	75	63	浅鉢	I	3b	胴部／（外）横走る縄文帯（沈線+LR縄文）・ミガキ（内）ナデ	Fl（微細を含む）+Q（1mm前後を少量含む）+Mi	内面に赤色顔料付着／元素分析（水銀朱（HgS））
331	75	63	浅鉢	Ⅱ	1	頸部～胴部／胴部が「く」字屈曲をする浅鉢／（外）口縁部に区切り文を持つ4条の縄文帯（沈線+LR縄文）・ミガキ（内）ナデ	Fl（微細を含む）+Q（1～2mm前後を含む）+Mi+ch	船形の浅鉢か
332	75	63	浅鉢	Ⅱ	1	胴部／「く」の字屈曲して朝顔状の外反口縁がつく浅鉢／区切り文（渦巻き文）を伴う横走る縄文帯（多条沈線+LR縄文）（横連続渦巻き文）	Fl（微細を含む）+Q（1mm前後を含む）+Mi	器形は加曾利B式の算盤玉形浅鉢で、モチーフは北白川上層式3期の深鉢の移し替え／内面に赤色顔料付着／元素分析（水銀朱（HgS））
333	76	64	鉢	Ⅱ	1a	口縁部～胴部／外反口縁／口縁端部を面取り／無文	Fl（微細を含む）+Q（1mm前後を少量含む）	内外面に炭化物付着

3128流路出土縄文土器観察表(6)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	器種	分類		形態・文様の特徴	胎土	備考
				II	1a			
334	76	64	鉢	II	1a	胴部／(外)頸胴部界に沈線を横走させ、その下に楕円形区画文を連続させる。区画内に羽状縄文(LR縄文)を施文する(内)ナデ	Fl(微細を多く含む)+Q(2~3mmを少量含む)+Mi	炭化物付着／普通の撚りの間に細い撚りが入る堀ノ内系か
335	76	63	鉢	II	1b	口縁部～胴部／短く外反する波状口縁／(外)S字の中心飾りの縦連続渦巻き文(沈線+LR縄文)で、中心飾りの横に三角形(沈線+LR縄文)、上下に横走る縄文帯(多条沈線+LR縄文)を伴う・ナデ(内)口縁内面にもS字を伴う縄文帯(沈線+LR縄文)あり・ナデ	Fl(微細~3mm前後を含む)+Q(2~4mm前後を少量含む)+Mi+Am	約2/5残存
336	76	64	鉢	II	1b	胴部／(外)中心飾り(S字?)を伴い斜行する縄文帯(多条沈線+LR縄文)と横走る縄文帯(沈線+LR縄文)により三角形を呈する・ナデ(内)ナデ	Fl(微細を含む)+Q(1~2mmを少量含む)+Mi+ch	
337	76	64	注口 土器	I		注口部／(外)ナデ	Fl(微細を少量含む)+Q(1~2mmを含む)	西アゼトレンチ(TP+8.00m)／加曾利B式系の注口ではなく在地のもの(一乗寺K式へと続いていく)
338	76	64	注口 土器	II		口縁部?／口縁端部を肥厚させ、口唇部と端部内面を凹状にする／(外)(内)ナデ	Fl(微細を含む)+Mi	加曾利B式系の注口土器の口縁部
339	76	64	注口 土器	II		胴部／(外)組紐状に編んだモチーフ(ハケ状工具による施文のち、縁に沈線を施文)(内)ナデ	Fl(微細を多く含む)+Mi+Am	加曾利B式系の注口土器のモチーフを採用した在地のもの
340	76	64	注口 土器	II		胴部(注口の胴部?)／(外)沈線で区画を行った内部を櫛歯状工具により施文(幾何学的な文様か?)(内)ナデ	Fl(微細を含む)+Q(1mm前後を含む)+Mi+ch／胎土はやや粗い	
341	76	64	注口 土器	II		胴部／ハケ状工具による施文	Fl(微細を含む)+Mi+ch	加曾利B1系の注口土器
342	77	65	深鉢 口縁部			外反口縁／(外)ナデ(内)口縁内面に端部から連続するS字の隆帯(LR縄文)、直下に凹線を施文	Fl(微細を含む)+Q(1~2mmを極少量含む)+Mi	
343	77	65	深鉢 口縁部			外反口縁／(外)ナデ(内)口縁端部にLR縄文施文、口縁内面に端部から連続する横連続渦巻き文(LR縄文)	Fl(微細を含む)+Q(1mm前後を少量含む)	
344	77	65	深鉢 口縁部			外反する波状口縁(波状はあまり強くない)／(外)ミガキ(内)口縁内面に文様施文(沈線で菱形(中央に孔2つ)を描き、LR縄文を施文する)	Fl(微細~2mmを多く含む)+Q(1mm前後を少量含む)	断面に見える黒っぽいものは植物遺体か?／断面に見える白い粉末状のものは炭酸カルシウムの可能性あり
345	77	65	深鉢 口縁部			口縁部／(外)ナデ(内)口縁端部直下に沈線以下ナデ	Fl(微細を含む)+Q(2mm前後を少量含む)	
346	77	65	深鉢 口縁部			外反口縁／(外)ミガキ(内)口縁端部を内折り後、端部直下にJ字orS字を伴う縄文帯(沈線+LR縄文)が口縁に並行して横走る・ナデ	Fl(微細を含む)+Q(微細を少量含む)+Mi+Am	外面に炭化物付着多し
347	77	65	深鉢 口縁部			外反口縁／(外)ミガキ(内)口縁内面端部直下に沈線+LR縄文・ナデ	Fl(微細を含む)+Q(1~3mmを少量含む)+Mi	
348	77	65	深鉢 口縁部			口縁部／口縁端部面取／(外)ナデ(内)口縁端部直下に竹管文あり・ナデ	Fl+Q+Mi+ch(+Am?)	
349	77	65	深鉢 口縁部			波状(?)口縁／(外)口縁端部に刻み目をもち、直下に1条の沈線を有する(内)ナデ	Fl(微細を含む)+Q(1mm前後を少量含む)+Am(微細を少量含む)	北サブトレンチ(東端アゼ(TP+7.00m))
350	77	65	深鉢 口縁部			口縁部(波状口縁の口唇部?)／LRか、RL撚り戻しか判然としない	Fl(微細を含む)+Q(1mm前後を少量含む)+ch	
351	77	65	深鉢 口縁部			口縁部(わずかに外反する)／口縁端部を面取りする／無文／(外)口縁端部外面にLR縄文を施文・ナデ(内)ナデ	Fl(微細を含む)+Q(1mm前後を少量含む)+Mi+ch	外面頸胴部に炭化物付着
352	77	65	深鉢 口縁部			外反口縁／口縁端部を面取り(断面三角形)後、LR縄文施文／(外)ミガキ(内)ケズリ	Fl(微細を含む)+Q(1mm以下を少量含む)+Mi	

3128流路出土縄文土器観察表(7)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	器種	分類	形態・文様の特徴	胎土	備考
353	77	65	深鉢 口縁部		口縁部/外反口縁/口縁端部内折のち、LR縄 文を施文	Fl(微細を含む)+Q(1~2mm を含む)+Mi	
354	77	65	深鉢 口縁部		口縁部/端部にLR縄文を施文/ (外)(内)ナデ	Fl(微細を少量含む)+Mi(+ Am?)	
355	77		深鉢 口縁部		口縁部(外反口縁)/端部に縄文(LR縄文) を施文/(外)(内)ミガキ	Fl(微細を少量含む)+Q(1~ 3mmをやや多く含む)	
356	77	64	深鉢 口縁部		口縁部(外反口縁)/無文/ (外)(内)ナデ	Fl(微細を含む)+Q(1~3mm を少量含む)+Mi(+Am?)	
357	77	64	深鉢 口縁部		口縁部(外反口縁)/無文/ (外)(内)ケズリ	Fl(微細を含む)+Q(1~2mm を含む)+Mi+ch	
358	77		深鉢 口縁部		口縁部(外反口縁)/無文/口縁端部が三角 形状に尖る/(外)(内)ナデ	Fl(微細を含む)+Q(1~3mm を含む)+Mi	外面頸部付近に炭化物 付着
359	77		深鉢 口縁部		口縁部/無文/端部外折	Fl(微細を含む)+Q(1mm前後 を少量含む)+Mi	
360	77	64	深鉢 口縁部		口縁部(外反口縁)/無文/ (外)ナデorミガキ(内)ナデ	Fl(微細を含む)+Q(1~2mm を含む)/胎土はやや粗い	
361	77		深鉢 口縁部		口縁/口縁端部を面取りする(断面四角形)	Fl(微細を少量含む)+Q(1~ 2mmを含む)	
362	77		深鉢 口縁部		口縁部/弱く外反し、口縁端部は三角形に 尖る/無文/(外)(内)ナデ	Fl(微細を少量含む)+Q(1 mm前後を少量含む)+ch(+ Am?)	
363	77		深鉢 口縁部		口縁部/外反口縁・口縁端部を面取りし尖ら せる/無文/(外)ミガキ	Fl(微細を含む)+Q(1~2mm 前後を少量含む)+Mi	外面に炭化物付着
364	77	64	深鉢 口縁部		口縁部(外反口縁)/(外)(内)ナデ	Fl(微細を多く含む)	内外面に炭化物付着/デ ンブ分析(サンプル 6)/AMS年代測定
365	77	64	深鉢 口縁部		口縁部(外反口縁)/口縁端部を外折後、面 取りする/(外)(内)ナデ	Fl(微細を多く含む)+Q(1mm 前後を少量含む)+Mi	炭化物付着
366	77		深鉢 口縁部		口縁部/無文/(外)(内)ナデ	Fl(微細を多く含む)+Q(1 ~3mm前後を多く含む)(+ Am?)/胎土は粗い	
367	77		深鉢 口縁部		口縁部(外反口縁?)/無文/口縁端部を外 折し、丸く収める/(外)(内)ナデ	Fl(微細を多く含む)+Q(1mm 前後を少量含む)+Mi	
368	77		深鉢 口縁部		口縁部~胴部/弱く外反し、口縁端部を面取 り/無文/(外)ミガキ(内)ナデ	Fl(微細を含む)+Q(1~2mm 前後を少量含む)+Mi	
369	77	65	深鉢 口縁部		口縁部/(外)並行して横走る縄文帯(沈 線+LR縄文)	Fl(微細を含む)+Q(1~2mm を含む)	二次的に焼けている
370	77	65	深鉢 胴部		胴部/縄文原体の撚りが右撚りの可能性あり	Fl(微細を含む)+Q(1mm前後 を少量含む)+Mi	炭化物付着
371	77	65	深鉢 胴部		胴部/(外)沈線・ナデ(内)ナデ	Fl(主に微細であるが1~3mmを 少量含む)+Q(1mm前後を少量 含む)+Mi	種子痕
372	77	65	深鉢 胴部		胴部/(外)多条沈線+LR縄文 (内)ナデ	Fl(微細を多く含む)+Mi	
373	77		底部		底部/(外)(内)ナデ(底)調整不明	Fl(微細を含む)+Q(1mm前後 を少量含む)	内面に赤色顔料付着 /元素分析(水銀朱 (HgS))
374	77	65	底部		底部/(外)強いナデ(内)ケズリか (底)ナデ?	Fl(1mm前後を含む)+Q(1mm 前後を含む)+ch(やや多い)	
375	77	65	底部		底部/無文	Fl+Q+Mi+ch(+Am?)	
376	77		底部		底部/(外)ミガキ(内)磨耗が激しく調整不明 (底)ナデor調整不明	Fl(1~2mm前後を含む)+Q (2mm前後を少量含む)	
377	77	65	底部		底部/(外)(内)ナデ(底)ナデor調整 不明	Fl(微細を含む)+Mi	
378	77		底部		底部/(外)(内)ナデ(底)ナデor調整 不明	Fl(微細を含む)+Q(1mm前後 を少量含む)+Mi+クサリ礫	北サブトレンチ肩部
379	77	65	底部		底部/(外)(内)ナデ(底)調整不明	Fl(微細~1mm前後を多く含む) +Q(1mm前後を少量含む)+Mi +ch+クサリ礫?	
380	77		底部		底部/(外)(内)ナデ(底)ナデor調整 不明	Fl(微細を含む)+Q(1mm前後 を少量含む)+Mi	
381	77		底部		底部/(外)ミガキ(内)炭化物付着によ り不明(底)ナデ	Fl(微細を少量含む)+Q(1mm 前後を少量含む)+Mi	炭化物付着

3128流路出土縄文土器観察表（8）

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	器種	分類	形態・文様の特徴	胎 土	備 考
382	77	65	底部		底部／（外）ミガキ （内）調整不明 （底）ナデ	Fl（微細を含む）+Q（2～3mm 前後を少量含む）+ch+シャモツ ト	内面に炭化物が厚く付着
383	77		底部		底部／（外）ケズリ+ナデ （内）ケズリor ナデ （底）ナデor調整不明	Fl（微細を含む）+Q（1～2mm 前後を含む）+Mi+Am	種子痕？
384	77	65	底部		底部／（外）ナデ （内）調整不明 （底）ナデ	Fl（微細を含む）+Q（1mm前後 を少量含む）+Mi+ch（1mm以 下を少量含む）	内外面に赤色顔料および 漆？付着／元素分析（ベ ンガラ(Fe ₂ O ₃)検出)

打製石器観察表（1）

遺物 番号	図版	写真 図版	整理 番号	器種 名	調査 区	遺構名	遺構備考	最大 長 (cm)	最大 幅 (cm)	最大 厚 (cm)	重量 (g)	状態	自然 面	ポジ ティブ 剥離 面	打面 形態	剥離 角 (度)	素材 剥片 の剥離 と石理 との 関係	備 考
2	13	82		石鏃	1	7層		2.3	1.7	0.4	1.40	完形	×	×	なし		不明	風化
3	13	82		石鏃	1	7層		4.4	2.5	0.6	5.20	完形	×	○	なし		不明	風化
155	39	82		石鏃	3・4	9層		2.4	2.0	0.3	0.90	完形	×	×	なし		不明	風化
156	39	82		石鏃	3・4	9層		2.2	1.8	0.4	0.80	欠損	×	×	なし		不明	風化 逆刺一部欠
157	39	82		石鏃	3・4	7層		3.4	2.0	0.6	2.60	完形	×	×	なし		不明	
158	39	82		石鏃	3・4	3581流路	底部付近 埋土	3.9	1.4	0.6	2.70	欠損	×	×	なし		不明	先欠
159	39	82		石鏃	3・4	3581流路	底部付近 (黒褐色粘 土内) 別遺構の 可能性あ り	10.0	2.5	0.7	10.00	欠損	×	×	なし		不明	先・片側辺 欠
233	68	71		剥片	5・6	3152流路		8.1	2.4	0.5	9.36	完形	○	○	複剥 離面	127	順目	風化
234	68	71		剥片	5・6	11層下面		3.9	1.7	1.2	9.87	完形	○	○	自然 面	68	順目	風化
235	68	71		剥片	5・6	11層下面		1.6	1.6	0.2	0.48	欠損	×	○	自然 面		順目	風化
236	68	71		剥片	5・6	11層下面		4.3	0.9	0.4	1.49	欠損	×	○	線状		不明	風化
237	68	71		スク レイ パー	5・6	11層下面		7.2	5.6	1.3	38.40	欠損	○	○	自然 面		不明	風化
238	69	69		石核	5・6	3013 ピット		13.6	20.4	6.2	1638.30	完形	○	×	自然 面、 線状		順目	380と接合 風化
239	69	69		剥片	5・6	9層上面 (8層下面)		8.8	9.8	1.3	100.70	欠損	×	○	複剥 離面		不明	379と接合 風化
408	85	82		石鏃	5・6	7層		2.3	1.4	0.4	1.10	欠損	×	○	なし		不明	風化
409	85	82		石鏃	5・6	中・近世 作土層以 下		4.4	1.8	0.6	3.70	欠損	○	×	なし		不明	基部一部欠 損
410	85	82		石鏃	5・6	7層		6.3	2.0	0.7	6.40	欠損	×	×	なし		不明	風化、先欠
414	94	82		石鏃	7	7層		2.3	1.5	0.3	0.80	欠損	×	×	なし		不明	風化、先欠
415	94	82		石鏃	15～ 17	3345井戸	掘方	2.9	1.2	0.3	1.10	欠損	×	×	なし		不明	風化 片側辺欠
416	94	82		石鏃	15～ 17	3346 ピット	3322竪 穴遺構内	4.5	1.9	0.5	3.10	完形	×	×	なし		不明	
433	97	83		石核	15～ 17	深掘り トレンチ		13.9	10.6	4.7	565.79	完形	○	○	なし		不明	
584	146	88	44	石鏃	10東	竪穴住居1		5.0	1.5	0.7	4.31	欠損	×	×	なし		不明	未成品
585	146	88	1210	石鏃	10東	竪穴住居2	床面直上	3.0	1.6	0.4	1.78	欠損	×	×	なし		不明	先・逆刺1 欠
586	146	89	1208	石鏃	10東	竪穴住居2	床面直上	3.6	1.0	0.4	1.51	欠損	×	×	なし		不明	一端欠
587	146	89	1209	石鏃	10東	竪穴住居2	床面直上	4.8	1.9	0.7	4.72	完形	×	×	なし		不明	
588	146	89	30	石鏃	10東	竪穴住居2	床面直上	4.4	1.3	1.3	4.13	完形	×	○	なし		不明	
589	146	90	5620	石槍	10東	竪穴住居2	床面直上	5.1	3.6	1.0	26.17	欠損	×	○	なし		不明	未成品、 基部残、 一部研磨
589	146	90	5621	石槍	10東	竪穴住居2	床面直上	4.8	3.6	1.2	31.80	欠損	×	×	なし		不明	未成品、 中央残、 一部研磨
589	146	90	5622	石槍	10東	竪穴住居2	床面直上	4.5	3.5	1.1	20.01	欠損	×	×	なし		不明	未成品、 先残、 一部研磨
589	146	90	5620 ～ 5622	石槍	10東	竪穴住居2		14.1	3.7	1.2	77.98							
612	155	89	7420	石 槍？	10東	2100流路		5.1	3.1	1.4	16.86	欠損	×	○	なし		不明	未成品？1.3 cm鉾物含む

打製石器観察表（2）

遺物番号	図版	写真図版	整理番号	器種名	調査区	遺構名	遺構備考	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	状態	自然面	ポジティブ剥離面	打形態	剥離角 (度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
612	155	89	7421	石槍?	10東	2100流路		5.2	2.0	1.3	10.25	欠損	×	×	なし		不明	未成品? 1.2cm鉋物含む
612	155	89	7420・7421	石槍?	10東	2100流路		5.1	5.1	1.4	27.11							
613	155	88	142	石鏃	10東	9層		2.8	1.8	0.4	1.69	完形	×	×	なし		不明	
614	155	88	77	石鏃	10東	9層		4.9	1.9	0.5	3.45	完形	×	×	なし		不明	
646	171	88	1230	石鏃	(07-1) 3-1	4153ピット	竪穴住居3 貼床下面	3.7	2.4	0.6	4.46	完形	×	○	なし		不明	未成品
647	171	88	1231	石鏃	(07-1) 3-1	4153ピット	竪穴住居3 貼床下面	3.7	2.7	0.7	6.41	完形	×	×	なし		不明	未成品
648	171	88	1226	石鏃	(07-1) 3-1	竪穴住居3		2.5	1.6	0.4	1.26	完形	×	○	なし		不明	未成品
649	171	88	1214	石鏃	11東	竪穴住居3?		2.3	1.6	0.4	1.09	完形	×	×	なし		不明	風化、両側面に鋸歯状剥離有
650	171	88	1213	石鏃	11東	竪穴住居3?		2.5	1.2	0.5	1.02	欠損	×	×	なし		不明	逆刺1欠片側面に鋸歯状剥離有
651	171	89	49	石錐	11東	竪穴住居3	壁溝	2.6	0.8	0.4	0.62	欠損	×	×	なし		不明	錐部残存
652	171	89	1225	石錐	(07-1) 3-1	竪穴住居3	壁溝(4145)	4.5	1.8	0.7	3.92	完形	×	○	なし		不明	錐部極僅かエッジ摩滅
653	171	88	1227	石小刀	(07-1) 3-1	4137ピット	竪穴住居5	3.2	1.8	0.6	3.30	欠損	×	×	なし		不明	先欠
654	171	88	1220	石鏃	11東	竪穴住居11		2.0	1.1	0.3	0.68	欠損	×	×	なし		不明	基部欠
655	171	88	1219	石鏃	11東	竪穴住居11		2.3	1.5	0.2	0.97	欠損	×	○	なし		不明	先欠、両側面に鋸歯状剥離有
656	171	88	1216	石鏃	11東	竪穴住居7		2.8	1.9	0.5	2.30	欠損	×	×	なし		不明	未成品
657	171	89	1215	石錐	11東	2277-1ピット	竪穴住居7	2.5	1.0	0.4	0.73	欠損	×	×	なし		不明	上下端欠
658	171	90	5608	石槍	11東	竪穴住居6		5.6	3.1	0.9	17.23	欠損	×	×	なし		不明	先残、下部両側縁エッジ僅かに摩滅
659	171	88	39	石小刀?	11東	竪穴住居12		5.1	2.0	0.8	7.03	欠損	×	×	なし		不明	
660	172	89	24	石錐	11西	竪穴住居4		3.8	1.7	0.5	2.53	完形	×	○	なし		不明	
661	172	91	16	RF	11西	竪穴住居4		17.1	12.0	2.8	573.19	完形	○	○	自然面	111	順目	側面に自然面
666	184		5650	RF	11東	2360ピット		3.6	5.6	0.7	10.68	完形	×	○	複剥離面	121	不明	5649・5650接合
667	184		5649	剥片	11東	2360ピット		1.3	2.3	0.3	0.67	欠損	×	○	なし		不明	5649・5650接合
666・667	184		5649・5650	剥片	11東	2360ピット		3.6	5.6	0.8	11.35							
668	184		5651	RF	11東	2360ピット		3.5	4.0	1.1	14.69	欠損	○	○	自然面		順目	5651・5652接合、被熱割れ?
668	184		5652	RF	11東	2360ピット		4.1	3.5	0.9	12.79	欠損	○	○	なし		順目	5651・5652接合、被熱割れ?
668	184		5651・5652	RF	11東	2360ピット		6.9	4.1	1.1	27.48							
669	184		6703	中型尖頭器	11東	2360ピット		2.8	3.1	0.7	6.68	欠損	○	○	なし		不明	未成品? 基部残

打製石器観察表 (3)

遺物 番号	図版	写真 図版	整理 番号	器種 名	調査 区	遺構名	遺構備考	最大 長 (cm)	最大 幅 (cm)	最大 厚 (cm)	重量 (g)	状態	自然 面	ポジ ティブ 剥離 面	打面 形態	剥離 角 (度)	素材 剥片 の剥 離と 石理 との 関係	備 考
670	184		6709	剥片	11東	2360 ピット		3.8	3.3	0.5	4.34	完形	×	○	線状		不明	ポイントフ レイク?
671	184		6707	石錐	11東	2360 ピット		4.0	2.6	1.0	6.57	略完 形	○	○	なし		半順 目	未成品
705	189	88	1228	石鏃	(07-1) 3-1	4147土坑		2.4	1.7	0.3	1.38	完形	×	×	なし		不明	
706	189	89	1229	石錐	(07-1) 3-1	4147土坑		4.1	2.2	0.6	3.32	完形	×	○	自然 面		半順 目	
707	189	90	5599	スク レイ パー	(07-1) 3-1	4147土坑		7.9	3.9	1.2	35.34	完形	×	○	自然 面	101	不明	
725	193	88	143	石鏃	11西	2107溝		3.3	2.0	0.5	2.86	欠損	×	×	なし		不明	先端部折れ
726	193	89	1193	石錐	11東	2129溝		3.4	1.5	0.4	1.79	欠損	×	×	なし		不明	頭部欠
790	199	90	5603	石槍	(07-1) 3-1	南壁断面		15.9	3.7	1.4	89.13	完形	×	×	なし		不明	完形 基部 両側～基底 部エッジ擦 り落し、上 半は粗い再 加工の剥離
791	199	89	40	翼状 剥片	11東	近世耕土 層		2.5	6.4	1.1	16.23	完形	×	○	複剥 離面	120	半順 目	風化
792	199	89	73	石錐	11東	2120流路		5.8	3.5	1.0	15.07	完形	○	○	なし		半順 目	側面に自然 面
793	200	91	145	剥片	11東	9層		14.0	11.4	3.1	528.64	完形	○	○	自然 面	110	半順 目	
794	200	89	1197	石錐	11東	9層		3.7	3.6	0.7	5.08	完形	×	○	なし		不明	
795	201	90	8346	スク レイ パー	(07-1) 3-1	9層		6.4	9.9	1.5	88.13	完形	○	○	複剥 離面		半順 目	
796	201	90	8345	スク レイ パー	(07-1) 3-1	9層		5.7	11.7	1.7	80.25	完形	○	○	単剥 離面		半順 目	
795 ・ 796	201	90	8345 ・ 8346	スク レイ パー	(07-1) 3-1	9層		7.6	15.4	1.8	168.30							
799	206	101	76	石鏃	18	方形周溝 墓1	墳丘上	4.8	1.8	0.8	4.79	欠損	×	×	なし		不明	先・基部欠
800	206	102	74	石錐	18	第6・9 層 主に9層		3.8	4.7	1.0	13.47	欠損	×	○	自然 面		順目	
801	206	102	75	石錐	18	第6・9 層 主に9層		4.8	2.0	0.5	4.82	完形	×	○	自然 面		不明	
825	222	101	113	石鏃	19西	竪穴住居 17		2.7	1.4	0.4	1.12	欠損	×	×	なし		不明	先・逆刺1 欠、 片側辺、 基部に鋸歯 状剥離有
826	222	101	125	石鏃	19西	竪穴住居 17		3.4	1.6	0.3	1.37	完形	×	×	なし		不明	両側辺に鋸 歯状剥離有
827	222	102	68	石錐	19西	竪穴住居 17		3.8	1.2	0.6	2.72	欠損	×	○	なし		不明	先端部欠損
828	222	103	41	スク レイ パー	19西	竪穴住居 17	遺物3	10.2	4.9	0.7	34.35	欠損	○	○	なし		順目	折れ有
829	222	101	139	石鏃	19西	竪穴住居 15		3.7	1.6	0.4	2.40	欠損	×	○	なし		不明	片側辺新欠
830	222	101	129	石鏃	19西	竪穴住居 15		2.1	1.1	0.4	1.00	欠損	×	×	なし		不明	石錐?
831	222	101	116	石鏃	19西	竪穴住居 15		2.3	1.2	0.3	0.98	欠損	×	×	なし		不明	側面に新欠 の折れ、 片側辺に鋸 歯状剥離有

打製石器観察表（4）

遺物番号	図版	写真図版	整理番号	器種名	調査区	遺構名	遺構備考	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	状態	自然面	ポジティブ剥離面	打形態	剥離角 (度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
832	222	101	128	石鏃	19西	竪穴住居15		3.0	1.8	0.4	1.52	完形	×	×	なし		不明	
833	222	101	97	石鏃	19西	竪穴住居15		2.8	1.7	0.5	2.82	完形	×	×	なし		不明	
834	222	101	91	石鏃	19西	竪穴住居15		3.7	2.2	0.6	3.78	完形	×	○	なし		不明	未成品
835	222	101	110	石鏃	19西	竪穴住居15	南西壁溝	3.5	1.6	0.3	1.49	欠損	×	×	なし		不明	基部に折れ有、基部欠
836	222	102	71	石錐	19西	竪穴住居15		2.5	0.6	0.4	0.63	欠損	×	×	なし		不明	錐部残存
837	222	102	109	石錐	19西	竪穴住居15	南西壁溝	4.4	1.6	0.5	3.43	完形	×	○	なし		不明	
838	222	102	1212	石錐	19西	竪穴住居15		4.4	3.0	1.0	11.04	略完形	×	×	なし		不明	
839	222	103	1211	スクレイパー	19西	竪穴住居15		3.8	4.0	0.8	13.16	完形	×	○	なし		順目	
840	222	101	135	石鏃	19西	竪穴住居16		2.8	1.6	0.3	1.25	欠損	×	×	なし		不明	先端部に欠損有先欠、両側面に鋸歯状剥離有
841	222	101	104	石鏃	19西	竪穴住居16		2.6	1.7	0.3	1.53	欠損	×	×	なし		不明	先端部に折れ有、両側面、基部に鋸歯状剥離有
842	222	102	58	石錐	19西	竪穴住居16		2.8	1.2	0.3	0.93	完形	×	×	なし		不明	未成品、錐？
843	222	102	50	石錐	19中西	竪穴住居21		4.4	1.8	0.5	2.47	完形	×	○	なし		不明	石鏃？
844	223	101	108	石鏃	19西	竪穴住居18		3.6	1.7	0.4	2.75	完形	×	○	なし		不明	未成品
845	223	101	8136	石鏃	(07-1)2-2	竪穴住居18	アゼ(炬近く)	3.0	2.1	0.4	2.30	欠損	×	○	なし		不明	未成品、先欠
846	223	101	112	石鏃	19西	竪穴住居18		2.4	1.9	0.3	1.76	完形	×	○	なし		不明	未成品
847	223	102	72	石錐	19西	竪穴住居18		3.8	2.7	0.5	4.25	完形	×	○	自然面		順目	
848	223	101	7988	石鏃	(07-1)2-2	4300落ち込み		2.8	1.7	0.7	3.30	完形	×	○	なし		不明	未成品、厚い
849	223	103	8249	楔形石器	(07-1)2-2	4300落ち込み	拡張部	6.9	5.8	3.0	134.50	完形	○	○	なし		不明	全面ローリング
850	223	103	11	石核	19中西	竪穴住居20		14.3	6.7	3.6	277.02	完形	◎	×	なし		半順目	
851	224	101	1217	石鏃	19中西	竪穴住居20 2434-10ピット(炬)	2410流路の可能性も有	2.5	1.5	0.4	1.02	完形	×	×	なし		不明	先端部僅かに折れる、両側面に鋸歯状剥離有
852	224	101	1218	石鏃	19中西	2434-10ピット(炬)	竪穴住居20	3.1	1.5	0.3	1.31	欠損	×	×	なし		不明	基部欠、金山産？
853	224	101	78	石鏃	19中西	2434-10ピット(炬)	竪穴住居20	2.8	1.4	0.4	1.30	略完形	×	×	なし		不明	先端部僅かに欠損
854	224	101	92	石鏃	19中西	2434-10ピット(炬)	竪穴住居20	4.0	2.3	0.6	4.41	完形	×	×	なし		不明	
855	224	101	101	石槍	19中西	2434-6ピット	竪穴住居20	4.1	3.5	1.0	16.48	欠損	×	○	なし		不明	未成品 先端部残存
856	224	102	79	石錐？	19中西	竪穴住居20	底面	5.0	2.1	0.6	5.72	完形	×	○	なし		不明	先端部新欠

打製石器観察表（5）

遺物 番号	図版	写真 図版	整理 番号	器種 名	調査 区	遺構名	遺構備考	最大 長 (cm)	最大 幅 (cm)	最大 厚 (cm)	重量 (g)	状態	自然 面	ポジ ティブ 剥離 面	打面 形態	剥離 角 (度)	素材 剥片 の剥 離と 石理 との 関係	備 考
857	224	102	45	石錐	19中 西	竪穴住居 20		4.6	1.0	0.7	2.84	完形	×	×	なし		不明	
858	224	102	51	石錐	19中 西	2434-7 ピット	竪穴住居 20	3.5	1.1	0.4	1.22	欠損	×	×	なし		不明	先端部に折れ
859	224	102	54	石錐	19中 西	2434-10 ピット (炬)	竪穴住居 20	4.5	1.7	0.9	6.82	欠損	○	×	なし		不明	先端部新欠
860	224	102	57	石錐	19中 西	2434-10 ピット (炬)	竪穴住居 20	2.1	1.2	0.5	1.22	完形	×	×	なし		不明	
861	224	103	9	スク レイ パー	19中 西	竪穴住居 20		8.2	4.1	1.8	4406.00	完形	○	◎	なし		半順 目	刃部微細剥 離
862	225	104	1205	石鏃	19西	竪穴住居 19		3.1	1.5	0.3	1.21	完形	×	×	なし		不明	
863	225	104	64	石鏃	19西	竪穴住居 19		2.4	1.7	0.3	1.38	欠損	×	×	なし		不明	先端部欠損
864	225	104	29	石鏃	19西	竪穴住居 19	壁溝	2.4	1.7	0.4	1.44	完形	×	×	なし		不明	先端折れ
865	225	104	1200	石鏃	19中 西	2231-18 ピット	竪穴住居 19	2.4	1.5	0.3	1.21	欠損	×	×	なし		不明	調査時P18 先端部欠損
866	225	104	126	石鏃	19西	竪穴住居 19		3.1	1.5	0.4	1.71	完形	×	○	なし		不明	基部が欠損 側辺凹
867	225	104	94	石鏃	19中 西	竪穴住居 19	埋土中層	3.3	1.8	0.4	2.43	欠損	×	○	なし		不明	先欠、片側 辺一部に鋸 歯状剥離有
868	225	104	131	石鏃	19西	竪穴住居 19	壁溝	3.9	1.9	0.6	3.19	完形	×	×	なし		不明	
869	225	104	87	石鏃	19中 西	2231-14 ピット	竪穴住居 19	2.6	1.7	0.3	1.76	欠損	×	×	なし		不明	調査時P4 先端部欠損
870	225	104	65	石鏃	19西	竪穴住居 19		2.7	1.5	0.3	1.31	完形	×	×	なし		不明	平基式に近い、 両側辺に鋸 歯状剥離有
871	225	104	123	石鏃	19西	竪穴住居 19		2.6	1.8	0.4	1.67	完形	×	○	なし		不明	
872	225	104	127	石鏃	19西	竪穴住居 19		2.1	1.4	0.4	0.91	完形	×	×	なし		不明	基部、先端 部ともに僅 かに欠損
873	225	104	124	石鏃	19西	竪穴住居 19	壁溝	2.2	1.3	0.3	0.93	略完 形	×	×	なし		不明	側辺一部欠 損
874	225	104	62	石鏃	19西	2231-5 ピット	竪穴住居 19	2.7	1.6	0.5	1.81	完形	×	◎	なし		不明	調査時P5
875	225	104	66	石鏃	19西	竪穴住居 19		2.3	1.2	0.3	1.38	欠損	×	◎	なし		不明	先端部欠損
876	225	104	107	石鏃	19西	竪穴住居 19		4.5	1.8	0.5	2.88	完形	×	×	なし		不明	
877	225	104	1201	石鏃	19西	竪穴住居 19		2.8	1.4	0.5	2.01	欠損	×	○	なし		不明	先端部欠 損、先欠、 基部少し欠
878	225	104	93	石鏃	19中 西	竪穴住居 19	埋土上層 北半分	4.2	1.3	0.4	2.16	完形	×	○	なし		不明	両側辺に鋸 歯状剥離有
879	225	105	1202	石鏃	19中 西	2231-14 ピット	竪穴住居 19	3.0	1.3	0.3	1.15	欠損	×	×	なし		不明	調査時P4 基部欠損基 部欠
880	225	105	1207	石鏃	19中 西	竪穴住居 19		2.3	1.1	0.3	0.76	欠損	×	×	なし		不明	基部欠損
881	225	105	1203	石鏃	19西	竪穴住居 19		2.1	1.2	0.2	0.61	欠損	×	○	なし		不明	基部欠損基 部欠
882	225	105	1206	石鏃	19西	竪穴住居 19		2.9	1.8	0.5	1.92	欠損	×	○	なし		不明	基部欠損

打製石器観察表（6）

遺物番号	図版	写真図版	整理番号	器種名	調査区	遺構名	遺構備考	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	状態	自然面	ポジティブ剥離面	打形態	剥離角 (度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
883	225	105	1204	石鏃	19西	竪穴住居19	壁溝	2.1	1.7	0.4	1.58	欠損	×	×	なし		不明	先端部・基部欠損、未成品
884	226	105	1191	石鏃	19西	竪穴住居19	壁溝	3.0	2.2	0.5	3.42	欠損	×	×	なし		不明	基部欠
885	226	105	132	石鏃	19西	竪穴住居19		3.8	2.3	0.7	5.18	完形	×	×	なし		不明	未成品
886	226	105	100	石鏃	19中西	竪穴住居19		3.9	2.2	0.5	3.80	完形	×	○	なし		不明	未成品？
887	226	105	117	石鏃	19西	竪穴住居19	壁溝	3.1	1.8	0.5	2.52	完形	×	○	なし		不明	先端に折れ有、未成品
888	226	105	106	石鏃	19西	竪穴住居19	壁溝遺物23	3.2	1.7	0.4	2.14	完形	×	×	なし		不明	未成品
889	226	105	90	石鏃	19中西	2231-14ピット	竪穴住居19	3.9	2.4	0.5	3.81	完形	×	○	なし		不明	調査時P4未成品
890	226	105	20	石鏃	19西	竪穴住居19	壁溝	3.5	2.0	0.4	2.97	完形	×	◎	単剥離面	118	不明	未成品
891	226	105	19	石鏃	19西	竪穴住居19	壁溝	3.9	2.2	0.6	4.26	完形	○	○	なし		不明	先端部が自然面、未成品
892	226	105	111	石鏃	19西	竪穴住居19		4.6	1.9	0.7	5.10	完形	×	○	なし		不明	未成品
893	226	105	98	石鏃	19中西	2231-14ピット	竪穴住居19	4.8	2.4	0.7	8.23	欠損	×	○	なし		不明	調査時P4先端部折れ未成品 石鏃未成品？
894	226	105	84	石鏃	19中西	竪穴住居19	埋土中層	4.5	2.8	0.7	8.25	略完形	○	○	なし		不明	未成品
895	226	106	48	石鏃	19西	竪穴住居19	壁溝	4.9	2.6	1.0	13.27	欠損	×	×	なし		不明	鏃部欠損、7mm鉍物含む
896	226	106	46	石鏃	19西	2231-38ピット	竪穴住居19	5.6	2.7	1.0	12.96	欠損	○	○	なし		順目	調査時P18
897	226	106	1199	石鏃	19西	竪穴住居19	壁溝	3.7	2.8	1.0	6.72	欠損	×	○	なし		不明	鏃部欠損
898	227	106	55	石鏃	19中西	竪穴住居19	埋土下層	5.1	1.8	0.5	3.11	完形	○	○	なし		不明	
899	227	106	80	石鏃	19中西	2231-18ピット	竪穴住居19	5.8	1.6	0.3	2.81	完形	×	○	なし		不明	調査時P8
900	227	106	105	石鏃	19西	竪穴住居19		2.8	0.7	0.3	0.75	完形	×	×	なし		不明	
901	227	106	10	石鏃	19中西	竪穴住居19		3.1	0.8	0.5	1.02	完形	×	×	なし		不明	鏃部のみ
902	227	106	47	石鏃	19西	竪穴住居19		2.7	1.6	0.5	1.77	完形	×	○	なし		不明	
903	227	106	63	石鏃	19西	竪穴住居19		4.2	2.9	0.6	5.10	略完形	×	○	なし		不明	
904	227	106	67	石鏃	19西	竪穴住居19		1.8	1.4	0.3	0.87	欠損	×	×	なし		不明	先端部欠損
905	227	106	42	石鏃	19中西	2231-14ピット	竪穴住居19	4.2	1.7	0.3	1.67	完形	○	○	なし		不明	調査時P4薄い、片面に自然面
906	227	106	1198	石鏃	19中西	2231-14ピット	竪穴住居19	4.1	1.9	0.6	4.09	完形	×	○	複剥離面	108	不明	調査時P4
907	227	108	162	楔形石器	19西	竪穴住居19		2.7	3.4	0.9	8.42	完形	×	○	線状		不明	風化
908	227	108	177	楔形石器	19中西	竪穴住居19	埋土上層	4.1	2.7	1.4	18.06	完形	×	×	線状		不明	両側面剪断面
909	227	107	2	スクレイパー	19西	竪穴住居19	壁溝	4.3	5.8	1.3	54.35	完形	○	○	なし		半順目	

打製石器観察表（7）

遺物 番号	図版	写真 図版	整理 番号	器種 名	調査 区	遺構名	遺構備考	最大 長 (cm)	最大 幅 (cm)	最大 厚 (cm)	重量 (g)	状態	自然 面	ポジ ティブ 剥離 面	打面 形態	剥離 角 (度)	素材 剥片 の剥 離と 石理 との 関係	備 考
910	228	107	34	スク レイ パー	19西	竪穴住居 19	壁溝	4.4	6.8	0.9	28.36	完形	○	○	自然 面	111	半順 目	金山?、 刃先摩滅
911	228	107	154	スク レイ パー	19中 西	竪穴住居 19	遺物39	8.1	12.1	1.4	133.42	完形	○	○	自然 面	93	不明	調査時遺物 9
912	228	107	28	スク レイ パー	19西	竪穴住居 19	壁溝 遺物16	7.0	7.9	1.6	103.71	完形	○	○	なし		順目	
913	229	108	152	スク レイ パー	19中 西	竪穴住居 19	埋土上層	9.6	4.8	1.8	87.77	完形	○	○	なし		不明	一辺のエッ ジ潰れて鈍 い
914	229	108	32	スク レイ パー	19中 東	8層		2.2	3.4	0.8	5.22	欠損	○	○	なし		順目	側面に自然 面
914	229	108	33	スク レイ パー	19西	2231-8 ピット	竪穴住居 19	4.8	3.4	0.7	10.47	欠損	○	○	なし		順目	調査時P8 側面に自然 面、 8層出土品 と接合
914	229	108	32・ 33	スク レイ パー	19	竪穴住居 19		5.1	4.5	0.8								
915	229	107	5	スク レイ パー	19西	竪穴住居 19	壁溝 遺物5	9.2	6.0	1.0	68.98	完形	○	○	自然 面	135	順目	
916	229	108	1	スク レイ パー	19西	竪穴住居 19		4.2	6.8	1.1	35.01	完形	○	○	なし		順目	
917	230	108	31	スク レイ パー	19西	竪穴住居 19		7.7	3.1	0.8	17.66	完形	○	○	なし		不明	側面に自然 面、 エッジ極一 部摩滅
918	230	108	37	スク レイ パー	19中 西	2231-11 ピット	竪穴住居 19	3.8	2.4	0.6	5.93	完形	○	○	自然 面	103	順目	2辺自然面
919	230	108	22	RF	19西	竪穴住居 19		5.0	8.4	1.9	59.48	完形	○	○	自然 面	139	順目	
920	230	109	23	剥片	19西	2231-7 ピット	竪穴住居 19	2.0	1.4	0.3	0.69	完形	×	○	複剥 離面	114	不明	調査時P7
921	230	109	36	剥片	19中 西	竪穴住居 19	埋土上層	5.5	5.9	1.1	23.84	完形	○	○	複剥 離面	134	逆目	
922	230	109	4	剥片	19中 西	竪穴住居 19	埋土下層	7.0	5.7	1.3	36.21	完形	○	○	線状		順目	
923	230	109	7	剥片	19中 西	竪穴住居 19	埋土中層	3.5	4.6	0.9	13.88	完形	×	○	単剥 離面	134	不明	
924	231	109	27	剥片	19西	竪穴住居 19	壁溝	4.2	7.8	0.8	19.70	完形	×	○	自然 面	118	順目	
925	231	109	3	剥片	19中 西	2231-14 ピット	竪穴住居 19	5.1	8.6	2.1	32.35	完形	○	○	複剥 離面	114	半順 目	調査時P4
926	231	109	5598	剥片	19西	竪穴住居 19		6.4	9.2	1.3	76.34	完形	○	○	自然 面	95	順目	ほぼ原礫大
927	231	109	8	剥片	19西	竪穴住居 19	壁溝	7.4	7.6	1.4	85.23	完形	○	○	自然 面	116	順目	ほぼ原礫 大、 9mmの鉋物 含む
928	232	111	15	石核	19西	竪穴住居 19	壁溝 遺物2	10.7	11.5	1.9	255.00	完形	○	○	自然 面	114	順目	側面に自然 面
929	232	110	21	石核	19西	竪穴住居 19	壁溝	10.6	6.1	3.1	152.11	完形	○	×	なし		半順 目	片面が自然 面、 8mm鉋物含 む

打製石器観察表（8）

遺物番号	図版	写真図版	整理番号	器種名	調査区	遺構名	遺構備考	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	状態	自然面	ポジティブ剥離面	打面形態	剥離角 (度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
930	232	110	14	石核	19西	竪穴住居19		6.2	5.3	1.7	64.01	完形	○	×	なし		半順目	片面が自然面
931	233	110	170	石核	19中西	竪穴住居19	遺物49	9.4	7.6	3.3	314.68	完形	○	×	なし		順目	調査時遺物19 ほぼ原礫大6~7mm鉱物含む
932	233	110	13	石核	19西	竪穴住居19	壁溝	10.5	8.3	2.9	195.20	完形	○	○	なし		半順目	片面に自然面多い
933	234	111	171	石核	19西	竪穴住居19	壁溝遺物3	12.3	6.7	2.2	150.96	完形	○	×	なし		順目	片面が自然面
934	234	111	153	石核	19中西	竪穴住居19	埋土中層	12.1	7.2	3.2	251.74	完形	○	×	なし		逆目、半順目も有	片面に自然面多い
935	235	112	8319	石核	19西	竪穴住居19		11.4	4.8	2.6	127.00	欠損	○	×	自然面		順目	
936	235	112	8320	石核	19中東	8層		5.7	4.6	1.4	41.76	欠損	○	○	なし		順目	
937	235	112	8318	石核	19西	竪穴住居19	壁溝遺物9	12.4	8.4	1.9	202.86	完形	○	×	自然面		順目	
938	236	112	8322	剥片	19西	竪穴住居19	壁溝	3.4	3.6	0.9	10.70	欠損	×	○	自然面	100	順目	
938	236	112	8323	RF	19中東	8層		3.5	4.9	0.7	9.17	欠損	○	○	なし		順目	
938	236	112	8324	剥片	19西	竪穴住居19	壁溝遺物19	3.4	4.5	1.4	17.33	欠損	×	○	自然面		順目	
939	237	112	8321	剥片	19西	竪穴住居19	壁溝	3.5	4.2	0.5	8.50	欠損	×	○	自然面	114	半順目	
940	237	112	8325	剥片	19西	竪穴住居19	壁溝	2.8	2.7	0.4	2.96	完形	×	○	自然面	104	半順目	
941	237	112	8326	剥片	19西	竪穴住居19	壁溝	5.0	5.2	0.6	18.66	欠損	×	○	自然面	99	半順目	
935 ~ 941	237	112	8318 ~ 8326	石核	19西	竪穴住居19		17.1	9.3	2.5	438.94							
942	238	113	8327	剥片	19西	竪穴住居19	壁溝遺物12	5.8	3.2	0.6	12.47	略完形	○	○	自然面	102	順目	
943	238	113	8328	剥片	19中東	8層		2.9	5.7	1.2	14.13	完形	○	○	自然面	138	半順目	
944	238	113	8329	石核	19西	竪穴住居19	壁溝遺物1	10.1	17.0	4.4	546.99	新欠	○	×	自然面		順目	
942 ~ 944	238	113	8327 ~ 8329	石核	19西	竪穴住居19		17.5	9.7	4.9	3241.49							
945	239	114	8330	剥片	19西	竪穴住居19		5.6	5.2	1.0	27.04	欠損	○	○	自然面	102	順目	
946	239	114	8331	石核	19中西	竪穴住居19	遺物50	15.7	9.9	4.3	824.46	完形	○	×	自然面		半順目	調査時遺物20
945 ・ 946	239	114	8330 ・ 8331	石核	19中西	竪穴住居19		15.7	9.9	4.6	851.50							
947	240	115	8336	剥片	19西	竪穴住居19		3.5	3.8	1.5	20.11	完形	○	○	自然面		半順目	
948	240	115	8337	石核	19西	竪穴住居19	壁溝	10.9	6.3	3.2	227.56	完形	○	×	自然面		半順目・逆目	
947 ・ 948	240	115	8336 ・ 8337	石核	19西	竪穴住居19		10.8	6.2	4.0	248.09							
949	240	115	8332	剥片	19西	竪穴住居19	壁溝	2.8	4.6	0.8	7.57	完形	×	○	自然面	87	順目	

打製石器観察表（9）

遺物 番号	図版	写真 図版	整理 番号	器種 名	調査 区	遺構名	遺構備考	最大 長 (cm)	最大 幅 (cm)	最大 厚 (cm)	重量 (g)	状態	自然 面	ポジ ティブ 剥離 面	打面 形態	剥離 角 (度)	素材 剥片 の剥 離と 石理 との 関係	備 考
950	240	115	8333	石核	19西	竪穴住居 19	壁溝 遺物7	11.1	8.3	1.7	152.36	完形	○	×	自然 面		順目	
949 ・ 950	240	115	8332 ・ 8333	石核	19西	竪穴住居 19		11.1	8.3	1.7	159.93							
951	241	115	8334	剥片	19西	竪穴住居 19	壁溝	1.7	3.2	0.6	2.38	完形	○	○	線状		半順 目	
952	241	115	8335	石核	19西	竪穴住居 19	壁溝	9.1	6.2	2.2	96.59	完形	○	×	自然 面		半順 目	
951 ・ 952	241	115	8334 ・ 8335	石核	19西	竪穴住居 19		8.8	6.9	2.1	98.97							
953	241	116	8338	石核	19西	竪穴住居 19	壁溝 遺物8	11.3	7.0	4.0	336.08	完形	○	×	自然 面		順目	
954	241	116	8339	石核	19中 西	2231-14 ビット	竪穴住居 19 遺物44	6.7	5.9	1.8	71.88	完形	○	×	自然 面		順目	調査時P4、 遺物14
953 ・ 954	241	116	8338 ・ 8339	石核	19中 西	竪穴住居 19		15.1	7.0	4.0	407.96							
955	242	117	8349	剥片	19西	竪穴住居 19		3.2	4.1	0.7	8.67	完形	○	○	線状			
956	242	117	8348	剥片	19西	9層		1.5	5.2	0.8	5.24	完形	○	○	単剥 離面	74	不明	
957	242	117	8347	石核	19中 西	竪穴住居 19	遺物41	9.3	5.4	2.8	129.77	欠損	○	×	自然 面		不明	調査時遺物 11
957	242	117	8350	石核	19中 西	竪穴住居 19	埋土中層	4.2	3.3	1.5	19.58	完形	○	×			不明	
955 ～ 957	242	117	8347 ～ 8350	石核	19中 西	竪穴住居 19		11.8	5.4	2.8	163.26							
958	242	116	8341	剥片	19西	竪穴住居 19	壁溝	1.9	2.5	0.7	1.64	完形	×	○	自然 面	110	順目	
959	242	116	8340	石核	19西	竪穴住居 19	壁溝	5.3	2.5	2.2	28.31	欠損	○	×	自然 面		順目	
959	242	116	8342	石核	19中 東	8層		3.0	5.7	1.9	26.71	欠損	○	×	自然 面		順目	
958 ・ 959	242	116	8340 ～ 8342	石核	19西	竪穴住居 19 ・8層		4.9	6.5	2.1	56.66							
960	243	116	8351	剥片	19西	竪穴住居 19	壁溝	10.9	10.2	1.5	139.45	完形	○	○	自然 面	103	順目	
961	243	116	8352	石核	19西	竪穴住居 19	壁溝	10.0	5.0	1.7	73.67	完形	×	○	自然 面		順目	
962	243	116	8354	剥片	19西	竪穴住居 19	壁溝	3.2	3.2	0.4	3.71	完形	×	○	自然 面	96	順目	
963	243	116	8353	剥片	19西	竪穴住居 19	壁溝	3.9	2.9	0.5	5.27	完形	×	○	自然 面	107	順目	
960 ～ 963	243	116	8351 ～ 8354	剥片	19西	竪穴住居 19	壁溝	12.1	11.0	2.2	222.10							
964	244	117	7189	石核	19西	竪穴住居 19	壁溝 遺物11	8.5	4.8	1.7	53.66	欠損	○	○	なし		順目	
964	244	117	7190	石核	19西	竪穴住居 19	壁溝 遺物11	6.2	6.8	1.1	42.22	欠損	○	○	自然 面		順目	
964	244	117	7189 ・ 7190	石核	19西	竪穴住居 19		9.5	8.6	1.7	95.88							
965	244	117	8355	剥片	19西	竪穴住居 19		3.4	6.4	1.1	17.81	完形	×	○	自然 面	108	順目	
966	244	117	8356	剥片	19西	竪穴住居 19	壁溝 遺物19	4.0	8.3	1.5	39.63	完形	×	○	自然 面		順目	
965 ・ 966	244	117	8355 ・ 8356	石核	19西	竪穴住居 19		4.3	8.0	2.7	57.44							

打製石器観察表 (10)

遺物 番号	図版	写真 図版	整理 番号	器種 名	調査 区	遺構名	遺構備考	最大 長 (cm)	最大 幅 (cm)	最大 厚 (cm)	重量 (g)	状態	自然 面	ポジ ティブ 剥離 面	打面 形態	剥離 角 (度)	素材 剥片 の剥 離と 石理 との 関係	備 考
1085	266	119	25	石鏃	19西	2210土坑		3.1	1.3	0.4	1.23	完形	×	○	なし		不明	基部新欠
1086	266	119	1186	石鏃	19西	2208~ 2210土坑	土坑を仕 切る畔	3.1	1.2	0.4	1.13	完形	×	×	なし		不明	
1087	266	118	1187	石鏃	19西	2211土坑		2.2	1.4	0.2	0.69	完形	×	○	なし		不明	未成品
1088	266	119	1188	石鏃	19西	2215土坑		3.3	1.2	0.4	1.36	欠損	×	×	なし		不明	片側辺欠、 両側辺に鋸 歯状剥離有
1089	266	119	114	石鏃	19西	2215土坑		3.4	1.4	0.4	1.80	完形	×	×	なし		不明	
1090	266	119	1221	石鏃	19西	2215土坑		2.4	1.4	0.4	1.21	完形	×	×	なし		不明	
1091	266	119	1189	石鏃	19西	2215土坑		2.0	1.6	0.3	0.96	欠損	×	×	なし		不明	先欠、両側 辺に鋸歯状 剥離有
1092	266	122	5601	中型 尖頭 器	19中 東	8層		3.0	3.6	0.6	8.78	欠損	×	×	なし		不明	未成品、 基部残
1092	266	122	5602	中型 尖頭 器	19西	2215土坑		4.5	3.5	0.9	13.72	欠損	×	×	なし		不明	未成品
1092	266	122	5601・ 5602	中型 尖頭 器	19	2215土坑 ・ 8層		7.1	3.5	0.9	22.50							
1093	266	121	1190	石錐	19西	2215土坑		3.9	1.2	0.4	1.72	完形	×	○	なし		不明	錐部先端僅 かに摩滅
1094	266	123	5600	スク レイ パー	19西	2215土坑		7.2	4.4	1.3	38.70	完形	×	○	なし		不明	エッジ一部 摩滅・潰 れ、 中形尖頭器 未成品？
1095	266	118	140	石鏃	19西	2234土坑		2.1	0.9	0.2	0.62	欠損	×	×	なし		不明	先端部新 欠、基部に 折れ有、両 側辺に鋸歯 状剥離有
1096	266	118	61	石鏃	19西	2234土坑		2.6	1.3	0.5	1.45	欠損	×	×	なし		不明	先端部欠損
1097	266	118	1192	石鏃	19西	2235土坑		4.0	2.5	0.5	4.16	完形	×	○	なし		不明	未成品
1098	266	118	17	石鏃	19西	2235土坑		4.1	1.8	0.5	2.50	完形	×	×	なし		不明	基部新欠、 両側辺に鋸 歯状剥離有
1099	266	118	18	石鏃	19西	2235土坑		5.5	1.7	0.5	3.75	完形	○	×	なし		不明	基部に自然 面
1100	267	118	1223	石鏃	19中 西	2391土坑		5.2	1.8	0.7	4.74	欠損	×	×	なし		不明	逆刺1欠
1101	267	118	83	石鏃	19中 西	2415土坑		4.0	2.2	0.4	3.40	略完 形	×	○	なし		不明	
1102	267	118	26	石鏃	19中 西	2415土坑		3.0	2.2	0.6	3.30	欠損	×	×	なし		不明	先欠
1103	267	118	7860	石鏃	(07-1) 2-1	4275土坑		3.9	1.9	0.5	2.21	完形	×	×	なし		不明	
1104	267	119	8043	石鏃	(07-1) 2-2	4301土坑		4.8	3.0	1.0	10.75	完形	×	○	なし		不明	未成品
1105	267	118	8266	石鏃	(07-1) 2-2	4307土坑		2.8	1.8	0.4	1.52	完形	×	×	なし		不明	両側辺、 基部に鋸歯 状剥離有
1106	267	118	8253	石鏃	(07-1) 2-2	4307土坑	下層	3.0	1.3	0.3	1.15	欠損	×	×	なし		不明	先欠
1107	267	118	8360	石鏃	(07-1) 2-2	4311土坑		2.3	1.3	0.4	0.96	完形	×	○	なし		不明	
1108	267	118	8361	石鏃	(07-1) 2-2	4311土坑		2.4	0.9	0.3	0.52	欠損	×	○	なし		不明	先欠
1109	267	118	8154	石鏃	(07-1) 2-2	4334土坑	竪穴住居 18内	3.0	1.7	0.3	1.92	完形	×	×	なし		不明	未成品、 両側辺、 基部に鋸歯 状剥離有

打製石器観察表 (11)

遺物 番号	図版	写真 図版	整理 番号	器種 名	調査 区	遺構名	遺構備考	最大 長 (cm)	最大 幅 (cm)	最大 厚 (cm)	重量 (g)	状態	自然 面	ポジ ティブ 剥離 面	打面 形態	剥離 角 (度)	素材 剥片 の剥 離と 石理 との 関係	備 考
1110	267	118	8147	石鏃	(07-1) 2-2	4334土坑	竪穴住居 18内	2.8	1.7	0.4	1.41	欠損	×	○	なし		不明	未成品
1111	267	118	8148	石鏃	(07-1) 2-2	4334土坑	竪穴住居 18内	2.3	1.4	0.4	1.16	欠損	×	×	なし		不明	未成品、 先欠
1112	267	118	8155	石鏃	(07-1) 2-2	4334土坑	竪穴住居 18内	2.5	1.8	0.5	2.04	欠損	×	×	なし		不明	先欠
1113	267	118	8288	石鏃	(07-1) 2-2	4334土坑	竪穴住居 18内	2.2	1.4	0.3	1.05	欠損	×	×	なし		不明	先欠、両側 辺に鋸歯状 剥離有
1114	267	121	8146	石鏃	(07-1) 2-2	4334土坑	竪穴住居 18内	3.9	1.5	0.5	2.22	欠損	×	○	なし		不明	鏃部先欠
1115	267	121	8287	石鏃	(07-1) 2-2	4334土坑	竪穴住居 18内	3.9	2.4	0.8	7.23	欠損	○	○	なし		順目	鏃部欠
1116	267	118	95	石鏃	19中 東	2193土坑		3.4	2.0	0.5	2.66	完形	×	○	なし		不明	先端歪み
1117	267	121	1184	石鏃	19中 東	2119土坑		3.8	1.3	0.7	3.49	欠損	×	○	なし		不明	鏃部先欠
1118	267	118	1185	石鏃	19中 東	2192土坑		2.4	1.6	0.4	1.22	欠損	×	×	なし		不明	先・逆刺1 欠、両側辺 に鋸歯状剥 離有
1119	268	119	8113	石鏃	(07-1) 2-2	4314土坑		3.5	1.9	0.5	2.68	欠損	×	○	なし		不明	先欠
1120	268	119	8196	石槍	(07-1) 2-2	4314土坑		3.1	2.4	0.8	5.15	欠損	○	○	なし		不明	先・基部 欠、未成品
1121	268	119	8192	石鏃	(07-1) 2-2	4314土坑		4.4	3.2	1.0	12.68	完形	×	×	なし		不明	未成品、風 化、基部被 熱割れ?
1122	268	121	8372	石鏃	(07-1) 2-2	4314土坑		4.3	2.2	1.0	6.46	完形	○	×	なし		順目	鏃部エッジ 僅かに摩滅
1123	268	119	82	石鏃	19中 東	2122土坑		2.6	1.0	0.2	0.66	完形	×	○	なし		不明	
1124	268	119	86	石鏃	19中 東	2122土坑		3.2	1.8	0.4	1.90	欠損	×	×	なし		不明	両側辺に鋸 歯状剥離有
1125	268	122	1224	石小 刀	19中 東	2122土坑		4.2	1.7	0.4	1.89	完形	○	○	単剥 離面		半順 目	突起2
1126	268	122	43	石小 刀?	19中 東	2122土坑		8.4	2.5	1.0	23.13	完形	×	○	なし		不明	
1127	268	121	53	石鏃	19中 東	2122土坑		3.4	1.5	0.4	1.18	完形	×	×	なし		不明	
1128	268	119	8400	石鏃	(07-1) 2-3	4234土坑		1.4	1.5	0.4	0.68	欠損	×	×	なし		不明	逆刺1欠
1129	268	122	8103	中型 尖頭 器	(07-1) 2-2	4313土坑		6.9	4.1	1.2	36.64	完形	○	○	自然 面		順目	未成品?、 スクレイ パー?
1130	268	123	8206	スク レイ パー	(07-1) 2-2	4313土坑		9.1	4.8	1.5	52.37	完形	○	○	なし		順目	刃先摩滅
1131	269	119	81	石鏃	19中 東	2123土坑		2.2	1.8	3.2	1.35	欠損	×	×	なし		不明	先端部欠 損、両側辺 に鋸歯状剥 離有
1132	269	119	103	石鏃	19中 東	2123土坑		2.1	1.8	0.3	1.31	完形	×	○	なし		不明	未成品?
1133	269	119	1183	石鏃	19中 東	2123土坑		2.7	2.4	0.6	3.67	欠損	×	×	なし		不明	先欠、 未成品
1134	269	119	96	石鏃	19中 東	2123土坑		2.3	1.1	0.3	0.45	欠損	×	×	なし		不明	基部に折れ
1135	269	119	1182	石鏃	19中 東	2123土坑		3.6	2.0	0.4	3.28	欠損	○	×	なし		不明	先・基部 欠、両側辺 に鋸歯状剥 離有

打製石器観察表 (12)

遺物 番号	図版	写真 図版	整理 番号	器種 名	調査 区	遺構名	遺構備考	最大 長 (cm)	最大 幅 (cm)	最大 厚 (cm)	重量 (g)	状態	自然 面	ポジ ティブ 剥離 面	打面 形態	剥離 角 (度)	素材 剥片 の剥 離と 石理 との 関係	備 考
1136	269	119	89	石鏃	19中 東	2123土坑		3.0	1.7	0.3	1.57	完形	×	○	なし		不明	
1137	269	119	88	石鏃	19中 東	2123土坑		2.2	1.9	0.4	1.48	完形	×	×	なし		不明	
1138	269	119	1181	石鏃	19中 東	2123土坑		4.9	2.6	0.6	7.46	完形	×	○	なし		不明	未成品
1139	269	119	99	石鏃	19中 東	2123土坑		4.1	1.8	0.5	3.30	完形	×	×	なし		不明	
1140	269	119	85	石鏃	19中 東	2123土坑		4.0	1.8	0.4	2.88	完形	×	○	なし		不明	未成品か、 スクレイ パー？小
1141	269	122	1180	中型 尖頭 器	19中 東	2123土坑		5.3	2.7	0.9	12.92	完形	○	○	なし		不明	未成品
1142	269	121	56	石錐	19中 東	2123土坑		3.1	2.0	0.7	3.05	欠損	○	○	なし		不明	先端部新欠
1143	269	121	52	石錐	19中 東	2123土坑		3.1	1.8	0.4	1.89	完形	×	○	なし		不明	
1144	269	123	6	スク レイ パー	19中 東	2123土坑		7.2	5.0	0.9	24.87	完形	×	○	複剥 離面	113	不明	金山？
1145	269	123	12	スク レイ パー	19中 東	2123土坑		4.3	9.1	1.6	63.28	完形	×	○	自然 面	147	順目	刃先摩滅
1172	274	120	133	石鏃	19西	2201溝 (周溝)		3.3	1.4	0.4	1.25	略完 形	×	×	なし		不明	両側辺に鋸 歯状剥離有
1173	274	120	136	石鏃	19西	9層		3.0	1.7	0.4	1.63	欠損	×	×	なし		不明	先端に欠損 有
1174	274	120	137	石鏃	19西	9層		2.2	1.1	0.4	0.96	完形	×	×	なし		不明	先二次加工
1175	274	121	70	石錐	19西	9層		3.1	1.2	0.3	1.43	欠損	×	○	なし		不明	錐部先端摩 滅
1176	274	121	1194	石錐	19西	2201溝 (周溝)		4.0	2.8	0.7	6.39	略完 形	×	◎	なし		不明	錐部先端僅 かに摩滅
1177	274	121	69	石錐	19西	2201溝 (周溝)	下層	5.8	2.2	0.7	8.64	欠損	×	○	なし		不明	錐部先端欠
1178	274	120	59	石鏃	19西	2202溝 (周溝)	北側	2.2	1.4	0.3	0.78	欠損	×	×	なし		不明	先欠
1179	274	120	118	石鏃	19西	9層		3.3	1.4	0.4	1.68	欠損	×	×	なし		不明	基部に折れ 有基部欠
1180	274	120	121	石鏃	19西	9層		1.6	1.6	0.6	1.50	欠損	×	×	なし		不明	上半・基部 欠損、E、 未成品、厚 い
1181	274	120	120	石鏃	19西	9層		2.6	1.5	0.4	1.35	欠損	×	×	なし		不明	先端部が欠 損
1182	274	120	134	石鏃	19西	9層		2.1	1.5	0.4	1.40	欠損	×	×	なし		不明	上半部欠 損、両側辺 に鋸歯状剥 離有
1183	274	120	115	石鏃	19西	2203溝 (周溝)	東側	4.5	2.0	0.4	3.05	略完 形	×	○	なし		不明	未成品
1184	274	120	60	石鏃	19西	9層		2.8	1.8	0.6	2.87	欠損	○	×	なし		不明	先端部欠損
1185	274	120	119	石鏃	19西	9層		2.5	1.2	0.4	1.11	略完 形	×	○	なし		不明	
1186	274	120	130	石鏃	19西	9層		2.3	1.1	0.2	0.58	完形	×	○	なし		不明	
1187	274	120	138	石鏃	19西	9層		3.2	2.0	0.5	2.89	完形	×	○	なし		不明	未成品？
1188	274	120	122	石鏃	19西	9層		2.1	1.3	0.3	0.78	欠損	×	×	なし		不明	先欠、 両側辺に鋸 歯状剥離有
1189	274	123	7418	スク レイ パー	19西	2203溝 (周溝)		3.2	3.9	1.0	14.52	欠損	×	○	なし		不明	

打製石器観察表 (13)

遺物 番号	図版	写真 図版	整理 番号	器種 名	調査 区	遺構名	遺構備考	最大 長 (cm)	最大 幅 (cm)	最大 厚 (cm)	重量 (g)	状態	自然 面	ポジ ティブ 剥離 面	打面 形態	剥離 角 (度)	素材 剥片 の剥 離と 石理 との 関係	備 考
1189	274	123	7419	スク レイ パー	19西	8層		5.5	3.4	1.1	17.16	欠損	○	○	なし		不明	
1189	274	123	7418 ・ 7419	スク レイ パー	19西	2203溝 (周溝) ・8層		7.7	3.9	1.1	31.68							
1190	275	120	141	石鏃	19中 東	2121流路		2.9	1.6	0.5	2.59	欠損	×	○	なし		不明	基部折れ、 先欠
1191	275	120	102	石鏃	19中 西	2410流路		2.0	1.4	0.3	0.75	略完 形	×	×	なし		不明	両側辺に鋸 歯状剥離有
1192	275	122	38	中型 尖頭 器	19中 西	2410流路		6.8	2.2	0.9	17.40	欠損	×	×	なし		不明	基部に折れ 先端に新欠
1236	279	124	148	RF	19西	9層		9.5	13.2	1.7	176.30	欠損	×	○	単剥 離面	124	順目	側面折れ、 二重風化、 石核?
1237	279	120	1222	石鏃	19東	4層		2.0	1.7	0.3	0.60	完形	×	×	なし		不明	風化、縄文
1238	279	124	7191	石核	19中 西	8層		4.5	5.1	1.4	40.79	欠損	○	×	自然 面		順目	
1238	279	124	7192	石核	19中 西	8層		5.6	5.9	1.7	77.85	欠損	○	×	自然 面		順目	
1238	279	124	7191 ・ 7192	石核	19中 西	8層		9.2	5.9	1.7	118.64							
1239	280	125	8344	RF	19中 西	9a層下面		10.7	8.0	3.0	214.42	完形	○	○			順目	
1240	280	125	8343	スク レイ パー	19中 西	9a層下面		12.3	8.9	1.9	216.81	完形	○	×	自然 面・ 線状		順目	
1239 ・ 1240	280	125	8343 ・ 8344	石核	19中 西	9a層下面		14.4	10.6	3.0	431.23							
1241	281	120	144	石鏃	19中 東	9層		2.7	1.4	0.3	0.76	略完 形	×	×	なし		不明	縄文、風 化、両側辺 に鋸歯状剥 離有
1242	281	120	1195	石鏃	19西	9層		3.5	2.2	0.5	3.25	欠損	×	○	なし		不明	先欠
1243	281	120	1196	石鏃	19中 西	9a層下面		2.8	1.4	0.5	1.84	完形	×	○	なし		不明	厚い
1244	281	124	35	剥片	19中 東	9層		8.9	6.8	1.5	105.69	略完 形	×	○	自然 面	117	順目	
1299		71		石核	7	3125流路	底部	13.2	9.6	7.3	866.50	完形	○	×	なし		順目	風化
1300		109	1426	ポイ ント フレ イク	19中 西	竪穴住居 19		3.0	4.0	0.5	4.67	完形	×	○	複剥 離面	116	不明	新欠有
1301		124	5159	ポイ ント フレ イク ?	19西	2203溝 (周溝)	東側	3.9	5.5	0.5	9.22	略完 形	×	○	なし		不明	

磨製石器観察表(1)

遺物番号	図版番号	写真図版	種類	調査区	遺構・層名	残存	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考	石材
162	46	53	双孔円盤	3・4	3596土坑	1/2	2.0	1.1	0.2	0.81		滑石
163	46	53	石杵	3・4	3608土坑(3596土坑の中央落ち込み)	完形	8.9	3.3	3.3	138.11	赤色顔料付着	砂岩
189	52	53	白玉	13・14	3131井戸	完形	0.44	0.43	0.40	0.10	甕内から検出	滑石
190	52	53	白玉	13・14	3131井戸	完形	0.45	0.46	0.22	0.08	甕内から検出	滑石
191	52	53	白玉	13・14	3131井戸	完形	0.46	0.46	0.24	0.08	甕内から検出	滑石
192	52	53	白玉	13・14	3131井戸	完形	0.45	0.45	0.28	0.08	甕内から検出	滑石
193	52	53	白玉	13・14	3131井戸	完形	0.42	0.44	0.22	0.05	甕内から検出	滑石
194	52	53	白玉	13・14	3131井戸	完形	0.37	0.43	0.27	0.07	甕内から検出	滑石
195	52	53	白玉	13・14	3131井戸	完形	0.43	0.44	0.24	0.06	甕内から検出	滑石
196	52	53	白玉	13・14	3131井戸	完形	0.42	0.44	0.18	0.05	甕内から検出	滑石
197	52	53	白玉	13・14	3131井戸	完形	0.45	0.46	0.12	0.05	甕内から検出	滑石
198	52	53	白玉	13・14	3131井戸	完形	0.47	0.45	0.20	0.07	甕内から検出	滑石
199	52	53	白玉	13・14	3131井戸	完形	0.45	0.45	0.24	0.06	甕内から検出	滑石
200	52	53	白玉	13・14	3131井戸	完形	0.46	0.47	0.15	0.05	甕内から検出	滑石
201	52	53	白玉	13・14	3131井戸	完形	0.45	0.46	0.20	0.05	甕内から検出	滑石
202	52	53	白玉	13・14	3131井戸	完形	0.42	0.45	0.26	0.06	甕内から検出	滑石
230	59	53	双孔円盤	3・4	3581流路底部付近	完形	2.0	2.20	0.40	2.43		滑石
232	68	71	敲き石	5・6	3152流路	一部欠損?	6.3	4.5	1.0	38.81		砂岩
507	118	71	L字状石杵	7	3274溝	完形	9.9	6.0	2.5	168.31		砂岩
560	130	83	台石	9	2258溝	完形	26.8	16.4	5.5	4000.0		黒雲母花崗岩
590	147	92	敲き石	10	竪穴住居1	一端欠損	7.8	6.3	2.7	193.6	長軸端部打撃痕	砂岩
591	147	93	敲き石	10	竪穴住居2	完形	16.1	5.2	4.8	495.6	両端打撃痕	砂岩
592	147	92	敲き石	10	竪穴住居2	略完形	10.5	4.7	2.1	129.7	扁平礫、両端打撃痕	砂岩
600	152	92	扁平片刃石斧	10	2031土坑	一部欠	4.4	2.4	0.7	12.8		砂岩
616	157	92	太型蛤刃石斧	10	6層	胴部	8.5	5.9	3.8	256.8	敲き石転用	砂岩
617	157	92	小型柱状片刃石斧	10	9層	完形	6.6	1.2	1.3	16.0		結晶片岩
618	157	92	柱状片刃石斧	10	9層	刃部	5.1	3.5	3.1	69.2	被熱	安山岩?
619	157	92	石庖丁	10	9層	1/2	5.8	3.7	0.8	21.3	未成品、剥離面のみの破片	結晶片岩
620	157	92	石庖丁	10	9層	中央部	6.4	4.0	0.6	20.3	片刃	結晶片岩
621	157	93	台石、砥石	10	9層	完形	15.5	12.8	3.8	1098.2		極細粒砂岩
662	173	94	扁平片刃石斧	11	竪穴住居3	1/2	5.2	4.3	1.0	34.3	太型蛤刃石斧破片転用・再加工	凝灰岩
663	173	95	台石	11	竪穴住居3	完形	20.1	11.1	7.6	1841.6	研磨痕、打撃痕	砂岩
664	174	95	敲き石	11	竪穴住居4	完形	8.4	8.0	6.9	579.3		チャート
665	174	95	砥石	11	竪穴住居7壁溝遺物2	完形?	15.0	12.1	8.6	1551.3	2面(表裏)使用	砂岩
708	190	95	敲き石、台石?	11	4147土坑	1/2か	11.7	6.4	1.7	108.4	扁平礫 敲打痕、縁線状痕	砂岩
783	198	94	太型蛤刃石斧	11	9層	刃部	9.0	6.6	4.0	393.3		凝灰岩

磨製石器観察表(2)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	種 類	調査区	遺構・層名	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備 考	石 材
784	198	94	石庖丁	11	9層	中央部	7.9	4.3	0.8	44.1	両刃、未成品か石 鎌？ 紐穴無、打撃痕有 被熱？、風化顕著	結晶片岩（黒 色片岩？）
785	198	94	石庖丁	11	8層	両端欠	12.3	4.0	0.8	61.8	半月形直刃片刃 背・刃部打撃痕有	結晶片岩（凝 灰岩質？）
786	198		石庖丁	11	9層	端部	4.9	3.8	0.5	10.2	片刃	結晶片岩？ （片理が良く 判らない）
787	198	94	石庖丁	11	9層	端部	5.4	5.8	0.6	23.2	杏仁形片刃？ 裏面剥落	泥質片岩
788	198	94	石庖丁	11	9層	端部	6.3	3.8	0.8	23.5	片刃	結晶片岩
789	198	95	敲き石	11	9層	一端割 れ	8.6	3.2	2.3	118.9	磨り石、朱付着 側面線条打撃痕、 一部敲打痕あり	砂岩
967	245	126	大型蛤刃 石斧	19	竪穴住居17 遺物5	基部～ 胴部	11.7	7.1	4.7	634.1		凝灰岩
968	245		石庖丁	19	竪穴住居17	端部	3.9	4.7	0.4	13.0	片刃 裏面剥落	結晶片岩（凝 灰岩質？）
969	245	126	大型蛤刃 石斧	19	竪穴住居15 遺物7	刃部	7.9	7.2	3.0	227.1	片面割れ剥落	凝灰岩
970	245	126	大型蛤刃 石斧	19	竪穴住居15 遺物9・12	基部	7.4	7.1	4.2	292.0	登録646と接合	砂岩
971	245	129	敲き石	19	竪穴住居20	完形	8.5	7.6	1.7	113.8	扁平礫周縁打撃痕	砂岩
972	246	128	敲き石	19	4300落ち込み	1/2	8.2	3.6	2.0	65.1	末端敲打痕	砂岩
973	246	128	敲き石	19	竪穴住居18	3/4	8.2	6.6	6.5	411.2	敲打痕 円礫半割、接合	チャート
974	246	129	敲き石	19	竪穴住居18 遺物5	完形	9.3	5.0	2.4	180.8		砂岩
975	246		敲き石	19	竪穴住居21 2435-9ピット	完形	12.9	9.6	5.3	782.7	打撃痕	斑レイ岩
976	247	126	大型蛤刃 石斧	19	竪穴住居19 壁溝 遺物13	刃部欠 2/3	11.5	7.2	3.8	467.3		凝灰岩
977	247		石庖丁	19	竪穴住居19	細片	2.8	2.9	0.4	3.2	片刃	黒色片岩
978	247		石庖丁	19	竪穴住居19	端部	5.5	4.4	0.8	30.5	研磨痕無、未成品	結晶片岩？ （凝灰岩 質？）
979	247	128	敲き石	19	竪穴住居19 2231-13ピット	完形	4.3	2.5	1.7	19.9	調査時P3 両端角敲打痕？	砂岩
980	247	129	敲き石	19	竪穴住居19	完形	11.5	4.2	1.7	109.3	扁平棒状礫両端打撃 痕	細粒砂岩
981	247	128	敲き石	19	竪穴住居19 2231-23ピット 遺物36	完形	7.1	5.7	5.8	344.0	調査時P13、遺物6	チャート
982	248	128	敲き石	19	竪穴住居19 2231-14ピット 遺物46	1/2	7.4	5.6	3.8	156.9	調査時P4、遺物16 半割れ	チャート
983	248	129	敲き石	19	竪穴住居19	一部欠 損	5.9	5.5	2.2	80.4	扁平礫周縁に敲打痕	砂岩
984	248	129	敲き石 （石皿）	19	竪穴住居19 2231-8ピット	完形？	9.1	5.5	3.5	214.6	調査時P8 四角形状周囲を敲打	砂岩
985	248	128	敲き石	19	竪穴住居19 壁溝 遺物12	1/2	5.6	4.5	3.0	109.5	一端角打撃痕	チャート
986	248	129	砥石	19	竪穴住居19 壁溝 遺物24	完形	6.2	4.3	4.2	200.0	5面砥ぎ面	砂岩
987	248	129	台石	19	竪穴住居19 2231-17ピット 遺物48	完形	16.4	12.8	4.4	647.9	調査時P7 研磨痕僅かに有	凝灰岩or流紋 岩？
1146	270	127	石庖丁	19	2123土坑	中央部 ～端部	12.7	5.8	0.6	52.1	杏仁形片刃 背部大半欠損	結晶片岩（凝 灰岩質？）
1147	270	127	石庖丁	19	2122土坑	中央部 ～端部	10.5	3.3	0.8	36.0	片刃 打撃痕	結晶片岩？
1148	270	127	石庖丁	19	2192土坑	2/3	8.7	5.0	0.7	51.2	片刃	緑色片岩？

磨製石器観察表(3)

遺物 番号	図版 番号	写真 図版	種 類	調査区	遺構・層名	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備 考	石 材
1149	270		石庖丁	19	2438土坑	中央破片	4.5	4.7	0.8	23.5	片刃?	結晶片岩?
1150	270	127	石庖丁	19	4234土坑 土器群D	2/3	9.4	3.2	0.7	38.1	片刃 背潰れ、刃潰れ	緑色片岩
1151	270	131	敲き石 (石杵)	19	4234土坑	完形	10.4	3.7	2.7	133.8	末端敲打痕	砂岩
1152	270		石庖丁	19	4231土坑	細片	2.8	2.4	0.3	1.9	片刃 裏面剥落	流紋岩?
1153	270	130	敲き石	19	4231土坑 土器群B	完形	10.0	4.4	2.3	145.4	両側面敲打痕	砂岩
1154	271	130	敲き石	19	2210土坑	一部欠	7.9	6.8	1.1	81.3	扁平礫周縁に敲打痕	砂岩
1155	271	130	敲き石	19	2437土坑	1/2	10.5	7.1	5.1	437.1	半割れ、敲打痕	チャート
1156	271	130	敲き石	19	4240土坑	完形	13.9	3.2	1.9	108.2	棒状礫 線条打撃痕	凝灰岩
1157	271	130	敲き石	19	4305土坑	一端欠	4.5	3.6	1.3	30.6	両側線条打撃痕	(チャートの 亜円礫) 礫混 じり砂岩
1158	271	130	敲き石	19	2209土坑	1/2	7.8	7.7	5.1	320.4	割れ円礫	チャート
1169	273		石庖丁	19	2203溝(周溝)	一端欠	10.3	4.0	0.7	43.8	片刃 未成品?	泥質片岩
1170	273		石庖丁	19	2201溝(周溝)	破片	3.9	3.8	0.5	9.1		結晶片岩
1171	273	127	石庖丁	19	9層	1/2	9.6	8.3	1.6	153.6	未成品	結晶片岩
1245	283	126	太型蛤刃 石斧	19	8~9層	刃部	7.2	6.8	4.2	277.4		閃緑岩か
1246	283		石庖丁	19	8・9層	一端欠	10.4	3.5	0.8	48.9	片刃	結晶片岩
1247	283	127	石庖丁	19	9a層	一端欠	8.8	4.7	0.6	34.9	半月形直刃片刃	結晶片岩
1248	283	127	石庖丁	19	9層	完形	13.6	3.5	0.6	48.8	半月形直刃片刃	緑色片岩?
1249	283		石庖丁	19	9層	端部	5.3	3.1	0.6	17.4	片刃	泥質片岩か 粘板岩?
1250	283		石庖丁	19	9層	1/2	5.8	4.2	0.7	20.0	両刃	結晶片岩
1251	283		石庖丁	19	南側溝9層主体	1/2	6.0	3.5	0.7	21.3	片刃 背潰れ、刃潰れ	緑色片岩
1252	283	127	石庖丁	19	9層	端部	3.9	4.0	0.6	16.5	片刃	結晶片岩(凝 灰岩質?)
1253	284		石庖丁	19	9層	端部	4.5	5.8	0.6	15.5	片刃? 裏面剥落	凝灰岩
1254	284	127	石庖丁	19	9層	1/2	8.2	6.5	0.7	51.6	割り段階未成品	結晶片岩
1255	284	131	敲き石	19	9層	一端欠	7.8	6.7	2.7	214.7		砂岩
1256	284	131	敲き石	19	9層	完形	9.4	8.0	6.9	709.5		黒雲母花崗岩

竪穴住居19出土サヌカイト観察表（1）

整理番号	器種	出土地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面 ボジタイプ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
151	石核	上層北半	8.2	6.7	1.9	109.46	完形	○	○	なし		不明	
155	石核	遺物51	4.7	6.1	1.2	29.25	欠損	×	○	なし		不明	調査時中西遺物21、剪断面有
156	剥片	床面	2.0	2.0	0.2	0.83	完形	×	○	複剥離面	116	不明	
157	楔形石器?		4.8	3.6	0.9	19.16	欠損	×	×	なし		不明	
158	剥片	2231-7ピット	1.9	2.5	0.5	1.54	完形	×	○	複剥離面	131	不明	調査時西P7
159	剥片		3.4	3.1	0.5	4.56	完形	○	○	複剥離面	114	不明	
160	剥片	壁溝	2.9	2.7	0.3	2.33	完形	×	◎	複剥離面	121	不明	ポイントフレイク
161	剥片		5.2	2.9	0.6	6.75	完形	○	○	複剥離面	122	不明	
163	スクレイパー	畦	5.0	3.2	1.1	15.94	欠損	×	◎	なし		不明	光沢を持っているため被熱
164	RF	中層	3.4	2.5	0.7	4.55	完形	○	◎	自然面	117	不明	僅かに折れる
165	石核	壁溝遺物15	12.4	6.2	4.0	303.92	完形	◎	×	なし		不明	
166	石核	2231-41ピット	7.7	5.0	2.3	62.54	完形	○	×	なし		半順目	調査時中西P17 逆目もある
167	石核		8.1	7.3	1.8	109.28	完形	○	×	なし		不明	
168	石錐	遺物29	5.4	4.5	1.9	41.29	完形	◎	×	なし		不明	未成品?
169	石核	壁溝遺物6	9.2	6.9	2.8	142.25	欠損	○	×	なし		順目	
172	楔形石器	壁溝	3.7	4.4	1.4	23.5	完形	×	◎	線状		不明	
173	石核	東側高まり部分	8.1	4.8	2.4	109.32	完形	◎	×	なし		順目	逆目もある
174	石核	2231-37ピット	6.0	4.8	2.5	92.3	欠損	○	×	なし		順目	調査時西P30 逆目もある
175	楔形石器	壁溝遺物12	3.6	3.8	1.2	20.64	完形	×	×	線状		不明	
176	石核	壁溝遺物22	7.5	5.4	1.6	67.36	完形	○	×	なし		逆目	
278	剥片	下層	3.2	8.7	1.1	24.15	完形	×	○	自然面		順目	
280	スクレイパー	中層	5.5	3.9	1.3	22.73	完形	×	○	自然面		半順目	二重風化
318	剥片		1.7	3.1	0.5	2.96	完形	×	◎	複剥離面	94	不明	打面に自然面有
339	剥片	上層北半	4.7	4.1	1.4	17.96	完形	○	○	自然面	106	順目	
340	剥片	2231-14ピット	3.2	3.8	0.7	5.09	完形	○	○	単剥離面	133	不明	調査時中西P4
341	石核?	中層	3.7	1.2	1.1	8.79	完形	○	×	なし		不明	
342	RF	2231-14ピット	3.0	1.8	0.6	3.37	完形	○	×	なし		不明	調査時中西P4
343	剥片	中層	1.3	2.2	0.3	1.36	完形	×	○	自然面	108	順目	
344	剥片	畦	2.2	2.8	0.4	3.35	欠損	○	○	自然面		順目	剥離角計測不可
345	剥片	中層	3.8	3.1	0.8	8.15	欠損	○	×	なし		不明	折れ有
350	RF	下層	3.6	3.7	1.0	12.84	欠損	×	○	自然面	134	順目	
356	石核	上層北半	5.0	4.8	1.2	29.02	欠損	○	×	なし		不明	折れ有
358	剥片	中層	2.9	3.1	0.6	3.98	完形	○	○	自然面	118	順目	
361	RF		3.2	4.4	1.1	10.41	完形	○	○	自然面	111	順目	微剥離
368	RF	上層北半	9.6	4.5	2.5	92.8	完形	○	○	自然面		逆目	打面が階段状のため剥離角計測不可
381	剥片	2231-12ピット	2.9	2.2	0.7	2.66	完形	○	○	単剥離面	134	不明	調査時中西P2
383	剥片	中層	3.1	2.6	0.4	4.52	欠損	○	○	なし		不明	
396	剥片	中層	2.8	1.9	0.6	3.36	完形	○	×	なし		不明	
406	剥片	中層	4.5	4.3	1.3	24.5	完形	○	○	複剥離面	131	不明	
408	RF	2231-39ピット	3.8	5.5	1.7	30.61	完形	○	○	なし		不明	調査時中西P4
413	RF	2231-14ピット	4.3	4.5	1.3	14.63	完形	×	○	自然面	85	半順目	調査時中西P20 微剥離 スクレイパー?
414	RF	床面	2.4	3.9	0.4	4.34	欠損	○	○	なし		不明	折れ有
416	スクレイパー		6.1	3.6	0.8	21.41	完形	○	×	自然面		順目	
421	石核		6.7	2.6	1.1	24.86	完形	○	×	なし		不明	
427	剥片	床面	2.2	2.7	0.7	3.55	完形	×	○	自然面	114	順目	
429	剥片	2231-18ピット	2.2	5.3	0.3	3.89	欠損	×	○	自然面	115	不明	調査時中西P8 折れ有
432	RF	壁溝遺物3	4.1	4.1	1.6	23.94	完形	○	○	自然面	110	逆目	
434	RF		3.7	7.1	0.9	22.12	欠損	○	○	なし		順目	折れ有

竪穴住居19出土サヌカイト観察表（2）

整理番号	器種	出土地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面 ポジタイプ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
435	スクレイパー		3.1	4.1	0.8	9.13	欠損	○	○	なし		不明	折れ有、エッジ摩滅
436	RF		3.5	3.4	1.3	11.76	欠損	○	○	なし		不明	折れ有
449	石核	遺物31	6.1	5.1	1.3	40.42	欠損	○	×	なし		不明	調査時遺物1
451	剥片	中層	2.5	4.1	0.7	8.19	完形	○	○	自然面	106	順目	僅かに折れる
454	剥片	2231-18 ピット	2.1	2.9	0.8	2.82	完形	×	○	自然面	115	順目	調査時西P8
456	RF	断面(2410流 路肩)	2.9	2.7	0.6	4.02	完形	○	◎	自然面	115	順目	
565	RF	2231-15 ピット	3.4	5.1	0.4	6.82	完形	○	◎	なし		順目	調査時中西P5
569	RF	2231-14 ピット	3.0	5.9	1.0	14.37	完形	○	○	なし		半順目	調査時中西P4
571	RF	2231-14 ピット	3.1	3.1	0.8	9.54	完形	×	○	なし		不明	調査時中西P4
576	RF	2231-34 ピット	2.1	3.4	0.8	6.1	欠損	×	○	なし		不明	調査時中西P16
585	剥片	床面	2.2	3.2	0.4	3.02	完形	×	○	自然面	89	順目	
591	剥片	2231-14 ピット	1.3	2.1	0.5	1.02	完形	○	◎	自然面	98	順目	調査時中西P4
596	石錐?	中層	3.0	4.1	0.4	4.39	完形	×	◎	複剥離面	117	不明	未成品?
598	RF	中層	2.8	3.9	1.1	13.56	完形	○	○	なし		順目	
646	石核	2231-17 ピット	5.0	4.1	1.6	30.53	完形	○	○	なし		不明	調査時中西P7
648	石鏃	中層	4.5	2.4	0.7	7.41	完形	○	○	なし		逆目	未成品?
649	剥片	中層	5.5	2.4	0.6	6.98	欠損	○	○	自然面	102	順目	
651	石核?	中層	3.1	3.5	1.9	11.11	完形	○	○	なし		不明	
652	RF	中層	4.1	2.1	0.7	9.79	完形	○	○	なし		不明	スクレイパー?
653	RF	2231-14 ピット	2.9	2.6	0.5	4.05	欠損	○	○	なし		順目	調査時中西P4
655	RF	中層	3.7	5.6	1.5	24.6	欠損	×	○	自然面	100	半順目	
656	剥片	中層	2.7	2.2	0.9	3.7	完形	○	×	なし		不明	新欠有
657	RF	畦	4.2	3.9	1.1	18.75	完形	○	×	なし		不明	
660	剥片	上層北半	6.2	6.0	1.2	45.48	完形	○	○	自然面		順目	打点が新欠
663	RF	2231-18 ピット	3.8	4.2	0.5	7.05	完形	○	○	なし		不明	調査時中西P8
664	RF	2231-14 ピット	4.2	3.9	0.6	10.24	完形	○	○	なし		順目	調査時中西P4
665	剥片	竪穴住居19?断 面(2410流路 肩)	2.1	4.3	0.8	5.27	完形	×	○	自然面		順目	剥離角計測不可
666	剥片	2231-18 ピット	5.3	4.4	2.1	33.83	完形	○	○	複剥離面	126	逆目	調査時中西P8
668	剥片	2231-14 ピット	3.2	2.8	0.5	5.37	完形	×	○	自然面	92	半順目	調査時中西P4
669	RF	2231-13 ピット	2.9	3.1	0.9	6.61	完形	○	×	なし		不明	調査時中西P3
670	剥片	2231-14 ピット	3.5	4.0	0.7	6.4	完形	×	○	自然面	118	順目	調査時中西P4
671	剥片	2231-14 ピット	2.0	2.7	0.4	2.86	完形	○	○	自然面	120	順目	調査時中西P4
672	尖頭器?	2231-14 ピット	4.3	3.2	1.1	16.28	完形	○	×	なし		不明	調査時中西P4 未成品?
673	スクレイパー	2231-13 ピット	2.4	3.7	0.6	6.17	完形	○	○	なし		順目	調査時中西P3 新欠有
674	スクレイパー	中層	3.1	2.9	0.6	5.29	欠損	○	○	なし		不明	
678	RF	2231-42 ピット?	3.2	3.1	0.6	8.22	欠損	○	○	なし		不明	調査時中西P18
679	RF	2231-13 ピット	3.2	2.2	0.5	3.74	完形	○	○	自然面	100	順目	調査時中西P3 スクレイパー?
686	RF	2231-14 ピット	1.3	2.8	0.4	3.38	完形	×	○	自然面		半順目	調査時中西P4 剥離角計測不可

竪穴住居19出土サヌカイト観察表（3）

整理番号	器種	出土地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面 ボジタイプ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
751	スクレイパー	2231-14 ピット	5.3	4.6	1.4	25.16	完形	×	○	なし		不明	調査時中西P4
762	RF	2231-14 ピット	7.7	5.3	1.8	60.26	欠損	○	◎	なし		不明	調査時中西P4
764	剥片	2231-14 ピット	3.3	5.1	0.6	8.38	欠損	×	○	なし		不明	調査時中西P4
767	RF	2231-18 ピット	3.1	3.6	0.3	3.81	完形	○	○	なし		順目	調査時中西P8
768	RF	2231-18 ピット	3.0	5.9	0.7	13.17	欠損	×	○	なし		不明	調査時中西P8
769	石錐	2231-39 ピット	5.5	2.9	0.9	12.9	完形	×	○	単剥離面		不明	調査時中西P20 未成品 打点のはじける
771	剥片	中層	3.0	1.9	0.7	2.96	欠損	×	○	なし		不明	風化
773	RF	2231-39 ピット?	3.2	4.4	1.3	15.43	完形	×	○	なし		不明	調査時中西P20
777	剥片	中層	3.4	3.9	0.8	10.86	完形	×	○	自然面	93	順目	微剥離 スクレイパー?
779	RF		3.4	7.2	0.9	26.73	完形	○	○	自然面	95	半順目	
783	剥片	2231-14 ピット	2.7	2.3	0.4	1.95	欠損	×	○	なし		不明	調査時中西P4
786	剥片	中層	2.1	4.1	0.7	7.4	完形	×	○	自然面	95	半順目	
787	剥片	中層	4.5	3.7	1.1	17.2	完形	○	×	なし		不明	
788	RF	中層	5.2	3.8	1.3	29.51	完形	○	○	自然面		順目	剥離角計測不可
789	剥片	2231-14 ピット	3.8	3.7	0.7	6.51	完形	×	○	自然面	90	順目	調査時中西P4
792	剥片	2231-14 ピット	3.5	5.5	1.0	19.57	完形	○	○	自然面	111	逆目	調査時中西P4
794	石核	壁溝	6.2	2.8	1.2	21.3	完形	○	×	なし		順目	
795	剥片	壁溝	3.2	3.9	1.0	14.38	欠損	×	○	自然面	115	順目	
796	石核		7.5	7.0	1.3	42.22	完形	○	○	なし		順目	
797	剥片		5.1	6.5	1.1	36.68	完形	○	○	自然面	98	順目	
799	石核		5.8	2.6	1.3	19.27	完形	○	×	なし		順目	
800	剥片	壁溝	4.2	4.4	0.9	17.05	完形	○	○	自然面	121	順目	
801	RF	壁溝	4.2	3.0	1.2	17.69	完形	○	◎	なし		順目	
803	RF		3.0	3.2	0.6	6.8	完形	×	○	自然面	123	順目	
804	剥片		3.0	4.4	0.6	7.01	完形	×	○	線状		順目	打面に自然面有
805	RF		3.4	6.6	1.2	20.82	完形	×	○	自然面	132	順目	
808	RF		5.5	3.2	1.1	27.27	完形	○	×	なし		不明	
810	剥片		3.1	4.8	0.7	9.84	完形	×	○	単剥離面	100	半順目	打面に自然面有
811	RF	2231-14 ピット	3.9	3.6	1.2	11.02	完形	○	×	なし		不明	調査時中西P4
813	剥片	床面	4.6	3.1	0.8	11.72	完形	○	○	自然面	119	順目	
815	RF	2231-14 ピット	3.3	3.9	0.8	10.11	完形	×	◎	自然面	96	順目	調査時中西P4
820	RF		3.8	5.3	0.9	21.63	完形	×	○	自然面		順目	同時割れ
822	RF		5.8	4.5	1.4	28	欠損	○	○	なし		順目	
828	剥片	2231-14 ピット	3.9	2.9	0.9	10.43	欠損	×	○	自然面	110	半順目	調査時中西P4
831	剥片		5.6	3.1	0.5	9.12	完形	○	○	なし		順目	打点部に折れ
832	剥片	床面	3.1	3.4	0.9	8.95	欠損	○	○	なし		不明	
834	剥片	2231-6 ピット	3.1	3.2	0.4	4.35	完形	×	○	自然面		半順目	調査時西P6 剥離角計測不可
836	石核		7.6	5.2	1.7	51.78	完形	○	○	なし		順目	
837	剥片	床面	3.4	3.7	0.4	5.57	完形	×	○	自然面	102	順目	僅かに折れる
852	RF	壁溝遺物12	4.5	3.7	0.8	14.17	欠損	×	○	なし		逆目	
853	剥片	床面	2.3	4.1	0.5	4.58	欠損	○	○	なし		順目	
964	剥片	中層	4.4	7.2	1.4	36.58	完形	○	○	単剥離面	150	半順目	
965	剥片	南側畔	2.8	5.5	0.7	6.62	完形	×	○	自然面	116	順目	
967	剥片	2231-7 ピット	5.2	5.6	0.6	13.63	完形	○	○	自然面	102	順目	調査時西P7
968	RF		4.0	5.0	0.7	11.92	完形	○	○	自然面	147	順目	

竪穴住居19出土サヌカイト観察表（4）

整理番号	器種	出土地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面 ポジタイプ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
975	RF	2231-17 ビット	3.8	5.5	1.0	15.74	完形	○	○	自然面	107	順目	調査時中西P7 微剥離
976	RF	中層	5.1	5.2	1.5	35.28	完形	×	○	自然面	98	半順目	
978	RF	2231-14 ビット	3.6	2.0	0.5	3.98	完形	○	○	自然面	120	順目	調査時中西P4
982	RF	中層	3.8	4.9	1.3	23.3	完形	○	○	なし		順目	
1008	スクレイパー	中層	3.7	3.3	0.7	9.25	欠損	○	○	なし		順目	
1009	剥片	中層	4.2	2.9	0.8	7.96	完形	×	○	自然面	114	順目	
1010	剥片	中層	1.6	2.0	0.5	1.44	完形	○	○	なし		順目	
1012	RF?	下層	2.8	3.5	1.1	11.63	完形	○	×	なし		不明	
1014	RF	中層	4.2	3.9	1.0	12.04	完形	○	○	なし		順目	微剥離
1015	剥片	中層	2.7	3.9	0.9	10.65	欠損	×	○	自然面	92	逆目	
1016	剥片	2231-14 ビット	3.8	4.6	0.8	11.06	欠損	×	○	単剥離面	113	順目	調査時中西P4 打面に自然面有
1017	スクレイパー	2231-14 ビット	3.9	2.7	0.9	8.34	完形	○	×	なし		不明	調査時中西P4
1023	剥片	中層	3.8	3.2	0.8	11.98	完形	○	○	自然面	115	順目	
1025	剥片	中層	2.7	3.7	0.7	5.43	欠損	○	○	なし		半順目	
1026	RF	2231-40 ビット	3.1	5.4	0.7	8.29	完形	○	○	なし		半順目	調査時中西P14
1027	石核	壁溝	5.7	5.1	2.5	62.59	完形	×	○	なし		逆目?	
1028	RF	中層	3.3	3.8	0.6	5.95	完形	○	○	自然面		順目	打点なし
1029	石核	中層	4.6	2.9	1.2	14.4	完形	○	○	なし		不明	
1030	石核	中層	5.6	4.4	1.4	32.39	完形	○	×	なし		順目	
1032	剥片	中層	2.8	3.7	0.5	4.28	完形	×	◎	自然面	88	順目	
1033	RF	中層	4.0	6.5	1.0	16.83	完形	○	○	なし		順目	
1034	剥片	中層	2.7	3.8	0.6	5.37	欠損	×	○	自然面	138	順目	
1036	剥片	上層北半	8.3	6.6	2.4	77.42	完形	◎	○	自然面	89	順目	
1037	剥片		4.1	5.3	1.3	18.23	完形	○	○	自然面	90	順目	
1038	RF	壁溝	3.9	4.4	1.0	24.3	完形	○	○	自然面	115	半順目	
1041	剥片		2.8	4.7	1.4	11.65	欠損	○	○	なし		順目	
1042	剥片		5.0	4.1	0.7	17.45	完形	×	○	自然面	102	順目	
1043	剥片		3.3	5.0	0.5	9.91	完形	○	○	線状		順目	打面に自然面有
1045	剥片	2231-14 ビット	2.5	3.9	0.5	5.97	完形	○	○	単剥離面	101	順目	調査時中西P4 打面に自然面有
1046	RF	中層	4.5	3.7	0.7	14.99	欠損	○	○	なし		順目	自然面側に刃部形成?
1047	剥片	中層	4.4	3.1	0.7	14.99	欠損	×	○	自然面	109	順目	
1048	剥片	2231-12 ビット	2.6	2.4	0.7	3.39	完形	○	○	単剥離面	114	順目	調査時中西P2
1049	剥片	中層	1.9	2.5	0.7	2.73	完形	○	○	なし		順目	
1050	剥片	2231-14 ビット	2.5	3.2	0.7	3.39	完形	×	○	自然面	123	順目	調査時中西P4
1051	剥片	中層	3.7	3.7	0.9	11.68	完形	○	○	なし		順目	
1054	石核	壁溝	5.5	4.8	0.3	72.12	完形	○	×	なし		順目	
1055	石核		6.8	4.4	1.8	42.14	完形	○	○	なし		順目	
1056	石核		5.5	4.0	1.6	34.12	完形	○	○	なし		順目	
1059	石核		6.4	5.2	2.2	63.41	完形	◎	×	なし		順目	
1061	剥片	壁溝	5.1	6.6	1.5	44.18	完形	×	○	自然面	117	順目	
1062	RF		5.5	5.8	1.1	26.28	完形	○	○	自然面	82	順目	
1063	RF		5.9	5.1	0.9	26.98	完形	×	○	自然面	90	順目	
1064	剥片	壁溝	2.8	4.9	0.5	6.31	完形	○	○	なし		不明	
1065	スクレイパー	2231-14 ビット	4.6	5.7	1.2	30.84	欠損	○	○	なし		順目	調査時中西P4
1067	RF		6.0	5.2	1.2	46.86	完形	◎	○	複剥離面	117	不明	
1068	スクレイパー		5.2	5.3	2.2	63.43	完形	○	×	なし		順目	
1070	石核		6.6	4.6	2.2	54.63	完形	○	×	なし		順目	
1071	スクレイパー		6.0	6.4	1.1	30.66	欠損	○	○	なし		順目	
1073	剥片		4.8	4.4	1.0	18.71	完形	◎	○	なし		順目	打面が折れる
1078	剥片		2.4	5.8	0.7	8.3	完形	○	○	自然面	93	順目	

竪穴住居19出土サヌカイト観察表（5）

整理番号	器種	出土地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面 ポジティブ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
1089	石核		5.4	3.9	1.2	23.01	完形	○	×	なし		不明	
1104	楔形石器?	中層	5.3	3.9	1.6	44.86	欠損	○	×	なし		不明	
1105	剥片	2231-14 ピットP.4	2.5	2.4	0.5	2.78	完形	×	○	自然面		順目	調査時中西P4
1109	RF	2231-14 ピットP.4	2.9	3.8	0.8	8.29	欠損	○	○	なし		順目	調査時中西P4
1111	RF	中層	3.1	3.1	0.4	4.55	完形	○	○	なし		順目	線状か?
1112	剥片	2231-14 ピットP.4	2.0	4.0	0.4	3.21	完形	×	○	単剥離面	108	順目	打面に自然面有
1113	剥片	2231-14 ピットP.4	1.8	3.4	0.5	2.83	完形	×	○	自然面	121	順目	調査時中西P4
1115	剥片	2231-13 ピットP.3	2.3	4.4	0.9	7.09	完形	×	○	自然面	110	順目	調査時中西P3
1294	RF	壁溝	3.2	3.6	0.3	4.68	完形	×	◎	なし		不明	
1295	RF	壁溝	3.0	4.1	0.7	8.83	完形	○	○	なし		順目	
1296	RF	壁溝	5.0	3.5	1.4	19.92	完形	○	○	なし		順目	
1297	RF	壁溝	2.9	5.4	0.9	12.79	完形	×	○	自然面	96	順目	
1298	RF	壁溝	1.4	2.6	0.4	1.87	完形	×	○	単剥離面	120	不明	
1299	剥片	壁溝	3.4	6.1	1.0	22.33	完形	×	○	自然面	114	順目	
1300	RF	壁溝	3.7	2.9	0.7	9	欠損	×	○	自然面	123	順目	
1301	RF	壁溝	3.4	3.4	0.6	6.27	欠損	○	○	なし		半順目	
1302	剥片	壁溝	3.6	2.3	0.5	3.77	完形	×	○	線状		不明	
1303	剥片	壁溝	2.3	2.5	0.4	2.82	欠損	×	◎	自然面	80	順目	
1304	RF	壁溝	2.6	2.8	0.6	3.42	欠損	○	○	なし		不明	
1305	RF	壁溝	3.5	3.3	0.8	7.1	完形	○	○	なし		順目	
1306	剥片	壁溝	2.5	4.0	0.3	2.09	完形	×	○	なし		不明	
1307	剥片	壁溝	2.1	3.6	0.3	2.42	完形	×	○	自然面	96	順目	
1308	剥片	壁溝	3.7	3.2	0.8	5.87	欠損	○	○	なし		順目	
1309	剥片	壁溝	2.3	3.5	0.8	5.49	完形	×	○	自然面	118	順目	
1310	RF	壁溝	2.9	1.9	0.6	4.05	欠損	○	○	なし		不明	
1311	剥片	壁溝	2.4	2.3	0.4	3.08	完形	×	◎	自然面	108	順目	
1312	RF	壁溝	2.0	3.8	0.6	3.73	完形	×	○	なし		不明	
1313	剥片	壁溝	2.2	2.3	0.2	0.92	完形	×	○	単剥離面	118	不明	打面に自然面有
1314	剥片	壁溝	2.0	2.6	0.4	1.77	完形	×	○	なし		不明	
1315	RF	壁溝	2.9	3.1	0.6	4.73	完形	×	○	なし		不明	
1317	不明	壁溝	2.9	1.2	1.1	3.26	完形	○	×	なし		不明	未成品?
1318	RF	壁溝	2.4	3.5	0.8	5.44	完形	○	○	なし		順目	新欠有
1319	剥片	壁溝	2.0	4.0	0.4	3.45	欠損	×	○	なし		不明	
1320	剥片	壁溝	2.3	4.0	0.6	3.97	完形	○	◎	なし		半順目	
1321	剥片	壁溝	1.8	4.0	0.4	2.84	欠損	×	○	なし		不明	
1322	剥片	壁溝	1.9	2.9	0.3	1.41	完形	×	○	点状		不明	両極剥片(B類)
1324	剥片	壁溝	3.4	2.8	0.6	3.33	欠損	×	○	不明		不明	
1325	剥片	壁溝	2.1	1.9	0.5	2.4	欠損	○	○	なし		順目	
1326	剥片	壁溝	1.7	3.2	0.5	3.35	欠損	○	○	なし		不明	
1327	剥片	壁溝	4.0	3.2	1.0	12.91	欠損	○	○	自然面	95	順目	
1328	剥片	壁溝	3.5	3.6	0.7	7.46	完形	×	○	自然面	91	順目	
1329	剥片	壁溝	2.9	2.5	0.6	4	欠損	×	○	自然面	134	順目	
1330	RF	壁溝	2.1	1.5	0.4	1.41	欠損	○	○	なし		順目	
1331	スクレイパー	壁溝	2.0	2.4	0.3	2.17	欠損	×	○	自然面	127	順目	
1332	RF	壁溝	3.6	2.6	0.9	6.54	欠損	○	×	なし		不明	
1333	RF	壁溝	3.3	4.8	0.6	6.74	完形	×	○	自然面	101	順目	MF
1334	RF	壁溝	2.8	6.8	0.8	12.85	完形	×	○	なし		不明	
1336	剥片	壁溝	3.1	2.1	0.3	1.77	完形	×	○	自然面		半順目	剥離角はバルバスターで計測不可
1337	剥片	壁溝	1.8	3.3	0.3	1.98	欠損	×	○	なし		不明	
1338	剥片	壁溝	1.4	2.2	0.4	1.05	欠損	×	×	なし		不明	
1339	RF	壁溝	2.0	3.3	0.5	5.11	欠損	×	○	なし		不明	
1340	楔形石器	壁溝	3.3	4.0	0.9	13.03	完形	○	×	なし		不明	
1341	RF	壁溝	2.3	3.5	0.9	6.9	完形	○	○	自然面	103	半順目	
1342	スクレイパー	壁溝	3.4	3.0	0.8	9.03	欠損	×	×	なし		不明	エッジ一部摩滅

竪穴住居19出土サヌカイト観察表（6）

整理番号	器種	出土地点	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面	ポジティブ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
1343	剥片	壁溝	1.9	2.1	0.3	0.94	完形	×	○		自然面	142	順目	
1344	石鏃?	壁溝	3.2	2.4	0.5	3.56	欠損	×	×		なし		不明	未成品?
1345	RF	壁溝	3.9	1.8	0.4	2.99	欠損	×	×		なし		不明	
1346	剥片	壁溝	2.4	1.2	0.3	0.89	完形	○	○		なし		不明	
1348	剥片	壁溝	2.2	2.4	0.5	2.05	完形	×	○		自然面	74	不明	
1349	剥片	壁溝	2.2	1.8	0.5	2.59	欠損	×	○		自然面	116	不明	
1350	剥片	壁溝	3.3	2.6	0.9	5.4	完形	×	○		自然面		順目	剥離角は計測不可
1351	RF	壁溝	2.0	2.3	0.4	1.79	完形	○	○		線状		不明	
1352	剥片	壁溝	1.9	2.0	0.3	0.93	完形	○	○		自然面	119	不明	
1353	剥片	壁溝	1.7	2.4	0.4	1.78	完形	×	◎		単剥離面	129	不明	
1354	RF	壁溝	3.1	1.5	0.3	1.72	欠損	○	○		なし		不明	
1355	RF	壁溝	3.3	4.9	1.0	14.97	欠損	×	○		自然面		順目	剥離角は打瘤で計測不可
1356	剥片	壁溝	1.8	3.0	0.2	0.74	完形	×	○		複剥離面	109	不明	
1357	RF	壁溝	4.1	3.6	1.0	14.89	完形	×	○		自然面	97	順目	
1358	RF	壁溝	3.9	5.8	0.5	10.89	完形	×	◎		単剥離面	107	不明	微剥離、摩滅スクレイパー?
1359	剥片	壁溝	1.7	2.1	0.3	0.88	完形	×	○		自然面	119	不明	
1360	RF	壁溝	1.7	2.5	0.5	1.79	完形	×	○		なし		不明	石鏃未成品?
1361	石鏃	壁溝	2.0	3.8	0.5	3.97	完形	×	◎		なし		不明	未成品?
1362	剥片	壁溝	3.2	2.5	0.5	4.23	完形	×	○		自然面	97	順目	
1363	RF	壁溝	2.3	1.5	0.3	1.24	欠損	×	○		なし		不明	
1364	RF	壁溝	2.2	2.3	0.3	1.54	完形	×	○		なし		不明	
1365	RF	壁溝	2.7	2.6	0.3	2.66	欠損	×	○		自然面	110	順目	微剥離
1366	剥片	壁溝	2.0	3.1	0.5	2.57	欠損	×	○		なし		不明	打面が折れる
1367	RF	壁溝	2.4	1.6	0.3	1.14	完形	×	×		なし		不明	僅かに折れる
1368	剥片	壁溝	2.3	1.3	0.1	0.48	完形	×	○		不明		不明	
1373	剥片	壁溝	0.8	2.0	0.4	0.77	欠損	○	○		なし		不明	
1376	剥片	壁溝	2.1	1.1	0.2	0.31	欠損	×	○		なし		不明	
1377	剥片	壁溝	0.8	2.3	0.2	0.52	欠損	×	○		なし		不明	
1378	スクレイパー	畦	2.1	5.7	0.7	9.77	完形	×	○		なし		不明	僅かに折れる
1379	RF	畦	1.2	2.5	0.2	0.69	欠損	×	◎		なし		不明	
1381	RF	上層北半	2.1	2.4	0.4	1.6	完形	×	○		なし		不明	僅かに折れる
1382	RF	上層北半	2.0	2.2	0.4	1.39	完形	×	○		自然面	115	不明	
1383	RF	上層北半	2.8	4.0	0.3	3.83	完形	×	○		なし		不明	僅かに折れる
1384	RF	上層北半	2.3	5.0	0.5	6.38	欠損	×	○		なし		不明	
1385	剥片	上層北半	2.5	3.5	0.5	2.61	欠損	×	○		なし		不明	
1386	RF	上層北半	2.4	3.8	0.4	3.55	完形	×	○		自然面	109	順目	
1387	石槍?	上層北半	4.6	3.8	1.2	15.93	欠損	×	○		なし		不明	未成品? 割れ
1388	尖頭器?	上層北半	3.0	2.6	0.7	5.71	欠損	×	×		なし		不明	未成品?
1389	スクレイパー?	上層北半	3.3	2.9	0.7	6.85	欠損	○	×		なし		不明	微剥離
1390	RF	2231-11 ピット	1.1	2.2	0.3	0.84	欠損	×	○		なし		不明	調査時中西P1
1391	剥片	2231-11 ピット	1.4	2.5	0.5	1.36	完形	○	○		複剥離面	70	半順目	調査時中西P1
1392	スクレイパー	2231-12 ピット	2.5	3.3	0.5	4.19	欠損	×	○		なし		不明	調査時中西P2
1393	RF	2231-12 ピット	2.5	3.5	0.3	2.84	欠損	×	○		単剥離面		不明	調査時中西P2
1394	RF	2231-18 ピット	2.2	2.1	0.5	2.66	欠損	×	○		なし		不明	調査時中西P8
1395	剥片	2231-18 ピット	1.9	3.4	0.2	1.21	完形	×	○		線状		不明	調査時中西P8 打面に剥離面有 僅かに折れ 両極剥片
1396	剥片	2231-18 ピット	2.4	2.3	0.3	1.85	欠損	×	○		なし		不明	調査時中西P8
1397	石鏃	畦	3.0	3.8	0.4	5.79	完形	×	○		自然面	120	順目	未成品? 基端自然 面斜め 新欠有
1398	RF	畦	3.3	3.3	0.7	5.4	欠損	×	○		なし		不明	

竪穴住居19出土サヌカイト観察表（7）

整理番号	器種	出土地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面 ボジタイプ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
1399	剥片	下層	3.2	3.2	0.7	7.5	欠損	○	○	なし		順目	
1400	RF	竪穴住居19? 側溝	2.8	2.8	0.5	3.32	完形	×	○	なし		不明	僅かに折れる
1401	不明	畦	2.7	1.6	0.7	2.02	完形	×	×	なし		不明	未成品? 僅かに折れる
1402	剥片	2231-16 ピット	3.1	2.8	0.3	2.17	欠損	×	○	なし		不明	調査時中西P6
1403	剥片	壁溝	2.6	5.5	0.8	12.42	欠損	×	○	なし		不明	
1404	楔形石器	2231-18 ピット	2.9	2.7	0.8	6.44	欠損	×	×	なし		不明	調査時中西P8
1405	RF	2231-18 ピット	2.1	2.7	0.3	1.78	完形	×	○	なし		不明	調査時中西P8
1406	RF	2231-18 ピット	2.4	1.9	0.2	1.19	完形	×	○	自然面	108	不明	調査時中西P8
1407	中型尖頭器	中層	5.5	3.4	1.2	24.95	欠損	○	×	なし		不明	未成品?
1408	剥片	中層	3.3	2.5	0.9	5.23	完形	○	○	自然面	103	半順目	
1409	RF	中層	2.5	3.3	0.7	6.75	欠損	×	○	なし		不明	
1410	剥片	中層	1.8	2.1	0.3	1.55	完形	×	○	線状		不明	
1411	剥片	中層	1.8	3.7	0.7	2.24	完形	×	◎	自然面	126	半順目	
1412	剥片	中層	2.3	2.8	0.5	2.81	欠損	○	◎	複剥離面	123	不明	
1413	剥片	中層	1.9	3.1	0.4	1.81	欠損	×	○	なし		不明	
1414	RF	中層	3.4	3.8	0.8	11.14	欠損	×	○	なし		不明	
1415	スクレイパー	中層	5.9	6.4	1.4	41.04	完形	×	○	なし		不明	三角形石匙状
1416	RF	2231-14 ピット	2.4	4.1	0.6	4.11	欠損	×	○	なし		不明	調査時中西P4
1417	剥片	2231-14 ピット	1.9	2.1	1.8	0.58	完形	×	○	複剥離面	134	不明	調査時中西P4
1418	RF	2231-14 ピット	2.0	2.0	0.4	2.19	完形	×	○	複剥離面	128	不明	調査時中西P4 打面に自然面有
1419	剥片	2231-14 ピット	2.1	3.6	0.7	5.7	欠損	×	○	なし		不明	調査時中西P4
1420	RF	2231-14 ピット	2.8	5.1	0.4	4.87	完形	×	○	複剥離面	108	不明	調査時中西P4 打面に自然面有。 僅かに折れる
1421	RF	2231-14 ピット	3.4	3.1	0.8	7.46	完形	◎	○	なし		順目	調査時中西P4
1422	剥片	2231-14 ピット	2.8	2.9	0.2	1.91	完形	×	○	複剥離面	129	不明	調査時中西P4 ポイントフレイク 微剥離
1423	剥片	2231-14 ピット	2.1	2.4	0.2	1.11	欠損	×	○	なし		不明	調査時中西P4
1424	剥片	2231-14 ピット	3.0	3.0	0.3	2.82	欠損	×	○	単剥離面	156	不明	調査時中西P4
1425	RF	2231-14 ピット	2.9	1.7	0.4	1.15	欠損	×	○	なし		不明	調査時中西P4
1426	剥片	中層	3.0	4.0	0.5	4.67	完形	×	○	複剥離面	116	不明	新欠有・ポイント フレイク
1427	剥片	中層	1.6	2.4	0.4	1.72	完形	×	○	複剥離面	107	不明	
1428	剥片	中層	4.9	1.7	1.3	4.79	完形	×	○	なし		不明	
1429	中型尖頭器	中層	5.1	3.0	0.9	13.52	欠損	×	○	なし		不明	未成品
1430	剥片	2231-13 ピット	1.9	2.0	0.2	0.35	完形	×	×	なし		不明	調査時中西P3
1431	剥片	2231-13 ピット	2.2	1.1	0.2	0.42	完形	×	○	複剥離面	118	不明	調査時中西P3
1432	RF	2231-13 ピット	2.8	2.9	0.6	4.87	欠損	×	○	なし		不明	調査時中西P3
1433	剥片	2231-13 ピット	2.2	1.8	0.3	1.13	完形	×	○	複剥離面	124	不明	調査時中西P3 打面に自然面有
1434	RF	2231-13 ピット	2.3	2.4	1.3	9.15	欠損	×	○	なし		不明	調査時中西P3
1436	剥片	2231-13 ピット	2.4	1.3	0.6	1.85	完形	○	×	なし		不明	調査時中西P3

竪穴住居19出土サヌカイト観察表（8）

整理番号	器種	出土地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面	ポジティブ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
1437	RF	2231-13 ビット	2.6	2.5	0.5	2.32	完形	○	○		自然面	95	順目	調査時中西P3 金山？
1438	剥片	2231-13 ビット	2.5	1.8	0.8	2.46	完形	○	×		なし		不明	調査時中西P3
1439	不明	2231-13 ビット	2.3	1.3	0.6	1.43	欠損	○	×		なし		不明	調査時中西P3 未成品？
1440	剥片	2231-13 ビット	1.8	2.0	0.2	0.45	完形	×	○		複剥離面	130	不明	調査時中西P3
1441	RF	中層	1.7	2.6	0.9	2.71	欠損	○	○		なし		順目	
1442	RF	中層	3.5	3.5	0.9	8.88	完形	×	○		単剥離面	124	不明	
1443	RF	中層	2.5	3.1	0.4	4.02	欠損	×	○		なし		不明	
1444	RF	中層	3.0	3.0	0.7	5.64	欠損	×	○		なし		不明	
1445	RF	中層	2.2	6.0	0.8	10.32	完形	×	○		なし		不明	割れ
1446	RF	中層	4.0	4.3	1.1	17.7	完形	×	○		なし		不明	
1447	RF	中層	1.8	2.9	0.7	3.23	完形	×	○		なし		順目	
1448	スクレイパー	中層	3.3	3.4	1.2	14.52	欠損	×	○		なし		不明	
1449	剥片	中層	1.7	3.4	0.3	1.86	欠損	×	○		なし		不明	
1450	剥片	中層	1.2	2.1	0.2	0.56	欠損	×	○		なし		不明	
1451	剥片	中層	1.2	2.1	0.2	0.62	欠損	×	○		なし		不明	
1452	剥片	中層	2.5	2.4	0.4	1.74	欠損	×	○		線状		不明	両極剥片
1453	剥片	中層	2.0	3.4	0.4	2.76	欠損	×	○		なし		不明	
1454	剥片	中層	1.6	2.9	0.4	1.87	完形	×	○		複剥離面	100	不明	被熱
1455	RF	2231-14 ビット	2.6	2.4	0.7	4.06	完形	○	×		なし		不明	調査時中西P4
1456	中型尖頭器？	2231-14 ビット	2.8	2.2	0.7	5.42	完形	×	×		なし		不明	調査時中西P4 未成品？
1457	スクレイパー	2231-14 ビット	3.7	4.6	0.8	15.45	完形	×	○		なし		不明	調査時中西P4
1458	スクレイパー	2231-14 ビット	3.5	2.7	0.4	3.81	完形	×	○		なし		不明	調査時中西P4 凹刃、片面剥離
1459	剥片	2231-14 ビット	1.9	2.3	0.4	0.88	完形	×	○		自然面	107	半順目	調査時中西P4
1460	剥片	2231-14 ビット	2.6	2.1	1.1	0.76	完形	×	○		自然面	92	不明	調査時中西P4 僅かに折れる
1461	剥片	2231-14 ビット	1.1	2.8	0.4	2.11	完形	○	○		なし		不明	調査時中西P4 打面に新欠
1462	剥片	2231-14 ビット	1.5	2.4	0.3	1.18	欠損	×	○		なし		不明	調査時中西P4
1463	RF	2231-14 ビット	1.9	2.6	0.2	1.3	完形	×	○		なし		不明	調査時中西P4 僅かに折れる
1464	剥片	2231-14 ビット	1.8	1.9	0.3	0.64	完形	○	○		複剥離面	123	順目	調査時中西P4
1465	剥片	2231-14 ビット	1.7	3.0	0.4	2.62	欠損	○	○		なし		順目	調査時中西P4
1466	RF	2231-14 ビット	3.9	4.0	0.7	7.62	完形	○	○		複剥離面	136	不明	調査時中西P4 僅かに折れる
1467	剥片	2231-13 ビット	2.9	1.9	0.9	2.62	完形	○	○		単剥離面		逆目	調査時中西P3
1468	剥片	2231-13 ビット	2.1	1.7	0.2	0.57	完形	×	○		複剥離面	134	不明	調査時中西P3
1469	RF	2231-13 ビット	1.8	4.9	0.7	4.19	完形	×	○		なし		不明	調査時中西P3
1470	RF	2231-14 ビット	2.5	2.4	0.6	3.63	完形	×	○		自然面	108	順目	調査時中西P4 金山？
1471	剥片	2231-14 ビット	2.7	3.6	0.5	4.83	欠損	×	○		なし		不明	調査時中西P4
1472	剥片	2231-14 ビット	2.2	4.2	0.5	3.81	完形	×	○		複剥離面	118	順目	調査時中西P4 打面に自然面有
1473	RF	2231-14 ビット	2.4	2.1	0.3	1.52	欠損	×	○		自然面		不明	調査時中西P4
1475	RF	中層	2.3	2.3	0.5	1.96	完形	×	○		なし		不明	
1476	RF	中層	2.3	3.5	0.4	2.87	完形	×	◎		なし		不明	
1477	剥片	中層	3.1	2.9	0.4	2.88	欠損	×	○		なし		不明	

竪穴住居19出土サヌカイト観察表（9）

整理番号	器種	出土地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面	ボジティブ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
1478	剥片	中層	2.5	2.1	0.2	1.29	完形	×	○		複剥離面	147	不明	
1479	剥片	中層	2.2	2.5	0.3	1.25	完形	×	○		線状		不明	ポイントフレイク?
1480	剥片	中層	3.4	4.4	0.7	8.72	完形	○	○		自然面	90	順目	
1481	剥片	中層	2.9	3.1	0.4	4.61	完形	○	○		なし		順目	
1482	剥片	中層	2.4	3.0	0.6	3.17	完形	○	○		単剥離面	112	不明	打面に自然面有
1483	剥片	中層	1.6	2.2	0.2	1.31	欠損	×	○		複剥離面	123	不明	
1484	RF	中層	2.2	3.3	0.5	2.88	欠損	×	○		なし		不明	
1485	RF	中層	3.2	3.0	0.4	3.06	完形	○	○		なし		順目	
1486	剥片	2231-14 ピット	2.0	4.6	0.7	4.59	完形	×	○		単剥離面	128	不明	調査時中西P4
1487	剥片	2231-14 ピット	4.6	1.9	0.3	2.72	完形	×	○		自然面	116	不明	調査時中西P4
1488	RF	2231-14 ピット	3.1	3.9	0.4	4.72	欠損	×	○		なし		不明	調査時中西P4
1489	剥片	2231-14 ピット	1.5	2.8	0.5	1.66	完形	○	○		自然面		不明	調査時中西P4
1490	剥片	2231-14 ピット	2.5	3.1	0.5	3.44	完形	○	○		なし		不明	調査時中西P4 ポイントフレイク
1491	剥片	2231-14 ピット	2.6	1.2	0.4	0.79	完形	×	○		なし		不明	調査時中西P4 新欠有
1492	RF	2231-14 ピット	2.4	1.7	0.8	3.41	完形	○	×		なし		不明	調査時中西P4
1493	剥片	2231-14 ピット	1.5	2.3	0.3	0.88	完形	×	◎		単剥離面	119	不明	調査時中西P4
1494	剥片	2231-14 ピット	1.9	1.2	0.3	0.89	完形	×	×		なし		不明	調査時中西P4 ポイントフレイク?
1495	石鏃	2231-14 ピット	3.2	2.1	0.5	2.99	完形	×	○		なし		不明	調査時中西P4 未成品
1496	RF	2231-14 ピット	1.2	2.2	0.3	0.8	完形	×	○		なし		不明	調査時中西P4
1497	剥片	2231-14 ピット	1.5	2.3	0.4	1.25	欠損	×	○		なし		不明	調査時中西P4
1498	剥片	2231-14 ピット	2.2	1.4	0.2	0.45	完形	×	◎		自然面	99	順目	調査時中西P4
1499	RF	2231-14 ピット	1.2	3.7	0.9	5.34	完形	×	○		なし		不明	調査時中西P4 楔形石器?
1500	剥片	2231-14 ピット	2.5	2.6	0.6	3.1	完形	×	○		なし		不明	調査時中西P4
1501	石鏃	2231-14 ピット	3.4	2.4	0.6	7.22	欠損	×	×		なし		不明	調査時中西P4 未成品
1502	剥片	2231-14 ピット	1.2	2.6	0.4	1.13	欠損	×	◎		複剥離面	111	不明	調査時中西P4
1504	剥片	2231-14 ピット	1.6	2.2	0.2	0.68	完形	×	○		複剥離面	121	不明	調査時中西P4
1505	剥片	2231-14 ピット	2.6	1.5	0.7	2.13	欠損	○	○		自然面	99	順目	調査時中西P4
1506	剥片	2231-14 ピット	2.5	3.8	0.4	2.19	完形	×	○		なし		不明	調査時中西P4
1507	剥片	2231-14 ピット	2.4	1.2	0.2	0.54	完形	×	○		単剥離面	130	不明	調査時中西P4
1508	RF	2231-14 ピット	3.3	3.6	0.6	5.37	完形	×	○		複剥離面	134	不明	調査時中西P4
1509	剥片	2231-14 ピット	1.8	2.2	0.3	1.36	完形	○	○		自然面	110	順目	調査時中西P4
1510	剥片	2231-14 ピット	2.2	0.7	0.2	0.39	完形	×	○		なし		不明	調査時中西P4 割れ
1511	RF	2231-14 ピット	2.1	1.7	0.3	0.9	完形	×	◎		なし		不明	調査時中西P4
1512	RF	2231-14 ピット	2.5	1.8	0.5	2.51	完形	○	×		なし		不明	調査時中西P4
1513	RF	2231-14 ピット	2.7	2.6	0.3	2.03	欠損	×	○		単剥離面	136	不明	調査時中西P4

竪穴住居19出土サヌカイト観察表 (10)

整理番号	器種	出土地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	状態	自然面	剥離面 ポジティブ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
1514	剥片	2231-14 ピット	2.3	0.8	0.4	0.64	完形	○	○	なし		逆目	調査時中西P4 僅かに折れる
1515	剥片	2231-14 ピット	0.9	2.4	0.2	0.52	欠損	×	○	なし		不明	調査時中西P4
1516	剥片	2231-14 ピット	1.6	2.8	0.5	1.59	欠損	×	○	複剥離面	117	不明	調査時中西P4
1517	剥片	2231-14 ピット	1.8	1.9	0.2	0.92	完形	×	◎	自然面		不明	調査時中西P4
1518	RF	2231-14 ピット	1.3	2.3	0.2	0.58	完形	×	○	なし		不明	調査時中西P4
1519	RF	2231-14 ピット	2.5	0.9	0.6	0.98	欠損	×	×	なし		不明	調査時中西P4
1520	RF	2231-14 ピット	2.4	1.7	0.3	1.42	欠損	×	◎	なし		不明	調査時中西P4
1521	剥片	2231-14 ピット	1.0	2.0	0.3	0.42	完形	×	○	複剥離面	127	不明	調査時中西P4
1523	石鏃	2231-14 ピット	3.8	2.3	0.6	5.17	完形	×	×	なし		不明	調査時中西P4 未成品
1524	RF	2231-14 ピット	1.4	2.7	0.5	1.66	欠損	×	○	なし		不明	調査時中西P4
1525	剥片	2231-14 ピット	1.4	1.6	0.5	0.92	欠損	○	○	なし		順目	調査時中西P4
1526	剥片	2231-14 ピット	1.8	2.1	0.3	0.84	欠損	×	○	なし		不明	調査時中西P4
1527	剥片	2231-14 ピット	2.1	2.0	0.2	0.65	完形	×	○	自然面	102	順目	調査時中西P4
1528	RF	2231-14 ピット	2.7	1.4	0.3	0.95	欠損	×	○	なし		不明	調査時中西P4
1531	石鏃	2231-14 ピット	1.2	1.5	0.3	0.62	欠損	×	×	なし		不明	調査時中西P4 先欠
1532	剥片	2231-14 ピット	2.2	1.6	0.3	1.37	欠損	×	○	なし		不明	調査時中西P4
1533	剥片	2231-14 ピット	1.2	2.1	0.2	0.42	欠損	×	○	なし		不明	調査時中西P4
1534	剥片	2231-14 ピット	1.6	2.4	0.3	1.42	完形	○	○	線状		不明	調査時中西P4
1535	尖頭器?	2231-14 ピット	0.9	2.1	0.5	0.88	完形	×	×	なし		不明	調査時中西P4 未成品?
1536	RF	2231-14 ピット	1.5	2.0	0.2	0.55	完形	×	○	なし		不明	調査時中西P4
1537	剥片	2231-14 ピット	1.5	2.1	0.2	0.66	完形	×	◎	複剥離面	135	不明	調査時中西P4 ポイントフレイク
1966	剥片	2231-14 ピット	3.3	5.8	0.9	12.47	完形	×	○	複剥離面	137	不明	調査時中西P4
1967	RF	2231-14 ピット	3.2	2.8	0.7	5	完形	×	○	自然面	112	順目	調査時中西P4 僅かに折れる
1968	剥片	2231-14 ピット	2.2	2.5	0.4	1.76	完形	×	○	なし		不明	調査時中西P4 僅かに折れる
1969	RF	2231-14 ピット	2.7	3.2	0.7	9.64	完形	×	○	自然面	93	順目	調査時中西P4
1970	RF	2231-14 ピット	4.0	3.4	0.6	6.71	完形	×	○	自然面	88	半順目	調査時中西P4 僅かに折れる
1971	剥片	2231-14 ピット	4.2	4.0	0.9	13.34	完形	×	○	自然面	98	順目	調査時中西P4
1972	RF	2231-14 ピット	5.7	4.3	1.2	26.11	完形	○	○	なし		順目	調査時中西P4
1973	RF	2231-14 ピット	7.7	3.2	1.3	28.35	完形	×	○	単剥離面	103	不明	調査時中西P4
1974	剥片	2231-14 ピット	4.9	3.2	0.7	11.36	完形	×	○	自然面	107	順目	調査時中西P4
1975	RF	2231-14 ピット	4.9	4.7	1.3	22.5	完形	×	○	単剥離面	135	不明	調査時中西P4
1976	剥片	2231-14 ピット	2.8	4.7	0.8	9.18	完形	×	○	複剥離面	131	半順目	調査時中西P4 打面に自然面有

竪穴住居19出土サヌカイト観察表(11)

整理番号	器種	出土地点	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面 ポジティブ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
1977	剥片	2231-14 ピット	2.0	3.7	0.6	4.1	完形	○	◎	なし		順目	調査時中西P4 打面が折れる
1978	RF	2231-14 ピット	1.9	3.4	0.4	3.49	完形	×	◎	自然面		順目	調査時中西P4 僅かに折れる
1979	剥片	2231-14 ピット	4.4	3.2	0.4	2.88	完形	×	○	単剥離面	115	不明	調査時中西P4
1980	剥片	2231-14 ピット	2.8	0.8	0.9	1.92	完形	×	○	自然面	53	半順目	調査時中西P4
1981	剥片	2231-14 ピット	2.5	1.4	0.2	1.01	欠損	×	○	単剥離面	115	不明	調査時中西P4
1982	剥片	2231-14 ピット	2.6	2.5	0.3	1.62	完形	×	○	複剥離面	134	不明	調査時中西P4
1983	剥片	2231-14 ピット	1.4	2.7	0.6	1.99	完形	×	○	複剥離面	125	不明	調査時中西P4
1984	剥片	2231-14 ピット	3.9	2.5	0.2	1.91	欠損	×	○	なし		不明	調査時中西P4
1985	RF	2231-14 ピット	2.2	1.8	0.5	1.77	完形	×	×	なし		不明	調査時中西P4
1986	RF	2231-14 ピット	1.9	2.4	0.8	3.25	完形	×	○	自然面		順目	調査時中西P4
1987	RF	2231-14 ピット	1.5	2.1	0.3	0.93	欠損	×	◎	なし		不明	調査時中西P4
1988	剥片	2231-14 ピット	1.7	2.5	0.7	1.44	欠損	○	○	なし		順目	調査時中西P4 金山?
1989	RF	2231-14 ピット	2.8	1.6	1.0	4.11	欠損	○	○	単剥離面	127	不明	調査時中西P4
1990	剥片	2231-14 ピット	2.5	2.3	0.4	2.03	完形	×	○	自然面	85	半順目	調査時中西P4 僅かに折れる
1991	RF	2231-14 ピット	3.2	3.0	0.7	6.58	欠損	○	○	なし		順目	調査時中西P4
1992	RF	2231-14 ピット	2.8	2.6	0.6	4.59	欠損	×	○	なし		順目	調査時中西P4
1993	剥片	2231-14 ピット	2.5	3.4	0.2	1.8	完形	×	○	複剥離面	127	不明	調査時中西P4
1994	中型尖頭器		5.1	1.9	0.9	11.99	完形	○	×	なし		不明	未成品?
1995	剥片		4.1	3.2	0.9	9.14	完形	×	○	なし		不明	
1996	RF		2.1	3.4	0.9	4.58	欠損	○	○	なし		不明	
1997	剥片		2.8	3.3	0.7	4.72	完形	○	○	自然面	111	順目	
1998	剥片		1.3	2.6	0.6	1.47	完形	○	○	なし		不明	
1999	RF		3.1	2.2	0.6	4.81	欠損	×	○	自然面	103	順目	スクレイパー?
2000	剥片		3.9	2.1	0.7	6.52	完形	○	○	自然面		不明	
2001	RF		3.0	4.1	0.4	3.51	欠損	×	○	複剥離面	95	不明	
2002	剥片		4.9	3.3	0.9	11.53	完形	○	○	単剥離面	120	順目	
2003	RF		2.4	2.3	0.4	2.33	欠損	×	○	単剥離面	66	順目	微剥離
2004	剥片		1.7	0.3	0.3	0.69	欠損	×	○	単剥離面	134	不明	
2005	剥片		1.8	2.2	0.3	0.93	完形	×	○	自然面		不明	
2006	剥片		2.0	2.6	0.5	1.71	完形	×	○	複剥離面	120	不明	
2007	RF		3.6	4.1	0.8	7.64	完形	×	◎	なし		不明	
2008	剥片		3.1	3.3	0.7	5.17	完形	×	○	自然面	83	半順目	
2009	RF		3.9	2.1	0.8	5.64	完形	○	○	なし		不明	金山?
2010	RF		2.9	3.3	0.7	5.17	欠損	○	○	自然面		順目	打点が切れる
2011	RF		3.3	3.9	0.7	8.61	完形	○	○	単剥離面	100	不明	
2012	RF		3.7	1.9	0.7	3.79	完形	×	×	なし		不明	僅かに折れる
2013	RF		3.2	3.4	1.1	6.96	完形	×	○	なし		不明	
2014	剥片		1.6	2.5	0.2	0.68	欠損	×	○	なし		不明	打面が折れる
2015	剥片		2.9	3.1	0.5	3.3	完形	×	○	単剥離面	105	不明	
2016	剥片		2.3	2.8	0.4	1.6	完形	×	○	なし		不明	打面が折れる
2017	スクレイパー		4.2	4.9	0.9	17.39	欠損	○	○	なし		不明	
2018	スクレイパー		2.6	4.3	0.7	12.87	完形	○	×	なし		不明	
2019	石鏃		3.7	2.5	0.5	4.41	欠損	×	○	なし		不明	未成品
2020	RF		2.4	1.5	0.5	1.98	欠損	○	○	線状		順目	両極剥片
2021	RF		2.3	1.3	0.3	0.96	完形	×	○	線状		不明	

竪穴住居19出土サヌカイト観察表 (12)

整理番号	器種	出土地点	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面	ポジティブ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
2022	剥片		3.3	2.1	1.6	8.03	完形	○	○		なし		半順目	新欠有
2023	RF		2.3	2.6	0.8	3.13	完形	×	○		自然面		半順目	打点が切れる
2024	RF		2.1	1.5	0.5	1.25	完形	×	○		なし			不明
2025	剥片		2.4	2.8	0.5	3.28	完形	×	○		単剥離面	82	順目	打面に自然面有
2026	剥片		2.4	2.8	0.5	3.27	完形	○	○		複剥離面	117	順目	
2027	剥片		1.3	2.1	0.2	0.8	完形	×	○		自然面	98	順目	僅かに折れる
2028	剥片		1.3	2.1	0.8	0.27	完形	○	○		線状			不明
2029	剥片		1.7	3.2	0.3	1.37	完形	×	○		単剥離面			不明
2030	剥片		2.2	2.5	0.5	2.08	完形	○	○		複剥離面	105	半順目	
2031	RF		2.2	2.9	0.3	1.38	完形	×	○		なし			不明
2032	剥片		1.5	2.1	0.3	0.79	完形	○	○		なし			不明
2033	剥片		3.1	2.8	0.4	3.36	欠損	×	○		単剥離面	146	不明	打面が折れる
2034	剥片		2.7	2.9	0.5	1.96	完形	×	○		自然面	90	不明	
2035	剥片		1.6	2.3	0.5	1.53	完形	○	○		なし			不明
2036	RF		1.4	2.7	0.2	0.74	欠損	×	○		なし			不明
2037	剥片		2.5	2.3	0.5	2.9	完形	○	○		自然面	97	逆目	
2038	剥片		2.0	1.6	0.4	1.08	完形	×	○		線状			不明
2039	RF		2.5	2.7	0.8	6.11	欠損	○	○		なし		順目	
2040	剥片		2.0	2.1	0.4	1.85	完形	○	○		自然面		順目	剥離角は計測不可
2041	剥片		2.2	1.8	0.3	0.94	完形	×	○		自然面	88	順目	
2042	剥片		1.4	2.3	0.3	0.77	完形	×	○		単剥離面		不明	石鏃未成品？ 僅かに折れる
2043	剥片		2.5	1.4	0.3	1.11	欠損	×	○		複剥離面	80	不明	
2044	剥片	2231-14 ビット	4.6	4.8	1.6	0.49	完形	×	○		単剥離面	140	不明	調査時中西P4
2045	RF	2231-14 ビット	1.3	2.0	0.2	28.28	完形	×	○		自然面	118	半順目	調査時中西P4
2046	剥片		4.3	3.6	1.1	15.58	完形	×	○		複剥離面	148	不明	自然面もある
2047	スクレイパー		4.3	2.9	0.7	7.55	完形	○	○		なし			不明
2048	RF		3.2	4.7	1.2	13.75	完形	○	○		複剥離面	127	不明	
2049	RF		2.6	4.1	0.5	5.42	完形	○	○		自然面			不明
2050	RF		2.5	3.7	0.9	5.91	完形	×	○		なし			不明
2051	RF		2.8	2.8	0.4	2.71	完形	×	○		自然面	95	順目	新欠有
2052	石鏃		2.8	2.1	0.4	3.22	欠損	×	○		なし			不明
2053	RF		2.4	3.6	0.7	5.78	欠損	○	○		なし			不明
2054	RF		3.1	2.3	0.6	3.69	欠損	×	○		なし			不明
2055	剥片		3.7	3.4	0.3	3.48	完形	×	○		複剥離面	130	不明	ポイントフレイクか？
2056	剥片		2.2	2.6	0.3	1.38	欠損	×	○		なし			不明
2057	RF		2.6	2.9	0.7	5.78	完形	×	○		自然面	102	順目	
2058	石鏃		2.7	2.0	0.5	2.97	完形	×	○		自然面	120	順目	新欠有、先欠未成品
2059	RF		1.7	2.4	0.5	2.44	欠損	○	○		なし		半順目	
2060	RF		2.8	5.2	0.8	6.42	完形	×	○		自然面	117	順目	
2061	剥片		4.5	3.8	0.8	8.93	完形	×	○		自然面	118	半順目	
2062	RF		5.2	3.0	0.8	11.47	欠損	○	×		不明			不明
2063	RF		2.1	3.5	0.5	4.03	欠損	×	○		複剥離面	122	不明	
2064	RF		2.9	2.5	0.4	1.82	欠損	×	○		なし			不明
2065	剥片		2.4	2.8	0.3	1.39	完形	×	○		自然面	132	順目	
2066	RF		2.4	1.9	0.4	1.19	完形	×	○		単剥離面	143	不明	微剥離
2067	剥片		2.9	1.4	0.3	0.81	完形	×	○		自然面	106	順目	
2069	RF		3.4	3.6	0.6	7.03	欠損	○	○		なし		順目	打面が折れる
2070	RF		3.0	3.8	0.6	5.37	欠損	×	○		なし			不明
2071	RF		2.9	3.0	0.6	5.12	完形	×	○		なし			不明
2072	RF		4.9	1.9	0.5	3.41	完形	×	×		なし			不明
2073	剥片		3.1	2.7	0.4	2.1	完形	×	○		複剥離面	134	不明	
2074	剥片		3.8	2.4	0.3	2.2	欠損	×	○		自然面			不明
2075	石鏃		2.4	2.4	0.4	2.03	完形	×	○		なし		不明	未成品？ 僅かに折れる
2076	RF		2.2	4.4	1.2	11.12	完形	×	○		自然面	138	順目	僅かに折れる

竪穴住居19出土サヌカイト観察表(13)

整理番号	器種	出土地点	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面 ボジタイプ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
2077	RF		5.1	3.6	1.1	12.34	欠損	×	○	なし		不明	
2078	RF		4.1	1.9	0.4	1.56	欠損	×	○	自然面	125	不明	
2079	RF		1.8	2.2	0.3	1.33	欠損	○	○	自然面		不明	線状の真横に自然面を持つ
2080	RF		1.8	4.3	1.2	7.69	欠損	○	○	なし		順目	打面が折れる
2081	剥片		1.5	2.8	0.2	1.3	欠損	×	○	複剥離面	123	不明	
2082	RF		1.9	3.2	0.6	2.11	完形	○	○	なし		半順目	
2083	剥片		3.1	3.1	0.6	5.23	完形	×	○	単剥離面	123	不明	
2084	剥片		2.4	2.0	0.3	1.17	欠損	×	○	自然面	90	半順目	
2085	剥片		4.1	2.2	0.5	3.63	欠損	×	○	なし		不明	
2086	剥片		3.5	2.6	0.6	4.75	欠損	○	×	なし		不明	
2087	剥片		1.3	2.2	0.3	0.95	完形	×	○	複剥離面	100	不明	側面が僅かに折れる
2088	RF		3.8	1.6	0.4	1.93	完形	×	○	なし		不明	新欠有
2089	剥片		2.4	2.4	0.3	1.97	完形	×	○	単剥離面	119	不明	
2090	RF		1.5	2.8	0.4	1.42	欠損	×	○	なし		不明	打面が折れる
2091	剥片		1.9	3.7	0.2	1.85	完形	×	○	複剥離面	122	不明	僅かに折れる
2092	剥片		2.3	2.6	0.4	2.21	完形	○	○	なし		不明	
2093	RF		3.1	3.3	0.5	6.58	欠損	○	○	自然面	112	順目	スクレイパー？
2094	スクレイパー？		2.2	2.6	0.8	5.37	欠損	×	×	なし		不明	
2095	RF		3.0	2.0	0.6	4.21	欠損	×	○	なし		不明	
2096	RF		1.9	3.5	0.4	2.73	完形	×	○	なし		不明	石鏃未成品？
2097	剥片		1.5	2.5	0.3	1.03	完形	×	○	複剥離面	88	不明	
2098	尖頭器？		3.0	2.2	0.9	4.49	完形	×	×	なし		不明	未成品？
2099	剥片		2.4	2.8	0.4	2.16	完形	×	○	複剥離面	118	不明	
2100	RF		3.4	3.0	0.3	3.79	欠損	×	×	なし		不明	
2101	剥片		2.0	2.6	0.3	0.9	完形	×	○	単剥離面	136	不明	
2102	剥片		2.5	2.4	0.4	2.12	欠損	○	○	なし		順目	
2103	RF		3.7	1.7	0.5	3.04	欠損	×	×	なし		不明	
2104	剥片		3.1	1.8	0.4	1.74	欠損	×	○	なし		不明	
2105	RF		2.8	4.0	0.7	4.23	欠損	×	○	なし		不明	
2106	石鏃		2.5	3.6	0.4	3.29	完形	×	○	なし		不明	未成品、新欠有
2107	RF		3.7	1.7	0.6	3.07	完形	○	○	自然面	70	順目	
2108	RF		4.5	4.1	0.7	7.54	完形	×	◎	なし		不明	微剥離
2109	RF		3.4	1.5	0.5	2.25	完形	×	○	自然面	96	半順目	
2110	剥片		2.8	1.5	0.4	2.53	欠損	×	×	なし		不明	
2111	剥片		3.7	4.7	0.9	16.81	欠損	○	○	自然面	151	不明	
2112	剥片		3.1	4.3	1.0	7.06	完形	○	○	なし		逆目	僅かに新欠をもつ
2113	剥片		1.4	2.9	0.3	1.07	完形	×	○	自然面	96	順目	
2114	RF		3.3	3.5	0.4	3.85	欠損	×	○	なし		不明	
2116	剥片		1.9	2.8	0.3	1.24	欠損	×	○	なし		不明	
2117	剥片		2.2	2.0	0.2	0.8	完形	×	○	なし		不明	僅かに新欠をもつ
2118	剥片		2.0	3.0	0.5	2.61	完形	×	○	自然面	123	不明	
2119	RF		2.7	3.0	0.4	2.95	完形	○	○	自然面	122	不明	
2120	RF		3.4	2.9	0.9	8.42	完形	○	○	なし		順目	
2121	RF		2.1	4.8	0.5	5.1	欠損	×	○	なし		不明	
2122	剥片		2.7	1.8	1.4	3.94	欠損	×	×	なし		不明	
2123	RF		3.3	2.0	0.3	2.16	完形	×	○	単剥離面	128	不明	
2124	RF		4.1	1.9	0.3	1.79	欠損	×	○	なし		不明	
2125	RF		3.0	2.5	0.4	3.17	欠損	×	○	複剥離面	146	不明	
2126	剥片		2.4	2.3	0.2	1.39	欠損	×	○	なし		不明	
2127	RF		2.9	2.9	0.3	1.9	欠損	○	×	なし		不明	
2128	剥片		3.2	1.3	0.7	2.66	完形	○	○	自然面	70	逆目	僅かに新欠有
2129	剥片		2.6	3.6	0.6	4.32	完形	○	○	線状		半順目	複剥離面もある
2130	RF		2.5	2.8	0.4	2.69	欠損	○	○	なし		順目	
2131	剥片		3.2	2.1	0.4	2.16	欠損	×	◎	なし		不明	打面が折れる
2132	剥片		1.7	3.1	0.7	3.13	欠損	○	○	自然面	102	順目	
2133	RF		2.0	3.3	0.2	1.97	欠損	×	○	自然面	122	順目	

竪穴住居19出土サヌカイト観察表 (14)

整理番号	器種	出土地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	状態	自然面	剥離面	ポジティブ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
2134	剥片		2.2	1.7	0.3	0.81	完形	×	○		自然面	88	不明	僅かに折れる
2135	剥片		2.4	3.4	0.6	3.93	完形	×	○		複剥離面	116	不明	
2136	剥片		1.9	2.2	0.7	1.34	完形	×	○		自然面	122	半順目	
2137	剥片		1.2	2.9	0.3	1.08	欠損	×	○		なし		不明	
2138	剥片		3.6	1.6	0.4	2.59	欠損	○	○		なし		順目	
2139	剥片		1.8	3.2	0.6	3.37	完形	×	○		複剥離面	96	不明	僅かに新欠有
2140	RF		2.9	1.2	0.2	0.72	完形	×	◎		単剥離面	97	不明	
2141	剥片		2.5	2.6	0.5	2.55	完形	×	○		自然面	128	順目	
2142	RF		2.6	2.6	0.3	2.14	欠損	×	○		単剥離面	70	不明	微剥離
2143	RF		2.1	2.2	0.4	1.86	完形	×	◎		自然面	132	不明	ポイントフレイクか？
2144	剥片		2.3	1.7	0.2	0.76	完形	×	◎		単剥離面	125	不明	
2145	剥片		1.9	2.7	0.3	1.29	完形	○	○		単剥離面	127	順目	打面に自然面有
2146	石錐？		2.0	2.5	0.4	1.49	完形	×	○		なし		不明	未成品？
2147	剥片		1.7	2.5	0.5	1.16	完形	×	○		自然面	120	半順目	
2148	剥片		1.2	2.6	0.3	0.85	欠損	×	○		なし		不明	
2149	剥片		2.3	1.1	0.3	0.82	完形	○	○		なし		不明	僅かに折れる
2150	剥片		2.2	1.9	0.2	0.88	完形	×	○		線状		不明	両極剥片
2151	剥片		2.1	2.0	0.3	1.15	完形	×	○		なし		不明	
2152	RF		2.0	2.2	0.7	4.01	欠損	○	○		自然面	99	順目	
2153	RF		2.1	3.5	0.6	3.35	完形	×	○		自然面	88	順目	微剥離
2154	剥片		1.3	2.0	0.2	0.56	完形	×	○		なし		不明	
2155	RF		1.5	2.8	0.5	2.01	完形	×	○		複剥離面	138	不明	
2156	剥片		1.2	2.0	0.2	0.57	欠損	×	○		線状		不明	
2157	RF		1.4	2.3	0.2	0.58	完形	×	○		なし		不明	微剥離
2158	剥片		1.4	2.8	0.3	1.06	完形	○	○		複剥離面	105	順目	打面に自然面有
2159	RF		2.0	2.2	0.5	1.88	完形	×	○		なし		不明	
2160	RF		2.4	1.0	0.6	1.7	完形	○	○		複剥離面	98	順目	打面に自然面有
2161	剥片		1.6	2.2	0.4	1.1	完形	×	○		複剥離面	80	順目	
2162	剥片		1.8	2.9	0.2	0.73	完形	×	○		複剥離面	136	不明	
2163	剥片		2.1	1.5	0.2	0.75	欠損	×	○		なし		不明	
2164	RF		2.3	2.0	0.3	1.43	欠損	×	○		なし		不明	
2165	RF		1.2	2.2	0.2	0.61	完形	×	○		なし		不明	僅かに欠損
2166	剥片		1.8	2.7	0.3	1.03	完形	×	○		単剥離面	125	不明	
2167	RF		1.1	2.2	0.3	0.77	欠損	×	○		なし		不明	
2168	剥片		1.4	2.5	0.2	0.75	欠損	×	○		なし		不明	
2169	剥片		1.4	2.6	0.3	0.75	欠損	×	○		なし		不明	
2170	剥片		1.7	2.8	0.3	1.34	完形	×	○		なし		不明	
2171	剥片		2.3	1.8	0.2	0.85	完形	×	○		複剥離面	101	不明	
2172	RF		2.2	1.8	0.3	0.78	完形	×	○		なし		不明	
2173	RF		1.2	2.0	0.4	0.97	欠損	×	◎		なし		不明	
2174	剥片		1.5	2.0	0.3	0.67	完形	×	○		複剥離面	116	不明	
2175	剥片		1.4	2.2	0.2	0.72	完形	○	○		自然面		順目	
2176	剥片		1.1	2.3	0.2	0.49	完形	○	○		なし		不明	
2177	スクレイパー		7.1	4.9	1.3	57.54	完形	○	○		なし		不明	
2178	石核		4.4	4.2	1.5	28.08	完形	○	×		なし		不明	
2179	剥片		5.0	2.4	0.7	7.44	完形	×	○		自然面	83	不明	
2180	RF		5.4	2.8	1.4	22.9	完形	×	○		なし		不明	
2181	RF		2.0	5.3	0.8	8.98	完形	×	○		なし		不明	
2182	剥片		3.9	2.8	0.5	5.07	完形	○	○		なし		順目	打面が折れる
2183	RF		4.5	2.9	0.7	9.37	完形	×	○		なし		不明	
2184	スクレイパー		3.8	5.6	0.8	14.9	欠損	○	○		自然面	126	順目	
2185	RF		3.7	3.2	1.1	10.27	欠損	×	○		なし		不明	
2186	RF		5.3	2.0	1.2	7.24	完形	○	○		なし		逆目	
2187	剥片		1.3	2.6	0.8	8.27	完形	×	○		自然面	136	不明	
2188	RF		3.9	4.0	1.1	14.62	完形	×	◎		自然面	119	順目	
2189	剥片		3.8	3.6	0.5	5.17	完形	×	○		自然面	122	不明	
2190	スクレイパー		3.0	4.6	1.0	13.43	欠損	×	◎		なし		不明	
2191	中型尖頭器？		4.5	3.4	1.1	10.76	完形	×	×		なし		不明	未成品？

竪穴住居19出土サヌカイト観察表（15）

整理番号	器種	出土地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面 ボジタイプ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
2192	RF		3.8	4.2	0.7	8.51	完形	×	○	自然面	105	順目	
2193	剥片		3.3	1.0	0.6	1.64	完形	○	○	点状		不明	
2194	RF		2.7	3.2	0.8	6.27	完形	×	○	なし		不明	
2195	RF		2.4	4.3	0.3	4.34	欠損	×	○	なし		不明	
2196	石槍		3.0	2.8	0.7	5.35	欠損	○	×	なし		不明	未成品 先端部
2197	RF		2.1	3.7	1.2	8.11	完形	○	○	なし		順目	
2198	RF		4.4	1.9	0.9	3.44	完形	○	×	なし		不明	新欠有
2199	RF		3.2	4.7	0.8	8.95	完形	○	○	複剥離面	92	不明	
2200	剥片		3.8	2.2	0.7	4.76	完形	○	○	自然面	118	不明	
2201	RF		1.5	3.1	1.2	5.71	完形	○	○	なし		逆目	
2202	剥片		5.0	4.7	0.8	18.72	欠損	×	○	なし		不明	風化
2203	RF		4.1	6.5	1.5	35.67	完形	○	○	自然面	120	不明	
2204	剥片		3.3	2.8	0.7	9.96	欠損	○	○	なし		順目	
2205	RF		3.2	3.8	1.1	12.93	欠損	×	○	なし		不明	
2206	剥片		3.5	4.0	0.9	9.04	欠損	×	○	単剥離面	126	不明	
2207	剥片		3.8	4.8	0.8	16.85	欠損	○	○	なし		逆目	
2208	RF		2.5	4.7	0.7	6.64	欠損	×	○	自然面		順目	打面に自然面有
2209	尖頭器？		2.5	3.1	1.1	5.95	完形	○	×	なし		不明	未成品？
2210	中型尖頭器？		3.0	4.3	0.8	11.65	欠損	○	×	なし		不明	未成品？
2211	石槍		3.4	3.8	1.2	13.2	欠損	○	○	なし		不明	未成品、基部残 基端自然面
2212	RF		3.7	3.2	0.6	6.38	完形	×	×	なし		不明	
2213	RF		2.4	3.0	0.4	2.1	完形	×	×	なし		不明	
2214	RF		2.5	4.4	0.3	4.6	完形	×	○	複剥離面	116	不明	新欠有
2215	スクレイパー		4.0	6.0	1.1	25.89	完形	×	○	なし		不明	
2216	RF		1.5	3.4	0.3	2.15	欠損	×	○	なし		不明	
2217	RF		2.2	4.1	0.2	2.4	欠損	×	○	複剥離面	130	不明	微剥離
2218	石核		5.8	4.4	1.7	41.29	完形	○	×	なし		不明	
2219	RF		3.9	3.3	0.8	7.93	欠損	×	○	なし		不明	
2220	剥片		1.8	6.8	1.1	8.51	欠損	○	○	なし		半順目	
2221	剥片		2.2	2.2	0.2	1.31	完形	×	◎	なし		不明	
2222	剥片		1.9	2.6	0.3	1.48	完形	×	○	自然面		順目	剥離角計測不可
2223	RF		3.1	3.1	0.8	5.9	完形	○	○	なし		不明	微剥離
2224	RF		2.8	2.8	0.4	3.96	完形	×	○	なし		不明	
2225	剥片		2.3	4.9	0.4	5.34	欠損	○	○	なし		不明	
2226	剥片		2.5	2.4	0.4	1.73	完形	○	○	なし		半順目	
2227	剥片		1.8	2.5	0.3	1.52	完形	×	○	自然面	100	順目	僅かに折れる
2228	RF		1.6	2.6	0.2	0.91	完形	×	○	なし		不明	
2229	RF		3.9	5.1	0.7	10.72	完形	×	○	単剥離面	121	順目	打面に自然面有、 微剥離
2230	剥片		2.2	2.9	0.9	4.51	完形	×	○	自然面	125	半順目	
2231	石錐		1.8	3.4	0.6	3.03	完形	×	○	自然面	77	順目	未成品
2232	剥片		1.7	2.2	0.4	1.66	完形	○	○	なし		不明	
2233	RF		2.2	3.0	0.5	2.59	完形	×	○	自然面	100	半順目	微剥離
2234	剥片		3.4	1.8	0.7	1.82	欠損	×	○	なし		不明	
2235	石鏃		2.4	2.2	0.3	1.86	欠損	×	◎	自然面		不明	未成品？先自然 面、基部欠、剥離 角計測不可
2236	RF		2.6	2.0	0.3	1.53	完形	×	◎	線状		不明	新欠有
2237	剥片		1.7	2.4	0.2	1	完形	×	○	複剥離面	128	不明	
2238	RF		1.7	2.6	0.6	2.06	完形	×	○	自然面	94	順目	
2239	剥片		3.1	2.2	0.3	2.15	完形	×	○	単剥離面	113	不明	
2240	RF		1.9	2.6	0.4	1.57	完形	×	○	なし		不明	
2241	剥片		2.1	2.8	0.6	2.86	欠損	○	○	なし		不明	
2242	RF		2.4	1.6	0.3	1.11	完形	×	○	なし		不明	僅かに折れる
2243	スクレイパー		3.6	3.5	0.2	4.12	完形	○	○	なし		不明	僅かに折れる
2244	剥片		2.3	3.8	0.6	5.16	完形	×	○	自然面	100	順目	新欠有
2245	RF		2.5	1.2	0.4	1.07	完形	×	×	なし		不明	
2246	RF		2.0	2.4	0.5	1.44	完形	×	○	複剥離面	127	不明	

竪穴住居19出土サヌカイト観察表 (16)

整理番号	器種	出土地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	状態	自然面	剥離面	ポジティブ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
2247	RF		1.7	2.3	0.3	1.27	欠損	×	○		なし		不明	
2248	RF		2.3	1.6	0.2	1.09	欠損	×	○		なし		不明	
2249	RF		2.0	1.4	0.3	0.68	完形	○	○		なし		不明	
2250	剥片		2.6	3.4	0.3	2.73	完形	×	◎		なし		不明	
2251	剥片		1.9	2.0	0.3	0.92	欠損	×	◎		なし		不明	
2252	剥片		2.5	2.0	0.4	1.54	完形	×	○		自然面	88	不明	
2253	剥片		3.2	3.0	0.9	5.31	欠損	○	○		なし		順目	
2254	RF		2.4	1.7	0.4	1.57	欠損	○	○		なし		不明	
2255	剥片		1.6	2.5	0.5	1.95	完形	×	○		自然面	80	不明	
2256	RF		2.0	3.4	0.4	2.47	完形	×	○		なし		不明	
2257	RF		1.8	2.6	0.4	2.18	完形	×	○		複剥離面	127	不明	
2258	RF		2.7	3.9	0.5	4.2	欠損	○	○		なし		不明	
2259	RF		2.3	3.5	0.7	2.87	欠損	×	○		なし		不明	
2260	剥片		3.1	2.3	0.5	1.89	完形	○	○		線状		半順目	
2261	剥片		1.8	3.1	0.5	3.1	欠損	○	○		なし		不明	
2262	RF		1.8	2.5	0.5	1.51	欠損	×	○		なし		不明	
2263	剥片		2.2	3.1	0.3	2.25	欠損	×	○		なし		不明	
2264	剥片		3.0	1.9	0.6	2.91	完形	○	×		なし		不明	
2265	RF		3.6	1.2	0.4	1.57	欠損	×	○		なし		不明	
2266	RF		1.7	2.9	0.6	2.51	完形	○	○		なし		順目	
2267	剥片		2.7	1.0	0.6	1.28	完形	○	○		なし		不明	
2268	剥片		1.6	2.4	0.2	0.73	完形	×	○		線状		不明	
2269	剥片		2.3	1.9	0.3	1.15	完形	×	○		自然面	98	不明	
2270	剥片		1.8	2.0	0.3	0.83	完形	○	○		線状		不明	両極剥片
2272	剥片		1.9	2.4	0.3	1.37	欠損	○	○		複剥離面	92	不明	打面に自然面有
2273	剥片		1.6	2.1	0.3	0.83	欠損	×	○		なし		不明	
2274	剥片		1.4	2.1	0.3	0.93	欠損	○	○		なし		不明	
2275	剥片		2.0	1.4	0.3	0.68	完形	×	○		なし		不明	
2276	石鏃		4.2	2.7	1.0	11.08	完形	×	○		なし		不明	未成品?
2277	スクレイパー		2.0	3.2	0.4	2.61	完形	×	○		なし		不明	微剥離
2278	石鏃		2.4	2.0	0.3	1.43	欠損	×	○		なし		不明	未成品 先・基部欠
2279	スクレイパー		2.6	2.7	0.4	3.11	欠損	×	○		不明		不明	
2280	RF		2.0	2.4	0.6	2.43	欠損	×	○		なし		不明	スクレイパー?、 微剥離
2281	剥片		7.1	4.8	2.0	42.51	完形	○	○		自然面	119	半順目	
2282	石核		7.7	3.9	2.5	56.76	完形	◎	×		なし		不明	
2283	剥片		2.1	2.8	0.5	1.97	欠損	×	○		なし		不明	
2284	RF	壁溝遺物12	4.9	5.1	1.4	32.9	欠損	○	○		自然面	113	順目	
2285	RF	壁溝遺物12	4.2	3.6	0.6	7.95	欠損	×	○		なし		順目	
2286	剥片	壁溝遺物12	2.8	2.4	0.9	5.36	完形	○	×		なし		不明	
2287	剥片	壁溝遺物12	2.1	2.9	0.7	3.72	完形	○	○		複剥離面	113	逆目	
2288	剥片	壁溝遺物12	3.2	3.1	0.4	4.34	欠損	×	○		なし		不明	微細剥離
2289	剥片	壁溝遺物12	2.3	2.7	0.6	3.21	完形	○	○		複剥離面	124	順目	
2290	尖頭器?	壁溝遺物12	3.6	3.3	0.9	11.75	欠損	○	○		なし		半順目	未成品?
2291	剥片	壁溝遺物12	1.8	3.2	0.4	2.26	欠損	×	◎		複剥離面		不明	
2292	RF	壁溝遺物12	3.4	3.2	0.3	4.65	完形	×	○		なし		不明	新欠有
2293	中型尖頭器	壁溝遺物12	2.4	3.4	0.8	5.41	欠損	×	○		なし		不明	未成品?
2294	剥片	壁溝遺物12	3.0	2.1	0.8	3.81	欠損	○	○		複剥離面	139	不明	打面に自然面あり
2295	RF	壁溝遺物12	2.2	2.3	0.7	3.31	欠損	×	○		自然面	92	順目	
2296	石鏃	壁溝遺物12	2.2	1.8	0.4	1.59	欠損	○	×		なし		不明	未成品? 基端自然面
2297	剥片	壁溝遺物12	2.2	1.7	0.3	1.09	欠損	○	○		単剥離面		不明	打面剥離面有
2298	RF	壁溝遺物12	2.1	2.0	0.6	2.23	完形	×	○		なし		不明	新欠
2299	剥片	壁溝遺物12	1.6	3.2	0.3	1.44	完形	×	○		なし		不明	
2300	剥片	壁溝遺物12	2.0	2.4	0.3	1.34	欠損	×	○		単剥離面	94	不明	整理番号2302と 新欠折れ部接合
2301	剥片	壁溝遺物12	1.4	2.2	0.2	0.51	欠損	×	○		なし		不明	

竪穴住居19出土サヌカイト観察表(17)

整理番号	器種	出土地点	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面 ボジタイプ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
2302	剥片	壁溝遺物12	1.3	2.5	0.2	0.81	欠損	○	○	なし		不明	整理番号2300と新欠折れ部接合
2303	RF	壁溝遺物12	1.3	2.1	0.2	0.65	欠損	×	○	なし		不明	
2304	剥片		5.0	4.6	0.9	21.6	完形	×	○	自然面		順目	微剥離
2305	スクレイパー		5.7	2.9	0.8	14.73	完形	○	○	なし		順目	
2306	RF		1.8	2.2	0.4	1.53	完形	○	○	なし		不明	
2307	剥片		2.0	2.0	0.3	1.1	完形	×	◎	複剥離面	118	不明	
2308	RF		2.0	3.7	0.6	4.59	完形	×	○	なし		不明	打面欠損
2309	RF		2.0	2.5	0.3	1.23	完形	×	○	線状		不明	微剥離
2310	RF		1.8	2.0	0.6	1.17	完形	×	×	なし		順目	
2311	剥片		1.8	2.6	0.3	1.16	完形	○	○	単剥離面	135	順目	僅かに折れる
2312	剥片		2.3	1.3	0.5	1.1	完形	×	×	なし		不明	
2313	尖頭器?		1.3	2.0	0.9	1.3	完形	×	×	なし		不明	未成品?、小片
2314	RF		3.0	1.9	0.7	2.95	完形	○	×	なし		不明	
2315	剥片		1.9	2.8	0.4	1.96	完形	○	○	複剥離面	110	不明	
2316	RF		1.2	2.2	0.4	0.68	完形	×	○	複剥離面	114	不明	微剥離
2317	石鏃		3.3	2.3	0.4	2.73	欠損	×	◎	なし		不明	未成品 光沢を持っているため被熱
2318	剥片		2.6	1.2	0.3	0.81	完形	○	○	なし		不明	
2319	剥片		2.0	2.3	0.4	1.54	完形	×	○	線状		不明	
2320	RF		1.2	2.0	0.4	0.81	完形	○	○	なし		不明	
2321	剥片		1.3	2.1	0.4	0.7	完形	×	○	複剥離面	125	不明	
2323	剥片		1.5	2.2	0.3	0.79	欠損	○	○	自然面	143	半順目	
2324	剥片		1.2	2.4	0.2	0.53	完形	×	○	複剥離面	124	不明	僅かに折れる
2325	剥片		1.0	2.0	0.2	0.36	欠損	×	○	なし		不明	
2326	RF	2231-37 ピット	6.1	7.9	2.3	70.76	完形	○	○	単剥離面	122	半順目	調査時西P30
2327	RF	2231-37 ピット	1.8	2.7	1.1	4.69	完形	○	○	なし		順目	調査時西P30
2328	剥片	2231-34 ピット	2.6	3.0	0.4	3.42	欠損	×	○	なし		不明	調査時西P16
2329	RF	2231-14 ピット	4.5	4.6	1.2	18.81	完形	○	○	自然面		不明	調査時中西P4
2330	剥片	壁溝遺物27	2.0	2.3	0.4	2.49	欠損	×	○	なし		不明	
2331	スクレイパー	2231-31 ピット	3.4	2.8	0.6	5.3	欠損	○	◎	なし		不明	調査時西P11
2332	RF	2231-32 ピット	3.5	4.9	1.6	21.34	完形	○	○	なし		半順目	調査時西P12
2333	RF	2231-36 ピット	5.1	6.0	2.0	42.64	完形	○	○	なし		順目	調査時西P19
2334	スクレイパー	中層	4.9	5.8	1.0	27.43	完形	○	○	自然面	108	順目	微剥離、新欠有
2335	剥片		4.2	2.4	0.4	2.48	完形	×	○	自然面		不明	
2336	スクレイパー	2231-35 ピット	5.7	5.3	1.2	24.78	欠損	×	○	なし		順目	調査時西P29
2337	RF	2231-35 ピット	4.1	3.5	0.6	9.93	完形	なし	○	なし		順目	調査時西P29 打面に自然面もつ 僅かに折れる
2338	RF	東側高まり部分	4.1	2.7	0.7	6.51	完形	×	○	自然面	118	不明	僅かに折れる
2339	剥片	東側高まり部分	1.9	2.5	0.4	2.32	欠損	×	○	なし		不明	打面が折れる
2340	剥片	東側高まり部分	2.8	4.0	0.5	4.6	欠損	○	○	自然面	121	順目	
2342	剥片	東側高まり部分	2.6	3.1	0.6	4.41	完形	○	○	自然面	74	順目	
2343	剥片	東側高まり部分	2.2	2.4	0.4	1.66	欠損	×	◎	なし		不明	
2344	剥片	東側高まり部分	2.4	2.9	0.6	4.88	欠損	×	○	自然面	89	順目	
2345	RF	東側高まり部分	2.2	2.0	0.5	1.72	欠損	×	○	なし		不明	

竪穴住居19出土サヌカイト観察表 (18)

整理番号	器種	出土地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	状態	自然面	剥離面	ポジティブ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
2346	剥片	2231-33 ピット周辺	1.9	2.2	0.4	1.05	欠損	○	○		なし		順目	調査時西P26
2347	RF	2231-6 ピット	2.3	2.9	0.3	1.84	欠損	×	○		なし		不明	調査時西P6
2348	RF	2231-6 ピット	3.1	4.8	0.6	5.94	欠損	×	○		なし		不明	調査時西P6
2349	不明	2231-6 ピット	3.8	2.4	0.6	7.37	欠損	×	×		なし		不明	調査時西P6 未成品?
2350	剥片	2231-6 ピット	1.5	2.6	0.4	1.32	完形	○	○		単剥離面	123	不明	調査時西P6
2351	RF	壁溝遺物19	1.7	3.0	0.4	1.9	欠損	○	○		なし		不明	
2352	剥片	壁溝遺物19	2.0	1.9	0.4	1.09	完形	×	◎		なし		不明	
2353	剥片	壁溝遺物19	5.5	4.3	0.8	19.57	欠損	×	○		自然面		順目	
2354	剥片	壁溝遺物19	2.5	3.8	0.8	7.14	完形	×	○		自然面	118	順目	
2355	剥片	2231-7 ピット	1.8	4.5	0.7	5.76	完形	×	○		自然面	113	順目	調査時西P7 折れ
2356	RF	2231-7 ピット	2.4	2.9	0.4	3.71	欠損	○	○		なし		不明	調査時西P7
2357	RF	2231-7 ピット	3.4	3.1	0.6	5.71	完形	×	○		自然面	144	順目	調査時西P7
2358	RF	遺物29	2.9	3.0	0.7	5.26	欠損	×	○		なし		不明	微剥離
2359	剥片	遺物29	2.9	1.8	0.3	1.2	完形	×	◎		線状		不明	新欠有
2360	剥片	遺物29	3.6	2.5	0.3	2.45	欠損	×	○		単剥離面	124	不明	打面に自然面有
2361	スクレイパー	遺物29	4.5	2.6	0.6	5.86	完形	○	○		なし		不明	新欠有 片面側へ小剥離
2362	剥片	南側畔	2.4	3.8	0.4	2.61	完形	×	○		自然面	106	順目	僅かに折れる
2363	剥片	南側畔	1.9	2.0	0.3	0.99	完形	×	○		自然面	127	不明	
2364	剥片	南側畔	4.8	1.4	0.6	4.72	完形	○	○		自然面		順目	
2365	RF	南側畔	3.7	3.3	0.5	5.59	欠損	×	○		自然面	120	不明	
2366	RF	南側畔	4.0	4.6	1.2	18.03	欠損	○	○		なし		半順目	
2367	剥片	南側畔	1.4	2.5	0.4	1.15	欠損	○	○		なし		不明	
2368	剥片	南側畔	3.8	2.5	0.6	7.48	欠損	○	○		自然面	130	順目	
2369	RF	南側畔	3.3	3.6	0.8	9.27	欠損	○	○		自然面	128	順目	
2370	スクレイパー	南側畔	3.9	3.1	0.6	7.05	欠損	○	○		単剥離面	115	順目	打面に自然面有
2371	剥片	南側畔	3.8	4.1	0.8	11.53	欠損	○	○		なし		順目	
2372	RF	南側畔	2.7	3.3	0.6	5.25	欠損	×	○		なし		不明	スクレイパー?
2373	剥片	南側畔	1.9	2.1	0.2	0.53	完形	×	○		なし		不明	
2374	RF	南側畔	2.4	2.0	0.3	1.17	完形	○	○		単剥離面	134	不明	
2375	剥片	南側畔	1.6	2.1	0.2	0.74	欠損	○	◎		なし		不明	
2376	剥片	南側畔	2.3	3.9	0.6	3.56	欠損	×	○		なし		不明	
2377	剥片	南側畔	1.5	3.3	0.5	3	完形	×	○		なし		不明	
2378	剥片	南側畔	2.6	2.2	0.4	1.51	完形	×	○		なし		不明	僅かに折れる
2379	剥片	南側畔	2.2	1.4	0.2	0.75	完形	×	○		なし		不明	僅かに折れる
2380	剥片	南側畔	1.5	2.7	0.4	1.33	欠損	×	○		複剥離面	99	不明	
2381	RF	南側畔	2.9	1.9	0.5	1.91	完形	×	○		なし		不明	
2382	剥片	南側畔	1.4	2.3	0.3	1.12	完形	×	○		複剥離面	120	不明	
2383	剥片	2231-9 ピット	3.0	2.2	0.5	3.06	完形	×	○		自然面	114	順目	調査時西P9
2384	剥片	2231-9 ピット	2.1	3.2	0.4	3.54	欠損	×	○		自然面	103	順目	調査時西P9
2385	剥片	2231-9 ピット	2.8	3.4	1.0	5.74	完形	○	○		複剥離面	124	順目	調査時西P9
2386	剥片	2231-9 ピット	2.6	3.7	0.6	5.31	完形	○	○		自然面	103	順目	調査時西P9
2387	剥片	2231-9 ピット	3.3	4.2	0.6	9.2	完形	×	○		複剥離面	105	不明	調査時西P9
2388	剥片	2231-9 ピット	2.9	1.1	0.4	1.54	欠損	×	○		不明		不明	調査時西P9
2389	中型尖頭器?	2231-9 ピット	3.3	4.2	0.7	7.91	欠損	×	○		点状		不明	調査時西P9 先欠、未成品?
2390	RF	2231-9 ピット	2.5	4.9	0.8	9.51	欠損	×	○		なし		不明	調査時西P9

竪穴住居19出土サヌカイト観察表（19）

整理番号	器種	出土地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面 ボジタイプ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
2391	剥片	2231-9 ピット	1.9	2.3	0.4	1.81	完形	×	○	なし		不明	調査時西P9
2392	RF	2231-9 ピット	2.0	2.2	0.3	1.06	完形	×	○	なし		不明	調査時西P9
2393	RF	2231-9 ピット	3.7	3.2	0.7	8.04	完形	○	○	線状		順目	調査時西P9 打面に自然面有、 両極剥片
2394	剥片	側溝に面する 畔内	1.9	2.3	0.4	1.14	欠損	○	○	なし		半順目	
2395	RF	側溝に面する 畔内	2.9	4.1	1.0	15.03	欠損	○	○	なし		不明	
2396	RF	側溝に面する 畔内	2.9	5.6	0.9	15.79	欠損	×	○	自然面	109	順目	
2397	RF	側溝に面する 畔内	1.7	3.2	0.5	3.83	欠損	×	○	複剥離面	110	不明	打面に自然面有
2398	RF	側溝に面する 畔内	3.1	2.5	0.6	3.44	完形	×	○	単剥離面	106	順目	打面に自然面有
2399	剥片	側溝に面する 畔内	3.3	2.6	0.7	5.29	完形	○	×	なし		不明	
2400	石鏃	側溝に面する 畔内	4.0	2.6	0.9	8.88	完形	×	○	なし		不明	未成品
2401	剥片	側溝に面する 畔内	1.8	3.5	0.3	1.99	欠損	×	○	なし		不明	
2402	剥片	側溝に面する 畔内	3.0	4.1	0.9	9.27	完形	○	○	自然面	134	順目	新欠有
2403	剥片	側溝に面する 畔内	2.5	2.2	0.6	2.95	欠損	○	◎	なし		半順目	
2404	RF	側溝に面する 畔内	3.4	2.1	0.3	2.16	欠損	×	○	線状		不明	
2405	RF	側溝に面する 畔内	1.8	2.8	0.3	1.67	欠損	×	○	なし		不明	
2406	尖頭器？	側溝に面する 畔内	3.6	1.9	0.7	5.82	欠損	×	×	なし		不明	未成品？
2407	RF	側溝に面する 畔内	4.6	5.5	1.2	21.42	完形	×	○	なし		不明	
2408	RF	側溝に面する 畔内	2.8	2.5	0.5	2.6	完形	×	○	なし		不明	僅かに折れる
2409	RF	側溝に面する 畔内	1.3	4.2	0.3	1.71	欠損	×	○	なし		不明	
2410	RF	側溝に面する 畔内	2.0	3.7	0.6	3.13	完形	○	○	自然面	120	順目	
2411	剥片	側溝に面する 畔内	3.2	1.5	0.4	1.39	欠損	○	×	なし		不明	
2412	RF	側溝に面する 畔内	2.5	2.1	0.7	2.2	欠損	○	×	なし		不明	
2413	剥片	側溝に面する 畔内	4.3	1.4	0.9	4.07	完形	○	○	なし		不明	新欠有
2414	剥片	側溝に面する 畔内	2.4	4.2	0.3	2.98	完形	×	○	複剥離面	102	不明	
2415	剥片	側溝に面する 畔内	2.3	1.8	0.7	2.19	欠損	○	×	なし		不明	
2416	RF	側溝に面する 畔内	3.3	1.2	0.2	0.84	欠損	×	○	線状		不明	
2417	剥片	側溝に面する 畔内	1.8	2.5	0.2	1.35	欠損	○	○	なし		不明	
2421	RF	側溝に面する 畔内	1.9	2.0	0.3	1	完形	×	○	なし		不明	
2423	RF	上層南半	6.0	4.2	1.4	27.4	欠損	○	○	自然面		順目	打点なし、mf有
2424	石核	上層南半	6.3	4.2	2.7	73.55	完形	○	×	なし		不明	
2425	剥片	上層南半	5.6	6.2	1.0	28.7	完形	○	○	自然面	105	半順目	新欠有
2426	石核	上層南半	6.7	4.9	2.9	67.93	完形	○	×	なし		不明	
2427	剥片	上層南半	3.8	4.7	0.8	11.05	欠損	○	○	なし		不明	打面欠損
2428	RF	上層南半	2.7	3.6	0.5	4.13	欠損	×	○	なし		不明	
2429	剥片	上層南半	2.6	2.7	0.6	5.42	欠損	×	○	なし		不明	

竪穴住居19出土サヌカイト観察表 (20)

整理番号	器種	出土地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	状態	自然面	剥離面	ポジティブ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
2430	RF	上層南半	4.8	4.9	1.3	35.75	欠損	×	○		自然面	96	順目	
2431	スクレイパー	上層南半	1.9	4.3	0.6	4.48	欠損	×	○		なし		不明	
2432	RF	上層南半	3.5	2.3	0.9	5.36	欠損	×	◎		なし		不明	
2433	剥片	上層南半	2.1	3.9	0.4	4.11	欠損	○	○		なし		不明	
2434	RF	上層南半	3.3	3.0	0.5	5.11	完形	○	○		なし		不明	新欠有
2435	RF	上層南半	1.7	3.4	0.7	3.65	欠損	×	×		なし		不明	
2436	RF	上層南半	2.2	2.6	0.6	3.12	欠損	○	○		なし		不明	
2437	RF	上層南半	2.7	5.5	1.7	21.67	欠損	×	○		単剥離面	90	不明	
2438	剥片	上層南半	4.5	4.9	1.1	20.14	完形	○	○		自然面		順目	打点部に新欠有
2439	RF	上層南半	5.1	3.0	0.7	15.25	完形	○	◎		自然面	100	逆目	
2440	石核	上層南半	6.4	4.3	1.7	37.93	完形	○	×		なし		不明	折れ有
2441	剥片	上層南半	2.6	2.6	0.8	5	完形	×	○		なし		不明	
2442	剥片	上層南半	3.9	3.1	0.7	6.19	完形	×	○		自然面	88	順目	
2443	剥片	上層南半	2.7	3.9	0.5	4.63	完形	○	○		なし		半順目	
2444	剥片	上層南半	4.7	1.7	0.5	3.47	完形	○	○		点状		順目	
2445	剥片	上層南半	2.2	2.2	0.3	1.61	完形	×	◎		自然面		順目	
2446	RF	上層南半	3.4	2.0	0.6	3.26	欠損	×	○		なし		不明	
2447	剥片	上層南半	2.4	1.5	0.3	0.98	欠損	○	○		なし		順目	
2448	RF	上層南半	1.4	1.7	0.5	1.12	欠損	○	○		なし		順目	
2449	剥片	上層南半	3.1	1.0	0.6	1.5	完形	○	×		なし		不明	新欠有
2450	石鏃	壁溝	3.3	1.2	0.5	2.95	完形	×	○		なし		不明	未成品 側辺僅かに折れる
2451	石槍	壁溝	2.8	2.3	0.7	3.31	欠損	×	○		なし		不明	未成品、先端部
2452	RF		3.0	4.8	1.2	15.26	完形	○	○		なし		順目	僅かに折れる
2453	剥片		3.5	2.8	0.8	5.53	完形	×	○		自然面	94	順目	
2454	RF		3.3	4.3	1.1	15.33	完形	○	○		自然面		半順目	同時割れにより打点なし
2455	剥片		4.1	6.7	1.1	22.01	完形	○	○		自然面		順目	
2456	剥片		4.9	3.6	1.2	17.04	完形	○	○		自然面	132	半順目	僅かに折れる
2457	剥片		3.5	3.7	0.7	6.88	完形	○	○		なし		不明	
2458	スクレイパー		4.1	4.3	0.9	12.62	完形	×	○		自然面		順目	
2459	RF		4.3	3.7	0.3	6.67	完形	○	○		単剥離面	110	順目	
2460	剥片		2.3	5.1	0.9	9.35	完形	○	○		複剥離面	133	順目	
2461	剥片		3.5	3.7	0.8	10.49	完形	○	○		自然面	112	逆目	
2462	剥片		5.4	4.6	0.8	15	完形	○	○		自然面	105	順目	
2463	剥片		1.5	3.5	0.6	2.3	完形	○	◎		単剥離面	116	順目	
2464	RF		3.3	4.2	0.8	10.2	完形	×	○		自然面	111	順目	僅かに折れる
2465	剥片		3.6	4.4	0.7	8.89	完形	×	○		自然面	106	順目	
2466	楔形石器		3.8	2.4	1.5	13.82	完形	○	○		線状		逆目	
2467	RF		2.6	2.7	0.5	3.44	欠損	○	×		なし		不明	
2468	スクレイパー		3.1	4.1	0.7	10.21	欠損	○	○		なし		順目	
2469	RF		3.9	2.9	0.7	8.96	完形	×	○		自然面	102	順目	微剥離
2470	剥片		2.6	4.3	0.5	5.02	完形	○	○		自然面		順目	
2471	剥片		2.2	2.6	0.3	1.9	完形	○	○		複剥離面	105	不明	
2472	RF		4.0	3.6	1.1	13.56	完形	○	×		なし		不明	
2473	RF		3.3	4.5	0.6	9.56	完形	×	○		複剥離面	135	半順目	打面に自然面有
2474	スクレイパー		2.9	3.4	0.6	7.33	欠損	○	◎		なし		不明	
2475	スクレイパー		3.2	2.3	0.4	3.32	欠損	○	×		なし		不明	
2476	剥片		2.6	4.2	0.8	6.2	完形	×	○		自然面	110	順目	
2477	RF		3.5	2.5	1.0	5.49	完形	○	×		なし		順目	
2478	スクレイパー		2.9	4.2	0.7	8.9	完形	×	○		複剥離面	113	順目	打面に自然面有
2479	剥片		3.4	4.9	0.9	13.39	完形	○	○		なし		順目	
2480	剥片		3.4	4.3	0.4	3.82	完形	○	○		自然面	113	順目	
2481	RF		2.9	1.7	0.3	1.63	完形	○	○		なし		不明	
2482	剥片		2.1	4.0	0.4	3.35	完形	○	○		複剥離面	122	不明	
2483	剥片		2.6	3.3	0.5	3.39	欠損	○	×		なし		不明	
2484	RF		2.3	3.2	0.5	3.07	欠損	○	○		なし		不明	
2485	剥片		1.5	2.4	0.3	0.85	完形	○	○		複剥離面	121	不明	
2486	剥片		1.7	2.2	0.4	1.16	完形	×	○		複剥離面	124	不明	

竪穴住居19出土サヌカイト観察表 (21)

整理番号	器種	出土地点	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面 ボジタイプ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
2487	剥片		4.5	4.8	0.4	7.14	完形	○	○	自然面	113	順目	
2488	石鏃?		2.1	2.2	0.4	3.49	欠損	×	○	なし		不明	J未成品?
2489	剥片		4.6	3.4	0.7	12.73	完形	○	○	自然面	100	順目	新欠有
2490	剥片		3.2	3.6	0.8	4.37	完形	○	○	自然面		半順目	
2491	剥片		3.4	1.7	0.5	1.89	完形	○	○	点状		半順目	
2492	中型尖頭器?		2.6	2.9	0.6	5.05	欠損	×	×	なし		不明	先のみ残石槍?
2493	石槍		3.1	3.4	0.7	7.97	欠損	×	○	なし		不明	未成品、先端部
2494	石鏃		2.5	1.3	0.5	1.63	欠損	×	×	なし		不明	先端部に折れ 側面に新欠
2495	石鏃		2.3	1.3	0.2	0.79	欠損	×	×	なし		不明	先・基部欠損
2496	石鏃		2.4	1.9	0.4	2.35	欠損	×	×	なし		不明	未成品、先欠
2497	石鏃		1.6	0.8	0.2	0.22	欠損	×	×	なし		不明	基部欠、新欠有
2498	石鏃		2.7	1.4	0.4	1.5	欠損	×	×	なし		不明	未成品 先・基部欠
2499	石鏃		2.4	1.0	0.3	0.56	欠損	×	×	なし		不明	基部欠
2500	石鏃		2.4	1.4	0.4	1.36	欠損	×	×	なし		不明	先欠
2501	石鏃		2.3	1.4	0.4	1.43	欠損	×	×	なし		不明	先欠
2502	石鏃		1.5	1.6	0.3	0.76	欠損	×	×	なし		不明	先欠
2503	石鏃		2.1	1.8	0.4	1.55	欠損	×	×	なし		不明	先欠
2504	剥片		1.6	2.0	0.2	0.37	欠損	×	◎	なし		不明	
2505	RF		1.6	2.5	0.1	0.57	完形	×	◎	なし		不明	
2506	剥片		2.3	1.8	0.2	0.65	完形	×	◎	なし		不明	
2507	RF		2.2	3.0	0.9	6.29	欠損	×	○	自然面		半順目	
2508	RF		1.5	2.2	0.3	0.84	完形	○	◎	なし		不明	
2509	剥片		1.0	2.1	0.4	0.52	完形	×	○	単剥離面	135	不明	
2510	剥片		2.1	0.7	0.2	0.24	欠損	×	○	なし		不明	
2511	剥片		2.0	1.2	0.3	0.57	完形	○	○	なし		不明	
2512	剥片		0.8	2.0	0.2	0.34	欠損	×	×	なし		不明	主要剥離面が新欠
2513	RF	2231-8 ピット	2.9	1.4	0.8	2.47	完形	×	○	なし		不明	調査時西P8
2514	剥片	2231-8 ピット	2.1	2.6	0.5	2.14	完形	×	○	自然面	80	順目	調査時西P8 僅かに折れる
2515	RF	2231-8 ピット	2.1	1.6	0.4	0.83	完形	×	○	なし		不明	調査時西P8
2516	剥片	2231-8 ピット	4.2	4.9	1.7	32.82	完形	○	○	単剥離面	127	逆目	調査時西P8
2517	剥片	壁溝	4.9	6.1	2.5	47.63	完形	○	○	自然面	100	半順目	
2518	剥片	壁溝	3.5	0.3	0.7	9.94	完形	×	◎	複剥離面	102	不明	
2519	RF	壁溝	3.8	5.7	0.9	20.08	完形	○	○	自然面	127	順目	
2520	剥片	壁溝	2.9	3.7	0.5	5.42	完形	○	○	なし		逆目	
2521	RF	壁溝	3.9	5.0	0.9	14.36	完形	○	○	なし		順目	微剥離
2522	剥片	壁溝	3.2	2.6	0.4	5	欠損	×	○	なし		不明	
2523	剥片	壁溝	2.5	2.3	0.3	1.36	完形	×	◎	複剥離面	113	不明	
2524	剥片	壁溝	1.4	2.2	0.4	0.97	欠損	×	○	なし		不明	
2525	RF	壁溝	2.5	2.3	0.5	2.4	完形	○	○	なし		不明	
2526	剥片		3.0	2.0	0.6	2.73	欠損	○	○	なし		順目	
2527	剥片	2231-10 ピット	1.4	2.2	0.5	1.54	完形	○	○	複剥離面	129	順目	調査時西P10
2528	RF	床面	2.2	3.9	0.7	5.51	完形	×	○	なし		不明	
2529	剥片	床面	2.2	2.6	0.5	2.9	欠損	×	○	なし		不明	
2531	剥片	床面	1.8	2.2	0.5	1.09	完形	×	○	単剥離面	119	不明	
2532	剥片	床面	1.9	3.1	1.0	4.05	完形	×	○	自然面	62	逆目	
2533	剥片	床面	1.9	3.7	0.4	1.96	欠損	×	○	なし		不明	
2534	剥片	床面	3.7	3.6	0.8	8.9	欠損	○	○	自然面		半順目	
2535	RF	床面	2.3	1.9	0.4	1.84	欠損	○	○	なし		不明	
2536	剥片	床面	1.4	2.2	0.4	0.96	欠損	×	○	なし		不明	
2537	剥片	床面	2.1	3.7	0.4	2.31	完形	×	○	自然面	117	順目	
2538	剥片	床面	4.5	2.5	1.1	7.43	完形	○	○	線状		逆目	両極剥片
2539	RF	床面	4.3	3.0	1.1	14.73	欠損	×	○	なし		不明	
2540	剥片	床面	5.1	4.2	1.7	26.05	完形	×	○	複剥離面	103	不明	

竪穴住居19出土サヌカイト観察表 (22)

整理番号	器種	出土地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	状態	自然面	剥離面	ポジティブ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
2541	剥片	床面	4.5	4.3	0.6	9.3	完形	×	◎		複剥離面	119	不明	
2542	剥片	床面	4.1	2.8	0.4	4.1	欠損	×	○		なし		不明	
2543	剥片	床面	2.0	2.8	0.6	3.94	欠損	×	○		なし		不明	
2544	剥片	床面	2.2	1.8	0.5	1.78	完形	○	×		なし		不明	僅かに折れる
2545	剥片	床面	1.9	2.1	0.1	0.57	欠損	×	◎		なし		不明	
2546	剥片	床面	1.3	2.5	0.4	1.03	完形	×	○		なし		不明	
2547	剥片	床面	4.0	4.4	1.1	10.05	欠損	×	○		自然面		順目	
2548	RF	床面	3.2	3.2	1.0	10.05	欠損	○	×		なし		不明	
2549	RF	床面	2.1	4.7	1.2	10.57	欠損	×	○		なし		不明	
2550	RF	床面	4.0	3.0	0.7	7.27	欠損	○	○		なし		順目	
2551	剥片	床面	1.5	2.7	0.6	1.38	完形	×	○		なし		順目	
2552	剥片	床面	1.9	2.6	0.3	1.1	完形	×	○		複剥離面	119	不明	
2553	RF	床面	2.9	2.5	0.6	4.78	欠損	×	○		なし		不明	
2554	剥片	床面	2.0	2.2	0.7	3.07	完形	×	◎		自然面	98	半順目	
2555	RF	床面	1.8	3.0	0.8	3.55	完形	×	◎		複剥離面	132	不明	微剥離、新欠有
2556	剥片	床面	2.6	3.1	0.8	5.17	欠損	○	○		なし		順目	
2557	剥片	床面	2.0	2.2	0.4	1.49	完形	×	◎		自然面	90	順目	
2558	剥片	床面	2.3	2.6	0.3	1.94	完形	×	○		自然面	115	不明	
2559	剥片	床面	2.4	1.6	0.3	1.05	完形	×	○		単剥離面	127	順目	打面に自然面有
2560	RF	床面	2.0	2.3	0.6	1.54	完形	×	○		なし		不明	
2561	剥片	床面	2.1	3.4	0.3	1.54	完形	×	○		自然面	115	順目	
2562	剥片	床面	2.7	2.2	0.7	2.58	完形	○	×		なし		不明	
2563	剥片	床面	2.5	3.1	0.3	2.37	完形	○	○		自然面	100	順目	
2564	剥片	床面	2.4	2.3	0.6	2.27	完形	○	○		単剥離面	130	順目	
2565	剥片	床面	3.1	1.8	0.5	2.98	欠損	○	×		なし		不明	
2566	RF	床面	2.1	2.6	0.5	2.59	欠損	○	◎		なし		逆目	
2567	剥片	床面	3.0	3.1	0.3	2.48	欠損	×	○		なし		不明	
2568	剥片	床面	1.9	2.2	0.2	0.66	完形	×	○		なし		不明	
2571	剥片	床面	1.9	2.5	0.4	1.25	完形	○	○		複剥離面	133	順目	
2572	剥片	床面	2.0	2.3	0.3	1.07	完形	×	○		なし		不明	
2573	剥片	床面	1.4	2.6	0.2	0.78	完形	×	○		なし		不明	
2574	剥片	床面	1.7	2.3	0.2	0.81	欠損	×	◎		なし		不明	
2575	剥片	床面	1.8	2.4	0.6	1.77	欠損	○	○		なし		順目	
2576	剥片	床面	2.7	1.8	0.8	2.23	完形	○	○		なし		逆目	
2577	剥片	床面	2.3	2.7	0.6	2.26	完形	×	○		単剥離面	102	順目	打面に自然面有
2578	剥片	床面	1.4	4.0	0.7	2.08	完形	×	○		自然面	92	半順目	
2579	RF	床面	2.5	2.2	0.3	1.81	完形	×	◎		なし		不明	
2580	剥片	床面	1.4	2.5	0.6	1.48	完形	○	○		なし		不明	
2581	RF	床面	1.4	2.8	0.4	1.51	欠損	×	◎		なし		不明	石鏃未成品？
2582	RF	床面	2.2	2.5	0.5	1.7	欠損	○	○		なし		不明	
2583	剥片	床面	1.6	2.0	0.4	0.95	欠損	×	○		なし		不明	
2584	剥片	床面	2.2	1.6	0.2	0.75	欠損	×	○		単剥離面	134	不明	
2586	剥片	床面	1.6	2.2	0.2	0.47	完形	×	○		複剥離面	112	不明	
2587	剥片	床面	1.8	2.1	0.2	0.51	完形	×	◎		自然面	116	順目	
2588	RF	壁溝	2.7	3.9	1.2	11.84	欠損	×	○		自然面		順目	剥離角計測不可
2589	RF		1.5	2.5	0.4	1.06	完形	×	◎		なし		不明	
2590	石鏃		1.8	2.6	0.3	1.81	完形	×	◎		なし		不明	未成品？
2591	剥片		4.3	4.2	0.7	6.74	完形	○	○		自然面		半順目	打点部に新欠
2592	剥片		2.2	2.8	0.3	1.54	完形	×	○		なし		不明	
2593	剥片		2.2	3.0	0.4	1.98	欠損	×	○		自然面	102	順目	
2594	剥片	中層	2.1	4.2	0.6	4.6	完形	○	○		複剥離面	132	不明	
2595	剥片		3.0	4.8	1.1	13.24	完形	○	○		自然面	140	半順目	
2596	剥片		1.6	3.3	0.5	1.79	完形	×	○		自然面		順目	同時割れにより打点なし
2597	剥片		2.1	2.9	0.3	1.46	完形	×	○		なし		不明	僅かに折れる 打面に新欠有
2599	RF		4.0	3.6	0.9	11.14	欠損	×	○		なし		不明	
2600	RF		1.6	5.0	1.1	7.34	完形	×	○		なし		不明	石鏃未成品？
2601	剥片		2.5	3.2	0.5	3.42	完形	×	○		単剥離面	126	順目	打面に自然面有

竪穴住居19出土サヌカイト観察表 (23)

整理番号	器種	出土地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面 ボジタイプ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
2602	RF		2.3	4.9	0.4	4.18	完形	○	○	自然面	89	順目	微剥離
2603	石鏃	床面	4.9	3.0	0.9	12.67	完形	×	○	なし		不明	未成品
2604	石鏃	床面	2.6	3.7	0.4	3.97	欠損	×	○	なし		不明	未成品
2605	石鏃	床面	1.4	1.6	0.3	0.65	欠損	×	×	なし		不明	未成品 先端部残存
2606	剥片	床面	2.1	1.1	0.3	0.66	完形	×	○	なし		不明	
2607	剥片	床面	1.2	2.0	0.2	0.48	欠損	×	◎	なし		不明	
2608	剥片	床面	2.1	1.4	0.2	0.44	欠損	×	○	なし		不明	
2610	RF	床面	1.3	2.0	0.5	0.56	完形	○	○	なし		順目	
2612	剥片	床面	1.5	2.0	0.1	0.37	欠損	×	○	なし		不明	
2613	RF	床面	1.2	2.2	0.3	0.97	完形	×	○	なし		不明	僅かに折れる
2614	剥片	床面	0.9	2.0	0.2	0.32	完形	○	○	なし		順目	
2615	RF	床面	2.0	1.3	0.4	0.84	欠損	○	×	なし		不明	
2616	RF	床面	2.1	1.0	0.5	0.81	完形	○	×	なし		不明	
2617	剥片		2.3	4.5	1.6	13.48	完形	×	○	自然面	72	半順目	
2618	剥片		3.2	5.8	1.1	14.71	完形	×	○	単剥離面	122	不明	打面に自然面も含む
2619	RF		1.9	3.4	0.9	4.68	完形	×	○	なし		順目	
2620	RF		2.4	2.5	0.4	2.68	欠損	×	○	なし		不明	
2621	RF		2.5	1.4	0.4	1.36	欠損	×	○	なし		不明	微剥離
2622	剥片		2.3	1.6	0.2	0.66	欠損	×	○	なし		不明	
2623	剥片		2.0	2.6	0.5	1.59	完形	×	○	なし		不明	風化
2624	剥片		1.5	2.0	0.1	0.37	完形	×	○	なし		不明	
2625	剥片		1.5	2.1	0.3	0.92	完形	×	○	自然面	104	順目	
2626	剥片		2.5	2.3	0.3	1.57	完形	×	○	自然面	83	不明	
2627	RF	2231-9 ピット	2.2	3.1	0.2	1.09	完形	×	○	なし		不明	調査時西P9
2628	剥片	2231-9 ピット	2.5	3.6	0.3	3.05	欠損	×	○	複剥離面	102	不明	調査時西P9
2629	剥片	2231-9 ピット	1.9	2.0	0.2	0.78	完形	×	○	なし		不明	調査時西P9 打面が折れる
2630	剥片	2231-9 ピット	1.8	2.2	0.7	1.59	欠損	○	○	なし	120	不明	調査時西P9
2631	RF	床面	4.4	3.0	1.2	17.05	完形	○	×	なし		不明	
2632	RF?	床面	2.8	1.7	0.4	2.16	完形	○	×	なし		不明	
2633	剥片	床面	2.1	1.9	0.4	1.08	完形	○	○	なし		順目	
2634	剥片	床面	1.8	3.2	0.5	2.21	欠損	×	○	なし		不明	
2635	剥片	床面	1.6	3.1	0.5	2	欠損	×	○	なし		不明	
2636	剥片	床面	2.6	4.2	0.2	2.47	完形	×	◎	複剥離面	129	不明	
2637	RF	床面	3.4	3.1	0.7	7.43	完形	○	◎	なし		順目	
2638	剥片	床面	2.2	2.3	0.5	2.06	完形	×	◎	なし		半順目	
2639	剥片	床面	1.4	2.0	0.4	1.15	完形	×	○	自然面	106	半順目	
2640	RF	床面	2.5	1.0	0.3	0.66	完形	×	○	なし		不明	
2641	RF	床面	3.1	1.6	0.3	1.06	欠損	×	○	なし		不明	
2642	石鏃	床面	2.3	1.0	0.5	0.89	欠損	×	×	なし		不明	基部片? 未成品?
2643	RF	床面	2.4	1.3	0.3	0.77	欠損	×	×	なし		不明	
2644	剥片	床面	1.9	3.2	0.9	3.95	完形	×	◎	自然面	128	順目	
2645	RF	床面	2.2	1.2	0.4	0.91	欠損	○	○	なし		順目	
2646	剥片	床面	2.0	2.0	0.3	1.18	完形	○	○	自然面	118	順目	
2647	RF	床面	3.8	4.3	0.8	13.25	完形	×	◎	単剥離面	116	不明	
2648	剥片	床面	3.1	2.8	0.5	4.84	完形	○	◎	自然面	115	順目	
2649	剥片	床面	2.2	1.2	0.2	0.81	欠損	×	○	なし		順目	
2650	剥片	床面	2.0	1.3	0.3	0.54	完形	×	○	なし		不明	打面が折れる
2651	剥片	床面	1.0	2.0	0.2	0.24	完形	×	○	なし		不明	
2652	石鏃	床面	1.6	1.8	0.3	1.2	欠損	×	×	なし		不明	先欠
2653	剥片	床面	2.5	2.1	0.3	1.29	完形	×	○	自然面		順目	打点が階段状
2654	剥片	床面	2.1	1.9	0.3	1.21	欠損	×	○	なし		不明	
2655	剥片	床面	1.9	2.6	0.5	2.98	欠損	×	○	自然面	100	半順目	
2656	剥片	床面	2.0	2.6	0.3	1.49	完形	×	○	線状		不明	単剥離面も含む

竪穴住居19出土サヌカイト観察表 (24)

整理番号	器種	出土地点	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面	ポジティブ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
2657	RF	床面	2.1	1.0	0.5	0.9	完形	○	×	なし			不明	
2658	剥片	床面	2.9	1.7	0.3	1.34	完形	×	○	なし			不明	
2659	RF	床面	2.3	0.9	0.3	0.71	完形	○	○	複剥離面	130		不明	
2660	剥片	床面	2.5	2.0	0.3	1.59	欠損	×	○	なし			不明	
2661	RF	床面	2.2	1.0	0.4	0.6	完形	×	○	自然面	119		半順目	
2662	剥片	床面	1.7	2.1	0.4	1	欠損	○	×	なし			不明	
2663	剥片	床面	3.0	0.9	0.3	0.48	欠損	×	○	なし			不明	
2664	剥片	床面	2.1	2.1	0.5	2.22	完形	○	○	単剥離面	126		順目	
2665	剥片	床面	1.5	2.4	0.3	0.99	欠損	×	○	なし			不明	
2666	剥片	床面	2.1	1.5	0.3	0.96	欠損	×	◎	自然面	109		不明	
2667	剥片	床面	2.2	0.6	0.3	0.46	完形	○	○	なし			不明	
2669	RF	床面	3.6	4.3	0.9	12.34	完形	×	◎	なし			不明	
2670	剥片	床面	2.3	1.0	0.4	0.81	完形	×	○	なし			不明	風化が著しい
2671	剥片	床面	1.3	2.5	0.2	0.7	完形	×	○	複剥離面	102		不明	
2672	RF	床面	0.9	2.0	0.4	0.47	完形	×	○	単剥離面			不明	
2673	RF	床面	0.9	2.2	0.3	0.53	完形	×	○	複剥離面	141		不明	
2674	RF	床面	2.4	0.9	0.2	0.54	欠損	×	○	なし			不明	
2675	剥片	床面	2.6	2.0	0.2	0.76	欠損	×	◎	なし			不明	
2676	剥片	床面	1.6	2.1	0.3	0.86	欠損	○	○	なし			順目	
2677	剥片	床面	1.2	2.1	0.3	0.62	完形	×	◎	線状			不明	
2678	剥片	床面	1.5	2.7	0.2	1.09	完形	×	○	なし			不明	
2679	剥片	床面	2.0	1.5	0.1	0.3	完形	×	○	なし			不明	
2681	剥片	床面	1.6	2.3	0.5	1.52	完形	×	◎	なし			不明	新欠有
2682	剥片	床面	1.4	2.3	0.2	0.63	完形	○	◎	単剥離面	130		不明	
2683	RF	床面	2.0	2.1	0.4	1.4	完形	×	○	なし			不明	僅かに折れる
2685	剥片	床面	2.1	1.1	0.3	0.44	欠損	×	○	なし			不明	
2686	RF	床面	2.4	1.6	0.4	1.5	完形	○	○	なし			順目	
2687	剥片	床面	1.6	2.7	0.2	0.95	完形	×	○	なし			不明	新欠有
2688	RF	床面	3.0	3.0	0.6	4.55	欠損	×	○	不明			不明	微剥離、打面潰れ 打点なし
2689	剥片	床面	2.9	2.1	0.2	1.08	完形	×	◎	なし			不明	僅かに折れる
2690	剥片	床面	2.1	2.4	0.2	1	完形	×	○	なし			不明	
2691	剥片	床面	3.0	2.0	0.2	1.93	欠損	×	○	なし			不明	
2692	剥片	床面	2.4	3.7	0.3	2.36	完形	×	○	自然面	100		順目	
2693	剥片	床面	5.1	3.1	0.7	10.75	完形	×	○	自然面			順目	打面が折れる
2694	剥片	床面	3.1	3.1	0.3	2.47	完形	×	○	なし			順目	
2695	剥片	床面	2.8	4.3	1.3	9.67	完形	×	○	複剥離面	110		不明	
2696	RF	床面	2.3	1.6	0.2	0.9	完形	×	◎	なし			不明	僅かに折れる
2697	剥片	床面	2.0	1.9	0.2	0.86	完形	×	◎	自然面	100		不明	僅かに折れる
2698	剥片	床面	1.3	3.0	0.5	1.51	完形	×	○	自然面	90		順目	
2699	RF	床面	3.4	1.5	0.6	3.08	完形	×	○	なし			不明	石錐未成品？ 僅かに折れる
2700	剥片	床面	2.1	1.0	0.3	0.59	完形	×	×	なし			不明	
2701	石核		8.6	4.2	1.7	65.16	完形	○	○	なし			順目	
2702	RF		2.4	2.9	0.4	1.7	完形	×	◎	複剥離面	140		不明	
2703	RF		2.9	3.0	0.7	8.01	欠損	×	○	なし			不明	
2704	RF		2.0	2.1	0.6	3.39	完形	×	○	なし			不明	
2705	剥片		1.5	2.7	0.2	0.79	欠損	×	◎	なし			不明	
2707	RF		2.6	2.8	0.6	3	完形	×	○	なし			不明	
2708	楔形石器		1.9	1.9	0.9	3.46	完形	×	○	自然面・ 線状			不明	
2710	スクレイパー		3.0	4.4	1.0	11.83	完形	×	○	なし			不明	エッジ摩滅
2712	剥片		2.6	1.8	0.4	1.28	完形	×	○	なし			不明	
2713	RF		1.7	2.6	0.5	2.12	欠損	×	◎	なし			不明	微剥離
2714	剥片		2.6	2.5	0.3	1.04	完形	×	○	なし			不明	打面が折れる
2715	剥片		2.2	3.9	0.5	3.41	完形	×	○	自然面	118		不明	
2716	剥片		3.6	3.4	0.5	5.57	完形	○	○	自然面	104		順目	
2717	剥片		2.5	3.0	0.3	1.18	完形	×	○	自然面	113		不明	
2718	RF		2.8	1.6	0.1	2.9	完形	○	○	なし			順目	

竪穴住居19出土サヌカイト観察表 (25)

整理番号	器種	出土地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面	ボジタイプ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
2719	剥片		0.5	2.6	0.3	0.63	完形	○	○		なし		不明	
2720	剥片		1.7	2.3	0.5	1.08	完形	○	○		複剥離面	136	不明	
2722	剥片		1.4	2.4	0.2	0.58	完形	×	○		複剥離面	134	不明	
2723	石鏃		2.0	1.8	0.3	1.14	欠損	×	○		なし		不明	先欠
2724	RF		2.8	3.3	0.6	6.26	欠損	×	◎		なし		不明	微剥離
2726	剥片		2.7	1.9	0.2	0.88	欠損	×	◎		なし		不明	
2727	RF		2.1	1.8	0.5	1.73	欠損	○	○		自然面	100	不明	
2728	剥片		4.1	4.0	0.4	4.14	欠損	×	○		複剥離面	122	不明	
2729	剥片		2.7	3.7	0.6	5.52	完形	×	◎		単剥離面	122	不明	僅かに折れる
2730	剥片		2.3	2.0	0.2	1.36	完形	×	○		自然面	125	不明	
2731	剥片		3.1	3.8	0.4	3.75	完形	×	○		なし		不明	打面が折れる
2732	剥片		1.4	2.4	0.2	0.51	完形	×	○		なし		不明	
2733	剥片		6.5	5.2	1.5	47.94	完形	○	○		自然面	129	半順目	
2734	剥片		3.2	3.4	0.5	4.4	欠損	○	○		なし		順目	
2735	剥片		2.7	4.7	1.0	8.26	欠損	○	○		なし		逆目	
2736	剥片		4.8	2.0	0.4	3.8	完形	○	◎		自然面	114	不明	両極剥片の可能性有?
2737	剥片		3.9	4.1	0.4	5.55	欠損	○	○		単剥離面	113	不明	
2738	石鏃		2.2	2.1	0.6	2.65	欠損	×	○		なし		不明	未成品 石鏃基部か?
2739	RF		2.0	3.6	0.4	4.17	完形	×	○		単剥離面	97	不明	
2740	剥片		2.2	3.9	0.4	2.7	完形	×	○		なし		不明	打面が折れる
2741	RF		3.5	3.2	0.7	5.87	欠損	×	○		自然面		順目	剥離角計測不可
2742	RF		2.9	5.5	1.5	18.3	完形	×	○		自然面		半順目	
2743	剥片		3.1	3.3	0.4	2.58	完形	×	○		なし		不明	打面が折れる
2744	RF		2.1	3.1	0.3	2.19	完形	×	○		単剥離面	134	不明	
2745	剥片		3.6	2.0	0.7	5.19	欠損	×	○		なし		不明	
2746	剥片		1.7	2.6	0.3	1.63	欠損	×	○		なし		不明	
2747	RF		2.3	2.2	0.3	2	完形	×	○		なし		不明	微剥離 打面が折れる
2748	剥片		1.7	2.9	0.4	1.78	完形	×	○		なし		不明	
2749	剥片		2.6	2.0	0.3	1.37	欠損	○	○		なし		半順目	風化
2750	RF		1.2	2.2	0.4	0.85	完形	×	○		なし		不明	
2751	剥片		2.1	1.8	0.2	0.91	完形	×	○		単剥離面	121	不明	
2752	剥片		1.6	2.3	0.3	0.8	完形	×	○		なし		不明	僅かに折れ 打面に新欠有
2753	剥片		1.8	2.1	0.2	0.68	完形	×	○		複剥離面	100	不明	僅かに折れる
2754	剥片	2231-5 ピット	1.9	4.0	0.6	4.25	欠損	×	○		なし		不明	調査時西P5
2755	RF	2231-5 ピット	2.6	1.9	0.6	1.25	完形	○	○		なし		順目	調査時西P5
2756	RF	2231-5 ピット	1.5	2.0	0.3	1.04	完形	×	○		自然面	90	順目	調査時西P5 僅かに折れ 折れ面に微剥離
2757	RF	2231-6 ピット	3.6	4.0	1.0	15.33	欠損	×	○		なし		不明	調査時西P6
2758	剥片	2231-6 ピット	2.6	3.3	0.4	2.8	欠損	×	○		自然面	76	順目	調査時西P6
2759	剥片	2231-6 ピット	2.2	2.8	0.3	1.52	完形	○	○		なし		順目	調査時西P6 打面が折れる
2760	RF	2231-6 ピット	2.1	3.7	0.9	5.53	完形	×	○		自然面	66	半順目	調査時西P6 微剥離
2762	RF	2231-6 ピット	3.4	3.1	0.7	5.92	欠損	×	◎		なし		不明	調査時西P6
2763	石槍	2231-6 ピット	2.5	2.6	0.7	3.02	欠損	×	○		なし		不明	調査時西P6 未成品、先端残
2764	RF	2231-6 ピット	2.2	2.5	0.4	1.86	完形	×	○		なし		不明	調査時西P6 僅かに折れ、打面 が折れる
2766	RF	2231-6 ピット	1.7	2.7	0.4	1.48	完形	×	○		単剥離面	104	不明	調査時西P6 僅かに折れ、新欠 有

竪穴住居19出土サヌカイト観察表 (26)

整理番号	器種	出土地点	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面	ポジティブ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
2767	RF	2231-6ピット	2.0	1.7	0.5	1.16	完形	×	○		自然面	110	順目	調査時西P6 微剥離
2768	剥片	2231-6ピット	1.6	2.0	0.3	1.27	欠損	×	○		複剥離面	116	不明	調査時西P6 石鏃未成品？ 微剥離
2769	石核	2231-7ピット	5.7	3.7	1.8	44.56	完形	○	○		なし		不明	調査時西P7
2770	剥片	2231-7ピット	4.1	3.3	0.4	3.07	欠損	○	○		なし		不明	調査時西P7
2771	スクレイパー	2231-7ピット	2.2	3.8	0.8	5.64	欠損	○	×		なし		半順目	調査時西P7
2772	剥片	2231-7ピット	3.0	3.2	0.3	2.29	完形	×	○		自然面	118	順目	調査時西P7
2773	剥片	壁溝	2.1	3.9	0.3	2.77	完形	×	○		単剥離面	115	不明	
2774	剥片	壁溝	2.5	4.8	0.9	7.37	完形	○	○		なし		逆目	
2775	RF	壁溝	4.5	7.3	0.9	28.4	完形	×	◎		不明		不明	不純物を起点として割れる
2776	RF	壁溝	4.3	2.6	0.6	8.08	欠損	×	○		自然面	103	順目	微剥離
2777	スクレイパー	壁溝	2.0	3.2	0.3	2.21	完形	×	○		なし		不明	
2778	RF	壁溝	4.5	2.3	0.6	4.36	完形	×	○		自然面	108	順目	
2779	石鏃	壁溝	2.8	2.3	0.6	6.06	完形	×	○		なし		不明	未成品
2780	RF	壁溝	2.2	2.4	0.2	1.47	完形	×	○		なし		不明	スクレイパー？
2781	剥片	壁溝	1.9	2.2	0.3	1.17	完形	×	○		複剥離面	124	不明	僅かに折れる
2782	剥片	壁溝	2.3	3.3	0.4	2.67	完形	×	◎		自然面	117	順目	僅かに折れる
2783	RF	壁溝	2.7	1.7	0.5	2.47	欠損	×	○		自然面		順目	打面に新欠有
5579	RF		2.2	3.4	0.5	3.77	欠損	×	○		なし		不明	
5580	石鏃	床面	2.1	3.3	0.5	3.06	完形	×	○		なし		不明	未成品、先欠
5581	剥片		2.4	1.8	0.2	0.7	完形	×	○		自然面	129	不明	
5582	RF	床面	3.5	2.5	0.5	4.15	欠損	×	×		単剥離面	120	不明	
5595	RF	2231-6ピット	1.9	2.4	0.5	1.63	完形	×	○		なし		不明	調査時西P6
5597	剥片	南側畔	4.2	3.1	0.5	7.63	完形	○	○		自然面	130	順目	僅かに折れる
5604	石槍	壁溝	3.7	3.1	0.8	8.5	欠損	○	×		なし		不明	先残、未成品
5617	中型尖頭器		2.5	2.5	0.6	4.08	欠損	×	×		なし		不明	未成品、先残
5631	石槍	側溝に面する畔内	3.2	3.0	0.9	11.3	欠損	○	○		なし		不明	未成品、基部
5638	楔形石器	床面	4.0	3.4	0.9	14.58	欠損	×	×		なし		不明	
5642	剥片	壁溝	4.3	3.8	0.8	11.05	完形	○	○		自然面	82	順目	新欠折れ同じ整理番号
5643	剥片	上層南半	3.9	3.1	0.5	4.05	欠損	×	○		なし		不明	新欠折れ同じ整理番号
5644	RF	壁溝	6.1	7.8	1.2	46.4	完形	×	○		自然面	106	順目	新欠折れ同じ整理番号
5645	RF	壁溝	4.3	4.0	0.7	7.86	完形	○	×		なし		不明	新欠折れ同じ整理番号
5648	RF	側溝に面する畔内	4.7	3.4	0.9	11.09	完形	○	○		なし		不明	新欠折れ同じ整理番号
5654	RF	上層南半	3.6	4.9	1.0	21.21	欠損	○	○		なし		不明	5653・5654接合、5653は8層
5657	楔形石器	壁溝	4.5	1.9	1.2	7.82	欠損	○	○		線状		順目・逆目	5657・5658接合、新欠有
5658	楔形石器	壁溝	4.9	1.7	1.4	9.68	欠損	○	○		線状		順目・逆目	5657・5658接合、新欠有
5659	剥片	壁溝遺物12	5.6	3.9	1.2	24.39	完形	○	○		なし		順目・逆目	5659・5660接合
5660	石核	壁溝	4.6	3.3	1.1	13.77	完形	○	×		なし		順目	5659・5660接合
5661	剥片	壁溝	1.9	3.0	0.2	0.75	完形	○	○		自然面	111	半順目	5661・5662接合 少し風化
5662	剥片	壁溝	3.5	4.2	0.6	4.72	完形	○	○		自然面	110	半順目	5661・5662接合 少し風化
5665	石鏃	壁溝	2.8	5.8	0.6	9.01	完形	×	×		なし		不明	未成品、新折れ？ 5666接合

竪穴住居19出土サヌカイト観察表 (27)

整理番号	器種	出土地点	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	状態	自然面	剥離面 ポジティブ	打面形態	剥離角(度)	素材剥片の剥離と石理との関係	備考
5730	中型尖頭器	壁溝	2.9	2.4	0.5	3.38	欠損	×	×	なし		不明	先自然面残、先端部、石槍?
5731	RF	壁溝	5.4	6.4	1.2	40.04	欠損	○	○	なし		順目	
5732	石核	壁溝	6.8	3.6	1.5	33.83	完形	○	○	なし		順目	
5733	RF	壁溝	5.6	4.5	1.2	29.77	完形	○	○	自然面	94	順目	微剥離、少し風化
5734	RF	壁溝	4.2	5.1	1.1	10.94	完形	×	○	なし		不明	
5735	石核	壁溝	4.6	3.9	2.7	35.64	完形	○	×	なし		不明	
5736	剥片	壁溝	3.8	4.4	0.4	5.58	完形	○	○	自然面	92	順目	
5737	RF	壁溝	3.0	1.7	1.4	4.64	完形	×	×	なし		不明	
5738	剥片	壁溝	4.3	7.0	0.9	18.9	欠損	×	○	なし		不明	
5739	剥片	壁溝	5.7	2.7	1.1	12.53	完形	○	○	自然面	122	逆目	
5740	剥片	壁溝	5.0	2.9	0.6	7.35	完形	○	○	自然面	118	順目	
5741	剥片	壁溝	2.2	2.1	0.5	2.8	完形	×	○	自然面	93	順目	
5742	剥片	壁溝	2.4	4.0	0.5	4.83	完形	×	○	自然面	104	半順目	
5743	RF	壁溝	3.2	2.6	0.5	3.9	完形	×	◎	線状		不明	
5744	RF	壁溝	2.8	1.9	0.7	3.5	欠損	×	×	なし		不明	
5745	剥片	壁溝	2.8	2.2	0.4	2.36	欠損	×	○	線状		不明	
5746	剥片	壁溝	1.8	4.0	0.9	4.98	完形	×	○	自然面	120	順目	
5747	RF	壁溝	1.8	4.2	0.7	5.78	欠損	×	○	なし		不明	
5748	RF	壁溝	2.0	3.8	0.4	3.13	完形	×	○	なし		不明	
5749	RF	壁溝	4.6	2.9	0.4	3.7	完形	×	×	なし		不明	
5750	剥片	壁溝	1.2	3.1	0.3	0.96	完形	×	○	自然面		不明	
5751	RF	壁溝	3.0	3.2	0.5	3.31	完形	○	○	自然面	96	不明	新欠有
5752	RF	壁溝	4.0	2.4	0.7	6.02	完形	○	○	自然面	139	順目	新欠有
5753	剥片	壁溝	2.3	2.7	0.3	2.02	欠損	×	○	なし		不明	
5754	剥片	壁溝	1.6	3.3	0.6	2.03	完形	○	◎	複剥離面	134	順目	
5755	剥片	壁溝	1.9	2.4	0.3	1.1	完形	×	○	自然面	97	不明	
5756	RF	壁溝	0.8	2.5	0.2	0.46	欠損	×	○	なし		不明	
5757	剥片	壁溝	1.2	2.0	0.2	0.29	完形	○	○	複剥離面	104	不明	
5758	石鏃	壁溝	3.3	1.9	0.5	3.08	欠損	○	○	なし		不明	未成品、先・基部半分欠、片面1/2自然面残
5759	石鏃	壁溝	2.8	1.8	0.4	2.43	完形	×	◎	なし		不明	未成品
5760	石鏃	壁溝	1.7	2.0	0.4	1.14	欠損	×	○	なし		不明	基部残存、未成品
5761	石鏃	壁溝	1.2	1.0	0.2	0.22	欠損	×	×	なし		不明	先端部残存
7864	石核	壁溝遺物19	5.8	4.4	1.2	38.37	完形	○	×	なし		逆目	
5653・5654	RF		6.5	5.0	1.3	37.24	欠損	○	○	なし		不明	5653・5654接合 5653は8層
5657・5658	楔形石器+ 楔形石器		4.9	295.0	1.4	17.52	欠損	○	×	線状		順目・逆目	5657・5658接合 新欠有
5659・5660	石核+石核		7.7	3.9	1.2	38.17	完形	○	×	なし		順目・逆目	5659・5660接合
5661・5662	剥片+剥片		3.5	5.0	0.6	5.51	完形	○	○	自然面	104	半順目	5661・5662接合

参考文献一覧

参考文献

ここでは、報告書作成にあたって、参考にした文献をあげておく。

(縄文土器)

泉 拓良 1979 「北白川上層式土器の細分—京都大学教養部構内AO24区出土の縄文土器を中心に—」『京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和54年度』 京都大学埋蔵文化財研究センター

泉 拓良 1981 「近畿地方の土器」『縄文文化の研究 第4巻 縄文土器Ⅱ』 雄山閣

泉 拓良 1989 「縁帯文土器様式」小林達夫編『縄文土器大観 4 後期晩期続縄文』 小学館

岡田憲一 2005 「北白川上層式と元住吉山式の間—近畿地方における縄文時代後期中葉の画期を評価するための基礎的研究—」『第71回京都縄文文化研究会』

岡田憲一・深井明比古 1998 『佃遺跡 兵庫県文化財調査報告書第176冊』 兵庫県教育委員会

千葉 豊 1989 「縁帯文土器群の成立と展開」『史林』72巻6号

千葉 豊 2002 「波状単位と文様帯—縁帯文土器における事例研究—」『長野県考古学会誌』99・100

渡邊昌宏 1981 『淡輪遺跡発掘調査概要・Ⅲ』 大阪府教育委員会

藤永正明 1987 『淡輪遺跡発掘調査概要・Ⅷ』 大阪府教育委員会

(財)大阪府文化財調査研究センター 2000 『向出遺跡—一般国道26号(第二阪和国道)建設に伴う発掘調査報告書— (財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書第55集』

(弥生土器)

寺沢薫・森井貞雄 1989 「河内地域」『弥生土器の様式と編年』近畿編Ⅰ 木耳社

寺沢 薫・森岡秀人編 1989 『弥生土器の様式と編年 近畿編Ⅰ』 木耳社

(財)大阪文化財センター 1984 『亀井遺跡Ⅱ』

(石器)

平井 勝 1991 『考古学ライブラリー 64 弥生時代の石器』 ニュー・サイエンス社

(土師器)

寺沢 薫 1986 「畿内古式土師器の編年と二・三の問題」『矢部遺跡』 奈良県立橿原考古学研究所

豊岡卓志 1999 「『纏向』土器資料の基礎的研究」『纏向 補遺編』 奈良県立橿原考古学研究所

坂 靖 2002 『伴堂東遺跡』 奈良県立橿原考古学研究所

米田敏幸 1991 「土師器の編年1、近畿」『古墳時代の研究』6 雄山閣

米田敏幸 1994 「河内における庄内式土器の編年」『庄内式土器研究』Ⅶ 庄内式土器研究会

奈良県立橿原考古学研究所 1999 『古墳の為の年代学—近畿の古式土師器と初期埴輪』

(財)大阪府文化財センター 2003 『古墳出現期の土師器と実年代』

(財)大阪府文化財センター 2006 『古式土師器の年代学』

坂野和信 2005 「畿内と東国の古墳中期における韓半島系食器—丸底と平底食器の系譜—」『考古学雑誌』第89巻第3号

(須恵器・百済土器)

- 大阪府教育委員会 1978 『陶邑Ⅲ』
田辺昭三 1981 『須恵器大成』 角川書店
大阪府立近つ飛鳥博物館 2006 『年代のものさし—陶邑の須恵器—』
(財)大阪府文化財センター 2006 『須恵器生産の成立と展開 2005年度(財)大阪府文化財センター・大阪府立近つ飛鳥博物館共同研究発表会』
小田富士雄 1978 「西日本発見の百済系土器」『古文化談叢』第5集
小田富士雄 1979 「百済の土器」『世界陶磁全集 第17巻 韓国古代』小学館
金鐘萬(重見 泰訳) 2006 「泗泚期百済土器の生産と流通」『鹿苑雑集』第8号
奈良県立橿原考古学研究所 1980 『新沢千塚古墳群 奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第39集』
関川尚功 1984 「奈良県下出土の初期須恵器」『考古学論攷』第10冊 奈良県立橿原考古学研究所

(古代・中世)

- 奈良国立文化財研究所 1976 『平城宮発掘調査報告Ⅶ』
中世土器研究会 1995 『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
森田勉・横田賢次郎 1978 「太宰府出土の輸入陶磁器について—形式分類と編年を中心として—」『九州歴史資料館研究論集』4
森本朝子 2003 「博多遺跡群出土の合子について」『博多研究会誌』第11号
(財)大阪府文化財センター 2003 『郡戸遺跡—南阪奈道路建設に伴う発掘調査報告書—(財)大阪府文化財センター調査報告書第88集』
飯田充晴 1994 「埼玉県東の上遺跡の道路遺構」『季刊考古学』第46号 雄山閣出版
酒井清治 1993 「武蔵国内の東山道について—特に古代遺跡との関連から—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第50集 国立歴史民俗博物館

一般書関係

ここでは、一般に入手しやすく、通史的な記述が掲載されている文献をあげておく。

- 松原市 1985 『松原市史 第1巻 本文編1』
松原市 1986 『松原市史 第2巻 本文編2』
松原市 1978 『松原市史 第3巻 史料編1』
松原市 1974 『松原市史 第4巻 史料編2』
松原市 1976 『松原市史 第5巻 史料編3』
松原市教育委員会 1969 『松原市の史蹟 三宅編』
「角川日本地名大辞典」編纂委員会編 1983 『角川日本地名大辞典 27 大阪府』角川書店
『日本歴史地名大系 28 大阪府の地名』平凡社 1986
美原町史編纂委員会 1987 『美原町史 第2巻 史料編Ⅰ 古代』美原町
美原町史編纂委員会 1991 『美原町史 第3巻 史料編Ⅱ 中世』美原町
井上正雄 1921 『大阪府全志 巻4』(復刻版 1985 清文堂出版)

調査報告書関係

ここでは、今回の調査報告に関連する文献を主体にあげておく。

(三宅西遺跡)

(財)大阪府文化財センター 2006 『三宅西遺跡04-2 発掘調査概要 現地公開資料』

内田真雄・岡田佳之 2004 「松原市内遺跡群出土資料」『大阪文化財研究』第26号

河端 智 2006 「三宅西遺跡の発掘調査の概要—中期前半の集落構造—」『第9回近畿弥生の会大阪場所資料集』近畿弥生の会

清水梨代 2006 「三宅西遺跡出土の北白川上層式縄文土器について」『大阪文化財研究』第30号

菅榮太郎 2007 「弥生時代の集落景観と集団関係」『考古学に学ぶⅢ 同志社大学考古学シリーズIX』

森井貞雄 2008 「大阪平野南西部における弥生時代の集落分布について」『大阪文化財研究』第33号

清水梨代 2008 「三宅西遺跡出土百済系土器について」『大阪文化財研究』第33号

(大和川今池遺跡)

大和川・今池遺跡調査会 1979 『大和川・今池遺跡 一第1地区 発掘調査報告一』

大和川・今池遺跡調査会 1980 『大和川・今池遺跡Ⅱ 一第3・4・5地区 発掘調査報告書一』

大和川・今池遺跡調査会 1981 『大和川・今池遺跡Ⅲ 一第6地区・「古道」発掘調査報告書一』

(財)大阪府文化財調査研究センター 2000 『大和川今池遺跡(その1・その2) 一大和川高水敷整備事業に伴う発掘調査報告書1一』

(財)大阪府文化財調査研究センター 2001 『大和川今池遺跡(その3・その4) 一大和川高水敷整備事業に伴う発掘調査報告書2一』

(財)大阪府文化財センター 2003 『大和川今池遺跡(その5・その6・その7) 一大和川河川改修事業に伴う発掘調査報告書一』

(財)大阪府文化財センター 2008 『難波大道の調査 都市計画道路大和川線建設に伴う大和川今池遺跡発掘調査現地説明会資料』

(瓜破遺跡)

(財)大阪市文化財協会 1983 『瓜破遺跡 大阪市土木局施工の大阪市平野区瓜破6丁目側道舗装新設工事に伴う遺跡発掘調査報告書』

南秀雄・櫻井久之 1999 「瓜破遺跡の調査 UR96-12次調査」『大阪市埋蔵文化財発掘調査報告—1996年度—』

宮本康治 1999 「瓜破遺跡の調査 UR97-19次調査」『大阪市埋蔵文化財発掘調査報告—1997年度—』

(財)大阪市文化財協会

報 告 書 抄 録

ふりがな	みやけにしいせき							
書 名	三宅西遺跡							
副 書 名	一般府道住吉八尾線外建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	(財)大阪府文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第189集							
編著者名	中村淳磯・村上富喜子・森井貞雄・池田研・小倉徹也・河端智・清水梨代							
編集機関	(財)大阪府文化財センター							
所在地	〒590-0105 大阪府堺市南区竹城台3丁21番4号 TEL 072-299-8791 FAX 072-299-8905							
発行年月日	西暦 2009年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		東 経	北 緯	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
みやけにし 三宅西遺跡	おおさか 府 大阪府 まつばらし 松原市 みやけにし 5 ちょうめ 三宅西 5 丁目 ちない ほか 地内 他	27217	26	135° 32' 50"	34° 35' 35"	2003.10.31 ～ 2004.6.30 [現地確認調査] 2004.11.1 ～ 2009.3.31 [本調査及び 整理作業]	25,552㎡	一般府道 住吉八尾 線外 建設
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
三宅西遺跡	集落・生産	縄文時代中期 ～晩期		自然流路		縄文土器・石鏃 など	縄文時代後期中葉 の良好な一括遺物 が出土。	
		弥生時代前期 ～中期前半		竪穴住居・掘立 柱建物・ピット ・土坑・溝・方形 周溝墓など		弥生土器・石鏃 ・石錐・サヌカイ ト剥片・石庖丁 など	竪穴住居が密集す る居住域と方形周 溝墓の墓域をもつ 集落を検出。サヌ カイトの出土量 が多く、石器製作に 関わる集落といえる。	
		古墳時代		ピット・掘立柱建 物・土坑・井戸 ・溝・木組み・竪 穴遺構など		土師器・須恵器 ・百済土器など	木組み施設を伴う 流路を検出。古墳時 代の一括遺物が出 土しており、百済土 器が含まれる。	
		古代以降		掘立柱建物・土 坑・井戸・溝など		土師器・須恵器 ・陶磁器など		
要 約	<p>縄文時代後期中葉(北白川上層3期)の良好な一括遺物が出土した。時期差がほとんど認められず、極めて一括性の高い遺物である。大阪府内では、稀な縄文土器群の出土といえる。</p> <p>弥生時代前期～中期前葉を中心とする集落を検出した。竪穴住居や土坑が密集しているほか、墓域として方形周溝墓も有している。居住域では、特にサヌカイト剥片の出土量が多く、接合資料も多くみられることから、石器製作に関わる集落として注目される。</p> <p>古墳時代では、杭などを利用した木組みが複数確認された流路が検出された。灌漑用というよりは、水制に伴う施設と考えられ、土木技術の高さがうかがわれる。また、この流路からは百済土器をはじめ、韓式土器と考えられる土器もみられ、渡来人の影響の可能性が高い。</p> <p>調査区を縦断する大規模な流路も検出され、古墳時代以前の洪水による堆積の状況が明らかとなった。</p>							

(財)大阪府文化財センター調査報告書 第189集

三宅西遺跡

—分析・総括・観察表編—

一般府道住吉八尾線外建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行年月日 / 2009年 3月31日

編集・発行 / 財団法人 大阪府文化財センター
大阪府堺市南区竹城台3丁目21番4号

印刷・製本 / 株式会社 明新社
奈良県奈良市南京終町3丁目464番地